

本案内は、経済学部第3学年、第4学年の履修の方法、手続きと講義内容を記載したものです。

また、履修要項は、実際に適用される「学則」の運用について解説したものであり、学則に明示されていない細則もこの要項によります。学生諸君は本案内を熟読したうえで、履修する授業科目を決定し、指定された期間に必ず申告してください。履修申告後の履修授業科目の変更は認められません。

本案内を読んでなお疑問や不明な点があれば、指定の日時・場所（掲示・塾生用 Web サイト参照）において学習指導主任または副主任より説明を受けることができます。

学習指導主任	教授	小室正紀
同 副主任	教授	大沼あゆみ
同 同	教授	友部謙一

目 次

履修案内の配布に際して（経済学部長）	4
履修選択にあたって（三田学習指導主任）	5
学事関連スケジュール	6
一般注意事項	8
履修申告のしかた	15
1. 履修申告について	15
2. 外国語科目（選択必修）の事前登録について	15
3. 登録番号および分野について	15
4. 学事 Web システムによる履修申告について	16
5. 履修申告用紙（マークシート）による履修申告について	16
学事 Web システムの利用方法	17
1. 学事 Web システムについて	17
2. 学事 Web システム操作上の注意	17
3. 学事 Web システムの操作説明	18
履 修 要 項	23
第 1 適用学則	23
1. 99～学則	23
2. 05～学則	23
3. 学則第 156 条	23
4. 学則第 188 条	23
5. 99～学則の一部改正（保健体育科目→体育科目）	23
6. 学則の移行	23
第 2 成績の評語	23
第 3 卒業および進級所要単位数	24
1. 卒業所要単位数	24
2. 第 4 学年における必要取得単位数	24
3. 第 3 学年における進級必要単位数	25
第 4 学士入学者の卒業および進級所要単位数	25
1. 編入学年	25
2. 単位の認定・履修タイプの決定	25
3. 卒業所要単位数	25
4. 第 4 学年における必要取得単位数	26
5. 第 3 学年における進級必要単位数	26
6. 履修方法	26
第 5 履修方法および開講科目と単位数	26
1. 履修単位数の上限	26
2. 専門教育科目	26
(1) 基本科目	26
(2) 特殊科目	27
(3) 関連科目	29
(4) 基礎科目	29
3. 総合教育科目	30
4. 外国語科目	30
(1) 選択必修科目	30
(2) 外国語Ⅱにおける語種変更（外国語Ⅲ）	30
(3) 選択必修科目の事前登録	30
(4) 選択必修科目の事前登録結果発表	31
(5) 選択必修科目の事前登録決定後の履修本登録	31

(6) 選択必修科目のクラス未決定者	32
(7) 選択必修科目エントリーコード表 (三田設置科目)	32
(8) 選択科目 (選択 A)	32
(9) 必修科目 (日吉設置)	32
5. 基礎教育科目	32
6. 自由科目	33
7. 体育科目	34
第 6 経済学部の分野	34
1. 分野	34
2. 分野表 (2005 年度開講科目)	35
3. B 欄分野表	37
第 7 履修上の注意	37
1. 重複履修について	37
2. 第 1・第 2 学年の不合格科目について	38
3. 他学部・他地区設置科目の履修について	38
4. 研究所・センター設置科目の履修について	38
5. 日吉学習指導担当について	39
第 8 認定用紙および申告用紙について	39
第 9 学則の一部改正 (保健体育科目→体育科目) (99 学則)	40
1. 学則条文新旧対照表	40
2. 分野番号新旧対照表	40
第 10 学則移行新旧科目対応表 (95 学則→99 学則)	41
第 11 休学・留学・退学	42
1. 休学 (学則第 152 条)	42
2. 留学 (学則第 153 条)	42
3. 退学 (学則第 154 条)	42
4. 退学処分 (学則第 156 条・第 188 条)	42
講義要綱	43
I 専門教育科目	45
(1) 基本科目	45
(2) 特殊科目	58
(研究会)	80
(研究プロジェクト)	92
(プロフェッショナル・キャリア・プログラム (PCP))	95
(3) 関連科目	98
II 総合教育科目	103
III 外国語科目	106
(1) 外国語 I	106
(2) 外国語 II	108
(選択 A)	112
IV 研究所・センター設置科目	114
(1) 教職課程	114
(2) 言語文化研究所	115
(3) メディア・コミュニケーション研究所	121
(4) 体育研究所	138
(5) 福澤研究センター	145
(6) 外国語教育研究センター	147
(7) 慶應義塾大学在外研修プログラム	149
(8) 国際センター	151
(9) 情報処理教育室	191
(10) 知的資産センター	194

履修案内の配布に際して

経済学部長 細田 衛 士

履修案内を配布するこの機会を利用して、三田で学ぶ経済学部の諸君にいくつか重要なメッセージを伝えておきたいと思う。本塾経済学部の専門課程のカリキュラムは次の2点で他の大学を圧倒している。一つは、中心的な核として設置されている科目群が極めて充実しているということである。「慶應の経済」という伝統の中で定着してきた、理論・計量、歴史、政策の3つの領域は経済学部のカリキュラムの中心的存在であり、諸君の積極的な学習を待ち受けている。一方、核となる科目以外にも様々な科目が用意されており、多様な学問が習得できるということも他の大学には見られない本塾経済学部の特長である。更に言えば、このコアと多様性がうまくバランスしているということが、経済学部のカリキュラムの重要な特徴づけとなっている。

履修するにあたって、こうしたメリットを活かさない手はない。コアとなる科目を集中的に学習することも可能だし、一方、コアとなる科目と学際的あるいは周辺分野の科目をほどよくバランスさせて学習するというやり方もあり得る。どのような形の履修をするか、そこには学習する者の設計能力が問われている。

ということは、三田での履修には、大人の学生としての「見識」が求められているのであり、この点は強調するに値する。他人からの情報もそれなりに重要だが、それに振り回されてはならない。履修の前には、自分が何を学びたいのか、どのような能力を身に付けたいのか、明確にしておく必要がある。それは、他人からの情報収集によって可能になるのではない。冷静に自分を見つめ、自分自身を分析することによってはじめて可能になるのである。

今、経済は激しく揺れ動いている。また日々経済は発展・進化している。こうした経済の動きを分析し、見通すためには、無手勝流のやり方で立ち向かっても困難である。長い歴史のなかで先達が培ってきた学問的基礎や、その上に展開されている応用的な研究を学ぶことによって、経済を見る目は研ぎ澄まされるのだ。将来の日本経済の舵取りをするのは諸君に与えられた役割なのであり、課せられた責任を全うするリーダーには明晰な学問、とりわけ経済学的な素養と見識が必要となることはまず間違いない。

慶應義塾の重要なモットーは、言うまでもなく「独立自尊」である。長いようで短い三田の2年間でどのような学習をするのか、あるいはどのような研究を展開するのか、それはいつに諸君の意思と意欲にかかっている。そして学習や研究の充実の度合いによって、諸君の顔つきも異なっているに違いない。「慶應の経済」を卒業する人間として誇れるようになるか否か、それには今この時点における諸君の選択が大きくものを言う。そのことを良く考えて履修に望んで欲しい。

履修選択にあたって

三田学習指導主任 小室正紀

この履修案内では、一般的な注意事項と履修の仕方に始まり、第3学年および第4学年の学生諸君の進級や卒業に必要な単位数が示されている。また、三田キャンパスにおいて設置されているそれぞれの科目の内容が簡潔に記されている。学生諸君が年度始めにあたってまずこの履修案内を熟読し、支障なく単位を取得する計画を立てて三田において充実した学習生活を送ることを期待している。

三田における学習プログラムは、10分野からなる基本科目および特殊科目・関連科目による専門教育科目を中心に展開され、さらに学習の利便性を考慮して総合教育科目や外国語科目も設置されている。経済学部が設置している基本科目と特殊科目は、経済学の伝統的な部分とその最新の動向とがともに学習できるように十分配慮されたものである。また学際的な内容を扱う科目も多く配置され、専門教育科目全体がカバーする領域は多岐に渡っている。

経済学部の三田設置科目は多様であるがゆえに、三田でどのような学習生活を送るかは学生諸君の自主的・積極的な学習計画にかかっている。学生諸君自らこの履修案内を熟読し、他の学生に同調するのではなく、各自の問題関心に照らして主体的な履修選択を行ってほしい。

残念ながら、例年履修上の不注意が多く、そのために単位を取得できないケースがあとを絶たない。進級および卒業の条件を正確に把握し、履修上の間違いや遺漏などのないように細心の注意をはかるべきである。この履修案内を読んでもなお疑問があれば、必ず学習指導担当者または学事センターの窓口において質問して疑問点を解消するように心がけてほしい。

三田における学生生活を真に充実させられるかどうかは、諸君自身の履修計画に大きく依存している。後で後悔することのないように、万全な履修選択を行うことを期待する。

平成17(2005)年度学事関連スケジュール

プロフェッショナル・キャリア・プログラム(PCP)履修選考	4月1日(金)	9時
研究プロジェクト応募受付開始	4月1日(金)	9時
履修案内等書類配布(3・4年) 1~20組	4月1日(金)	11時~14時 121番教室
21~40組		14時~17時 121番教室
成績証明書発行	4月1日(金)	12時30分以降
『研究会』入会選考	4月2日(土), 5日(火)	
情報処理教育室ガイダンス	4月4日(月)	10時45分 516番教室
慶應義塾大学在外研修プログラムガイダンス <small>(ダウニングコレッジ, ウィリアム・アンド・メアリー大学)</small>	4月4日(月)	13時 528番教室
第3学年ガイダンス	4月4日(月)	10時45分 (1~20組) 517番教室 10時45分 (21~40組) 519番教室
選択必修外国語I(英語)科目ガイダンス	4月4日(月)	14時 517番教室
教職課程ガイダンス(既登録者, 今年度実習しない者対象)	4月5日(火)	13時 526番教室
教職課程ガイダンス(新規登録者対象)	4月5日(火)	13時 533番教室
教職課程ガイダンス(来年度実習予定者)	4月5日(火)	14時45分 528番教室
教育実習事前指導I(今年度実習予定者)	4月5日(火)	14時45分 517番教室
留学希望者ガイダンス	4月6日(水)	10時45分 516番教室
研究プロジェクト応募締切	4月6日(水)	13時
外国語教育研究センターガイダンス	4月6日(水)	16時30分 531番教室
研究プロジェクト誘導展開型選抜試験・面接	4月7日(木)	(詳細後日発表)
体育研究所ガイダンス	4月7日(木)	9時・10時45分 522番教室
言語文化研究所ガイダンス	4月7日(木)	12時20分 523A番教室
学事Webシステムパスワード変更締切	4月7日(木)	16時30分 学事センター
春学期授業開始	4月8日(金)	
研究プロジェクト誘導展開型履修許可者発表	4月9日(土)	13時~14時
研究プロジェクト自展開型書類選考結果発表	4月9日(土)	13時~14時
研究プロジェクト自展開型面接	4月11日(月)	(詳細後日発表)
履修申告用紙配布	4月11日(月)・12日(火)	8時30分~18時10分 学事センター
研究プロジェクト自展開型履修許可者発表	4月13日(水)	8時30分~9時
外国語選択必修科目授業開始	4月15日(金)	
Webによる履修申告期間	4月14日(木) 10時~4月16日(土) 13時	
履修申告用紙による履修申告日	4月15日(金)	8時30分~18時10分 学事センター前受付ボックス
開校記念日【休講】	※ 4月23日(土)	
Webによる登録済科目一覧画面公開	4月28日(木)	9時(詳細後日揭示)
授業料等納入期限(全納・春学期分納)	4月28日(木)	
履修申告科目確認表送付(本人宛)	5月上旬(詳細後日揭示)	
定期健康診断	5月上・中旬	
履修申告修正受付	5月6日(金)~5月10日(火)(詳細後日揭示)	
4年生卒業見込証明書発行	5月6日(金)以降	
早慶野球戦	5月下旬	
春学期末試験時間割発表	7月上旬(詳細後日揭示)	
春学期補講日	7月11日(月)・15日(金)	
春学期授業終了	7月16日(土)	
春学期末試験	7月19日(火)~7月27日(水)	
春学期末追加試験申込受付	7月中(詳細後日揭示)	
夏季休業	7月28日(木)~9月21日(水)	
春学期末追加試験	8月4日(木)・8月5日(金)	
三田一斉休暇	※ 8月9日(火)~8月15日(月)	
秋学期授業開始	9月26日(月)	
授業料等納入期限(秋学期分納)	10月31日(月)	
早慶野球戦	10月下旬	

(次ページに続く)

秋学期補講日 (1)	11月18日 (金) 午前
三田祭 (準備・本祭・片付けを含む) 【休講】	11月18日 (金) 午後～11月24日 (木)
休学願提出期限	11月30日 (水)
冬季休業	12月23日 (金) ～ 1月5日 (木)
三田一斉休暇	※ 12月28日 (水) ～ 1月5日 (木)
授業開始	1月6日 (金)
秋学期末試験時間割発表	1月上旬 (詳細後日揭示)
福澤先生誕生記念日 【休講】	※ 1月10日 (火)
秋学期月曜代替講義日	1月18日 (水)
秋学期補講日 (2)	1月20日 (金)
秋学期授業終了	1月21日 (土)
秋学期末試験	1月23日 (月) ～ 2月4日 (土)
秋学期末追加試験申込受付	1月中 (詳細後日揭示)
福澤先生命日	2月3日 (金)
春季休業	2月上旬～3月下旬
秋学期末追加試験	2月下旬 (詳細後日揭示)
卒業者発表	3月10日 (金)
学業成績表送付 (保証人宛)	3月中旬
卒業式	3月23日 (木)

(注1) ※印の期間には学事センター窓口業務を執り行いません。証明書発行等も行わないので注意してください。

(注2) 事情により日時・教室等に変更があり得ますので、掲示板等に注意してください。

● 一般注意事項 ●

I 学生証（身分証明書）

1. 学生証は、諸君が本塾大学学生であることを証明する身分証明書です。同時に慶應義塾大学学生健康保険互助組合員証、および本塾図書館入館票を兼ねています。
2. 学生証は次のような場合に必要となるので、登校の際常に携帯しなければなりません。
 - (1) 本塾教職員の請求があった場合
 - (2) 各種証明書および学割証の交付を受ける場合
 - (3) 各種試験を受験する場合
 - (4) 通学定期券または学生割引乗車券購入の際、およびそれを利用して乗車船し係員の請求があった場合
3. 再交付手続
学生証を紛失したり、汚損した場合は、写真（縦4cm、横3cm カラー光沢仕上げ、3ヶ月以内に撮影されたもの）1枚を添えて学事センターで再交付を受けてください。新しい学生証は原則、当日発行いたします。ただし、機械のメンテナンス、故障等により、当日発行できないこともありますのでご了承ください。学生証の紛失、裏面シールの紛失については、手数料2,000円が必要です。
4. 返却
再交付後、前の学生証が見つかった場合や退学・卒業などで離籍した場合はただちに学事センターへ返却しなければなりません。

II 掲示板

1. 学生諸君への通達事項は、すべて西校舎正面入口の掲示板に掲示されます。毎日機会あるごとに、掲示に注意してください。掲示に注意しなかったために、諸君自身が不利益を被ることもあります。
なお、他学部設置科目を履修した場合はその科目を設置している学部の掲示板を、他地区設置科目を履修した場合はその科目を設置している地区の掲示板を確認してください。諸研究所、各センター設置科目・講座等については共通掲示板にも注意してください。
2. 主な掲示事項は、授業の休講・補講・時間割の変更、教室の変更等毎日の授業に直接関係のある緊急通達、各種試験の実施要領、学事日程、呼出し等です。
休講・補講、呼出しについてはインターネットに繋がるパソコンまたは携帯電話（i-modeのみ）により学事 Web システム (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) においても確認できます。
また、定期試験の実施要領、各種発表・通達の一部については塾生ページ (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>) において確認できます。
3. 研究会に関する掲示は、西校舎地下2階掲示板を利用してください。

III 試験・レポート・成績

定期試験はもとよりレポート・授業中に行われる小テストにおいても、代筆やカンニング、答案用紙の持ち帰りなどの行為があった場合には、不正行為とみなされ学則第188条により厳しく処分されます。このようなことが絶対にならないように学生諸君の自戒を強く要望します。

1. 定期試験

定期試験は、学期末に行われます。試験時間割や注意事項は、掲示により発表します。定期試験の時間割は授業の時間割と異なります。

春学期末：7月19日（火）～27日（水）実施（春学期に終了する科目および通年科目の中間試験が対象）

秋学期末：1月23日（月）～2月4日（土）実施（秋学期に終了する科目および通年科目が対象）

試験に関する注意事項

- ① 定期試験の振鈴時間は、三田と日吉で異なりますので注意してください。
- ② 受験に際しては不正行為のないように、真摯な態度で臨んでください。
- ③ 答案は必ず提出しなければなりません。持ち帰った場合は不正行為と判断され、処分の対象とされます。
- ④ **学生証を必ず携帯し、提示してください。**
- ⑤ 試験当日、万一学生証を携帯しなかった場合は、学事センターで必ず仮学生証（発行当日に限り全キャンパスで有効、図書館入館も可）の交付を受けてください。なお、仮学生証の発行には、手数料500円が必要となります。
- ⑥ 学生証または仮学生証を携帯せずに試験教室に入室することは一切認められません。
- ⑦ 仮学生証発行手続きにより、試験教室への入室が遅れても試験時間の延長はありません。
- ⑧ 答案用紙の担当者および科目名並びに学籍欄の記入事項はすべて略さず正確に記入してください。記入がない場合、成績はつきません。
- ⑨ 試験開始後20分までの遅刻の場合は、試験を受験することができます。ただし、遅刻理由が電車遅延等追加試験の対象となるもの場合、当該試験をそのまま受験するのか、それとも追加試験を受験するのかは、本人の判断に依ります。電車遅延等により遅刻をしても試験開始20分以内で入室した場合は追加試験の対象となりません。また、試験時間の延長もありません。

⑩ 試験開始後の体調不良などの場合で途中退室する場合は、追加試験の対象とはなりません。

2. 平常試験（授業内試験）

随時授業時間内に行われます。

3. 追加試験

追加試験は、履修申告した授業科目で病気や不慮の事故等、やむを得ぬ事情により定期試験を受験できなかった科目に対して行うものです。ただし、外国語科目、演習科目、体育実技、その他定期試験期間中に定期試験を行わず、レポート・平常点・授業内試験等により評価の定まる科目、ならびに研究会については行いません。

他学部設置の授業科目を履修した場合、その実施の有無を含めて取扱いは当該学部の方針によります。他学部・研究所が設置主体である併設科目（総合教育科目「人類学」「歴史」「法学（憲法を含む）」「近代思想史」「美術」「人の尊厳」、経済学部設置関連科目「民法Ⅰ」「民法Ⅱ」「商法Ⅰ」「商法Ⅱ」「労働法」「租税法」「会計学」「経営学」「近代日本研究Ⅰ」「近代日本研究Ⅱ」「近代日本研究演習Ⅰ」「近代日本研究演習Ⅱ」）についてもこれに準じます。

追加試験の申請には、試験欠席の理由を明示できる医師の診断書（加療期間の明記されたもの）、電車の事故（遅延）証明書、あるいは学習指導担当教員の受験許可書のいずれかが必要です。詳細は、定期試験時間割発表の際に掲示します。

日吉において履修した授業科目の追加試験の申請は、所定の手続きを日吉で行う必要があります。なお、試験場は原則として日吉になります。

定期試験では、授業時間割と異なる時間割で試験が行われますが、試験時間が重複することがあります。その場合の追加試験取扱いは、定期試験時間割発表時の掲示を確認のうえ、手続きをしてください。ただし、三田と日吉の試験が重複した場合は、原則として三田の試験を追試とします。

以上の手続きを怠って試験を受けても無効です。

なお、定期試験期間中、当該科目の試験時間内に試験教室に立ち入っていた場合は、追加試験が認められません。

4. 再試験

経済学部学生に対しては、その履修する科目が経済学部・他学部いずれの設置科目であっても再試験は行いません。

5. レポート

三田では、レポートが最終試験と同様に取り扱われますので、提出にあたっては次の手続きを厳守してください。

- (1) 指定された日時に、指定された場所に提出してください。特に学事センターでは、指定日時以外は一切受け付けませんので掲示で確認してください。

学事センターレポートボックス受付時間

1. 授業期間

月～金曜日…… 8時30分～18時10分

土曜日…… 8時30分～16時30分

※授業期間中であっても都合により閉室することがあります。

2. 休業期間

月～金曜日…… 8時30分～11時30分、12時30分～16時30分

※休業期間中は土曜日の受付は行いません。

- (2) 学事センターへの提出を指示された場合は、学事センター指定のレポート提出用紙（2枚複写式）に必要事項を記入し、添付してください（2枚とも）。レポート提出用紙は学事センターおよび西校舎内の掲示板前に備えてあります。

- (3) 一度提出したレポートの変更・訂正は、提出期間内でも認めません。

6. 成績通知

3月中旬に保証人宛に学業成績表を発送します。春学期終了科目の成績についても、通年科目、秋学期科目とともに学年末に通知します。それ以前には一切通知しません。なお、成績証明書に取得した科目の成績が記載されるのは、翌年度の4月以降となります。ただし、卒業決定者の証明書については申請方法を1月に掲示します。

7. 評点の疑義について

経済学部では、評点の疑義についての問い合わせがある場合、科目設置地区の学事センターで質問用紙（所定用紙：学事センター設置）にて受け付けます。この他の方法では一切受け付けません。（科目担当者が個別には対応しません）なお、受付は履修申告期間前日までとします。

IV 諸 届

以下の事項はすべて学事センターで取り扱います。

1. 休学願・就学届・退学届（p.42参照）

「病気その他やむを得ない理由により欠席が長期にわたる場合には、保証人連署の上願い出て必要の期間休学することができる。」

（学則第152条）

「休学の事由が消滅したならば、休学者は速やかに就学届を提出しなければならない。」（学則第152条）

「病気その他の事由により退学したい者は、保証人連署の上退学届を提出しなければならない。」(学則第 154 条)

2. 国外留学申請 (p.42 参照)

「本大学が教育上有益と認めるときは休学することなく、外国の大学に留学することを許可することがある。」(学則第 153 条)

3. 住所変更届(本人・保証人)・保証人変更届・改姓(名)届

各届とも所定の用紙に記入のうえ速やかに学事センター窓口へ届け出てください。学生証の記載事項変更も同時に行ってください。なお、郵便および電話による届け出は受け付けません。

必要書類(所定用紙は学事センターにあります)

- 住所変更届: 在学カード
- 保証人変更届: 変更届, 在学カード, 誓約書(本人・保証人押印), 保証人住民票
- 改姓(名)届: 改姓(名)届, 在学カード, 誓約書(本人・保証人押印), 戸籍抄本, 学生証再交付願

また、学生総合センター学生生活支援窓口に提出する「学生カード」に新住所等を記入しても、正式な届け出とは見なされません。必ず学事センターに所定の届を提出してください。

なお、履修上の連絡、あるいはその他の重要な事柄の処理に際し、これらの変更届が出されていない場合は、極めて重大な支障をきたすことがありますので、十分に注意してください。

V 各種証明書

証明書の発行、申込み、受取、いずれの場合でも学生証が必要です。授業料等が未納の場合、すべての証明書が発行できません。

1. 証明書自動発行機で即時発行する証明書(和文)

証明書	発行開始日	発行手数料(1通あたり)
在学証明書	4月1日12時30分～	200円
成績証明書	4月1日12時30分～	200円
卒業見込証明書	5月6日～	200円
卒業見込付成績証明書	5月6日～	400円
履修科目証明書	6月1日～	200円
学割証	4月1日12時30分～	無料
健康診断証明書	6月中旬(年度末まで)	200円

※料金は改定されることがあります。

① 稼働時間

学事センター事務室内発行機: 学事センター事務取扱い時間内

南校舎1階設置発行機: 9時～20時 [休日, 大学休業日および授業期間外の土曜日は除く]

メンテナンス, 故障等により, 証明書発行機を停止することがあります。使用する時期や枚数に注意し, あらかじめ早めに準備してください。

② 学割証(JR各社共通学校学生生徒旅客運賃割引証: 片道101km以上の区間を乗車または乗船する場合は1人1年間10枚まで発行。有効期限は発行日から3か月以内(有効期限内でも離籍した場合は無効)。各種学生団体の課外活動に必要な学割証は学事センターに申し出てください。なお, 定期健康診断を未受診の場合には, 学割証の発行はできません。

③ 各種証明書等で厳封を必要とする場合には, 学事センターに申し出てください。(自動発行機で発行した証明書は厳封できません。)

④ 健康診断証明書は6月中旬以降, 定期診断受診者を対象に発行されます。

なお, 奨学金申請等で6月中旬以前に証明書が必要な場合は, 保健管理センター三田分室受付に相談してください。

2. 学事センター窓口で即時発行する証明書(英文)

証明書	発行開始日	発行手数料(1通あたり)
英文在学証明書	4月1日12時30分～	200円
英文卒業見込証明書	5月6日～	400円
英文成績証明書	4月1日12時30分～	200円

※料金は改定されることがあります。

※2003年4月以降の入学者は証明書自動発行機で発行できます。その他の学生については従来どおり窓口での発行となります。ただし, 2004年4月以降, 窓口で一度英文証明書の申請・交付を受ければ, その翌日から証明書自動発行機での発行が可能になります。

3. 学事センター窓口で申し込み, 日数を要して発行する証明書・文書

前記以外の証明書・文書等(例: 司法試験用単位取得証明書, 公認会計士用証明書, 英文履修科目証明書, 他大学院受験等のための形式指定の調査書等)の発行に関しては, 余裕をもって学事センター窓口で相談のうえ申請してください。なお, 交付には和文書類は申請後標準3日, 英文書類は申請後標準1週間日数を要します。

Ⅵ 教室使用申請について

1. 受付窓口

	利用者		
	研究会	学生団体	外部団体
授業期間	学事センター	学生総合センター学生生活支援	管財部管財課
休業期間	学事センター	使用できません	管財部管財課

2. 授業期間中の教室使用申請

- (1) 研究会での教室使用の申請は、学事センターに「学内集会届」を提出してください。
- (2) 学生団体の場合は、学生総合センター学生生活支援窓口にて「学内集会届」を提出してください。
- (3) 申請は使用予定日の2週間前から4日前まで受け付けます。ただし、土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および大学事務の休業期間を除いた4日前とします。

(注) 土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および定期試験期間中は原則として使用できません。

- (4) 「集会許可証」は、研究会・学生団体ともに学生総合センター学生生活支援窓口でお受け取りください。
- (5) 外部団体が使用する場合は、施設使用費等が必要となりますので、管財課までお問い合わせください。

3. 休業期間中の教室使用申請

- (1) 研究会での教室使用の申請は、学事センターに「学内集会届」を提出してください。提出にあたっては、「会長名」欄（4枚複写の4枚とも）に研究会担当教員の印またはサインが必要となります。

- (2) 学生団体は原則として、使用できません。

- (3) 申請は使用予定日の4日前まで受け付けます。ただし、土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および大学事務の休業期間を除いた4日前とします。

(注) 土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間中（8月中旬および年末年始）は原則として使用できません。

- (4) 「集会許可証」は、学生総合センター学生生活支援窓口でお受け取りください。
- (5) 外部団体が使用する場合は、施設使用費等が必要となりますので、管財課までお問い合わせください。

Ⅶ 学事センターの窓口

1. 学事センター事務取扱時間

- (1) 授業期間中は次のとおり取り扱います。

月～金曜日…… 8時30分～18時10分

〔なお、各学部・研究科に関する相談・問い合わせは、次の時間帯でお願いします。〕

8時30分～16時30分

- (2) 休業期間中は次のとおり取り扱います。

月～金曜日…… 8時30分～11時30分、12時30分～16時30分

※ 土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間は閉室となります。

※ 事務取扱時間を変更する場合、および事務室の閉室については、掲示等でお知らせします。

2. 窓口業務

- (1) 学籍・成績・履修に関すること
- (2) 授業・試験・レポート等に関すること
- (3) 時間割に関すること
- (4) 休講・補講に関すること
- (5) 追加試験の申込み
- (6) 休学願・国外留学申請・退学届・住所変更届・保証人変更届・改姓（名）届等
- (7) 学生証の発行
- (8) 成績証明書・在学証明書等各種証明書の発行（和文はおもに証明書自動発行機）
- (9) 公認会計士・司法試験等受験のための単位取得証明書の発行
- (10) 教室に関すること（ただし研究会以外の教室使用申請は学生総合センター学生生活支援窓口が取り扱います）
- (11) 通学証明書の発行

落とし物、学生カード提出は学生総合センター学生生活支援窓口が取り扱います。

卒業後の成績・卒業証明書等の申込み・発行は、塾員センター（北館3階）が取り扱います。ただし、卒業決定者の証明書については申請方法を1月に掲示します。

Ⅷ 教員を訪ねる場合

授業のある日に研究室または教員室を訪ねてください。

- 専門科目担当専任教員（教授・助教授・専任講師）……研究室（三田研究室棟）
- 日吉専任教員および塾外からの出講者（講師）……教員室（南校舎2階）

（注）授業期間終了後に塾外からの出講者（講師）と連絡をとることはできません。学事センターで仲介、連絡等はいりません。

Ⅸ 学生総合センター窓口

学生総合センターには、主に課外活動・課外教養・奨学金および学生健康保険互助組合を担当する学生生活支援窓口、就職進路支援を行う就職・進路支援窓口があります。ここでは、学生生活を送るうえで何かと関係の深い学生総合センターについて、窓口業務を中心に紹介します。

学生生活支援

○教室等の使用申込み受付

公認学生団体が会合のために教室を使用したい時は、使用希望日の4日前（休日を除く）までに申し込んでください。休日・試験期間中・休業期間中の使用はできません。（「Ⅵ 教室使用申請について」も参照）

使用できる時間は次のとおりです。

月～金曜日	9:00～18:00（ただし、第一校舎は20:00まで）
土曜日	9:00～18:00（全校舎）
音楽団体指定時間	平日 18:10～20:10 土曜日 13:00～18:00

なお、教室以外に利用できるスペースとして、学生談話室 A・B と音楽練習室がありますので、使用したい場合は学生生活支援窓口にお問い合わせください。

○山食・西校舎学生食堂ホール・北館学生食堂の使用申込み受付

公認学生団体・教職員・OB・研究会等が、山食や西校舎学生食堂ホール・北館学生食堂をパーティー等で利用したい場合は、学生生活支援窓口で使用申込みをし、予約してください。さらに、予約後1週間以内に学内集会届を提出し、許可を得る必要があります。学内集会届の提出を怠った場合は予約は取り消されますので注意してください。なお日曜日・祝日は利用できません。

○学外行事届の受付

公認学生団体や研究会で、合宿、コンサート、パーティーなどの学外行事を行う場合には、その4日前までに届け出てください（学生教育研究災害傷害保険の項参照）。なお、団体割引、減税証明書等の必要があれば申し出てください。

合宿等で団体割引が必要な場合についても学生生活支援窓口で受け付けています。

○組織届の受付

クラブ、サークル等を新設する場合は、所定の組織届を提出してください。組織届の提出がないと、学生団体公認申請等の諸手続を行うことはできません。公認申請の詳細については学生生活支援窓口にご自分で問い合わせをしてください。

○学内における掲示・配布

ポスターやチラシ・パンフレット等を学内で掲示・配布する場合は、学生生活支援窓口へ届け出て、場所等の指示を受けることが必要です。

○備品使用申請の受付

公認学生団体で、ステッカー、ワイヤレスマイク、塾旗、水差、椅子、机等を借用したい場合は、使用希望日の4日前までに申請してください。

○郵便物の取扱い

外部から送付される各学生団体宛の郵便物は、学生生活支援窓口備え付けのメールボックスに区分けしておきますので、学生責任者は定期的に取りに来るようにしてください。なお、個人宛の郵便物は一切取り扱いません。

○車両入構申請の受付

塾生の車両入構は認められていませんが、やむをえず車両入構の必要がある場合は、入構希望日の4日前までに申請してください。

○学生ラウンジの使用

南校舎1階の学生ラウンジは、個人での利用ができます。開室時間は8:45～21:00です。室内での飲食はできません。

○伝言板および「DENGON」の利用

学生ラウンジ横の黒板および、第一校舎南西角の伝言板「DENGON」は、塾生間の連絡用として自由に利用してください。A4用紙1枚のみ掲示可能ですが、必ず伝言者の学部・学年・氏名・連絡先を明記してください。

○その他

学生総合センター「大学生生活懇談会」では見学会、講演会、討論会等の催物を随時行っていますので、積極的に参加してください。また、学生生活支援窓口には、財団法人大学セミナーハウス、展示会の招待券・割引券等も置いてあります。

遺失物は学生生活支援の受付窓口で取り扱っています。

○奨学金

学生生活支援窓口において、概ね4月初旬から奨学金案内を配布し、出願受付を行います。

●慶應義塾大学奨学金〔給費〕

5月下旬に出願受付を行います。募集日程は西校舎ロビー学生総合センター掲示板に掲示します。

●慶應義塾大学特別奨学金〔給費〕

家計支持者の死亡・失職等により家計状況が急変し、経済的に学業の継続が困難になった者を援助することを目的とします。募集日程は西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

●日本学生支援機構奨学金〔貸費〕

4月中旬に出願受付を行います。第一種（無利子）と1999年度から設置された、第二種（きぼう21プラン）（有利子）があります。その他に家計急変者を対象とした緊急採用（第一種）・応急採用（第二種）があります。

●地方公共団体、社・財団法人等の各種奨学金

募集は主に4・5月に行います。募集日程はその都度、西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

●指定寄付奨学金〔給費〕

募集は主に4月に行います。募集日程はその都度、西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

○奨学融資制度〔奨学金付き学費ローン〕

学生諸君の学費の調達の手助けになるよう配慮した制度で、学生本人に金融機関が低金利で学費を直接貸し出しする方式です。在学生であれば、誰でも応募することが可能です。在学中の借りに伴う利子は、規程に従い、慶應義塾が奨学金として給付します。

入学年度等により、適用制度が異なりますので、詳細は学生生活支援窓口までお問い合わせください。

○学生健康保険互助組合

保険証を提示し、病院や診療所で受診した場合、健康保険が適用された自己負担分について、学生健保から医療費給付が受けられます。給付を受けるための手続きは、医療機関によって異なりますので、以下に従って手続きしてください。なお、給付方法は銀行振込となりますので、口座登録が必要です。

(1) 慶應病院で受診した場合

病院で診察を受ける際、保険証と学生証を提示してください。また「医療給付金振込口座届」を学生生活支援窓口へ提出し、振込口座を登録してください。通院は受診月の翌月20日に、入院は翌々月20日に、給付金が振り込まれます。

(2) 一般病院で受診した場合

学生生活支援窓口においてある「医療費領収証明書」に、病院で1か月ごとの診療内容を記入してもらい、塾生記入欄を各自記入して、学生生活支援窓口へ提出してください。ただし、「学生氏名」「保険点数または保険適用金額」「負担割合」の3点が明示された領収証が発行されている場合は領収証の添付でかまいませんが、必ず「医療費領収証明書」に保険者番号、傷病名等を記入して提出してください。受診月を含め、4か月以内に提出されない場合は無効となります。振込日は証明書を提出した月の翌月20日です。

組合ではこのほか、契約旅館に対する宿泊費補助や、海の家、スキーハウスの開設などを行っています。さらに、日吉塾生会館内にトレーニングルームも設置しています。詳しくは、入学時に配布した「健保の手引き」（学生総合センターにも置いてあります）をご参照ください。

就職・進路支援

就職担当は、就職活動に関するさまざまな情報を収集して提供しています。企業からの求人票・説明会案内をはじめ、会社案内、OB・OG情報などを、南校舎地下1階の就職担当事務室、1階の就職資料室にて、自由な利用に供しています。就職担当のホームページには求人企業一覧やさまざまな説明会案内などを掲載しています。

また就職活動支援の一環として、10月から2月にかけて多様な専門家等による講演会、就職ガイダンス、公務員志望者のための説明会、OB・OGや内定者によるディスカッションなどを開催しています。こうした催しはビデオテープに収録し、後日貸し出しも行っています。

就職担当は就職活動の進め方を解説した『就職ガイドブック』を作成し、3年生全員に配布しています。また皆さんが就職活動をするなかでわからないこと、困ったことがあった場合など、いつでも個別相談に応じています。

就職担当を、皆さんの進路決定や就職活動におおいに利用してください。

学生相談室（西校舎地下2階）

学生相談室は、学生生活の中で当面するさまざまな問題や悩みについての個別の相談に応じています。それと共に、小集団の中で自己をみることで自己成長を促す「サイコドラマ」や「エンカウンター・グループ」の行事も行っています（このスケジュールは相談室に問い合わせてください。）

相談内容に関しては、それがいかなる種類のものであっても、個人の秘密を厳守しますし、すべては来談者とカウンセラーの間のこととして扱われますので、気軽に相談に来てください。

学生総合センター窓口取扱時間

—学生生活支援、就職・進路支援—

月～金曜日……8時30分～17時 ※都合により閉室することがあります。

土曜日……閉室

—学生相談室—

月～金曜日…… 9時30分～16時30分

土曜日……閉室

昼休み……11時30分～12時30分

学生教育研究災害傷害保険について

諸君の教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために、大学で保険料の全額を負担し、日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」に加入しています。この保険の適用を受ける「教育研究活動中」とは次の場合をいいます。

①正課を受けている間

講義、実験・実習、演習または実技による授業（総称して以下「授業」といいます）を受けている間をいい、次に掲げる間を含みます。

イ. 指導教員の指示に基づき、卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。ただし、もっぱら被保険者の私的生活にかかわる場所において、これらに従事している間を除きます。

ロ. 指導教員の指示に基づき、授業の準備もしくは後片付けを行っている間、または授業を行う場所、大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。

②学校行事に参加している間

大学の主催する入学式、オリエンテーション、卒業式などの教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

③ ①②以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有、使用または管理している施設内にいる間。ただし、寄宿舎にいる間、大学が禁じた時間もしくは場所にいる間、大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

④学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間

大学の規則に則った所定の手続きにより、大学の認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。ただし山岳登山やハングライダーなどの危険なスポーツを行っている間を除きます。

保険金は本人（被保険者）の申請に基づき支払われますので、上記活動中に万一事故にあった場合は、学生生活支援窓口で相談のうえ、所定の手続きを行ってください。また、本保険の適用が円滑に行われるため、ゼミ合宿を学外で行う場合、および学内学生団体が学外で活動する場合は、その都度「学外行事届」を提出してください。

その他この保険に関する詳細については、直接学生生活支援窓口で尋ねてください。

任意加入の補償制度について

任意加入の補償制度としては、保険と共済の2つがあり、加入希望の場合は直接それぞれに申し込むかたちになっています。

「学生総合補償」保険は、(株)慶應学術事業会（慶應義塾関連会社）に、「学生総合共済」保険は慶應生活協同組合に、資料請求してください。

連絡先：(株)慶應学術事業会 Tel. 03-3453-6098、慶應生活協同組合 Tel. 045-563-8489

学生カード・大学に対する要望カードの提出について（学生カードの提出によって住所変更の届けとすることはできません。）

次に従って提出してください。

1. 提出学年

3・4年（文学部は2・3・4年）

2. 提出方法

提出日：4月末日まで

提出先：学生総合センター学生生活支援窓口

3. 記入上の注意

学生カードは諸君の在学中に活用する資料ですので必ず提出してください（やむをえず提出日に提出できなかった場合でも、後日必ず学生生活支援窓口に提出してください。）

大学に対する要望カードは、大学における今後の研究・教育・学生生活において、改善のための参考に資するものです。諸君が今までの学生生活の中で、教育一般・カリキュラム・課外活動・施設・その他感じたこと、思ったことで大学に対する要望がありましたら、学生カードに連なる同カードに記入し、学生生活支援窓口へ提出してください。

X 定期健康診断について

定期健康診断は、学校保健法に基づいて全学年を対象に年1回実施しています。

学則第179条にも「学生は毎年健康診断を受けなければならない」と定められていますので、必ず受診してください。

未受診の場合には、「体育実技」の履修および健康診断証明書・学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）の発行はできません。

●履修申告のしかた●

1. 履修申告について

(1) 履修申告方法について

原則として、学事 Web システムにより申告してください。学事 Web システムによる履修申告を行うと、即時にエラーチェックおよび学則による履修判定が行われ、メッセージが表示されます。(科目を選択せずに登録ボタンを押すと、昨年度までの取得状況による学則判定が行われ、卒業単位に不足している科目がわかります。)ただし、最終的な履修科目およびエラー等の確認は、自宅宛に送付する履修申告科目確認表で行ってください。

やむをえない場合は履修申告用紙で申告できますが、Web 履修申告と併用することはできません。履修するすべての科目をどちらか一方の申告方法により申告してください。

(2) 履修申告上の注意

履修申告にあたっては、2004 年度学業成績表（保証人宛に送付済）にて、取得した科目を確認し、「履修申告のしかた」（本項）および「履修要項」（次項）を熟読のうえ、申告してください。特に、誤登録・申告漏れ等によって不都合が生じることがないように（進級・卒業に影響する場合があります）十分に注意してください。

原則として、申告期間後は、履修科目の変更・追加・取り消しを認めません。また、閲覧・照会にも応じません。学事 Web システムによる登録後、登録科目一覧画面を印刷、あるいは履修申告用紙をコピーし、時間割とともに控えとして保管してください。

期日までに申告しない場合は、原則として修学の意志がないものとして退学処分にする事となります（学則第188条）。

(3) 学事 Web システムによる申告日程

期間 4月14日（木）10:00～4月16日（土）13:00（毎日4:00～5:00はメンテナンスのため稼働を停止します。）

※期間中は何回でも履修科目の修正が可能です。

(4) 履修申告用紙による申告日

用紙配布期間 4月11日（月）・12日（火）8:30～18:10 学事センター

用紙提出日 4月15日（金）8:30～18:10 学事センター前受付ボックス

(5) 履修に関する疑問点、その他については履修申告の前日までに、学習指導担当または学事センターに問い合わせてください。

(6) 履修申告科目確認表は5月上旬本人宛に送付します。確認のうえ、年度末まで大切に保管してください。この確認を怠ったために生じた問題（登録番号ミスによる申告漏れ、科目間違い等）については大学側は一切責任を持ちません。確認期間は送付後約一週間（詳しくは掲示により指示します）とし、この期間経過後は確認が終了したものとみなします。

(7) 時間割は変更されることがありますので、掲示で確認のうえ申告してください。

(8) 登録されていない授業科目を受験しても一切無効です。単位は取得できません。

2. 外国語科目（選択必修）の事前登録について

外国語科目（選択必修）については、履修申告の前に事前登録（p.30 参照）が必要です。事前登録を怠ると履修できませんので十分注意してください。

3. 登録番号および分野について

(1) 授業科目名、担当者名と登録番号（5桁）を十分確認してください。

(2) 1つの授業科目には1つの登録番号が付いています。

集中講義、実験を伴う科目等で複数の曜日・時限にわたって開講している授業科目についても、1か所の登録番号を登録することで、全ての時限についても登録されます。

ただし、他学部、研究所と併設している科目については、それぞれに登録番号が付いていますので経済学部の時間割で登録番号を確認してください。

(3) 履修科目により登録番号を登録するだけで自動的に分野が登録される場合と、各自分野を選択しなければならない場合（申告の際は2桁のB欄分野番号を登録）があります。他学部設置の専門教育科目を履修する場合などは、2桁のB欄分野番号を登録しなければなりません。第6「経済学部の分野」の「1 分野」（p.34）および「3 B欄分野表」（p.37 参照）を確認してください。

<登録番号のみ申告する科目（履修申告用紙では「A欄」）>

①経済学部1～4年（三田・日吉）設置の授業科目（経済学部設置関連科目を含む）

②「全学部共通外国語科目履修案内（三田）」に掲載の外国語科目（他学部設置科目を含む）

③経済学部の時間割に掲載の諸研究所・センター等設置科目

（言語文化研究所、メディア・コミュニケーション研究所、体育研究所、外国語教育研究センター、国際センター、情報処理教育室、知的資産センター）

④教職課程センター設置科目

<B 欄分野を申告する科目（履修申告用紙では「B 欄」）>

⑤他学部設置の授業科目（②を除く）
⑥他学部設置の総合教育科目を自由科目で履修する場合
⑦重複履修の科目を自由科目で履修する場合
⑧メディア・コミュニケーション研究所の研究生は、履修上限外で履修する同研究所の研究生用科目およびオープン科目
⑨教職課程登録手続者は、教育免許取得のために履修上限外で履修する他学部設置の授業科目（④を除く）

4. 学事 Web システムによる履修申告について

操作方法・操作上の注意は次項「学事 Web システムの利用方法」を参照してください。

5. 履修申告用紙（マークシート）による履修申告について

履修申告用紙記入の際は、以下の点に注意してください。

- (1) HB か B の鉛筆を使用してください。誤記、記入漏れがないように、丁寧に記入してください。特に、「0」と「1」のマークミス等に注意してください。
- (2) 学籍等の記入方法
学部、学年、組、氏名、学籍番号および提出日を記入してください。学籍番号は数字で記入するとともに、該当する数字をマークしてください。（学科および専攻の欄の記入は不要です。）
- (3) A 欄記入上の注意事項
形態欄：その科目の形態（春学期・秋学期・通年）を○で囲み、曜日・時限を記入します。
科目名・教員名を記入します。複数の教員が担当する科目は、時間割上段に記載されている教員名を記入します。
登録番号欄：履修する授業科目の時間割表記載の登録番号 5 桁を記入し、マークします。
- (4) B 欄記入上の注意事項
形態欄：その科目の形態（春学期・秋学期・通年）を○で囲み、曜日・時限を記入します。
科目名・教員名を記入します。
登録番号欄：履修する授業科目の時間割表記載の登録番号 5 桁を記入し、マークします。
分野欄：「B 欄分野表」（p.37 参照）より 2 桁の B 欄分野番号を記入し、マークします。
- (5) 「無効マーク」（A 欄・B 欄に共通）にマークすると、その枠内について無効にすることができます。訂正は消しゴムを使用して修正することができますが、跡が残ったり、黒くこすれたりした場合は、この「無効マーク」を利用してください。
- (6) 履修申告用紙の再交付について
 - ①無効マーク欄を使用して無効にしても訂正し切れない場合は用紙を交換しますので、その履修申告用紙を持参のうえ、学事センターに申し出てください。
 - ②交付された履修申告用紙では記入欄が足りない場合も学事センターに申し出てください。

● 学事 Web システムの利用方法 ●

1. 学事 Web システム (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) について

学内のパソコンからは無論のこと、自宅などからでもインターネットに繋がるパソコンがあれば、学事 Web システムを利用して履修申告や登録済科目の確認、休講・補講情報の確認などできます。

学事 Web システムを利用するためには ID (学籍番号) と事前に通知したパスワードが必要です。このパスワードは途中変更は可能ですが、卒業するまでの間使用することになります。全て個人管理になるので忘れないように十分注意してください。

学事 Web システムには以下の 5 つの機能があります。

- ① 履修申告
- ② 登録済科目確認
- ③ 休講・補講情報
- ④ パスワード変更
- ⑤ 受付確認メールの送付先アドレス変更

また、携帯電話 (i-mode のみ) では、休講・補講情報の確認、パスワード変更が可能です。

… 注 意 …

学事 Web システムは、4 月 1 日 (金) から休講・補講情報の確認ができます。必ず 4 月 7 日 (木) までにログインできることを確認してください。

もし学事 Web システムのパスワードを忘れてしまった場合には、4 月 7 日 (木) 16:00 までに学事センターでパスワード変更申請の手続きを行ってください。(2004 年度以前に入学した在学生の初期パスワードは、変更していない場合、2005 年 3 月に送付した学業成績表に印字されています。)

また、学内のパソコンを利用するための Windows パスワード を忘れてしまった場合には、三田インフォメーションテクノロジーセンター (ITC: 大学院棟地階) で変更申請の手続きを行ってください。

学事 Web システムのユーザー名とパスワードは、ITC 発行の Windows アカウントのユーザー名とパスワードとは異なりますので注意してください。

学事 Web システムのユーザー名: 学籍番号 Windows アカウントのユーザー名: f*****

2. 学事 Web システム操作上の注意

- 複数のブラウザーを起動して同時にログインしないでください。
- 学事 Web システムにログインした後は、ブラウザーの [戻る] および [進む] ボタンは使用しないでください。誤ってクリックしてしまい画面が正しく表示されなくなった場合には、[更新] ボタンを押してリロードしてください。
- 学事 Web システムは 30 分間何も操作しないと自動的に切断されます。インターネットサービスプロバイダーによっては、これよりも短い時間でタイムアウトする場合がありますので注意してください。
- ブラウザーの [戻る] ボタンや [進む] ボタンを何度も押ししたり、30 分間何も操作をしなかったためタイムアウトになった場合、画面にアクセスエラーと表示されたり、真っ白な画面になる場合があります。そのような場合には、一旦ブラウザーを終了し、10 秒程度待ってから再度ブラウザーを起動し直してください。このような場合、最後に履修申告メイン画面の [登録] ボタンを押した時点のデータ更新までが反映されています。
- 氏名等に難しい字が使われている場合、画面上にうまく表示できない場合がありますが、システム上問題はありません。
- 学事 Web システムは、各種設定 (Cookie, SSL, Proxy 等) を正しく行わないと、ログインできない場合があります。
- 各種設定方法、履修エラーメッセージ詳細説明、Q&A (質問回答集)、Web 履修にあたっての注意事項 (地区/学部別) については、学事 Web システムのブラウザー用トップページ (http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/index_br_top.html) からのリンクを参照してください。

3. 学事 Web システムの操作説明

(1) 履修申告

学事 Web システムを利用しての 2005 年度の履修申告期間と学事 Web システムの URL は以下の通りです。

履修申告期間：4月14日(木) 10:00～16日(土) 13:00 (毎日4:00～5:00はメンテナンスのため稼働を停止します)
学事 Web システムの URL <http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>

受付期間中に時間割が変更される場合があります。各キャンパスの掲示板に注意し、必要であれば締め切りまでに再申告(申告の修正)を行ってください。

① 学事 Web システムトップページ

上記 URL にアクセスし [ブラウザ用] をクリックしてください。履修申告は「Internet Explorer」や「Netscape」などの標準ブラウザを使用してください。i-mode からは操作できません。



② 学事 Web システムブラウザ用トップページ

学事 Web システムの操作方法 (特にログインできない場合などの解説) や、よくある質問についての回答などは、このページに用意されています。[ログイン画面へ] ボタンをクリックしてください。



③ ログイン

「ID (学籍番号)」と、事前に通知したパスワードを入力し、[ログイン] ボタンをクリックしてください。

画面がうまく表示されない場合は、前述②の画面の「ログインできない時は」のリンク先で、ブラウザの設定方法等を確認してください。

※この画面以降ブラウザの「進む」「戻る」ボタンは使用しないでください。

※複数のブラウザを起動して同時にログインしないでください。



④ トップメニュー画面

「メールアドレス登録・変更」から履修申告後に送信される受付確認メールの送信先の登録・変更ができます。アドレスを確認してください。履修登録後に自動送信される受付確認メールの宛先となります。必要に応じ確認できるメールのアドレスを登録してください。変更する場合には、新たに登録するメールアドレスを2箇所入力（再入力欄にも同じものを入力）し、[登録] ボタンをクリックしてください。

【注意】

メールアドレスの登録間違いにより、受付確認メールが届かないケースが多発しています。

学事 Web システムには大学配付のメールアドレス（*****@mita.cc.keio.ac.jp 等）を登録し、個人所有のメールアドレスに送りたい場合は転送設定を利用してください。

※メールアドレスのユーザー名（例：「*****@mita.cc.keio.ac.jp」の ***** の部分）は変更できません。またユーザー名（例：「*****@mita.cc.keio.ac.jp」の ***** の部分）のみ登録しても届きません。



⑤ 履修申告メイン画面

[履修申告] ボタンをクリック後、[Web による履修申告上の注意] をクリックし、必ず注意文を熟読してください。その後、[履修申告メイン画面へ進む] ボタンをクリックしてください。



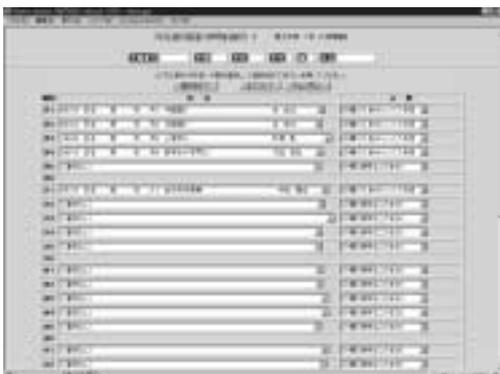
⑥ 科目の選択

(a) と (b) の2通りの方法で科目の選択ができます。

(a) 時間割から科目を選択する場合

履修申告メイン画面で、[時間割から選択] ボタンの右側のドロップダウンリストから設置学部・学科・学年を選択してから、[時間割から選択] ボタンをクリックしてください。（初期設定では、所属する学部・学科および学年が自動的に指定されています。）科目選択画面（時間割選択）が表示されますので、曜日時間毎に科目および分野をドロップダウンリストから選択してください。

他学部の科目を履修する場合など、B 欄分野を選択しなければならない場合は前項「履修申告のしかた」の「3. 登録番号および分野について」(p.15) および「B 欄分野表」(p.37) をよく読んでください。選択が完了したら、[選択を終了] ボタンをクリックしてください。



(b) 登録番号から科目を選択する場合

[登録番号で選択] ボタンをクリックしてください。科目選択画面（登録番号）が表示されますので、時間割表に記載されている5桁の登録番号を入力してください。[科目名を確認] ボタンを押し、〈科目情報〉欄に表示される科目名、曜日時限などの情報を確認したうえで、最後に[選択を終了] を押してください。

他学部の科目を履修する場合など、B欄分野を選択しなければならない場合は前項「履修申告のしかた」の「3. 登録番号および分野について」(p.15) および「B欄分野表」(p.37)をよく読んでください。選択が完了したら、[選択を終了] ボタンをクリックしてください。



※ (a) (b) の手順は、連続して行うことができます。

※ 「すでに登録されています」と表示される「研究会」については過年度分です。新学年分の研究会は新たに登録しなければなりません。

※ 「すでに登録されています」と表示される外国語選択必修科目は、事前登録により決定した科目です。

※ 同一の曜日時限に春学期と秋学期の科目を一度に選択することはできません。その場合、一度[選択を終了] を押し、再度時間割または登録番号から科目を選択してください。

⑦ 選択した科目の確認

⑥で選択した科目が、一覧表示されますので確認してください。ただし、[登録] ボタンを押すまで有効になりません。(各科目の右端の〈状態〉欄に「未登録」と表示されています。)



⑧ 選択した科目を取り消す場合

⑦の画面から、取り消したい科目の登録 No. の左側にチェックをつけ、[選択の取消] ボタンをクリックしてください。その後、一覧表から削除されたことを確認してください。ただし、[登録] ボタンを押さなければ完全に削除されません。

⑨ 選択した科目の登録

選択されている科目を確認したら、画面一番下の[登録] ボタンを押してください。

⑥(選択) および⑧(取消) で行った内容はこの[登録] ボタンを押すまで有効になりません。

⑩ 登録結果表示の確認

[登録] ボタンを押すと、選択した科目について、曜日時限の重複や不足科目等のエラーチェックが行われ、その結果が表示されます。各科目の「エラー」の欄にメッセージが表示されていないか確認してください。(エラーメッセージの詳細については、⑥の「履修申告メイン画面」のSTEP2の右側にある[エラーの詳細説明] をクリックし、参照してください。)

次に、各科目の右端の「状態」欄が「登録済」と表示されていることを確認してください。「状態」欄が「保留中」と表示されている場合、エラー科目があるためにすべての科目が未登録です。エラー内容を確認し登録し直してください。「保留中」と表示されている科目は履修申告期間終了後に登録が取り消されます。

さらに、上部の「現在の登録状況」に必要な条件不足・不備等のメッセージが表示されていないか確認してください。不足・不備がある場合は登録し直してください。この画面を控としてプリントアウトしておくことをお勧めします。

登録内容を変更したい場合は、[履修申告画面へ戻る] ボタンをクリックし、⑥からの手続きを再び行ってください。登録内容がこれで良ければ、[履修申告を終了する] ボタンを押してください。

※ここで Web ブラウザーを終了しないでください。(ブラウザの右上の×印をクリックして閉じないでください。)



⑪ 受付確認メール

[登録] ボタンを押した後、正常にログアウトする際、④で登録されているメールアドレスに受付確認メールが自動送信されます。

④でメールアドレスの登録を行っていない場合は、今回の受付確認メールのみの一時的な送信先を指定できる画面が表示されますので、メールアドレスを入力し [指定する] ボタンを押してください。受付確認メールの送信先が表示され、そのアドレス宛に送信されます。メールアドレスの間違いにより受付確認メールが届かないことがあります。入力する際は注意してください。(この場合、メールアドレスは登録されません。)

今回のみの一時的な指定を行わず④で登録を行っているメールアドレスに送信する場合は、[指定しない] ボタンを押してください。

なお、hotmail (@hotmail.com) のアドレスを指定した場合、受付確認メールが文字化けすることがあります。他のプロバイダーのアドレスを指定するか大学配付のアドレスを指定してください。また、携帯電話のメールアドレスを指定すると正しく送信されない場合がありますので、使用を避けてください。

⑫ ログアウト

[ログアウト] ボタンをクリックして、ログアウトしてください。

(2) 登録済科目の確認

履修申告で正しく登録された科目は、以後ある一定の期間で学事 Web システムを利用して再度確認することができます。確認できる日程や詳細などは塾生ページ (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>) に掲載します。ただし、5月上旬に本人宛送付する「履修申告科目確認表」で必ず最終確認を行ってください。

前述 (1) の④ (トップメニュー画面) までは、同様の操作です。画面上の [登録済科目確認] ボタンを押して、履修申告科目を確認してください。

(3) 休講・補講情報の確認

学事 Web システムから、全キャンパスの休講・補講情報を確認することができます。またこのサービスは、i-mode 対応の携帯電話からも同様に見ることができます。

ただし、公式の情報は科目設置の各キャンパスの掲示板とします。休講・補講情報は変更することがありますので、必ず直前に掲示板を確認するようにしてください。

代替講義日の休講は、通常講義と異なり学事 Web システムの休講情報では対応していませんので、塾生ページ (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>) および科目設置の各キャンパスの掲示板で確認してください。

[ブラウザ編]

- ① (1)の①から③までを参照して、学事 Web システムにログインしてください。
- ② (1)の④の画面（トップメニュー画面）から [休講補講情報] ボタンをクリックしてください。
- ③ 自分の履修科目、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索するキャンパスの対象を選択してください。また、検索期間の選択も同様に行ってください。選択が終了したら、[休講・補講情報を検索する] ボタンをクリックしてください。



- ④ 休講・補講情報を確認してください。科目名のヘッドに【取消】が入っているのは、休講が取り消された（したがって通常通り実施する）科目となりますので注意してください。確認後は [ログアウト] ボタンをクリックして、ログアウトしてください。

[i-mode 編]

- ① 学事 Web システムの URL (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) を携帯電話の i-mode 画面から入力し、(1)の①の画面上で [i-mode 用] を選択してください。以後、Web 休講・補講情報を繰り返して利用する場合には、上記の学事 Web システムの URL を i-mode のブックマーク等に登録しておくとう便利です。（詳しくは使用している携帯電話の説明書で確認してください）
- ② [サーバー 1] もしくは [サーバー 2] のどちらかを選択してください。選択は任意です。
- ③ 「学籍番号」と (1)で説明のあった「学事 Web システムパスワード」を入力し、[ログイン] ボタンを押してください。
- ④ この画面から [休講情報] [補講情報] ボタンを押してください。
※パスワードの変更もこの画面からできますが、ここでは説明を省きます。後述の (4) を参照してください。
- ⑤ 自分の履修科目の休講・補講情報、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索するキャンパスの対象を選択してください。検索期間は検索日から 1 週間後までの情報が表示されます。休講・補講情報の確認が終了したら、[検索画面へ戻る] ボタンを押してください。

(4) パスワードの変更

初期パスワードは紙面に印刷されているため、セキュリティ上パスワードを変更することを推奨しています。以下の操作で行ってください。

- ① 前述 (1)の④の画面（トップメニュー画面）から、[パスワード変更] ボタンをクリックしてください。
- ② 「現在のパスワード」を入力し、「新パスワード」を 2 箇所入力後（再入力欄にも同じものを入力する）、[パスワード変更] ボタンをクリックしてください。

【注意】

パスワードは英数字半角で入力してください（大文字/小文字を区別します）。生年月日や学籍番号など、予想できそうなパスワードは設定しないでください。また変更したパスワードは、必ず忘れないようにしてください。特に、学内のパソコンを利用するための Windows アカウントのパスワードと混同しないよう注意してください。（p.17 参照）



経済学部

履修要項

第1 適用学則

1 99～学則

2005年度第3・第4学年に在籍するすべての者に適用される学則を示します。(2005年度学士入学者にも適用されます。)

1998年度以前入学者(95～学則適用者)は、すでに99～学則に移行されています。「第10 学則移行新旧科目対応表」(p.41)を参照してください。不明な点は学事センター経済学部係まで問い合わせてください。

2 05～学則

2005年度に第1学年に入学した者に適用される学則を示します。

3 学則第156条

4年間で第3学年に進級し得ない者および第3・4学年併せて4年在学し卒業し得ない者は退学処分となります。

なお、学則が移行された場合でも在学年数等は通算されます。

また、休学・留学の期間は在学年数に含めません。

4 学則第188条

大学の学則もしくは諸規律に違反したと認められた時、履修申告を期日までに提出せず休学・退学の願い出もなく修学の意志が確認できない時などには退学処分となります。

5 99～学則の一部改正(保健体育科目→体育科目)

2004年度に一部の学則条文が改正されました。2003年度以前に入学した者にも適用されます。「第9 学則の一部改正(保健体育科目→体育科目)」(p.40)および「第5 7 体育科目」(p.34)を参照してください。不明な点は学事センター経済学部係まで問い合わせてください。

6 学則の移行

(1) 2004年度以前入学者(99～学則適用者)の適用学則は、以下のとおり2005年度以降入学者用適用学則(05～学則)に移行します。

・2006年度末において第1・2学年にとどまった場合、2007年3月末日をもって移行します。

・2008年度末において第3・4学年にとどまった場合、2009年3月末日をもって移行します。

休学および留学を予定している者は、就学時に適用される学則について留意が必要です。

99～学則により原級にとどまった者が、05～学則移行により進級・卒業に必要な条件を満たす場合がありますが、この場合でも原級にとどめるものとし、別途履修についての指示がなされます。

(2) 学則の移行が行われる際に、取得済みの科目を05～学則用の科目に読み替えます。読み替え等の詳細は移行時に通知します。

第2 成績の評語

履修申告しながら定期試験を受験しなかった科目や途中放棄した科目には「D(不合格)」の評語がつきます。2003年度より、従来の「放棄(未受験:★)」は廃止されました。ただし、2002年度以前の成績評語の修正(★→D)は行いません。

学則第70条に基づき、成績の評語は、「A・B・C・D」とし、「A・B・C」は合格、「D」は不合格となります。ただし、体育科目のうち「体育実技B」に関しては、その評語を「P・F」とし、「P」は合格、「F」は不合格となります。

第3 卒業および進級所要単位数

1 卒業所要単位数

授業科目の種類	内 容		最低必要単位	単位数	
総合教育科目	I系(自然・数理系)		6単位	20	
	II系(人文・社会系)		10単位		
	I系からIII系(総合・関連系)より		4単位		
基礎教育科目	履修 タイプI	微分積分	2単位	10	
		線形代数	2単位		
		統計学I	2単位		
		統計学II	2単位		
		情報処理I, 情報処理II	2科目のうち1科目		2単位
	履修 タイプII	数学概論I, 数学概論II 世界経済の現状と問題 日本経済の現状と問題	4科目のうち2科目		4単位
		統計学I	2単位		
統計学II		2単位			
外国語科目	必修科目	外国語I	2単位	14	
		外国語II	6単位		
	選択必修科目	外国語I	2単位		
		外国語II	2単位		
		外国語IまたはII	2単位		
専門教育科目	基礎科目	経済史I	2単位	68	
		経済史II	2単位		
		マクロ経済学初級I	2単位		
		マクロ経済学初級II	2単位		
		ミクロ経済学初級I	2単位		
		ミクロ経済学初級II	2単位		
	経済と環境, 計量経済学概論, 経済数学IA, 経済数学IB, 経済数学II, マルクス経済学I, マルクス経済学II, 経済思想の歴史I, 経済思想の歴史II 社会問題I, 社会問題II(注1)	のうち 2科目	4単位		
	基本科目	A~J分野のうち3分野以上	20単位		
	特殊科目: 選択科目 専門外国書講読(最大8単位) 演習(最大4単位) 研究会(8単位もしくは4単位) 関連科目(最大8単位) 基礎科目・基本科目の卒業必要単位超過分	のうち	32単位		
	卒業単位認定科目	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス科目の「経済学の視点と方法」2単位 ・旧保健体育科目の「保健衛生」1単位, 「体育理論」1単位, 体育科目の「体育学講義」2単位, 「体育学演習」1単位より最大2単位(注2) ・旧保健体育科目の「体育実技I」「体育実技II」, 体育科目の「体育実技A」「体育実技B」より最大2単位(注2) ・自由科目を除く, 総合教育科目・基礎教育科目・外国語科目・専門教育科目の卒業必要単位を超過した単位 			14
合 計			126		

(注1) 2005年度設置「教授会が必要と認める科目」

(注2) 旧「保健体育科目」は2003年度以前設置, 「体育科目」は2004年度以降設置。「第5 7体育科目」(p.34), 「第9 学則の一部改正(保健体育科目→体育科目)」(p.40)を参照してください。

2 第4学年における必要取得単位数(12単位)

第4学年において履修上限44単位の範囲内で履修する科目すべてが含まれます。

研究会は, 設置学部にかかわらず第4学年分の4単位のみがこの12単位に含まれます。

なお, 必修の外国語科目, 必修・選択必修の基礎教育科目, 必修の専門基礎科目の不足単位分を履修する場合は履修上限44単位の範囲外で履修する科目となりますので, この12単位には含まれません。

3 第3学年における進級必要単位数

以下の(1)および(2)を充足しなければなりません。

(1) 第1・第2学年において配当された以下の26単位

- ① 基礎教育科目 10単位 (内訳は定めない)
- ② 専門基礎科目 16単位 (内訳は定めない)

(2) 第3学年において配当された科目のうち28単位

履修上限44単位の範囲内で履修する科目すべてが含まれます。ただし、研究会の3年生分4単位は含みません(3年生で単位が取得できる学部・学科の設置研究会を除く)。

なお、必修の外国語科目、必修・選択必修の基礎教育科目、必修の専門基礎科目の不足単位数を履修する場合は履修上限44単位の範囲外で履修する科目となりますので、この28単位には含まれません。

第4 学士入学者の卒業および進級所要単位数

1 編入学年

学士入学者は第3学年に編入します。

2 単位の認定・履修タイプの決定

学士入学者が以前に在籍していた学部での取得単位を卒業所要単位として認定することがあります。認定希望者は入学後「単位認定願」に必要事項を記入の上、学習指導主任面接(4月4日(月)13:15～)を受けてください。

なお、認定された科目は第3学年で履修・合格した科目とみなされます。

3 卒業所要単位数

授業科目の種類	内 容		最低必要単位	単位数	
基礎教育科目	履修タイプⅠ	微分積分	2単位	10	
		線形代数	2単位		
		統計学Ⅰ	2単位		
		統計学Ⅱ	2単位		
		情報処理Ⅰ、情報処理Ⅱ 2科目のうち1科目	2単位		
	履修タイプⅡ	数学概論Ⅰ、数学概論Ⅱ 世界経済の現状と問題 日本経済の現状と問題 } 4科目のうち2科目	4単位		
		統計学Ⅰ	2単位		
		統計学Ⅱ	2単位		
		情報処理Ⅰ、情報処理Ⅱ 2科目のうち1科目	2単位		
		外国語科目	選択必修科目		外国語Ⅰまたは外国語Ⅱ
専門教育科目	基礎科目	経済史Ⅰ	2単位	68	
		経済史Ⅱ	2単位		
		マクロ経済学初級Ⅰ	2単位		
		マクロ経済学初級Ⅱ	2単位		
		ミクロ経済学初級Ⅰ	2単位		
		ミクロ経済学初級Ⅱ	2単位		
		経済と環境、計量経済学概論、 経済数学ⅠA、経済数学ⅠB、 経済数学Ⅱ、 マルクス経済学Ⅰ、マルクス経済学Ⅱ、 経済思想の歴史Ⅰ、経済思想の歴史Ⅱ 社会問題Ⅰ、社会問題Ⅱ(注) } のうち 2科目	4単位		
	基本科目	A～J分野のうち3分野以上	20単位		
	特殊科目：	選択科目	} のうち 32単位		
		専門外国書講読 (最大8単位)			
演習 (最大4単位)					
研究会(8単位もしくは4単位)					
関連科目(最大8単位)					
基礎科目・基本科目の卒業必要単位超過分					
合 計				80	

(注) 2005年度設置「教授会が必要と認める科目」

4 第4学年における必要取得単位数（12単位）

第4学年において履修上限44単位の範囲内で履修する科目すべてが含まれます。

研究会は、設置学部にかかわらず第4学年分の4単位のみがこの12単位に含まれます。

なお、必修の外国語科目、必修・選択必修の基礎教育科目、必修の専門基礎科目の不足単位分を履修する場合は履修上限44単位の範囲外で履修する科目となりますので、この12単位には含まれません。

5 第3学年における進級必要単位数

3項に記載の基礎教育科目〔10単位〕と専門教育科目の基礎科目〔16単位〕の合計26単位を含め、合計40単位以上合格した場合、第4学年に進級します。

2項の規定に基づいて認定された科目は本項の単位数に含まれます。

6 履修方法

2005年度第3学年に在籍する者に準じます。

第1・第2学年設置の基礎教育科目と専門教育科目の基礎科目のうち、卒業に必要な単位分の履修は履修上限44単位の範囲外として扱われます。ただし、卒業に必要な単位を超過した分は履修上限44単位に含みます。

第5 履修方法および開講科目と単位数

2005年度（平成17年度）の第3・第4学年のために開講される科目と単位数は次のとおりです。

なお、講義は週1回の通年科目を原則としますが、春学期または秋学期のみに毎週2回開講される集中講義、および週1回の春学期または秋学期のみの半期講義も開講されます。

1 履修単位数の上限

第3・第4学年で履修できる単位数の上限は各学年とも、44単位です。

- (1) 「研究会」を履修する場合は各学年ごとに4単位が含まれます。
- (2) 外国語の選択必修科目、総合教育科目は、履修指定学年が定められていないため、履修上限単位に含まれます。
- (3) 留年者については同一学年ですでに合格した科目の単位数も含まれます。
- (4) 下記のような場合は上限外です。

① 第1・第2学年設置の基礎教育科目必修・選択必修、専門基礎科目の必修、外国語科目の必修科目のうち、卒業必要単位に満たないために履修する不足単位分。ただし、不足単位を超えて余分に履修する場合、その超過分は履修上限内に含まれます。

なお、不足単位分、超過単位分とも取得できた場合は、不足単位分を充足したうえで、残りの単位が第3学年における進級必要単位（28単位）、第4学年における必要取得単位（12単位）となります。

- ② 留年者に限り、同一学年ですでに合格した評価B・Cの科目を再履修する（評価が向上した場合は、向上した評価が学業成績表に記載されます）場合。ただし、研究会は再履修できません。（「第7履修上の注意」の「1重複履修について（4）」（p.37）参照。）
- ③ メディア・コミュニケーション研究所研究生として同研究所設置科目を履修する場合。
- ④ 教職課程に登録し、教員免許取得のために授業科目を履修する場合。

2 専門教育科目

(1) 基本科目

A～Jまでの10分野の中から3分野以上にわたって20単位以上を合格しなければなりません。

原則として毎年開講されますが、一部を休講とする場合もあります。

同一科目名で複数開講されている科目は、1科目のみ専門教育科目として履修できます。複数コマ履修する場合は、1コマを基本科目、他方を自由科目として履修してください。申告した科目の種類（分野）を後日変更することはできません。

分野	科目名	単位	備考
A 経済理論	ミクロ経済学Ⅰ	4	複数開講・修士課程基礎科目併設
	ミクロ経済学Ⅱ	4	修士課程基礎科目併設
	マクロ経済学Ⅰ	4	複数開講・修士課程基礎科目併設
	マクロ経済学Ⅱ	4	
	独占資本主義論	4	
B 計量・統計	計量経済学Ⅰ	4	
	計量経済学Ⅱ	4	修士課程基礎科目併設
	経済資料論	4	
	確率・統計	4	修士課程基礎科目併設
	社会科学基礎論	4	
C 学史・思想史	経済学史Ⅰ	4	
	経済学史Ⅱ	4	
	社会思想	4	
	社会思想史	4	
D 経済史	日本経済史	4	修士課程基礎科目併設
	欧米経済史	4	複数開講・修士課程基礎科目併設
	アジア経済史	4	
E 産業・労働	工業経済論	4	
	農業経済論	4	
	産業組織論	4	
	労働経済論	4	
	社会政策論	4	
F 制度・政策	経済政策論	4	
	財政論	4	
	金融論	4	
	日本経済システム論	4	
G 現代経済	現代日本経済論	4	
	日本資本主義発達史	4	
	現代資本主義論	4	
	経済体制論	4	
H 国際経済	世界経済論	4	
	国際貿易論	4	
	国際金融論	4	
	経済発展論	4	
I 環境関連	経済地理	4	複数開講
	環境経済論	4	
	都市経済論	4	
J 社会関連	人口論	4	
	産業社会学	4	
	社会史	4	

(2) 特殊科目

各人の関心に従って第3・第4学年のいずれにおいても自由に選択履修することができます。

以下は、本年度の開講科目（三田設置）を示したものであり、ここに掲載された各科目が毎年度開講されるとは限りません。

2単位科目は、春学期または秋学期に開講される科目です。ただし、「演習」は通年で2単位、半期で1単位です。

科目名	単位	科目名	単位
ゲームの理論	4	日本経済思想史	4
解析学Ⅰ	4	近代経済学史Ⅰ	2
解析学Ⅱ	4	近代経済学史Ⅱ	2
公共経済学	4	数量経済史	4
数理経済学Ⅰ	4	東欧経済史	4
数理経済学特論Ⅰ〔微分方程式論〕	4	現代労働経済理論	4
数理経済学特論Ⅱ〔確率論〕	4	経済と法	4
代数学	4	ゲーム理論と産業組織	4
市場と法	2	経済政策のミクロ分析	4
資金循環分析	4	ファイナンス入門	4
時系列分析	4	公共選択論	4
ベイズ統計学	4	NPO 経済論Ⅰ	2
近代日本社会思想史	2	NPO 経済論Ⅱ	2
現代日本社会思想史	2	アジア経済と日本	2
東欧・ロシア社会経済思想史	4	格差と援助の経済学	4

(次ページに続く)

科目名	単位	科目名	単位
現代中国経済論	2	演習	2または1
開発経済学	4	研究会	8または4
EU・ジャパン・エコノミック・リレーションズ	2	研究プロジェクト	
廃棄と汚染の経済学	4	研究プロジェクト	4
地域経済論	2	研究プロジェクトC	2
地球環境問題	4	プロフェッショナル・キャリア・プログラム (PCP)	
環境評価論	2	MICROECONOMICS	2
アジア社会史	4	MACROECONOMICS	2
ラテンアメリカ社会史	4	ECONOMIC ANALYSIS OF LAW	2
地方分権論	2	INTERNATIONAL LAW AND ECONOMY	2
簿記	4	INTERNATIONAL TRADE	2
金融資産市場論	4	INTERNATIONAL ECONOMIC POLICY	2
中小企業金融論	4	APPLIED ECONOMETRICS	2
企業金融論	4	READING AND COMPOSITION	2
専門外国書講読	4	PRESENTATION AND DISCUSSION	2

① 「専門外国書講読」と「演習」は複数の授業を履修できますが、「専門外国書講読」は8単位まで、「演習」は4単位までを専門教育科目の卒業所要単位68単位に含めることができます。また、いずれも「卒業単位認定科目」に加算されます。

② 日吉設置科目を履修することができます。

③ 日吉設置「簿記」を特殊科目として取得済みの場合、三田設置「簿記」を特殊科目として履修することはできません。(重複履修)

④ 「研究会」

- ・第3・第4学年の2年間にわたって履修し、卒業論文を提出して合格した場合のみ、第4学年末に8単位を取得できます。
- ・第3学年において研究会を履修した者が、第4学年において研究会を変更する場合は、両方の担当教員の承認を得、研究会認定用紙を提出しなければなりません。
- ・第4学年のみの研究会履修を希望する者は、担当教員の承認を得、研究会認定用紙を提出しなければなりません。卒業論文を提出し合格した場合のみ、第4学年末に4単位を取得することができます。
- ・第3学年のみの研究会履修は認められません。また第3学年のみ評価が与えられることもありません。
- ・研究会を退会した者は、履修申告日までに学事センターに「研究会退会届」を提出してください。
- ・第4学年で履修申告後に退会した者は、学事センターに申し出てください。
- ・入会選考に合格したのにもかかわらず入会をとりやめる場合は、履修申告日までに学事センターに「研究会辞退届」を提出してください。
- ・履修申告の方法は、第3学年は「研究会(3年)」のみを、第4学年は「研究会(4年)」のみを履修申告してください。登録番号が異なります。第3学年で留年をした場合は、再度「研究会(3年)」を申告する必要はありません。
- ・研究会は、評価が確定した場合、再度履修することはできません。ただし、第4学年の留年者で評価が「未採点」だった場合、「研究会(4年)」を申告してください。
- ・研究会は原則週2時限です。第3学年は第4学年の、第4学年は第3学年の時限に別の授業科目を登録することは原則できません。

⑤ 「研究プロジェクト」

- ・1年で完結する少人数または個人プログラムで、教員がテーマを設定する誘導展開型と、学生自身がテーマを設定し、テーマに適した教員が担当する自発展開型の2つの種類があります。誘導展開型・自発展開型のいずれも、論文もしくは作品等の成果の発表が義務づけられます。
- ・選考に合格した者のみ履修できます。
- ・第3・第4学年対象に三田・日吉両地区で開講します。
- ・第3・第4学年いずれにおいても履修できます(複数回履修できます)。
- ・「研究プロジェクト」(4単位)と「研究プロジェクトC」(成果発表, 2単位)を必ず合わせて履修しなければなりません。
- ・研究会・PCPと並行して履修することもできます。
- ・選考に合格したのにもかかわらず履修をとりやめる場合は、履修申告日までに学事センターに申し出てください。

・選考スケジュール

- 4月1日(土) 9:00 : 応募受付開始(メールにて)
- 4月6日(水) 13:00 : 応募締切
- 4月7日(木) : 誘導展開型選抜試験・面接
- 4月9日(土) 13:00~14:00 : 誘導展開型履修許可者発表・自発展開型書類選考結果発表(メールにて)
- 4月11日(月) : 自発展開型面接
- 4月13日(水) 8:30~9:00 : 自発展開型履修許可者発表(メールにて)

・詳細は以下のWebページを参照してください。

<http://www.econ.keio.ac.jp/lecture/kpro/>

⑥ 「プロフェッショナル・キャリア・プログラム (PCP)」

- ・第3・第4学年の2年間、実践的な経済学教育を、少人数クラスでかつ原則英語で提供するプログラムです。2005年度は「法と経済」と「国際経済」の2つの専攻プログラムを開講します。
- ・選考に合格した者のみ履修できます。
- ・第3・第4学年対象に三田で開講します。
- ・いずれの専攻プログラムとも、第3・第4学年で定められた科目を合わせて20単位（選択を含めて22単位）履修しなければなりません。
- ・研究会・研究プロジェクトと並行して履修することもできます。
- ・選考に合格したのにもかかわらず履修をとりやめる場合は、履修申告日までに学事センターに申し出てください。
- ・選考スケジュール

4月1日（土）9:00：学業成績表のコピー提出

午前：筆記試験

午後：グループ面接

夕方：選考結果発表

（注）応募はすでに締め切っています（2月8日締切）。

- ・詳細は以下のWebページを参照してください。

<http://www.econ.keio.ac.jp/ann/pcp/>

(3) 関連科目

以下の経済学部設置科目、および他学部設置の専門教育科目を関連科目として選択履修できます（医学部を除く）。関連科目は専門教育科目の単位として8単位まで含めることができます。

ただし、授業担当者や設置学部の学習指導担当者等の承認が得られない場合は履修できません。

科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
民法Ⅰ	4	労働法	4	近代日本研究Ⅰ	2
民法Ⅱ	4	租税法	4	近代日本研究Ⅱ	2
商法Ⅰ	4	会計学	4	近代日本研究演習Ⅰ	2
商法Ⅱ	4	経営学	4	近代日本研究演習Ⅱ	2

- ① 他学部設置の「研究会」は関連科目として履修ができます。また、経済学部設置の「研究会」と重複して履修することができますが、他学部設置の「研究会」を同一学年で複数履修することはできません。（自由科目としても履修することはできません。）
- ② 三田の他学部設置科目を関連科目として履修する場合には、授業担当者の了解を得てください。「科目認定用紙」は不要です。
- ③ 他地区の他学部設置科目を関連科目として履修する場合は、「科目認定用紙」の提出が必要です。
- ④ 他学部設置の専門教育科目であっても関連科目として履修できない科目
 - ・設置学部で必修の扱いをしている科目。
 - ・履修申告の時点で開講する曜日時限等が定まっていない科目。
 - ・他学部で専門教育科目として設置していても、経済学部では総合教育科目、外国語科目、体育科目および自由科目として設置している科目およびそれと同等とみなす科目（総合教育科目は自由科目としては履修できます）。
 - 【例1】「宗教学」は経済学部第1・第2学年において総合教育科目として設置しているので、履修はできません。
 - 【例2】「スペイン語」は経済学部において外国語科目として設置しているので、履修はできません。
 - ・経済学部の専門教育科目として履修済の同名科目、同一名称とみなす科目。（自由科目としては履修できます。）
 - 【例3】経済学部基本科目の「財政論」を履修し、さらに他学部設置の「財政論」や「財政学」を履修する場合。
- ⑤ 福澤研究センターと併設する以下の経済学部設置科目は関連科目として履修できます。
 - 「近代日本研究Ⅰ」「近代日本研究Ⅱ」「近代日本研究演習Ⅰ」「近代日本研究演習Ⅱ」
 - 講義要綱は、p.145「福澤研究センター設置講座」を参照してください。

(4) 基礎科目

- ① 日吉設置の専門教育科目（基礎科目）の選択科目も履修することができますが、教室定員の都合上、配当学年の履修を優先することがあります。クラス指定については、掲示を参照してください。
- ② 第2学年設置選択必修科目のうち2科目4単位について
 - 2科目を取得してさらに履修する場合
 - 履修上限内とし、第3学年における進級必要単位（28単位）および第4学年における必要単位（12単位）となります。なお、第3学年における進級必要単位のうち、専門基礎科目16単位（内訳は定めなし）としても数えられます。

3 総合教育科目

(1) 三田設置科目は以下のとおりです。

科目名	単位	系	科目名	単位	系
人類学	4	I系	情報処理	2	I系
歴史	4	II系	法学（憲法を含む）	4	II系
近代思想史	4	II系	美術	4	II系
地域研究—中国事情Ⅲ	4	II系	自由研究セミナー	4	III系
人の尊厳（社会と人権）	2	III系			

(2) 日吉設置科目を履修することができます。ただし、新学則（05学則）者用の科目（科目名末尾に a, b の付く科目）は履修できません。最初の授業時間に別途手続きが必要な科目もありますので、講義要綱や日吉の掲示板等に注意をしてください。

履修申告者多数の場合には、第3・第4学年を含む全ての履修申告者を対象に履修制限（抽選）を行うことがあります。その結果、履修が許可されなかった場合には、履修申告修正期間に総合教育科目の追加申請可能科目の追加を認めます（詳細は別途掲示します）。ただし、これに伴う他の科目の変更・削除は認めません。

(3) 他学部の総合教育科目は、総合教育科目として履修できませんが、授業担当者の了解を得たうえで自由科目としての履修ができます。（他地区の他学部設置の場合、科目認定用紙の提出を必要とします。）また、経済学部と他学部で併設している場合は、経済学部の登録番号で登録してください。時間割表・登録番号は学部ごとに異なります。

なお、第3・第4学年でも配当されているため、卒業必要単位に満たない場合でも履修上限単位に含まれます。

(4) 教養研究センターと併設する以下の経済学部日吉設置科目は総合教育科目（III系）として履修できます。

「アカデミック・スキルズⅠ」「アカデミック・スキルズⅡ」「生命の教養学」

(5) 同一名称の科目でも系または担当者が異なれば重複して履修することができます。

「自由研究セミナー」は授業内容が異なれば同一担当者の科目を履修することも可能です。

4 外国語科目

経済学部設置の必修・選択必修外国語科目は4月15日（金）以降、選択外国語科目（選択A）は4月8日（金）以降の開講です。

(1) 選択必修科目

卒業に必要な選択必修科目を未取得の場合、および卒業に必要な選択必修科目を取得したうえでさらに履修する場合、授業開始日前に事前登録を行い決定したクラスを履修します。三田設置科目、日吉設置科目とも複数科目履修できます。

なお、第3・第4学年でも配当されているため、卒業必要単位に満たない場合でも履修上限単位に含まれます。

外国語科目のカリキュラムおよび日吉設置科目の講義要綱については「経済学部外国語科目履修案内」（別冊）を参照してください。

卒業必要単位（選択必修科目）

① 外国語ⅡまたはⅢ：2単位

第2学年以上設置のドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語のいずれかの1語種（外国語Ⅱ：中級2単位）または第1学年で履修した語種以外の外国語科目（外国語Ⅲ：初習4単位）。

② 外国語Ⅰ：2単位

第1学年以上設置の英語リーディングまたは英語セミナーより2単位。または第2学年以上設置のドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語いずれかの1語種（専修2単位）。ただし、専修を履修する場合は必ず同語種の初級および中級を履修しなければなりません。

③ 外国語Ⅰ、ⅡまたはⅢ：2単位

①2単位、②2単位とは別に2単位。

(2) 外国語Ⅱにおける語種変更（外国語Ⅲ）

前学年までに履修した語種と異なる語種の履修を希望する場合（外国語Ⅲ）、日吉で実施される外国語Ⅲガイダンスに出席し、学習指導担当者の許可を得なければなりません。また、必ず日吉設置の初習クラスを2科目履修しなければなりません。「経済学部外国語科目履修案内」（別冊）を参照してください。

(3) 選択必修科目の事前登録

外国語ⅠとⅡはそれぞれ別のスケジュールで行います。定員を超えた場合には抽選を行います。事前登録の種類（①～④）の中で複数登録することはできません。1回の手前登録で1クラスが決定します。

	語種	定員	事前登録種類	学期	単位
外国語Ⅰ	英語セミナー	30名	①	通年	2
				春学期集中	2
	英語リーディング	35名	②	秋学期集中	2
外国語Ⅱ	ドイツ語	20~30名	④	通年	2
	フランス語				
	中国語				
	スペイン語				

		外国語Ⅰ（英語）	外国語Ⅱ
提出日	〔1回目〕	4月 8日（金）9：00～13：00	4月 5日（火）9：00～13：00
	〔2回目〕	4月 12日（火）9：00～13：00	4月 7日（木）9：00～13：00
		2回目の登録では、1回目の登録で定員に満たないクラスのみ対象となります。 2回目に希望申告できる学生は、1回目の抽選で履修クラスが決定しない学生、および1回目の抽選で決定したクラスに追加して履修を希望する学生のみです。1回目の抽選で決定したクラスを変更するためのものではありません。	
提出場所		日吉地区・三田地区のいずれかの学事センター設置ポスト	
記入上の注意	＜表面＞ 科目指定欄	以下から1つだけマークしてください。 ① 英語セミナー（春・通年） ② 英語セミナー（秋） ③ 英語リーディング 事前登録は、種類別に行います。第1希望を「英語セミナー」、第2希望を「英語リーディング」という登録はできません。 春学期と秋学期に「英語セミナー」、そして更に「英語リーディング」を履修を希望する場合は、3枚のエントリーシートの提出が必要です。	以下から1つだけマークしてください。 ④ { ・ドイツ語第Ⅳ ・フランス語第Ⅳ ・中国語第Ⅳ ・スペイン語第Ⅳ
	＜裏面＞ 希望欄	表面で選択した科目の種類毎に第4希望までマークする。	《ドイツ語・フランス語》 〔1回目〕 第3希望までマークすること。 〔2回目〕 第3希望までマークすること。 《中国語・スペイン語》 第3希望までマークすること。
		<ul style="list-style-type: none"> ・エントリーコードは三田設置科目は p.32、日吉設置科目は時間割表を参照してください。 ・希望順位の重複、マーク忘れ（途中未記入含む）、該当外のエントリーコードをマークした場合等は、登録ミスとして抽選対象外となります。 ・クラス指定の科目および他の履修希望科目（サブゼミを含む研究会）と曜日時限が重複しないように選択してください。 ・決定したクラスがクラス指定の必修・選択必修科目と曜日時限が重複した場合は、決定したクラスの履修は無効となります。 	

(4) 選択必修科目の事前登録結果発表

日吉地区：第4校舎B棟1階 J11番教室前経済学部掲示板

三田地区：西校舎地下1階掲示板

	外国語Ⅰ（英語）	外国語Ⅱ
〔1回目〕	4月 12日（火）9：00	4月 7日（木）9：00
〔2回目〕	4月 13日（水）9：00	4月 8日（金）9：00

抽選に漏れて履修クラスが未決定だった場合、氏名の右の決定クラス欄が空欄となっています。

(5) 選択必修科目の事前登録決定後の履修本登録

決定したクラスは、自動的に履修登録されます。学事 Web システム（<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>）を利用した履修申告画面を開くと、抽選の結果決定したクラスが表示されます。正しく表示されているかを、学事 Web 履修申告期間内に必ず確認してください。

決定したクラスの変更や履修取りやめは一切できません。サブゼミとの重複でも変更できません。決定したクラス以外のクラスを履修申告しても無効です。

(6) 選択必修科目のクラス未決定者

クラスが決定しなかった者および登録をしなかった者については第2回結果発表後、三田設置科目については、学事センターで「三田設置外国語Ⅰ(英語)申請用紙」または「三田設置外国語Ⅱ申請用紙」を受け取り、記入のうえ、期日までに三田学事センターに提出してください。日吉設置科目については、指定された日時(詳細別途掲示)の学習指導面接を受けてください。三田・日吉いずれもその時点で定員に満たない追加履修可能クラスの中から、履修クラスを決定します。

(7) 選択必修科目エントリーコード表(三田設置科目)

事前登録種類	エントリーコード	科目名	担当者名	学期	曜日・時限
③英語 リーディング	206	英語リーディング	金澤 洋子	通年	土1
	207	英語リーディング	金澤 洋子	通年	土2
	208	英語リーディング	河地 和子	通年	火2
	209	英語リーディング	河地 和子	通年	火3
	210	英語リーディング	ゲーリング, リューベン M.	通年	月3
	211	英語リーディング	ゲーリング, リューベン M.	通年	月4
	212	英語リーディング	プラット, イアン R.	通年	木4
	213	英語リーディング	プラット, イアン R.	通年	木5
④ドイツ語	214	ドイツ語第Ⅳ(中級)	七字 眞明	通年	水5
	215	ドイツ語第Ⅳ(セミナー)	鈴木 直樹	通年	金4
	216	ドイツ語第Ⅳ(セミナー)	八木 輝明	通年	火5
④フランス語	217	フランス語第Ⅳ(セミナー中級)	田中 淳一	通年	月3
	218	フランス語第Ⅳ(セミナー中級)	前島 和也	通年	木2
	219	フランス語第Ⅳ(セミナー上級)	ガボリオ, マリ	通年	木2
	220	フランス語第Ⅳ(セミナー上級)	日佐戸 ミッシェル	通年	水2
④中国語	221	中国語第Ⅳ(中級)	陳 愛玲	通年	水2
	222	中国語第Ⅳ(セミナーⅠ)	垂水 健一	通年	水2
	223	中国語第Ⅳ(セミナーⅡ)	根岸 宗一郎	通年	金2
	224	中国語第Ⅳ(セミナーⅢ)	陳 愛玲	通年	水3
④スペイン語	225	スペイン語第Ⅳ(中級)	井関 睦美	通年	金3
	226	スペイン語第Ⅳ(セミナー)	井関 睦美	通年	金4

(注) ①②「英語セミナー」は2005年度は三田では開講しません。

(8) 選択科目(選択A)

以下の3通りの科目が設置されています。

選択Aは同一科目名でも授業内容が異なれば重複して履修できます。

第3学年における進級必要単位(28単位)および第4学年における必要取得単位(12単位)に含めることができます。また、卒業必要単位認定科目に加算することもできます。

① 経済学部(三田)設置科目【事前登録不要】

語種 | ドイツ語・ロシア語

経済学部(日吉)設置の選択外国語科目も履修できます。「経済学部外国語科目履修案内」(別冊)を参照してください。

② 外国語教育研究センターと併設する経済学部設置科目【事前登録必要】

語種 | 英語・ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・スペイン語

p.147ならびに「外国語教育研究センター設置科目履修案内・講義要綱」(別冊)を参照してください。

③ 三田他学部設置外国語科目【事前登録不要】

語種 | 英語・ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・スペイン語・朝鮮語・イタリア語・ラテン語・ポルトガル語等

「全学部共通外国語科目履修案内(三田)」(別冊)を参照してください。掲載されている科目に限り履修することができます。

(9) 必修科目(日吉設置)

第1学年設置の必修外国語科目(外国語Ⅱ)を未取得の場合、「経済学部外国語科目履修案内」(別冊)を確認のうえ、履修申告してください。選択必修科目によって必修科目に代えることはできません。

5 基礎教育科目

(1) 日吉設置の基礎教育科目の選択科目を履修することができますが、教室定員の都合上、配当学年の履修を優先することがあります。クラス指定については、掲示を参照してください。

(2) 選択必修「情報処理Ⅰ(第1学年設置)」「情報処理Ⅱ(第1・2学年設置)」より2単位について

① 「情報処理Ⅰ」, 「情報処理Ⅱ」いずれも未取得の場合

・いずれか1科目履修する場合は、履修上限外とします。

- ・ 2科目履修する場合は、1科目分は履修上限外とし、もう1科目分は履修上限内とします。2科目とも取得した場合は、1科目分が第3学年における進級必要単位（28単位）および第4学年における必要単位（12単位）になります。
- ② 「情報処理Ⅰ」または「情報処理Ⅱ」のいずれか1科目を取得して、さらにもう1科目履修する場合
 - ・ 履修上限内とし、第3学年における進級必要単位（28単位）および第4学年における必要単位（12単位）になります。
 - なお、第3学年における進級必要単位のうち、基礎教育科目10単位（内訳は定めない）としても数えられます。
- (3) 履修タイプⅡの第1学年設置選択必修科目4科目（数学概論Ⅰ、数学概論Ⅱ、世界経済の現状と問題、日本経済の現状と問題）のうち2科目4単位について
 - ① いずれも未取得の場合
 - ・ 2科目履修する場合は、履修上限外とします。
 - ・ 3科目以上履修する場合は、2科目分は履修上限外とし、残りの科目分は履修上限内とします。取得した科目のうち2科目を除いた残りの単位が第3学年における進級必要単位（28単位）および第4学年における必要単位（12単位）になります。
 - ② いずれか1科目を取得済みの場合
 - ・ 1科目履修する場合は、履修上限外とします。
 - ・ 2科目以上履修する場合は、1科目分は履修上限外とし、残りの科目分は履修上限内とします。取得した科目のうち1科目を除いた残りの単位が第3学年における進級必要単位（28単位）および第4学年における必要単位（12単位）となります。
 - ③ いずれか2科目を取得してさらに履修する場合
 - ・ 履修上限内とし、第3学年における進級必要単位（28単位）および第4学年における必要単位（12単位）となります。
 - なお、第3学年における進級必要単位のうち、基礎教育科目10単位（内訳は定めない）としても数えられます。

6 自由科目

履修上限内で履修する授業科目

- ・ 他学部設置の総合教育科目
- ・ メディア・コミュニケーション研究所設置科目
- ・ 外国語教育研究センター設置講座（注）
- ・ 国際センター設置講座
- ・ 情報処理教育室設置講座
- ・ 言語文化研究所特殊講座
- ・ 慶應義塾大学在外研修プログラム
- ・ 保健管理センター設置講座
- ・ 知的資産センター設置講座

履修上限外で履修できる授業科目

- ・ メディア・コミュニケーション研究所研究生として履修する同研究所設置科目
- ・ 教職課程センター設置科目および教員免許取得のための他学部設置の授業科目

（注）以下(5)参照。

- (1) 卒業必要単位（126単位）に含めることはできません。
- (2) 第3学年における進級必要単位（28単位）、第4学年における必要取得単位（12単位）に含めることはできますが、履修上限を超えて履修した場合は含めることはできません。
- (3) 他地区の他学部設置科目を自由科目として履修する場合には、授業担当者の了解を得たうえで「科目認定用紙」を提出しなければなりません。
- (4) 原則として、他学部および諸研究所設置科目を含めて担当者にかかわらず同一科目および同一名称とみなす科目を重複して履修することはできませんが（p.37参照）、自由科目としての履修を許可する場合があります。
- (5) 教養研究センター（日吉）、福澤研究センター（三田）、外国語教育研究センター（日吉・三田）の一部の科目は経済学部と併設しています。それぞれ総合教育科目、関連科目、外国語科目の項を参照してください。（自由科目として履修できません。）
- (6) 国際センター在外研修プログラムのうち、春季講座（2005年2～3月実施済）参加者は必ず履修申告を行ってください。夏季講座は、国際センターのガイダンスを受け、参加申込を行ってください。ただし、履修申告は選考に合格後、履修申告修正期間に行ってください。（この場合、履修上限単位を超える場合に限り他の科目の削除を認めます。）
- (7) 情報処理教育室設置講座は事前申込を行ったうえで、必ず、自由科目として履修申告してください。原則として履修の辞退はできません。
- (8) メディア・コミュニケーション研究所設置科目を同研究所の研究生となって履修する場合、および教員免許取得のための授業科目を履修する場合はそれぞれのガイダンスを受けてください。

メディア・コミュニケーション研究所設置の研究生用科目はメディア・コミュニケーション研究所に研究生として所属していなければ履修できません。

教職課程センター設置科目および教員免許取得のための授業科目については「教職課程登録」の手続きがなされていないと履修できません。

7 体育科目

2004 年度より学則が一部改正され、「保健体育科目」が「体育科目」と名称変更されました。2003 年度以前に取得した科目の科目名・単位数は変更しません。2004 年度より、「体育科目」として、以下の科目が設置されています。「第 9 学則の一部改正（保健体育科目 → 体育科目）」(p.40) も参照してください。

科目名	単位	設置地区
体育学講義	2	日吉
体育学演習	1	日吉
体育実技 A	1	三田・日吉
体育実技 B	1	日吉

2003 年度以前に「保健衛生」「体育理論」のいずれかもしくは両方を取得済みの場合でも、「体育学講義」「体育学演習」いずれも体育科目として履修できます。

2003 年度以前に「体育実技 I」「体育実技 II」のいずれかもしくは両方を取得済みの場合でも、「体育実技 A」「体育実技 B」を体育科目として履修できます。

2003 年度以前の入学者は、卒業単位認定科目（14 単位）には、以下により最大 4 単位含めることができます。

- | | |
|---|-------------|
| ① 2003 年度以前設置「保健衛生」 1 単位 | } より最大 2 単位 |
| ② 2003 年度以前設置「体育理論」 1 単位 | |
| ③ 2004 年度以降設置「体育学講義」 2 単位 | |
| ④ 2004 年度以降設置「体育学演習」 1 単位 | |
| ⑤ 2003 年度以前設置「体育実技 I」「体育実技 II」、2004 年度以降設置「体育実技 A」「体育実技 B」より最大 2 単位 | |

履修を希望する者は、体育科目（体育研究所設置科目）履修要項を参照およびガイダンスに出席のうえ、履修申告をしてください。履修申告の結果、予定定員を上回る場合は抽選により履修者を決定します。なお、誤登録など申告に不備があった場合は、抽選に加えられず、不許可となり履修できません。

「体育実技 A」および「体育実技 B」については同一科目（種目）でも複数回履修できます。ただし、「体育学講義」および「体育学演習」についての履修は各々 1 回に限ります。

抽選で不許可となった場合で、追加で許可を得た者に限り、履修申告修正期間中に履修（不許可単位数分）の追加ができます。「許可証」を提示の上、申告してください。

第 6 経済学部の分野

1 分野

分野とは、学則に基づいて科目の種類ごとに分類したものです。

経済学部の時間割表に掲載されている授業科目は、登録番号を登録するだけで自動的に分野が登録されます。他学部の授業科目を履修する場合やひとつの科目に対して複数の分野を選択できる場合、通常とは異なる変則的な履修をする場合には、自分で B 欄分野を登録しなければなりません。「2. 分野表」のうち 部は B 欄申告となります。ただし、この他に経済学部設置科目でも B 欄申告が必要な場合があります。「2. 分野表」および「3. B 欄分野表」を確認のうえ、必要な場合は履修申告用の 2 桁の B 欄分野を登録してください。

また、5 月上旬に送付される履修申告科目確認表および学年末の学業成績表にはこの分野で各授業科目の種類が表示されます。A 欄で申告した（B 欄分野を選択していない）授業科目も含め、必ずこの分野表で確認するようにしてください。

なお、履修申告科目確認表、学業成績表は再発行できません。卒業まで各自保管してください。

2 分野表 (2005年度開講科目)

種類	分野	科目名 (単位)		履修すべき学年		
ガイダンス	選択	01-30-01	経済学の視点と方法	1		
	総合教育科目	I	10-20-01	[自然・数理系] (2または4)	1~4	
		10-20-11	[自然・数理系 (生物・物理・化学)] (6)			
II		10-20-02	[人文・社会系] (2または4)			
III		10-20-03	[総合・関連系] (2または4)			
		10-20-13	[総合・関連系 (自由研究セミナー)] (2または4)			
基礎教育科目		I	II	← (履修タイプ)		
		20-10-01	20-10-01	統計学 I (2) 統計学 II (2)	2	
		—	20-20-05	数学概論 I (2)	1	
		—	20-20-06	数学概論 II (2)		
		20-30-01	20-20-06	日本経済の現状と問題(2) 世界経済の現状と問題(2)		
		20-20-07	20-30-02	微積分(2)		
		20-20-08	20-30-02	線形代数(2)		
		20-30-04	20-30-02	微積分演習(1)		
		20-30-05	20-30-02	線形代数演習(1)		
		20-21-01	20-21-01	情報処理 I (2)		
		20-21-02	20-21-02	情報処理 II (2)		
		20-30-03	20-30-03	情報処理 III (2)		1・2
外国語科目	必修	30-10-01	外国語 I	英語 Study Skills(2)	1	
		30-10-02		ドイツ語(2)		
		30-10-03		フランス語(2)		
		30-10-04	外国語 II	中国語(2)		
		30-10-05		スペイン語(2)		
		30-10-31		日本語(2) 外国人留学生対象		
	選択	30-20-01	外国語 I	英語セミナー(2) 英語リーディング (2)	1~4	
		30-20-02		ドイツ語(2)	2~4	
		30-20-03		フランス語(2)		
		30-20-04	外国語 II	中国語(2)		
		30-20-05		スペイン語(2)		
		30-20-31		日本語(2) 外国人留学生対象		
		必修	30-20-06			ロシア語(2)
			30-20-12			ドイツ語(2) 語種変更者 ^①
			30-20-13	外国語 III		フランス語(2) 語種変更者 ^①
30-20-14				中国語(2) 語種変更者		
30-20-15			スペイン語(2) 語種変更者			
選択	30-30-01	選択A	英語 ドイツ語 フランス語 中国語 スペイン語 ロシア語 朝鮮語 ラテン語 ギリシャ語 ポルトガル語 アラビア語 イタリア語 トルコ語 ペルシャ語	2~4		
	30-30-31		日本語			
専門教育科目	基礎	40-10-01	経済史 I (2) 経済史 II (2) マクロ経済学初級 I (2) マクロ経済学初級 II (2)	1		
		40-10-02	ミクロ経済学初級 I (2) ミクロ経済学初級 II (2)	2		
		40-15-01	経済と環境(2) 計量経済学概論(2) 経済思想の歴史 I (2) 経済思想の歴史 II (2) マルクス経済学 I (2) マルクス経済学 II (2) 経済数学 II (2)	2		
		40-15-02	経済数学 I A (2)			
		40-15-03	経済数学 I B (2)			
		40-15-11	社会問題 I (2) 社会問題 II (2)			
	基本	40-20-51	A		ミクロ経済学 I (4) ミクロ経済学 II (4) マクロ経済学 I (4) マクロ経済学 II (4) 独占資本主義論(4)	3・4
		40-20-52	B	計量経済学 I (4) 計量経済学 II (4) 経済資料論(4) 確率・統計(4) 社会科学基礎論(4)		
		40-20-53	C	経済学史 I (4) 経済学史 II (4) 社会思想(4) 社会思想史(4)		
		40-20-54	D	日本経済史(4) 欧米経済史(4) アジア経済史(4)		
		40-20-55	E	工業経済論(4) 農業経済論(4) 産業組織論(4) 労働経済論(4) 社会政策論(4)		
		40-20-56	F	経済政策論(4) 財政論(4) 金融論(4) 日本経済システム論(4)		
		40-20-57	G	現代日本経済論(4) 日本資本主義発達史(4) 現代資本主義論(4) 経済体制論(4)		
		40-20-58	H	世界経済論(4) 国際貿易論(4) 国際金融論(4) 経済発展論(4)		

(次ページに続く)

専 門 教 育 科 目	科 基 本	40-20-59	I	経済地理(4) 環境経済論(4) 都市経済論(4)	3・4	
		40-20-60	J	人口論(4) 産業社会学(4) 社会史(4)		
	特 殊 科 目	シ ン ク レ ッ ト	40-30-01		研究プロジェクト(誘導展開型)(4)	3・4
			40-30-02		研究プロジェクト(自発展型)(4)	
			40-30-03		研究プロジェクトC(2)	
		40-30-41		MICROECONOMICS(2) MACROECONOMICS(2)	3	
		40-30-51	P	ECONOMIC ANALYSIS OF LAW(2) INTERNATIONAL LAW AND ECONOMY(2)		
		40-30-54	C	INTERNATIONAL TRADE(2) INTERNATIONAL ECONOMIC POLICY(2)		
		40-30-61	P	APPLIED ECONOMETRICS(2) READING AND COMPOSITION(2) PRESENTATION AND DISCUSSION(2)		
		関 連 科 目	日 吉		簿記(4) 解析学入門Ⅰ(2) 解析学入門Ⅱ(2) 確率論入門Ⅰ(2) 確率論入門Ⅱ(2)	2
				40-30-71	三 田	ゲームの理論(4) 解析学Ⅰ(4) 解析学Ⅱ(4) 公共経済学(4) 数理経済学Ⅰ(4) 数理経済学特論Ⅰ[微分方程式論](4) 数理経済学特論Ⅱ[確率論](4) 代数学(4) 市場と法(2) 資金循環分析(4) 時系列分析(4) ベイズ統計学(4) 近代日本社会思想史(2) 現代日本社会思想史(2) 東欧・ロシア社会経済思想史(4) 日本経済思想史(4) 近代経済学史Ⅰ(2) 近代経済学史Ⅱ(2) 数量経済史(4) 東欧経済史(4) 現代労働経済理論(4) 経済と法(4) ゲーム理論と産業組織(4) 経済政策のミクロ分析(4) ファイナンス入門(4) 公共選択論(4) NPO経済論Ⅰ(2) NPO経済論Ⅱ(2) アジア経済と日本(2) 格差と援助の経済学(4) 現代中国経済論(2) 開発経済学(4) EU・ジャパン・エコノミック・リレーションズ(2) 廃棄と汚染の経済学(4) 地域経済論(2) 地球環境問題(4) 環境評価論(2) アジア社会史(4) ラテンアメリカ社会史(4) 地方分権論(2) 簿記(4) 金融資産市場論(4) 中小企業金融論(4) 企業金融論(4)
			40-30-72		専門外国書講読(4)	
	40-30-73			演習(2または1)		
	40-30-74			研究会(3年)	3	
	40-30-75			研究会(4年)	4	
	関 連 科 目		40-30-81		民法Ⅰ(4) 民法Ⅱ(4) 商法Ⅰ(4) 商法Ⅱ(4) 労働法(4) 租税法(4) 会計学(4) 経営学(4) 近代日本研究Ⅰ(2) 近代日本研究Ⅱ(2) 近代日本研究演習Ⅰ(2) 近代日本研究演習Ⅱ(2) (以上、経済学部設置)	3・4
					他学部設置の専門教育科目	2～4
			40-30-82		他学部研究会(商学部研究会 3年)	3
			40-30-83		他学部研究会(商・理工学部研究会 4年)	4
		40-30-84		他学部研究会(文・法・総合政策・環境情報学部研究会 3年)	3	
40-30-85		他学部研究会(文・法・総合政策・環境情報学部研究会 4年)	4			
体 育 科 目 ^②	51-30-11		体育学講義(2)	1～4		
	51-30-12		体育学演習(1)			
	51-30-13		体育実技A(1)			
	51-30-14		体育実技B(1)			
自 由 科 目	60-30-01		履修上限内で履修する下記設置の授業科目 ・ 他学部設置の総合教育科目 ・ 言語文化研究所特殊講座 ・ メディア・コミュニケーション研究所設置科目 ・ 外国語教育研究センター設置講座 ・ 慶應義塾大学在外研修プログラム ・ 国際センター設置講座 ・ 保健管理センター設置講座 ・ 情報処理教育室設置講座 ・ 知的資産センター設置講座 ^③			
		60-39-01		履修上限外で履修する授業科目(メディアコム研究生) ・ メディア・コミュニケーション研究所研究生として履修する同研究所設置科目		
		60-39-02		履修上限外で履修する授業科目(教職課程登録手続者) ・ 教職課程センター設置科目 ^④ ・ 教員免許取得のための他学部設置授業科目 ^⑤		

①第1学年設置初習クラス(「中国語」「スペイン語」「ロシア語」は第2学年設置)を2科目履修することになります。

②2003年度以前入学者の2003年度以前に取得済みの科目の分野は、「第9学則の一部改正(保健体育科目→体育科目)」(p.40)を参照してください。

③2000年度取得済みの知的資産センター設置「知的資産概論」は関連科目の場合があります。

④教職課程授業科目は「教職課程登録」の登録手続きがなされていないと履修できません。

(注) [] : B欄分野の申告が必要な科目。「B欄分野表」(p.37)参照。

3 B欄分野表

種類	分野	分野名	B欄分野
外国語科目	30-10-31	必修外国語Ⅱ（留学生日本語）	11
	30-20-12	選択必修外国語Ⅲ（ドイツ語語種変更）	07
	30-20-13	選択必修外国語Ⅲ（フランス語語種変更）	08
	30-20-31	選択必修外国語Ⅱ（留学生日本語）	21
	30-30-31	選択外国語（留学生日本語）	44
専門教育科目	40-30-81	関連科目（他学部設置の専門教育科目）	51
	40-30-82	関連科目（商学部研究会3年）	52
	40-30-83	関連科目（商・理工学部研究会4年）	53
	40-30-84	関連科目（文・法・総合政策・環境情報学部研究会3年）	54
	40-30-85	関連科目（文・法・総合政策・環境情報学部研究会4年）	55
自由科目	60-30-01	履修上限内科目 ^①	91
	60-39-01	履修上限外科目（メディアコム研究生が履修するオープン科目） ^②	95
	60-39-02	履修上限外科目（教員免許取得のための他学部設置の授業科目） ^③	96

- ① 他学部設置の総合教育科目を自由科目で履修する場合および重複履修の科目を自由科目で履修する場合。なお、諸研究所・センター設置科目はB欄分野の申告は不要です。
- ② メディアコム研究生が研究生用の科目を履修上限外で履修する場合はB欄分野の申告は不要です。
- ③ 教職課程登録手続者が教職課程センター設置科目を履修上限外で履修する場合はB欄分野の申告は不要です。

第7 履修上の注意

1 重複履修について

- (1) 曜日、時限を重複して履修することはできません。

研究会は各学年とも2時限（例：4、5時限）の履修が必要です。（各自の学年の登録番号で2時限分登録されます。）

- (2) 同一名称の科目および同一名称とみなす科目は、原則として担当者が異なっても重複して履修することはできません。ただし、自由科目としての履修を許可することがあります。なお、総合教育科目は、I系の「生物学」「物理学」「化学」を除いて、担当者または系が異なれば重複して履修できます。また「自由研究セミナー」は担当者が同じでも授業内容が異なれば重複して履修できます。
- (3) 他学部と併設（同じ授業）している（していた）科目は重複して履修することはできません。

同一名称とみなす科目（例）

経済学部設置科目	同一名称とみなす科目	
欧米経済史	法学部	経済史
会計学	商学部	財務会計論
経済学史Ⅰ	商学部	経済学史
経済政策論	法・商学部	経済政策
経済資料論	商学部	経済統計
経済地理	商学部	交通経済各論(経済地理)
計量経済学Ⅰ	法・商学部	計量経済学
国際貿易論	法学部	国際経済論
財政論	商学部	財政学
商法Ⅰ	商学部	法学各論（商法Ⅰ）
商法Ⅱ	商学部	法学各論（商法Ⅱ）
数理経済学Ⅰ	経済学部	数理経済学（2001年度以前）
数理経済学Ⅱ	経済学部	数理経済学（2001年度以前）
生物学	法学部	生物科学
世界経済論	法・商学部	国際経済論、国際経済学
地域研究－中国事情Ⅰ	経済学部	地域研究－中国事情
地球環境問題と企業	経済学部	地球環境問題と企業行動（1998年度以前）
ドイツ社会史	経済学部	現代ドイツ社会史
日本経済史	法学部	経済史
ファイナンス入門	経済学部	ファイナンス入門Ⅰ、ファイナンス入門Ⅱ（1999年度）
簿記	商学部	簿記論、会計学総論（1998年度以前）
民法Ⅰ	商学部	法学各論（民法Ⅰ）
民法Ⅱ	商学部	法学各論（民法Ⅱ）
労働経済論	商学部	労働経済学
労働法	商学部	法学各論（労働法）
NPO 経済論Ⅰ	経済学部	NPO 経済論（2004年度以前）
NPO 経済論Ⅱ	経済学部	NPO 経済論（2004年度以前）

(4) 留年者に限り、同一学年ですでに合格した科目の評価が「B」・「C」の場合、再履修することができます。ただし、研究会は再履修できません。評価が向上すれば、向上した評価が学業成績表に記載されます。ただし、外国語科目、総合教育科目の自由研究セミナー、専門教育科目の演習、専門外国書講読および体育科目の実技科目は、複数履修できる科目のため再履修することはできません。新たに履修してください。

2 第1・第2学年の不合格科目について

日吉設置科目を履修しなければなりません。第3・第4学年用に配付される第1学年あるいは第2学年（不合格科目の配当学年による）の時間割表を参照してください。不明な点は、日吉学事センター経済学部係に問い合わせてください。

(1) 外国語科目

外国語Ⅱ（必修）6単位：第1学年設置のドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語のいずれかの1語種。

三田設置外国語科目で代用することはできません。未取得科目の設置学年に注意して履修してください。

詳細については、「経済学部外国語科目履修案内」（別冊）を参照してください。

なお、必修外国語科目は4月15日（金）以降の開講です。

(2) 基礎教育科目、専門基礎科目（必修、選択必修）

統計学Ⅰ・Ⅱ，数学概論Ⅰ・Ⅱ，
微分積分，線形代数，情報処理Ⅰ，
経済史Ⅰ・Ⅱ，マクロ経済学初級Ⅰ・Ⅱ，
ミクロ経済学初級Ⅰ・Ⅱ

日吉経済学部設置の各科目を履修タイプ等により指定されたクラスで履修してください（詳細は別途掲示）。ただし、指定のない科目は希望のクラスを選択履修してください。

3 他学部・他地区設置科目の履修について

他学部設置必修科目の履修はできませんが、以下の場合は履修することができます。

① 他学部設置専門教育科目 → 関連科目

② 他学部設置総合教育科目 → 自由科目

③ 他学部設置外国語科目は、「全学部共通外国語科目履修案内（三田）」（別冊）に掲載の科目のみ → 選択外国語（選択A）

ただし、上記の科目でも履修できない場合があります。履修する科目の種類（関連科目、自由科目、外国語科目）の項を参照してください。

(1) 三田の他学部設置科目を関連科目・自由科目として履修する場合

授業担当者の了解を得てください（「科目認定用紙」不要）。科目によっては他学部の学生の履修を制限する場合や設置学部の学習指導担当等の許可を必要とする場合、履修者数の制限を実施する場合がありますので、当該科目の講義要綱や設置学部の履修案内・掲示などに注意してください。

当該学部の時間割で登録番号を確認のうえ、B欄分野を申告してください。

(2) 他地区の他学部設置科目を関連科目・自由科目として履修する場合

授業担当者や設置学部の学習指導担当者の了解を得、「科目認定用紙」を三田学事センターに提出してください。

当該学部の時間割で登録番号を確認のうえ、B欄分野を申告してください。

なお、移動時間を十分考慮のうえ、三田設置科目と時間が重複しないように注意してください。移動不可能な履修申告については履修申告全体を無効として扱うこともあります。特に、時限が連続する（例：1時限三田，2時限日吉）履修はできません。なお、日吉設置科目については昼休みを挟んだ場合（例：2時限日吉，3時限三田）は可とします。

他地区設置科目についての掲示（時間割変更、休講、試験等）は、設置地区にのみ掲示されます。特に、時間割については変更されることがありますので、履修申告前に設置地区の掲示を確認してください。なお、電話での問い合わせには応じられません。

4 研究所・センター設置科目の履修について

原則として、自由科目となります。「6 自由科目」の項を参照してください。ただし、学部設置科目と併設している授業の場合、経済学部設置科目を専門教育科目や外国語科目として履修したり、他学部設置科目を関連科目として履修することができます。その場合、登録番号が異なりますので当該学部設置科目の登録番号を確認のうえ、申告してください。なお、履修申告後、登録された分野（科目の種類）を変更することはできません。

5 日吉学習指導担当について

日吉設置科目・科目認定用紙などについての質問・相談は、以下の日吉学習指導担当が対応します。4月の面接時間等詳細については三田西校舎掲示板および日吉学習指導室前に掲示します。

主 任：助教授 福山 欣司君

副主任：教授 光 道隆君, 教授 境 一三君, 助教授 柏崎 千佳子君

第8 認定用紙および申告用紙について

科目によっては、下記の所定用紙が必要になります。必要事項記入の上、指示された承認印を受け下記の指定期日までに提出しなければなりません。以下を熟読してください。

以下の所定用紙は塾生ページ (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/mita/kei/index.html>) からダウンロードしてください。ダウンロードができない場合には用紙を配布しますので、学事センターに申し出てください。

(1) 「科目認定用紙」

他地区の他学部設置の科目を履修する場合に使用。

配布日 : 4月4日(月) ~ 三田・日吉学事センター

提出締切: 4月15日(金) 18:10 三田学事センター

(2) 「基礎教育・専門教育科目履修認定用紙」

日吉設置のマクロ経済学初級Ⅰ・Ⅱ, ミクロ経済学初級Ⅰ・Ⅱを異なる履修タイプで再履修する場合に使用。

配布日 : 4月4日(月) ~ 三田・日吉学事センター

提出締切: 4月15日(金) 18:10 三田学事センター

(3) 「研究会認定用紙」・「研究会退会届」・「研究会辞退届」

4年生で研究会を変更した場合や4年生で研究会に入会した場合(「研究会認定用紙」), 退会の場合(「研究会退会届」), 研究会選考(他学部含む)に合格したのにもかかわらず入会をとりやめる場合(「研究会辞退届」)に使用。

配布日 : 4月4日(月) ~ 三田学事センター

提出締切: 4月12日(火) 18:10 三田学事センター

(4) 「三田設置外国語Ⅰ(英語)申請用紙」, 「三田設置外国語Ⅱ申請用紙」

三田設置外国語選択必修科目の追加申請に使用。

配布日 : 事前登録第2回結果発表後 ~ 14日(木) 三田学事センター

提出締切: 掲示参照。

(5) 「外国語科目認定用紙」

日吉設置外国語必修科目・選択必修科目の追加認定に使用。

[外国語Ⅱ]

配布・締切日: 4月8日(金), 11日(月) 11:00~13:00 日吉学習指導室

[外国語Ⅰ]

配布・締切日: 4月13日(水), 14日(木) 11:00~13:00 日吉学習指導室

以下の所定用紙は必要に応じて学事センターで配布します。

(6) 「エントリーシート」

外国語選択必修科目(日吉・三田設置科目)の事前登録に使用。4月1日(金)履修案内等書類配布時に受け取っていない場合に配布します。(日吉で提出する場合でも三田で配布します。)

配布日 : 4月4日(月)・5日(火) 三田学事センター

提出締切: P.31 参照。

(7) 「履修申告用紙(マークシート)」

やむをえず、学事 Web システムによる履修申告を行わない場合、申し出により配布します。

配布日 : 4月11日(月)・12日(火) 三田学事センター

提出締切: 4月15日(金) 8:30~18:10 三田学事センター

第9 学則の一部改正（保健体育科目 → 体育科目）（99学則）

1 学則条文新旧対照表

新	旧
<p>第1 授業科目の種類</p> <p>第50条 経済学部の授業科目の種類は次の通りとする。</p> <p>(1) ガイダンス科目 (2) 総合教育科目 (3) 基礎教育科目 (4) 外国語科目 (5) 専門教育科目 (6) 体育科目 (7) 自由科目</p> <p>第7 体育科目</p> <p>第59条 体育科目は選択科目とし、単位数は次の通りとする。</p> <p>(1) 体育学講義 (2) 体育学演習 (1)</p> <p>(2) 体育実技 A (1) 体育実技 B (1)</p> <p>第60条 体育科目は各学年において履修することができる。</p> <p>第10 試験および成績評語</p> <p>第70条 学業成績の評語は、A・B・C・Dとし、A・B・Cは合格、Dは不合格とする。ただし、体育科目のうち体育実技 Bに関しては、その評語はP・Fの2種とし、Pを合格、Fを不合格とする。いずれの場合も合格した科目については、所定の単位数を与える。</p>	<p>第1 授業科目の種類</p> <p>第50条 経済学部の授業科目の種類は次の通りとする。</p> <p>(1) ガイダンス科目 (2) 総合教育科目 (3) 基礎教育科目 (4) 外国語科目 (5) 専門教育科目 (6) 保健体育科目 (7) 自由科目</p> <p>第7 保健体育科目</p> <p>第59条 保健体育科目、単位数および必修・選択の区別は次の通りとする。</p> <p>(1) 講義 保健衛生 (1) 体育理論 (1)</p> <p>(2) 実技 体育実技 I (1) 体育実技 II (1) 保健体育科目は選択科目とする。</p> <p>第60条 保健体育科目は各学年において履修することができる。</p> <p>第10 試験および成績評語</p> <p>第70条 学業成績の評語は、A・B・C・Dとし、A・B・Cは合格、Dは不合格とする。合格した科目については、所定の単位数を与える。</p>

2 分野番号新旧対照表

2003年度以前に「保健体育科目」として取得済みの科目については、「体育科目」としては以下の分野となります。

新「体育科目」		旧「保健体育科目」	
分野	科目名(単位)	分野	科目名(単位)
51-30-21	保健衛生 (1)	50-30-03	保健衛生 (1)
51-30-22	体育理論 (1)	50-30-04	体育理論 (1)
51-30-23	体育実技 I (1)	50-30-02	体育実技 I (1)
51-30-24	体育実技 II (1)		体育実技 II (1)

第 11 休学・留学・退学

1 休学（学則第152条）

病気その他やむを得ない理由により欠席が長期にわたる場合には休学することができます。休学期間は1年度（4月1日～翌年3月31日）となります。

本年度休学希望者は、休学願に事由を証する書類（病気の場合は医師の診断書、語学研修等の場合は入学願書の写し等）を添えて、原則として履修申告日までに学習指導主任と面接し認印を受けたうえで学事センターに提出してください。履修申告後の休学願提出期限は11月30日です。

休学が次の年度におよぶ場合は、改めて許可を得なければなりません。休学期間終了後は、速やかに就学届を提出しなければなりません。なお、病気を理由に休学していた場合はあわせて医師の診断書の提出が必要です。

休学期間は卒業に必要な在学年数には算入しません。

授業料等は休学期間中も同額となります。ただし、病気による休学が長期にわたる場合、在学料が減免されることがあります。学生総合センター学生生活支援窓口にお問い合わせください。

2 留学（学則第153条）

外国の大学に留学を予定している者は、教育上有益と認められる場合に学則による留学が許可されることがあります。語学研修は学則による留学とは見なされず休学となります。なお、留学のプログラム等については大学国際センターにお問い合わせをしてください。

学則による留学は、留学開始日より1年を単位とし、延長は1回に限り許可されます（休学の場合は年度を単位とします）。また、留学期間は1年を限度として卒業に必要な在学年数に算入することがあります。

留学に関する手続き（国外留学申請書の提出）はあらかじめ学事センターで相談・確認のうえ、所定の手続きをしてください。学習指導主任との面接を含めて、遅くとも出発の1ヶ月前には済ませてください。

学則による留学の場合、外国の大学で取得した単位が認定されることがあります。申請は原則として就学届提出時におこなってください。本年度は2006年1月初回の学習指導主任面接までに申請しなければなりません。

3年生は、外国の大学で取得した単位の認定により進級必要単位を満たし、なおかつ4年生の卒業必要単位を履修している場合に限り留学期間（1年を限度）を在学年数に算入し、進級できます（4月1日付遡及進級）。4年生は、単位の認定による遡及卒業はできません。

授業料等は留学期間中も同額となります。ただし、留学の延長が許可された場合、在学料が減免されることがあります。

2005年度に留学を予定・決定している者を対象に、留学前後の履修申告、留学先での取得単位の認定等について経済学部独自のガイドンスを4月6日（水）2限（516番教室）に実施します。対象者は出席をしてください。

3 退学（学則第154条）

病気その他の事由により退学したい者は、速やかに学習指導主任と面接してください。あらかじめ記入した退学届に認印を受け、学生証を添えて学事センターに提出してください。

授業料等を納入しないで退学する場合、授業料等の納入年度（学期）までさかのぼって退学とします。（学則第171条）退学年月日は授業料等納入済の学期末日となります。これに伴い、退学年月日より後の在籍・成績は無効となります。

4 退学処分（学則第156条・第188条）

- ① 4年間で第3学年に進級し得ない者および第3・第4学年併せて4年在学し卒業し得ない者は学則第156条により退学処分となります。
- ② 大学の学則もしくは諸規律に違反したと認められた時、履修申告を期日までに提出せず休学・退学の願い出もなく修学の意志が確認できない時などには学則第188条により退学処分となります。

経済学部設置科目

講義要綱

「授業の計画」のうち、講義内容とその順番は授業の展開等に応じて変更されることもあります。

(I. 専門教育科目)

(1) 基本科目

ミクロ経済学 I

教授 須田 伸一

授業科目の内容：

ミクロ経済学の主要項目にわたり、理論の構造を理解することに重点を置いて以下の内容について講義する。

1. 消費者行動
2. 生産者行動
3. 不確実性下の経済行動
4. 完全競争市場
5. 厚生経済学の基本定理
6. 通時的経済モデル

参考書：

- ・奥野正寛・鈴木興太郎『ミクロ経済学 I, II』岩波書店, 1985 年, 88 年
- ・西村和雄『ミクロ経済学』東洋経済新報社, 1990 年

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）（春秋とも）

ミクロ経済学 I

助教授 玉田 康成

授業科目の内容：

本講義では、ミクロ経済学の基本的内容について、理論的側面に重点を置いて講義を行う。具体的には、春学期に個別の経済主体（消費者・企業）の市場における意思決定問題を理論的に分析する。また、不確実性下での意思決定についても詳しく議論する。そして、秋学期にて市場での競争均衡とその効率性について厳密な議論を行う。本講義の内容と分析手法は、あらゆる（応用）ミクロ経済分析の根幹をなすものであり、経済学を学ぶ上で欠かすことのできないものである。

参考書：

- ・奥野正寛・鈴木興太郎『ミクロ経済学 I, II』岩波書店, 1985 年, 88 年
- ・西村和雄『ミクロ経済学』東洋経済新報社, 1990 年
- ・Hal R. Varian, *Microeconomic Analysis, 3rd edition*, Norton, 1992
- ・Geoffrey A. Jehle and Philip J. Reny, *Advanced Microeconomic Theory, 2nd edition*, Addison-Wesley, 2001

授業の計画：

〔春学期〕

1. 消費者行動の理論
2. 企業行動の理論
3. 不確実性下の意思決定（期待効用理論）

〔秋学期〕

4. 競争市場と均衡、および余剰分析（部分均衡分析）
5. 完全競争均衡の効率性：厚生経済学の基本定理（一般均衡分析）
6. 一般均衡分析の拡張 1：通時的な意思決定と先物市場
7. 一般均衡分析の拡張 2：不確実性

成績評価方法：

- ・数回の宿題（20%）・春学期末試験（40%）・秋学期末試験（40%）

ミクロ経済学 II

教授 長名 寛明

授業科目の内容：

ミクロ経済学における規範的分析に重点を置いて講義する。主な内容は以下の通り。

1. 競争市場の効率性
2. 市場の欠陥
3. 厚生基準と社会的厚生関数
4. 経済活動の誘因
5. 資源配分機構の情動的効率性

教科書は使用せず、プリントを配布し、その中で参考文献を指示す

る。

授業の計画：

上記授業内容の項目 1 と 2 を春学期に、項目 3, 4, 5 を秋学期に講義する。

履修者へのコメント：

本授業科目は大学院修士課程の学生のための授業科目「ミクロ経済学」との併設科目である。講義の内容は同じであるが、理解の水準に関する要求は異なる。大学院生に対しては、講義で提示される様々な命題の証明に関する練習問題を厳密な論理を用いて解き、その解答をレポートとして提出することが要求される。学部生であっても大学院生同程度の理解を欲するものは、「レポートコース」を申告によって選択することができる。「レポートコース」の申告は授業開始時に指示する期限以内で締め切り、それ以後のコース変更は認められない。「レポートコース」を選択しない学部生は講義で提示される様々な命題の証明に関しては配布されるプリントに書かれている範囲の内容を理解することを要求されるが、練習問題を解く義務もないし、レポートを提出する権利もない。

成績評価方法：

- ・「レポートコース」を選択した学部生の場合はレポートのみによって評価する。レポートは授業で扱われた範囲の練習問題について翌週に提出が義務づけられており、その一回当たりの分量は 10 ページを超えることもあり、かなり大量の時間を使わねばならない。
- ・「レポートコース」を選択しない学部生の場合は期末試験のみによって評価する。
- ・評価基準は満点の 80 パーセント以上が A, 80 パーセント未満 60 パーセント以上が B, 60 パーセント未満 40 パーセント以上が C, 40 パーセント未満が D である。

質問・相談：

「レポートコース」を選択した学部生の場合は、レポートの中に質問を書き込むことができる。その他の学生については、講義中を含めて、適宜質問に応じる。

マクロ経済学 I

(春) 教授 尾崎 裕之

(秋) 講師 酒井 良清

授業科目の内容：

中級レベルのマクロ経済学を講義する。授業目的としては、標準的なマクロ経済学の内容を理解し、実際の経済分析に自由に使用できるようになることに重点を置いている。マクロ経済学は、政策的含意が重要であるので、政策的な応用面を重視する。

春学期の内容としては、財市場、金融市場、IS=LM モデル、新古典派モデル、消費・投資と期待、金融市場と期待などを含む。秋学期では、金融・貨幣理論の基礎から、金融システムの設計までを解説する。

テキスト：

- ・春学期は、最初の授業で知らせる。
- ・秋学期は、酒井良清・前多康男『新しい金融理論』有斐閣

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）
- ・平常点（出席状況および授業態度）

授業の前半部分の評価は、春学期期末試験期間において、持ち込み不可の形式で筆記試験を行い、その成績をもとに決定する。授業の後半部分においても、持ち込み不可の筆記試験の形態で期末試験を行う。この授業の最終的な成績は、授業の前半部分と後半部分の成績を平均する形で決定する。最終的な成績の決定に際しては、平常点を加味することもあり得る。

マクロ経済学 I (春学期集中)

助教授 白井 義昌

授業科目の内容：

マクロ経済学の基本的知識を身につける。教科書にそって講義を行う。毎週の宿題提出と小テスト、そして中間および期末試験の合計によって成績評価を行う。詳しくは

<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/yshirai/macro1/> を見よ。

テキスト：

・Abeland Bernanke, *Macroeconomics 5th edition*, Addison-Wesley

マクロ経済学 II

助教授 伊藤 幹夫

授業科目の内容：

この講義は、マクロ経済学の中でも経済動学とよばれるものを対象とする。具体的には経済活動のマクロ指標としての GDP がどのような要因によって、拡大・成長をしたり変動したりするかを扱う。講義では、実際の経済変動データの特性を概観した後、標準的な国民所得決定の理論を動的に拡張しながら講義を進める。さらに、その後最近のマクロ経済学の展開をカバーする予定である。

参考書：

・吉川洋『現代マクロ経済学』創文社、2000年

授業の計画：

1. 経済の変動の実際
 - (a) 戦後日本経済の動き
 - (b) 成長と変動の要因
2. 国民所得論から成長理論へ
 - (a) ハロッド・ドーマー理論
 - (b) 新古典派成長理論
3. 成長理論の新展開
 - (a) 技術進歩と成長
 - (b) 内生的成長理論の意義と限界
4. 経済変動の様々な理論をめぐって
 - (a) ヒックス・サミュエルソン理論
 - (b) 非線形投資関数モデルいろいろ
 - (c) カオス理論の応用とその周辺
 - (d) 均衡景気循環の展開と破綻
 - (e) 実景気循環

なお、講義ノートや資料、データをインターネット上の次の URL で公開する予定である。

<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/ito/lecture>

成績評価方法：

・学期末試験（定期試験期間内の試験）

独占資本主義論

助教授 延近 充

授業科目の内容：

2年生を対象に設置されているマルクス経済学 I, II では、資本主義社会の経済構造と運動法則を原理的かつ体系的に明らかにすることが課題とされた。そこで明らかにされた資本主義の一般的運動法則は、資本主義が資本主義であるかぎり根底において貫徹しているが、現代のいっそう複雑化した経済問題を解明するためにはそれだけでは十分ではない。

資本主義の一般的運動法則は競争の全面的支配を特徴とする資本主義においては「鉄の必然性」をもって貫徹するのであるが、資本主義の発展過程はその内的メカニズム自体によって競争の作用を一部制限するようになる。主要な生産部門が少数の巨大資本によって支配され、独占的市場構造が形成されてくるのである。そうした資本主義の構造変化・独占段階への移行にともなって、資本主義の一般的運動法則は一定程度変容し矛盾の現われ方も異なったものとなってくる。さらに、そのような矛盾に対処するために経済過程に国家が介入することが必要とされ、特に第2次大戦後では社会主義世界体制の成立・冷戦のもとで国家の果たす役割はいっそう大きくなっていった。

したがって、現代の経済を分析するためには、資本主義の一般的運動法則を基礎としつつ、このような資本主義の歴史的な段階変化その構造と動態を明らかにする理論が必要とされる。この講義では、競争の全面的に支配する段階から独占と競争とが絡み合う段階への移行の問題と現代資本主義を基本的に特徴づける独占資本主義の構造と動態を明らかにすることを中心課題とする。

テキスト：

・北原勇『独占資本主義の理論』有斐閣

参考書：

・北原・本間・鶴田編『資本論体系 10 現代資本主義』有斐閣

授業の計画：

以下の順で講義を行う。春学期に 1~5、秋学期に 6~9 の予定。

1. 資本主義の一般的運動法則と段階変化
2. 独占的市場構造の成立と特徴
3. 独占的競争と市場・価格支配
4. 独占価格と設備投資原則
5. 独占利潤の源泉と収奪構造
6. 独占企業の投資行動の動態
7. 独占段階における景気循環の変化
8. 帝国主義と国家独占資本主義
9. 現代資本主義分析と独占資本主義論

履修者へのコメント：

マルクス経済学 I, II を履修済であることを前提とし、現代資本主義論、現代日本経済論も履修されることが望ましい。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・レポートによる評価

質問・相談：

講義内容や成績評価など、より詳しくは <http://www.econ.keio.ac.jp/staff/nobu/index.html> を参照してください。

計量経済学 I (春学期集中)

助教授 田中辰雄

授業科目の内容：

計量経済学の基本コースを週 2 コマで半期に集中して講義する。内容は日吉の計量経済学概論の発展であり、またパソコンを利用した演習を含む。取り上げる予定の項目は (1) 最小 2 乗法の基礎（不偏性・効率性、古典的仮定、 t 値、 F 検定など）、(2) 不均一分散、(3) 系列相関、(4) 同時方程式、(5) VAR による因果性、(6) パネルデータ分析、(7) ロジット回帰である。2 回に 1 回はパソコンを使って演習を行うので、かなりの分量の演習を行うことになる。一部屋のパソコンの台数に限りがあるので、受講生は多少の不便が生じうるのを覚悟されたい。成績は 2~3 回のレポートと学期末試験でつける予定である。

なお、日吉で開講されている計量経済学概論を履修していない者は、入門的な計量経済学の本の最初の部分を読んでくることを推奨する（最小 2 乗法・重回帰・決定係数・ t 値までがわかればよい）。

計量経済学 II

(春) 助教授 河井啓希
(秋) 教授 マッケンジー, コリン

授業科目の内容：

[春学期]

計量経済学の基礎的な理論を講義する。この授業ではテキストで紹介されている様々な分析方法の手順を単に学ぶのではなく、(1) その理論的背景や根拠について統計学的な知識を補足しながら納得できるようにする、(2) 経済分析にどのように応用することができるのかを知る、(3) PC (ソフトは EViews か LIMDEP) を使った実習を通じて自分で分析ができるようにする、点に特徴がある。予備知識としては統計学、微分積分、行列の知識、さらには「計量経済学概論」または「計量経済学 I」の内容を前提とする。計量ソフトについては知識がなくとも、この時間で習得できるよう工夫する。

[秋学期]

この授業では普通の回帰分析で対応できない制限された従属変数と離散型従属変数を取り上げる。マイクロデータを分析すると、このような変数に頻繁に直面する。私達が観測できるデータはすべて連続型変数ではなく、消費者又は企業又は国がある行動（例えば、消費者の場合、仕事するかしないか、企業の場合、海外進出するかどうか）の観測できる結果は複数（極端の場合、二つ）のケースのみがある。マイクロ経済学では、企業の利潤を最大化する場合又は消費者の効用を最大化する場合、内点解 (interior solution) を中心に議論する。もちろん、ある財の需要量又は消費支出は非負であるが、実際のデータをみると、ある財を全く購入しない（端点解 [corner solution]）消費者もいる。このようなデータの性質を無視すると、大変なことになる場合がある。この授業では、バランスをとれた形で、経済理論モデルと計量

モデルとのつながり、この変わった従属変数の問題・解決や実際のデータの分析を行う。取り上げる実例として、女性が働くかどうか、企業が持っている特許数や賃金関数などがある。この授業ではEViews5.0という最新の計量ソフトを用いてパソコンによる演習を行うが、EViewsに関する予備知識は全く必要としない。

テキスト：

[春学期]

- ・ William H. Greene, *Econometric Analysis 5th ed. /ISE*, Prentice Hall IE, 2003
- ・ 松浦克己, コリン・マッケンジー『EViews5.0による計量経済学入門分析(仮題)』東洋経済新報社, 2005年

[秋学期]

- ・ Greene, W.H., *Econometric Analysis*, 5th edition, Prentice Hall, Upper Saddle River, NJ., 2003

参考書：

[春学期]

- ・ 蓑谷千風彦『計量経済学の理論と応用』日本評論社, 1996年
- ・ Jeffrey M. Wooldridge, *Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data*, MIT press, 2001
- ・ Paul A. Ruud, *An Introduction to Classical Econometrics Theory*, Oxford University Press, 2000
- ・ 滝川好夫・前田洋樹『EViewsでの計量経済学入門』日本評論社, 2004年

[秋学期]

- ・ Wooldridge, J.M., *Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data*, MIT Press, Cambridge, MA., 2002

授業の計画：

[春学期]

1. Introduction：経済分析における統計的方法 (1回)
2. 古典的回帰モデル：実験室の仮定 (5回)
最小2乗法とその統計的性質, 最尤法とその統計的性質, 仮説検定, モデルの評価
3. 一般化最小2乗法 (4回)
分散不均一性の問題, 自己相関の問題
4. 操作変数法 (2回)
5. その他のトピック (1回)

[秋学期]

1. 離散型確率変数, 最尤法やモメント法の復習
2. 二項選択の問題Ⅰ (プロビットとロジットモデル)
3. 二項選択の問題Ⅱ (プロビットとロジットモデル)
4. EViewsによる分析 (プロビット)
5. Tobit モデルⅠ
6. Tobit モデルⅡ
7. EViewsによる分析 (トビットモデル)
8. カウントデータの分析Ⅰ
9. カウントデータの分析Ⅱ
10. EViewsによる分析 (カウントデータモデル)
11. サンプル選択問題Ⅰ
12. サンプル選択問題Ⅱ
13. EViewsによる分析 (サンプル選択問題)

履修者へのコメント：

[春学期]

計量経済学の理論と実際の応用分析に興味のある学生は是非履修してください。

[秋学期]

実際のマイクロデータ分析に興味があれば是非履修してください。この授業の難点の一つはどうしても積分をある程度利用する必要があることである。履修する前に積分について復習していただきたい。

成績評価方法：

- ・ 春学期の成績は実証分析に関するレポートと期末試験によって決定する。
- ・ 秋学期の成績はEViewsによる実証分析に関する宿題と期末試験によって決定する。
- ・ 一年間の成績は春学期と秋学期を平均し, 決定する。

質問・相談：

[春学期]

クラスページ (urlは授業にて報告する) を通じてレジュメやデータの配布を行う。質問や相談については掲示板で履修者全員が共有できるようにする。

[秋学期]

気楽に mckenzie@econ.keio.ac.jp に問い合わせてください。

経済資料論

(春) 専任講師 赤林 由雄

兼任教授 清水 雅彦

(秋) 教授 辻村 和佑

授業科目の内容：

国民経済における所得(純生産)発生メカニズムに関するマクロ経済分析は、1930年代におけるクズネッツ等による国民所得統計の整備とケインズの一般理論を基礎として発展してきた。同時に、国民経済を一つの経済システムとして捉え、当該経済システムに内在する経済構造の特質を計量的に分析するための理論体系としてレオンチェフの投入・産出分析理論(産業連関分析モデル)が開発された。その後、国民経済の成長と発展に関する経済分析は、国民経済に関する統計データの拡充に伴い、理論モデルの構築にとどまらず理論モデルの現実妥当性を検証する方向を辿ってきた。いわゆる実証理論分析の展開である。

この講義では、まず国民経済に関する実証理論分析のための経済統計データについて、特に国民所得統計から派生した国民経済計算体系(a system of national accounts: SNA)を中心に説明する。SNAは、基礎的な一次統計データ(primary statistical data)を再編・加工した二次統計データ(secondary statistical data)の体系である。したがって、SNAを理解するためには、一次統計データの生成過程についても理解しておく必要がある。本講義では、主要な一次統計データのうち、製造業における事業所の生産活動状況を統計的に補足する「工業統計調査」とその結果である「工業統計表」を取り上げ、その生成過程を説明する。春学期は、主に実物経済面に関する統計データを取り上げるが、秋学期には貨幣経済面を反映した資金循環分析に関わる統計データを取り上げる。

テキスト：

最初の授業時間に指示する。

参考書：

講義資料と併せて適宜指示する。

授業の計画：

取り上げるテーマは、次のようである。

[春学期]

- (1) 国民経済の統計的記述(新SNA)
- (2) 国民所得統計とマクロ経済分析
- (3) 工業統計調査に基づく生産活動統計データ
- (4) 産業関連表と産業構造分析

[秋学期]

- (5) 資金循環表
- (6) 国際収支表
- (7) 家計調査に基づく統計データ

成績評価方法：

春学期末と秋学期末に行う試験ならびにレポートによって総合的に評価する。

質問・相談：

毎授業時間の終了後に受け付ける。

確率・統計

産業研究所教授 新井 益洋

授業科目の内容：

観察によって得られたデータを整理して簡単な知識の形にまとめ、その解釈を助けるかという統計的手法は「記述統計」と呼ばれる。また、観察データの背景に研究目的あるいは仮説としての母集団を想定し、観察データはこの仮説母集団からの無作為標本と見なし、この標本から母集団特性を認識する統計的手法を「推測統計」と呼ぶ。統計学の目的は集団の規則性の探求であるが、この目的のためには、前者

は多くの場面で限界を生じ、後者の新しい統計理論を要請し、これを数学的に整理したものが数理統計学である。

数理統計学は観測されたデータが、何らかの確率的法則にしたがう確率変数の1つの実現値であると見なすことによって、これら进行分析する方法を与える。すなわち、現実の対象に対して1つの確率モデルを想定し、それに基づいてデータを分析する方法である。したがって、数理統計学の手法を有効に適用できるか否かは、想定された確率モデルが現実を適切に表現しているか否かにかかっている。

想定されるモデルがパラメタと呼ばれる未知の要素を含んでおり、確率分布を完全には決定していない。そして、偶然性を含むデータを通して必然的な法則性を知ることは、未知の部分を含む確率分布にしたがう確率変数の実現値から、その分布を決定する確率法則を知ることである。これが数理統計学の方法である。

以上のことを踏まえ、計量経済学や理論を専攻する者にとって最小限必要と思われる内容を講義形式で授業を行う。また、学んだ内容の理解の確認およびその内容をより深めるために、演習を充実させていく。

テキスト：

- ・Harold J. Larson, *Introduction to Probability Theory And Statistical Inference (THIRD EDITION)*, JOHN WILEY & SONS

授業の計画：

1. 集合
2. 確率
3. 確率変数
4. 分布関数と密度関数
5. 確率法則
6. 結合分布
7. 記述統計と推測統計
8. パラメタの推定
9. 仮説の検定

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）
- ・レポート

社会科学基礎論

(春) 助教授 宮内 環
(秋) 商学部教授 早見 均

授業科目の内容：

「社会科学基礎論」では、まず科学の一般的目的と、その目的を達成するために採用されてきた一般的方法について考察する。この考察をふまえ、つぎに自然科学と社会科学の方法を対比させながら、社会科学のなかでも最もよく開拓された経済学の方法を中心に、その適切な分析作法について議論をすすめる。近代科学の進歩には実験が大きな役割を果たしたが、実験が困難な状況では、観測資料の特性にそくして理論を構成したり、理論をふまえての観測の方法を工夫することが不可欠となる。

そこで、春学期は、法則性の把握における実験の意義をまず明らかにし、つぎに実験が困難な場合における法則性把握の作法を、「観測と理論の対応」に焦点をあてながら講義する。秋学期は春学期に解説した基本的な概念がどのように自然・社会両科学の研究の発展に役立っているかを歴史的な例で示しながら理解を深める。科学的方法とはどんなことか、自分のことばで述べることができるようになるのがこの講義の到達目標である。

秋学期はウェブサイトに講義メモを掲載する。

参考書：

- ・小尾恵一郎『計量経済学入門—実証分析の基礎—』日本評論社、1972年
- その他は講義の際に指示する。

授業の計画：

- ウェブサイトに掲載する。
- 秋学期は、以下のURLで参照してほしい。
<http://www.sanken.keio.ac.jp/staff/hayami>

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）（春秋とも）
- ・二回の学期末試験の結果を総合的に評価する。

経済学史 I

助教授 神代光朗

授業科目の内容：

資本制生産様式の経済法則の解明としての政治経済学および経済思想の歴史を、主に17～19世紀を中心にその成立、展開とその批判に焦点をあてて講ずるが、経済学と国民・民族、諸階級、社会・経済体制とその変動などの歴史的・現代的諸問題との関わりにも関心の目を向け、私達をとりまく世界史的な諸問題に資本主義的近代市民社会成立期の過去の経済学説がどのような光をあててくれるのかを、諸君とともに考えながら講義をすすめたい。

テキスト：

特にスタンダードなテキストはない。担当者である私の講義内容そのものが、テキストに該当するものであるからして、履修者は必ず出席をし、ノートを自らとる心掛けをもってほしい。下記の参考書は、それを前提にして学生諸君の理解を補助する通史であるが、いかなる通史のテキストにも一長一短はある。

参考書：

- ・内田義彦『経済学史講義』未来社、1968年（未来社の復刻版もあり）または『内田義彦著作集』（第2巻）岩波書店、1989年、2001年より増刷
- ・早坂忠編『経済学史—経済学の生誕から現代まで—』ミネルヴァ書房、1989年
- ・馬渡尚憲『経済学史』有斐閣、1997年
- ・高橋誠一郎『経済学史略』慶應出版社、昭和27年、又は泉文堂[16刷]

これらは、あくまで参考文献であり、諸君自らが、古典文献を読まれることが何より大切である。なお、他に必要な文献等は、授業中に適宜指示する予定である。

授業の計画：

1. 経済学史の課題と方法。経済学史をどこから始めるか。
2. 重商主義の経済思想
3. 重農学派
4. アダム・スミス、デーヴィッド・リカードゥを中心とする古典派経済学
5. 古典学派の継承とその批判
6. 初期の社会主義と経済学の国民的傾向
7. マルクスの経済学とマルクス主義の普及
8. 経済思想と今日の諸問題

ほぼ、以上の内容の講義を通年で行う予定であるが、学習の理解を深める上で、履修可能な人には私の担当の特殊科目「東欧・ロシア社会経済思想史」の履修を勧めたい。

履修者へのコメント：

基本的には授業への出席、講義内容を自らノートに執り、かつ古典文献や示された参考文献を独自に各人が学習することが不可欠です。大学の専門科目は本来、理論や命題を受動的に習うところではなく、講義にもとづいて、自ら考え、社会認識上の知性を養い、自らの問題意識を形成するように、受講者各人が主体的に努力するところであることを自覚してください。

成績評価方法：

- ・秋学期末試験のみ（定期試験期間内の試験）
- ・平常点（出席状況および授業態度）

基本的には学年末のテスト（筆記）によるが、日常の出席状況等も考慮の対象となる。詳しくは、履修状況をみて、具体的に決める要素もあるので、履修者の確定した段階で明確にする予定である。いわゆる筆記試験は年1回であるが、履修状況に応じて、夏休み前に何らかの課題を課すこともある。また、試験と平常点のバランスはデリケートな問題であり、担当者が各年ごとに判断しているが、単純にパーセンテージのみで決められることではない。肝要なのは、どの程度、講義の内容を理解したかである。

質問・相談：

学問内容についての質問や相談は歓迎するが、評価方法等についての相談や質問は、上に書かれているとおりなので、原則的には応じられない。質問がある時は、授業時間終了時に教室で、出来るだけ、用紙に書いて出すこと（用紙は、各人が用意すること）。その際、学

年・クラス・学籍番号・氏名を必ず記入し、簡潔にすること。

経済学史 II	教授 丸山 徹 教授 中山 幹夫
---------	---------------------

授業科目の内容：

現代の経済理論に関する理解を確認しながら、経済学の主要な史的展開過程を眺望する。

参考書：

- ・ J. Niehans, *A History of Economic Theory*, Johns Hopkins Univ. Press, 1990
- ・ 丸山徹『新講経済原論』岩波書店, 1997年
- ・ 丸山徹『ワルラスとその時代』勁草書房, 近刊

授業の計画：

- I. 1870年前後のヨーロッパ
- II. ワルラスの一般均衡理論
- III. 効用理論の展開
- IV. 英国古典学派と労働価値説
- V. リカードの分配論と限界生産力説
- VI. ジェヴォンズ・マーシャルの経済学
- VII. メンガーの経済哲学と独・奥の経済学
- VIII. 1914年前後のヨーロッパ
- IX. 戦間期ウィーンの数学・哲学・経済学
- X. ゲーム理論の誕生と成長—ノイマンからナッシュまで
- XI. 経済変動の解明
- XII. ケインズとその時代

社会思想	教授 高草木 光一
------	-----------

授業科目の内容：

「自由と排除」「差異と平等」「自立と協同」といった視点から、19世紀を中心に近代社会思想を検討する。以下の順序で講義する予定である。

- 1 「社会思想」の射程
- 2 「近代」の重層的構造
- 3 啓蒙思想とフランス革命
- 4 保守主義・自由主義・民主主義
- 5 フェミニズムとアナキズム
- 6 社会主義と1848年革命
- 7 現代社会への展望

テキスト：

使用しない。

参考書：

適宜指示する。

成績評価方法：

- ・ 試験の結果による評価（秋学期末）
 - ・ レポートによる評価（春学期末）
- レポートを提出しない者は秋学期末試験の受験資格を失い、成績評価をDとする。

社会思想史（秋学期集中）	教授 坂本 達哉
--------------	----------

授業科目の内容：

この講義では、「初期近代 (early modern)」と呼ばれるルネッサンス・宗教革命から啓蒙主義までのおよそ300年間の社会思想の展開を詳細に追跡する。思想家ごとのテキスト分析と歴史的背景の概観を踏まえながら、経済学をはじめとする人間・社会の学としての社会科学が近代社会思想として生誕するまでのスリリングな動態を明らかにする。

テキスト：

特に用いない。

参考書：

適宜、講義レジュメと参考文献表を配布する。

授業の計画：

序 社会思想と社会科学

- 1 「近代」とは何か—自由・国家・市場—
- 2 古典的共和主義とマキアヴェリ
- 3 プロテスタンティズムの思想とルター・カルヴァン
- 4 科学革命の社会思想的意義
- 5 近代自然法学の生誕と社会科学の発端
- 6 古典的市民社会論の成立—ホッブズ、ロック
- 7 初期啓蒙と文明社会論の出現
- 8 フランス啓蒙とスコットランド啓蒙
- 9 ヒュームにおける文明社会論の確立
- 10 スミスにおける経済学の成立
- 11 アメリカ革命とフランス革命—現代へのメッセージ

成績評価方法：

学期末試験の結果と出席率を総合して判定する。

日本経済史（春学期集中）	教授 杉山 伸也
--------------	----------

授業科目の内容：

本講義では、17世紀の徳川幕府成立前後の時期から1970年代まで約400年にわたる日本経済の変化をマクロ的に概観する。講義では、特に日本の経済発展の国際的・国内的環境と発展のメカニズムの解明に重点をおき、民間経済の動向とともに、政府の対外政策、財政・金融政策、産業政策について考察する。

この授業は、Web上で配信された講義の予習を前提とするもので、実際の授業では、特定のテーマに関する講義、グループ・ディスカッションおよびグループ・プレゼンテーション、ビデオ鑑賞を行う。

参考書：

- ・ 中村隆英『日本経済』（第3版）東京大学出版会
- ・ 新保博『近代日本経済史』創文社
- ・ 梅村又次他編『日本経済史』全8巻、岩波書店
- ・ 安藤良雄『近代日本経済史要覧』（第2版）東京大学出版会

授業の計画：

講義は、以下のテーマにそって、最近の論争も紹介しながらすすめる。なお、授業のレジュメは、ホームページで公開している。

- (1) 日本経済史へのアプローチ：最近の研究動向
- (2) 徳川期の経済システムと「鎖国」体制
- (3) 徳川幕府の財政・経済政策：17～18世紀前半期の政治と経済
- (4) 徳川期の農業発展と商業的農業の展開
- (5) 徳川期における市場経済化の進展
- (6) 徳川社会の崩壊：19世紀前半期の政治と経済
- (7) 幕末「開港」の国際的背景と経済的影響
- (8) 明治初期の財政・経済政策：「由利財政」から「大隈財政」へ
- (9) 明治政府の工業化政策
- (10) 1870年代の政治と経済：「大隈財政」から「松方財政」へ
- (11) 1880年代の政治と経済：「松方財政」から「企業勃興」期へ
- (12) 「日清戦後経営」と条約改正
- (13) 「日露戦後経営」と国際収支の悪化
- (14) 日清・日露戦後経営期の日本経済
- (15) 日本の「公式」「非公式」帝国：台湾と朝鮮の植民地化
- (16) 第一次世界大戦と日本経済
- (17) 大震災から金融恐慌へ：1920年代の日本経済
- (18) 「井上財政」と世界恐慌
- (19) 「高橋財政」と1930年代の日本経済
- (20) 1930年代後半期の日本経済：政府と民間企業
- (21) 「準戦時体制」「戦時体制」下の日本経済
- (22) 「戦後改革」から高度経済成長の時代へ：戦前・戦後の連続と断絶

履修者へのコメント：

Web講義へのアクセス方法など授業のすすめ方については、4月12日の最初の授業の際に説明するので、履修を希望する受講者はかならず出席すること。履修者数は最大100名を予定しているので、受講者を制限することもある。

講義に関して詳しくは、<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/sugiyama/>を参照すること。

成績評価方法：

Web講義の学習状況、レポート、プレゼンテーション、出席、春

学期末試験などを考慮して、総合的に評価する。

質問・相談：

授業ホームページの「掲示板」、または e-mail で受け付ける。

欧米経済史 (秋学期集中)

助教授 飯田 恭

授業科目の内容：

古代から近代に至るヨーロッパの社会経済史について、「農村」を中心に考察する。ヨーロッパの史的発展の世界史における特異性と、その地域的多様性の根源を、農村史の中に探求することを主たる目標としたい。具体的な講義内容はおよそ以下の通りである。

I. 序論

1. 本講義の課題
2. 研究史と本講義の基礎視角
 - 2.1 発展段階の理論
 - 2.2 農業発展の「二つの道」(アメリカ型・プロシア型) ないし「ドイツの特殊な道」
 - 2.3 「ヨーロッパの特殊な道」(西欧・中欧と東欧との比較)

II. 古代農村の概観

1. 農業の発達と母系制・父系制
2. 古代ローマと古ゲルマン

III. 中世・近世の農村 (5～18世紀)

1. 西欧・中欧：封建的農業発展
 - 1.1 封建的農業制度の構造
 - 1.1.1 領主制
 - 1.1.2 村落共同体 (含：ヨーロッパ農業の自然的基礎)
 - 1.1.3 農民世帯＝「西洋家族」：夫婦中心の家族、新居制、相続・隠居制、奉公人制
 - 1.2 封建的農業制度の歴史
 - 1.2.1 中世初期における封建的農業制度の生成
 - 1.2.2 中世盛期の農業・人口発展
 - 1.2.3 中世後期の危機
 - 1.2.4 近世ヨーロッパ農業の二元性：Grundherrschaft と Gutsherrschaft
 - 1.2.5 相続制度の分布：“the egalitarian and lineal extreme” と “the préciput and household extreme”
 - 1.3 封建的農業制度の特質
 - 1.3.1 農村階層分化：土地商品化以前の「階級社会」
 - 1.3.2 土地保有許否の基準：家系 (世襲性) の維持か、土地 (経営) の維持か？
2. 東欧 (ロシア) の農業発展：西欧・中欧との対比
 - 2.1 農奴制の成立と展開
 - 2.2 ミール共同体：土地割替慣行の成立と展開
 - 2.3 農民世帯：父系制、財産共有、養子慣行など
3. 西欧・中欧と東欧との比較
 - 3.1 「近代化」への含意
 - 3.2 「資本主義化」への含意

IV. 近代の農村 (18世紀後半以降)

1. 西欧・中欧における農民解放：農業における自由と個人主義
 - 1.1 「農民解放」の概念
 - 1.2 イギリスの場合
 - 1.3 フランスの場合
 - 1.4 ドイツの場合
2. 東欧における農業進化：ロシア農村の共産主義化

V. 補論：ヨーロッパと日本

テキスト：

特に定めない。

参考書：

講義で一覧表を配布するほか、可能な限り三田図書館リザーブブックのコーナーに陳列する。

成績評価方法：

- ・学期末試験 (定期試験期間内の試験)
- その他、レポート (書評形式) を課すことがありうる。

欧米経済史

名誉教授 岡田 泰男

授業科目の内容：

アメリカ経済史を講義する。

1. 発展の概観
2. 人口と資源
3. 南部と北部
4. 工業化の道
5. 資本と企業
6. 労働者と移民
7. 女性の役割
8. 農民のゆくえ
9. 都市の成長
10. 政府と経済
11. 国際経済

以上のトピックを扱う。

テキスト：

・岡田泰男『アメリカ経済史』慶應義塾大学出版会

授業の計画：

春学期は授業科目の内容の 1～5., 秋学期は 6.～11. を扱う予定。

成績評価方法：

- ・授業内試験の結果
- 年数回、授業内試験を行う。

アジア経済史 (春学期集中)

教授 古田 和子

授業科目の内容：

近代東アジアを中心とするアジア経済史を講義する。急激な変化を遂げつつあるアジア経済を理解するためにも、アジア諸地域の社会経済構造を長期的なタイムスパンのなかで検討する必要性は高まっているといえよう。

講義の前半部では、「比較」という視点を念頭に置いて、国民国家とは異なる統合原理を備えていた中華世界の特徴を考察していく。18世紀以降増加し続ける巨大な人口を支えてきた中国経済とは、一体どのようなタイプの経済であったのかを検討していきたい。前半で取り上げるテーマは、なぜアジア経済史なのか、アジア観の変遷、世界帝国 VS. 国民経済、中華帝国経済とは、人口の長期変動、人口・開発・環境、農業生産と小農経済論、手工業の展開、貨幣制度、地域と国家、制度としての仲介、などである。

後半では、「関係」という視点から、中国・日本・東南アジア・南アジアなど、近代におけるアジア諸地域間の国際経済史を検討していく。後半で取り上げるテーマは、東アジア銀経済圏、アジア三角貿易、開港と中華世界周辺部の変容、上海ネットワークと近代日本、境域の経済秩序と通貨圏の選択、アジア国際分業体制、植民地経済構造、中国—東南アジア間の華僑を中心とした労働力移動および送金ネットワーク、上海・香港・シンガポールの経済史的役割、両大戦間期のアジア経済と世界経済などである。

参考書：

- ・杉原薫『アジア間貿易の形成と構造』ミネルヴァ書房
- ・古田和子『上海ネットワークと近代東アジア』東京大学出版会
- その他、随時紹介する予定

成績評価方法：

- ・学期末試験 (定期試験期間内の試験)
- ・平常点 (出席状況および授業態度)

工業経済論

教授 渡辺 幸男

授業科目の内容：

春学期は日本の工業を中心に、工業の構造的把握の視点の提示とその具体的応用を行う。秋学期は工業を経済的把握の際に不可欠ないくつかの論点について、日本の工業を中心に論じる。

参考書：

- ・井村喜代子『現代日本経済論 [新版] 戦後復興、「経済大国」90年代大不況』有斐閣、2000年
- ・渡辺幸男『日本機械工業の社会的分業構造 階層構造・産業集積からの下請制把握』有斐閣、1997年
- ・渡辺幸男『大都市圏工業集積の実態 日本機械工業の社会的分業構造 実態分析編 1』慶應義塾大学出版会、1998年
- ・渡辺・小川・黒瀬・向山『21世紀中小企業論 多様性と可能性を

探る』有斐閣，2001年

・(社)中小企業研究センター編『産地解体からの再生 地域産業集積「燕」の新たな道』同友館，2001年

授業の計画：

〔春学期〕

I. 工業経済把握のために

1. 工業とは何か 分業 機械制工業
2. 産業分類の方法
3. 日本の業種分類
4. 戦後日本の状況と戦後時期区分

II. 日本を例にした産業構造 工業構造の把握方法の紹介

5. 日本産業の中の工業の位置 大きさと位置
6. 重化学工業と軽工業 重化学工業化概念への疑問
7. 生産量の拡大と労働生産性 史上稀に見る量的急拡大の持続
8. 用途別，需要別分析視点1 耐久消費財と資本財中心の拡大
9. 用途別，需要別分析視点2 民間投資需要と輸出需要の主導
10. 対外関連1 輸出依存の意味
11. 対外関連2 輸入依存
12. 対外関連3 資本と技術

〔秋学期〕

III. 社会的分業構造分析

1. 社会的分業の論理
2. 大企業と中小企業の共存の実態
3. 大企業と中小企業の関係 企業間取引関係把握の論理1
内製と外製 垂直的統合 機会主義と取引コスト
4. 大企業と中小企業の関係 企業間取引関係把握の論理2
下請系列関係の形成の論理，下請系列関係の解体の論理

IV. 産業集積と地域間分業

5. 産業集積の論理
6. 産業集積の実態と意味の差異
日本を例に1
7. 産業集積の実態と意味の差異
日本を例に2
8. 産業集積のあり方の変化

V. 春と秋の総括

9. 国内完結型から東アジア化1
「産業空洞化」論をどうみるか
10. 国内完結型から東アジア化2
中国工業の発展の状況
11. 国内完結型から東アジア化3
日本工業の今後 燕を通して考える

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）（春秋とも）
- ・平常点（出席状況および授業態度）

春・秋の学期末試験と出席（遅刻は出席ではない）の評価を加味して評価する。ただし，期末試験は，それぞれ45%のウエイト，出席点は20%のウエイトである。合計40点以上が合格，60点以上80点未満がB，80点以上がAと評価される。

農業経済論

教授 寺 出 道 雄

授業科目の内容：

この講義では，現代の農業問題を理解するための基礎について述べる。

参考書：

最初の授業でおおまかに参考文献を紹介し，個別の問題については，その話題にふれるごとにやや詳しく紹介する。

授業の計画：

1. 農業問題理解のための基礎知識
植物の物質生産 土壌と地力 気候と農業
2. 農業の発展
農業の開始と伝播 西欧の伝統的農業 西欧農業の近代化
日本の伝統的農業 日本農業の近代化
3. 現代農業
現代の先進国農業 現代の日本農業 農業保護政策

4. 食料と人口

現代の食料問題 環境と農業

以上の話題のそれぞれのなかで，農業経済論の応用経済学的な面についてもふれていく。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）
- ・授業内試験の結果

学年末試験とともに，授業中の小テスト・出欠等にもとづいて行う。小テスト合格は，単位取得の必要条件である。詳しくは第一回目の授業で説明する。

質問・相談：

講義後に質問を受ける。時間を要する質問については，その際時間を指定する。

産業組織論

教授 中 澤 敏 明

授業科目の内容：

産業組織論 (Industrial Organization) は，1930年代の経済不安定期に，経済問題に対処するために登場した研究分野の一つである。そもそもは，予定調和的市場観とは出自を異にし，大企業の市場支配力・市場における寡占性・交渉力における力の非対称性などから問題が発生する可能性を市場観として持っている。しかし，これに根底から反駁し，市場機能は大企業・寡占性などによってスポイルされないと固く信じ，その哲学をつよく唱導する立場が，勢いを増し，両市場観の討論を通じて，成長した。さらに，これにゲーム論を武器に，さまざまなモデルから，現実への視覚を豊富にする，New IOの参入をみることとなった。この講義では，企業行動の諸相をとりあげ，どのような見方があるかを紹介する。先行研究を基礎に，履修者自らの市場観形成と分析手法の学習につながれば幸いである。

テキスト：

指定しない。それぞれのテーマにかかわる資料をクラスで配布。

参考書：

- ・小田切著『新しい産業組織論』有斐閣
 - ・ロジャー・クラーク『現代産業組織論』多賀出版
 - ・ウイリアムソン『市場と組織』日本評論社
 - ・ミルグロム・ロバーツ『組織の経済学』NTT出版
 - ・Stephen Martin, *Advanced Industrial Economics*, Blackwell
 - ・Prajit k. Dutta, *Sytrategies and Games*, MIT Press
 - ・F.M. Scherer, *Industrial Market Structure and Economic Performance*, Mifflin
 - ・Wolfstetter, *Topics in Microeconomics*, Cambridge
 - ・Gibbons, *Game Theory for applied economics*, Princeton (福岡・須田訳)
 - ・Axelrod, *The Complexity of Cooperation*, Princeton
 - ・Carrol and Hannan, *Organization in Industry*, Oxford
 - ・J. Tirole, *The Theory of Industrial Organization*, MIT
- その他の参考文献は，テーマ毎にクラスで紹介する。

授業計画：

1. 産業組織論の系譜
2. ペインのトライコトミー・アプローチの評価
3. 市場構造の諸指標と市場観
4. 市場の画定と審判・裁判例
5. 費用構造（規模・範囲・学習曲線・劣加法性）
6. 代表的市場モデルの均衡と現実
7. 水平合併の原因・厚生の帰結
8. 垂直合併の原因・帰結と企業評価
9. 企業の本質論
10. 製品差別性と均衡
11. カルテルの安定性
12. 新規参入をめぐるゲームと現実の参入
13. コンテストابل・マーケット論の評価
14. オークションにおける取引
15. コーポレート・ガバナンスの仕組み
16. 独禁法とIOのアプローチ

履修者へのコメント：

- 1) 担当者の市場観に同調する必要は全くない。
- 2) 数式が登場するが、演算が不得意でも履修不可能ではない。

成績評価方法：

- ・学期末試験
- ・クラスの中で行うクイズ（ミニ試験）

質問・相談：

授業の後に受け付ける。メールによる質問は受け付けていない。

労働経済論（秋学期集中）

教授 島田 晴雄

授業科目の内容：

本講義では、労働に関する諸問題を経済の基礎理論をふまえ、現実の日本経済の制度や政策課題を広い観点から多面的に考察する。

とりわけ、深刻な低迷に陥っている日本経済の現状を詳細に観察検討し、日本経済の新しい可能性はどこにあるのか、また、その可能性を現実のものとするにはどのような課題を克服しなくてはならないか、そのための政策手段は何かなどを考える。

テキスト：

- ・島田晴雄『雇用を創る構造改革』日本経済新聞社
- ・島田晴雄『めしのタネ発見地図 ビジネスチャンスが変わった』かんき出版
- ・島田晴雄（共著）『日本を元気にする健康サービス産業』東洋経済新報社
- ・島田晴雄・吉川洋（共著）『痛みの先に何かがあるのか』東洋経済新報社
- ・島田晴雄『日本の雇用』筑摩書房

参考書：

- ・島田晴雄『明るい構造改革』日本経済新聞社
- ・島田晴雄『日本経済 勝利の方程式』講談社
- ・島田晴雄『日本再浮上の構想』東洋経済新報社
- ・島田晴雄（編著）『労働市場改革』東洋経済新報社
- ・島田晴雄『住宅市場改革』東洋経済新報社

履修者へのコメント：

例年、本講義には多くの履修申告者があるが、その中には講義をしっかり聴講せず学習意欲や履修態度に問題のある者も少なからず散見されるので、こうした諸君を排除し、熱心な学生諸君を選別するために、講義期間の前段で数回の「打ち直しテスト」を行う。これらのテストを受けなかった者あるいはそのテストの成績が著しく低かった者については、期末試験受験資格を与えないことも考える。したがって安易な気持ちで履修する諸君は、はじめから本講義を履修しないことを勧めたい。

社会政策論

助教授 山田 篤裕

授業科目の内容：

労働政策と社会保障を包摂する社会政策について、①経済社会の発展とともにどのように整えられてきたのか日本を中心に振り返るとともに、②制度を分析する際に必要な経済理論、③今日の政策体系および直面している問題について学びます。

参考書：

- ・Barr, Nicholas, *The Economics of the Welfare State (4th edition)*, Oxford University Press, 2004
 - ・駒村康平『福祉の総合政策（新訂二版）』創成社、2004年
 - ・厚生労働省『厚生労働白書』
- これ以外については、各回で紹介します。

授業の計画：

春学期（総論）

- 年間計画と授業の進め方
- 日本における社会政策研究の系譜
- 社会政策と経済学
- 労働政策と社会保障の概略史
- 社会保障の機能と体系
- 福祉国家の危機
- 貧困と不平等の概念と測定

秋学期（各論）

- 労働政策（労働基準）
- 労働保険（雇用保険と労働者災害補償保険）
- 年金保険
- 医療保険
- 介護保険
- 住宅政策
- 保育政策
- 結論

履修者へのコメント：

一年間の講義により、経済社会との関連において社会政策の意義やあり方を体系的・分析的に捉え、さまざまな改革案の是非について有権者のひとりとして判断できるようになってほしいと思います。

成績評価方法：

- ・学期末試験（春秋とも）

経済政策論

教授 大村 達弥

授業科目の内容：

戦後わが国は日本型経済システムの下で右肩上りの発展を経験してきたが、グローバル経済の環境変化への対応が遅れ金融・財政、産業の各方面で大きな壁に直面している。構造改革の名の下に様々な政策が取られてきたがそれらは正しいのか。

講義の前半は政策を学ぶ上で必要な理論体系として効率・公正基準、市場の失敗、目的と手段等経済政策に関する基礎的理論を、後半は経済構造改革政策を中心に、現代の経済政策の現状と背景について講義する。余裕があれば政策の意思決定に関する理論を講義する。なお積極的な学習を促すため、具体的な政策をテーマにレポートの提出を求める。

テキスト：

指定なし

参考書：

講義の進行に合わせて、授業中に指示する。

授業の計画：

1. 政策理論基礎編
 - ① 効率・公正、正義の理論
 - ② 政策目的と手段
 - ③ 市場の失敗と政府の失敗：公共財、外部経済、規模の経済、情報の非対称性
2. 現代の経済政策
 - ① 構造改革政策の歩みとその目的・意義
 - ② 戦後日本の経済構造とその形成の歴史的背景
 - ③ 構造改革政策各論：金融・財政、規制緩和、産業政策
3. 政策理論
 - ① 政策の意思決定過程
 - ② 公共選択

成績評価方法：

- ・学期末試験 春学期末および秋学期末に実施
 - ・レポート 年2回予定
- 最終評価はレポートと各期末試験の結果をほぼ1:1:2のウエートで総合する。

質問・相談：

授業時間外はメールで受け付ける。

財政論

教授 飯野 靖四

授業科目の内容：

財政論には国の財政を扱う（国家）財政論と地方自治体の財政を扱う地方財政論があるが、この授業では主として国の財政を扱う。また財政を扱う方法には、経済理論を利用して分析するアメリカ型の財政論、制度論にもとづいて分析するドイツ系財政論、マルクス主義理論にもとづいて分析するマルクス主義系財政論があるが、この授業では前者2つの財政論をミックスした形で講義する。

具体的には歳入面では税金（所得税、法人税、消費税、財産課税など）と公債、歳出面では公共財、年金、医療、介護の問題を中心にし

て講義を行う。なお担当者は30年間にわたってスウェーデンとかかわっているため、日本との対比においてスウェーデンのケースを多く扱う。4月後半から5月はじめにかけてスウェーデン・ルンド大学のエリック・ノーマン先生にスウェーデンの財政・税制について講義していただくことを予定している。

テキスト：

使用しない。この授業の単位を取得するためだけでなく、授業に出席するだけで十分である。

参考書：

- ・『図説 日本の財政』東洋経済新報社
- ・『図説 日本の税制』財経詳報社

授業の計画：

- | | |
|---------------------------|--------|
| 1. 財政論の種類 | (1回) |
| 2. スウェーデンの財政と税制 | (2回) |
| 3. なぜ政府が民間市場に介入するのか | (1回) |
| 4. 政府の仕事 | (1回) |
| 5. 公共財とは何か | (1.5回) |
| 6. 日本の税制、特に所得税制 | (4回) |
| 7. 法人税（国際課税も含む） | (2回) |
| 8. 日本の消費税 | (1.5回) |
| 9. 公債の理論 | (2回) |
| 10. 日本の社会保障制度
年金、医療、介護 | (4回) |
| 11. いわゆるフィスカルポリシー | (2.5回) |
| 12. 環境税 | (1.5回) |
- (回数はあくまで目安である)

履修者へのコメント：

とにかく授業に出席して講義を聞いてほしい。またそのような諸君を優遇したいと考えている。授業時間中の飲食、携帯電話は遠慮してほしい。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価（定期試験期間内の試験）
- ・平常点（出席状況および授業態度）（履修者が250人以下の場合には、こちらのほうがとりたいと考えている）

質問・相談：

できたら授業の直後がベストである。Eメールによる質問・相談は顔が見えないので余り好まない。

金融論	(春) 教授 吉野 直行
	(秋) 教授 塩澤 修平

授業科目の内容：

[春学期]

日本の資金循環、各経済主体の金融活動、資産価格の変動、債券市場・株式市場、為替レートの動きについて、制度・データなどを用いた計量的な観点から概説する。

[秋学期]

金融市場、金融政策、国際金融、金融派生商品について、主として理論的な観点から概説する。

テキスト：

[春学期]

使用しない。

[秋学期]

- ・塩澤『現代金融論』創文社、2002年

参考書：

[春学期]

- ・吉野直行・高月昭年『入門・金融』有斐閣
その他の参考文献は、講義の中で説明する。

[秋学期]

適宜指示する。

授業の計画：

[春学期]

- 主な講義内容は以下の通りである。
- (1) 日本の資金循環の変遷
 - (2) 金融機関の種類とその役割

- (3) 家計の金融行動
 - (4) 企業の金融行動
 - (5) 政府の国債発行等による金融活動
 - (6) 銀行貸出と銀行行動
 - (7) 債券市場・株式市場
 - (8) 為替レートの決定とアジア通貨危機
 - (9) 金融政策手段
 - (10) 財政政策と金融政策
 - (11) マクロ経済政策と金融
- 以上が主な内容である。

[秋学期]

1. 貨幣需要のマクロ的定式化
2. 貨幣需要のミクロ的基礎
3. 債券価格と利子率
4. 株式価格
5. 効率的証券市場と金融契約
6. 金融政策の目的と手段
7. IS-LM 分析と金融政策
8. 物価水準と金融政策
9. 外国為替と国際金融市場
10. 為替レートの決定
11. 開放マクロ経済学と金融政策
12. 金融派生商品の一般的特質
13. 金融派生商品の価格決定

日本経済システム論 教授 池尾 和人

授業科目の内容：

[春学期]

日本の経済システムの制度的特質を、民間の企業システムと政府・企業間関係のあり方を中心に講述する。最初には、そのために必要な経済理論の基礎を解説する。

[秋学期]

日本の経済システムの抱える政策的課題を、制度面とマクロ面にわたって現代経済学の立場から考察する。関連する経済学的知識の復習も含む。

テキスト：

特になし（毎回の講義の際にレジュメを配布する）。

参考書：

[春学期]

- ・宮本光晴『企業システムの経済学』新世社、2004年
- ・池尾和人・黄圭燦・飯島高雄『日韓経済システムの比較制度分析』日本経済新聞社、2001年

[秋学期]

- ・岩本康志・他『経済政策とマクロ経済学』日本経済新聞社、1999年
- ・池尾和人『銀行はなぜ変わらないのか—日本経済の隘路』中央経済論新社、2003年

授業の計画：

[春学期]

1. 分析視角
- I. 経済学的準備
2. リスク・シェアリング
3. 契約と誘因両立性
4. 企業の理論
- II. 日本の企業システム
5. 日本の企業組織
6. 日本的雇用慣行
7. 日本的生産システム
8. 系列と長期取引
9. 株式持ち合い
10. メイン・バンク制
- III. 政府—企業間関係
11. 市場と政府活動
12. 日本の政策決定過程

〔秋学期〕

- I. 市場経済の制度的基盤
 - 1. 政策の経済的制約
 - 2. 税制と制度間競争
 - 3. セーフティネット
 - 4. 金融・資本市場
- II. マクロ経済学の復習
 - 5. マクロ経済学の新展開
 - 6. 新しい経済成長論
- III. 日本経済のマクロ的諸側面
 - 7. 貯蓄行動
 - 8. 投資行動
 - 9. 財政赤字
 - 10. 経常収支
 - 11. マネー・サプライ
 - 12. 日本経済の課題

成績評価方法：

成績の評価は、学期末に試験を実施し、その得点による。出席点は特に考慮しない。

現代日本経済論

教授 北村 洋基

授業科目の内容：

1970年代以降現在までの日本経済の展開を跡づけるとともに、それぞれの時代の評価、別の選択肢の可能性についても検討する。

最後に、日本経済の課題と展望を考察する。

テキスト：

テキストは使用しない。レジュメ・資料を配布する。

参考書：

- ・北村洋基『情報資本主義論』大月書店
- ・井村喜代子『現代日本経済論』有斐閣
- その他適宜指示する。

授業の計画：

はじめに

- 第1章 日本をとりまく内外環境の変化 — 1970年代
- 第2章 70年代危機への日本の対応
- 第3章 80年代前半の日本経済
- 第4章 日本経済のバブル好景気化
- 第5章 平成大不況第一局面（1990—97年春）
- 第6章 平成大不況第二局面（1997年春—2000年）
- 第7章 平成大不況第三局面（2001年—）
- 第8章 日本経済の現段階
- 第9章 日本経済の課題と展望

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）（春秋とも）
- ・平常点（出席状況および授業態度）

日本資本主義発達史

教授 柳 沢 遊

授業科目の内容：

本講義は、第2次世界大戦後の日本経済の展開を、日本資本主義の形成・発展・成熟・変容という視角から講述する。戦後日本資本主義の動態を、資本—賃労働関係、都市中間層問題、産業集積の展開、農業問題に焦点をあてて考察し、世界史的にも異常な速度で経済復興を遂げた社会的経済的要因を歴史的に究明していきたい。

テキスト：

- ・森武磨ほか『現代日本経済史』有斐閣Sシリーズ

参考書：

- ・原朗編『復興期の日本経済』東京大学出版会
- ・橋本寿朗『戦後の日本経済』岩波書店

授業の計画：

- (1) 日本資本主義発達史の課題と方法 (1回)
- (2) 戦時日本経済をどう見るか
—「40年体制」論の一面性— (3回)
- (3) 戦後改革と経済復興—「経済民主化」の歴史的文脈— (3回)

- (4) 1950年代の日本資本主義—重化学工業化の開始— (2回)
- (5) 大衆消費社会の形成と高度経済成長（春学期終了） (4回)
- (6) 「ジャパン・アズ・ナンバーワン」時代の光と影 (3回)
- (7) 「平成バブル経済」の膨張
—戦後日本資本主義の「過熱」化— (3回)
- (8) 「失われた十年」はなぜ生じたか。 (2回)
- (9) 21世紀の日本資本主義
—まとめにかえて—（秋学期終了） (3回)

履修者へのコメント：

「現代日本経済論」や「日本経済史」もあわせて履修していただくと、いっそう理解が深まります。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・レポートによる評価

質問・相談：

2ヶ月に1度、質問カードを配布し、質問内容を直接書く機会を設ける。

現代資本主義論

教授 渡 辺 幸 男

授業科目の内容：

春学期は現代の個別資本をどのように把握すべきか、その把握にもとづく合意を明らかにする。秋学期は現代資本主義経済の再生産をどのように把握すべきかを明らかにする。

参考書：

〔春学期〕

- ・北原勇『現代資本主義における所有と決定』岩波書店、1984年
- ・渡辺・小川・黒瀬・向山『21世紀中小企業論』有斐閣、2001年

〔秋学期〕

- ・北原勇『独占資本主義の理論』有斐閣、1977年
- ・『資本論体系第10巻 現代資本主義』有斐閣、2001年
- ・『シリーズ現代中国経済1 経済発展と体制移行』名古屋大学出版会、2002年

授業の計画：

〔春学期〕

- I. 巨大企業の所有構造とその意味
 - 1. 日本の巨大企業の所有構造 — その実態 —
 - 2. 主要国の巨大企業の所有構造 — その実態 —
 - 3. 巨大企業の所有構造と企業行動についてのいくつかの論点
- II. 現代の中小企業 大いなる期待と実態
 - 1. 日本の中小企業・ベンチャー
 - 2. シリコンバレーとは
 - 3. サクセニアン議論を巡って
 - 4. 中小企業・ベンチャーをどのように把握するか
 - 5. 現代資本主義と産業集積
 - 6. 大量生産体制から、柔軟な専門化への転換？
 - 7. 独占資本主義論とベンチャー・中小企業
- III. 所有構造の変化と独占的市場の液状化（？） その意義

〔秋学期〕

- I. 現代資本主義と停滞基調
 - 1. 現代資本主義論の位置
 - 2. 資本主義の一般理論
- II. 現代資本主義の経済的基礎理論
 - 1. 独占資本主義とは
 - 2. 独占資本主義における停滞基調・過剰の慢性化
 - 3. 停滞基調を打破する要因 新生産部門と対外膨張、そして後進工業化国の発展
- III. 戦後資本主義をどう見るか
 - 1. 国家独占資本主義論
 - 2. IMF・GATT体制と冷戦
 - 3. 現代資本主義の変質と新しい自体・新しい矛盾の展開
 - 4. 世界経済のグローバル化のなかでのアジアの発展の意義
- IV. 現代資本主義と日本経済の展望

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）（春秋とも）

・平常点（出席状況および授業態度）

春・秋の学期末試験と出席（遅刻は出席ではない）の評価を加味して評価する。ただし、期末試験は、それぞれ45%のウエイト、出席点は20%のウエイトである。合計40点以上が合格、60点以上80点未満がB、80点以上がAと評価される。

経済体制論

助教授 駒形哲哉

授業科目の内容：

「経済体制」とは制度の体系を指す。制度の体系は、生産力の発展と相互に関連的に作用しあいながら変化する。同時にそれは歴史的な条件や地政学的条件にも左右される。それゆえ、理論次元での考察が重要であることは事実であるにしても、経済体制がさまざまな具体的な諸条件に規定されている以上、ある特定の対象を定め、それを中心に、あるいはまたそれを起点に論じていくことにも十分意味があることと考えられる。そこで本講義では、経済発展と体制移行が並行して進む中国を中心に、移行と発展の意味について論じる。

テキスト：

・中兼和津次『経済発展と体制移行』名古屋大学出版会、2002年
このほか必要に応じて講義資料を配布する。

参考書：

講義のはじめに紹介する。

授業の計画：

〔春学期〕

- 第1回 概要説明（秋学期科目「現代中国経済論」のガイダンスも合わせて行う）
- 第2回 なぜ現代社会主義は生まれたのか
— 社会主義体制成立の理論的・歴史的背景①
- 第3回 なぜ現代社会主義は生まれたのか
— 社会主義体制成立の理論的・歴史的背景②
- 第4回 現代社会主義国は一つの会社か— システム論的接近①
- 第5回 現代社会主義国は一つの会社か— システム論的接近②
- 第6回 現代社会主義の枠内での経済改革— ソ連・東欧の場合
- 第7回 毛沢東モデルには経済合理性はなかったのか— 中国社会主義の特徴
- 第8回 システム論から中国の「社会主義市場経済」を解釈する
- 第9回 授業内小レポート
- 第10回 体制移行の比較
— 漸進主義と急進主義とどちらが現実的か①
- 第11回 体制移行の比較
— 漸進主義と急進主義とどちらが現実的か②
- 第12回 体制移行の比較
— 漸進主義と急進主義とどちらが現実的か③
- 第13回 春学期のまとめ

〔秋学期〕

- 第14回 中国経済はどのように発展してきたのか①
- 第15回 中国経済はどのように発展してきたのか②
- 第16回 中国経済はどのように発展してきたのか③
- 第17回 中国経済はどのように発展してきたのか④
- 第18回 中国経済はどのように発展してきたのか⑤
- 第19回 授業内小レポート
- 第20回 体制転換の可能性はどこに
— 中間層は中国を変えるか①
- 第21回 体制転換の可能性はどこに
— 中間層は中国を変えるか②
- 第22回 体制転換の可能性はどこに— ITは中国を変えるか①
- 第23回 体制転換の可能性はどこに— ITは中国を変えるか②
- 第24回 体制転換の可能性はどこに— 体制維持か転換か①
- 第25回 体制転換の可能性はどこに— 体制維持か転換か②
- 第26回 秋学期のまとめ

成績評価方法：

小レポートと期末筆記試験により決定する。

世界経済論

教授 竹森俊平

授業科目の内容：

本講義では、金本位制が確立した19世紀後半から現代までの世界経済の流れを、特に金融面に注目して解説する。1930年代の大恐慌の経験が、今日、日本が陥っている景気不振を理解する上で参考になることは拙著『経済論戦は甦る』で説明した。しかし、19世紀後半の世界経済も貿易、金融の面でのグローバル化と、世界的同時デフレが進行していたという点で、今日との重要な類似性を持つので、詳しく検討する。つまり、本講義は、イベントを理解するための用具として経済理論とともに、歴史的なパースペクティブを重視するのである。

なお、講義の内容は日吉で担当している「世界経済の現状と問題」とはまったく異なり、第一部「バイメタリズムと金本位制」、第二部「世界大恐慌」、第三部「ブレトンウッズ体制とそれ以降」という、クロノロジカルな三部構成で成り立つ。この講義内容に沿った著作を計画中であるが、とりあえず参考書として次の3点を挙げておく。

- ・Barry Eichengreen, *Globalizing Capital*, Princeton University Press
- ・拙著『世界経済の謎』東洋経済新報社
- ・拙著『経済論戦は甦る』東洋経済新報社

国際貿易論

教授 若杉隆平

授業科目の内容：

本授業は、国際貿易（直接投資を含む）に関して、以下に示す内容をカバーする標準的な講義シリーズである。この分野での勉学を深めたい学生諸君にとっての入門コースを目的とする。

1. Ricardoの貿易理論
生産技術の差異が国際貿易の理由となることに注目したりカードによる貿易理論をもとにして、比較優位と生産技術の関係、交易条件と貿易均衡について紹介する。
2. ヘクシャー＝オリーンの貿易理論
生産要素の賦存状況の差異が国際貿易の理由となることに注目したヘクシャー＝オリーンの貿易理論をもとにして、要素集約度と比較優位、貿易均衡、要素賦存量の変化と貿易均衡（リプチンスキー定理）、財価格の変化と要素価格の関係（ストールパー＝サミュエルソン定理）などを取り上げる。
3. 貿易均衡
自由貿易における生産、消費者利益、交易条件の変化と貿易利益、経済成長・イノベーションと貿易利益、貿易均衡の安定性・不安定性など、貿易均衡に関する主要な概念を紹介する。
4. 特殊要素モデル
財と生産要素が特殊な関係を有する場合の貿易モデルを取り上げ、財価格の変化、特殊な生産要素量の変化、共通的な要素量の変化が貿易均衡に与える効果について紹介する。
5. 完全競争市場の下での貿易政策
競争市場のもとでの政府の通商政策がもたらす諸効果を紹介する。具体的には、輸入関税、輸入数量制限、輸出税、貿易に関する補助金、最適関税の理論を取り上げる。
6. 不完全競争市場下での貿易政策
規模経済性や製品差別化のもとで生ずる貿易を対象として、産業内貿易の発生、貿易利益、不完全競争の下での貿易政策、戦略的貿易政策、産業保護政策に関して紹介する。
7. 直接投資・技術移転
直接投資や多国籍企業の活動は貿易と密接に関連する。直接投資と貿易均衡、技術の移転、発展途上国への経済協力・技術移転と経済成長について取り上げる。
8. 国際貿易の政治経済学
自由貿易の基礎を形成するWTOの諸ルール及び近年増加しつつある地域経済統合を取り上げ、理論的観点からの議論とともに政治経済学的観点からの議論を行う。
9. 国際収支と為替レート
対外バランスと国際収支統計、国民所得統計と国際収支統計の関連を取り上げ、経済統計を基礎にした貿易の実態を紹介する。ま

た、為替レートを決定する諸理論について講義する。

テキスト：

・若杉隆平『国際経済学（第2版）』岩波書店，2001年

参考書：

・伊藤元重・大山道広『国際貿易』岩波書店，1985年

授業の計画：

「授業科目の内容」の欄に記載された各分野について、おおむねその順番に沿って、3回-4回程度の講義回数を割り当てる予定である。

履修者へのコメント：

講義で取り上げる内容の多くはミクロ経済学を基礎としているので、ミクロ経済学の基礎的内容を並行して学ぶことを薦める。

成績評価方法：

・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価（春秋とも学期末試験を実施する）

国際金融論

教授 櫻川昌哉

授業科目の内容：

国内の内外での金融危機に焦点をあてた講義を行う。前半では、国内で起きた金融危機と不良債権問題について講義する。この20年ほどの間に、金融仲介の理論は、情報の経済学、ゲーム理論、ソフトな予算制約の問題を応用することで、現実のさまざまな金融の諸問題を説明することに成功している。不良債権問題をテーマに、こうした新たな分析道具を使いつつ、日本の金融システムの問題点を明らかにする。後半では、国外で起きた金融危機に焦点をあてた講義を行う。80年代には累積債務問題が中南米諸国で生じ、90年代にはアジア通貨危機が生じたように、国外での金融危機は国際的な資本移動の“失敗”に起因して発生している。国際金融の基本的概念に触れつつ概観する。

特に教科書は指定しないが、次の文献を参考にする。

テキスト：

・岩田規久男・宮川努編『失われた10年の真因は何か?』東洋経済新報社

参考書：

・櫻川昌哉『金融危機の経済分析』東京大学出版会
・花輪俊哉・小川英治・三隈隆司（編）『はじめての金融経済』東洋経済新報社
・クルグマン・オブストフェルド『国際経済・Ⅱ 国際マクロ経済学』新世社

成績評価方法：

・学期末試験

経済発展論

助教授 秋山 裕

授業科目の内容：

人類はその長い歴史を通じて、より高い経済水準とより近代化した社会を実現するための努力を続けてきました。経済発展は経済活動の究極の目的です。経済発展をいかにして達成するかは、経済学にとって基本的な課題です。経済発展とはいかなる現象なのか、また、経済発展を促進するために、私達は何をするべきなのかという「課題」を、「経済理論」と「経済統計」をバランスよく組み合わせることによって探求していきます。

講義は、様々な課題を考えるための理論の解説、日本およびアジア諸国を中心とした国々でのその理論の実証、その理論を用いた政策の検討からなります。春学期はマクロレベル、秋学期は産業レベルの分析が中心になります。そして、履修者には試験のみならず、レポートも課されます。レポートをこなすことによって、現実の経済問題を考え、理論および統計を用いて実際に分析する力を養います。

テキスト：

・秋山裕『経済発展論入門』東洋経済新報社，1999年

参考書：

個別テーマの参考文献は講義時に指示します。

授業の計画：

講義の構成は以下のとおりです。

[春学期]

1. ガイダンス
2. 経済発展とは
3. 経済発展の指標
4. 経済発展の観察（その1）
5. 経済発展の観察（その2）
6. 古典派の経済発展観
7. 経済発展段階説、貧困の悪循環
8. ハロッド=ドーマー・モデル
9. 新古典派成長モデルによる成長要因分析
10. 新古典派成長モデルの特徴
11. 最適成長理論
12. 内生的成長理論
13. 問題演習

[秋学期]

1. 2部門経済発展理論（その1）
2. 2部門経済発展理論（その2）
3. 2部門経済発展理論（その3）
4. 3部門経済発展理論
5. 産業の技術特性
6. 産業連関表
7. 産業連関分析（その1）
8. 産業連関分析（その2）
9. 産業構造変化の決定メカニズム
10. 産業構造変化の要因分解分析
11. 経済発展と国際金融
12. 経済発展と経済安定化
13. 問題演習

履修者へのコメント：

講義は、担当者と履修者の協力によってより良いものとなっていきます。そのため、「講義を欠席しない」という意思のある人のみ履修してください。また、レポートは、MS Excelを利用した演習を伴いますので、表計算ソフトの基本操作を習得している人、あるいはそれを習得しようとする意思のある人のみ履修してください。

2004年度の講義については、担当者が管理しているWebサイト (<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/akiyama/>) を参照してください。

成績評価方法：

- ・学期末試験（春秋とも）
- ・レポート（春秋各2回を予定）
- ・講義内演習（回数は講義の進捗により調整）

質問・相談：

履修者の質問に答えるため、週1回のオフィスパワーを設置します。時間および場所については第1回目の講義にて指示します。

経済地理

教授 杉浦章介

授業科目の内容：

経済地理は、経済活動の空間的側面に焦点をあてて分析を行うが、経済活動のグローバル化や地域経済統合などによって、企業、産業、地域・都市経済、国民経済、国際経済の様々なレベルにおいて経済の空間的組織化は急速かつ根本的に変容してきている。本講義では、空間経済学や地理学的視点からこれらの変化や変容を明らかにしてゆく。都市・地域経済、国際経済、グローバル企業経営などに関心のある学生の履修に適している。他学部の学生の履修も認めるので経済学の理論的知識については適宜説明を行う。

テキスト：

・杉浦章介『都市経済論』岩波書店，2003年

参考書：

・杉浦章介他『人文地理学』慶應義塾大学出版会，2005年

授業の計画：

1. 経済学・地理学・経済地理学
2. 生産・物流・消費の経済地理
3. 産業集積の経済地理
4. 国際分業の経済地理
5. 都市化の経済地理

- 6. 競争優位の経済地理
- 7. 国民経済—地域経済と経済地理

履修者へのコメント：

時事経済についても関心を深める為、新聞等の経済記事はよく読むように。

成績評価方法：

・試験の結果による評価（春・秋それぞれの期末試験の評価を合計し、最終評価とする。）

質問・相談：

適宜（質問は教室で時間内に行うことを原則とする。授業中の質問を歓迎する。）

経済地理

助教授 **武山政直**

授業科目の内容：

この授業では、都市の様々な機能や施設の立地パターンに注目するとともに、それらが人々の立地行動と諸環境とのダイナミックな相互作用を通じて生成されていく仕組みを理論的かつ実証的に解明します。前期の授業では、特に立地行動や立地パターンに関する諸概念や理論的研究手法の導入をテーマに、空間的モデルの構築やシミュレーションの技法について解説します。また後期の授業では、経済の知識集約化やグローバル化にともなう近年の企業や都市生活者の立地・空間行動の変化に注目し、それらが都市の構造や機能に及ぼす影響について多面的な分析を試みます。この授業で扱うトピックは、経済活動の空間分析、情報技術と経済社会の関り、都市計画や空間デザインに興味を持つ学生を対象としています。

授業の計画：

[春学期]「立地の空間的ロジック」

- 1) オリエンテーションと問題提起
- 2) ものの見方と学問のアプローチ
- 3) 空間的相違を生み出す規則と規則性
- 4) 理論化のツールとしての集合論
- 5) 因果関係と関数関係
- 6) 立地を抽象化してとらえる
- 7) 立地行動と立地パターンの形成
- 8) 用途地域と隣接可否性の拘束
- 9) 立地生成のモデルとゲーム
- 10) 立地パターンの自己組織性
- 11) マルチエージェントシミュレーション
- 12) 複雑系としての都市と社会
- 13) 春学期まとめ（夏休みの課題説明）

[秋学期]「情報社会と都市空間」

- 1) 夏休み課題の講評
- 2) 日米のITビジネスの立地動向
- 3) 産業立地の経済地理モデル
- 4) 企業集積とクラスター理論
- 5) 人的ネットワークとソーシャルキャピタル
- 6) 創造的ワーカーを誘引する都市
- 7) 経験価値と消費の空間
- 8) ケータイ世代の時間と空間
- 9) 都市のモバイルマーケティング
- 10) ファッションとウェアラブルコンピュータ
- 11) 情報通信メディアの発展と都市の変遷
- 12) 情報ネットワーク社会の経済地理
- 13) 秋学期まとめ

成績評価方法：

学期中のレポート、夏休み中の課題、学年末の試験によって成績評価を行います。

環境経済論（春学期集中）

教授 **大沼あゆみ**
専任講師（有期） **河田幸視**

授業科目の内容：

経済活動の枠組みが、さまざまな側面で、環境とのかかわりを考慮したものになりつつある。たとえば、無制限に放出されていた二酸

化炭素も、やがて制限されることになる。環境経済学は、そのような変化する経済システムの設計に大きな役割を果たしている。本講義では、経済活動と環境の相互依存関係をもとにして、おもに環境劣化のメカニズム及び環境改善の処方箋を考察する。あわせて、将来世代の状況を重視する環境経済学の特徴的な視点の役割についても述べる。ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎的知識を前提にしている。

テキスト：

・ターナー、ピアス、バイトマン『環境経済学入門』東洋経済新報社

授業の計画：

1. 経済学と環境
2. 外部性・市場の失敗
3. 外部性の是正とピグー税
4. 環境リスクと規制
5. 所有権とコースの定理
6. 許可証取引制度
7. 非再生可能資源
8. 将来世代と持続可能な発展
9. 再生可能資源

成績評価方法：

授業中に行う小テスト、および春学期定期試験の成績を総合して評価する。

質問・相談：

随時受け付ける。メールでアポイントメントをとること。

都市経済論

教授 **瀬古美喜**

授業科目の内容：

本講義の目的は、主に価格理論に基づいて、市場メカニズムが都市においてどのように働いているのかという観点から、日本の都市問題を時には外国の都市問題と比較しながら、経済学的に考察することにある。

テキスト：

・DiPasquale and Wheaton（瀬古美喜・黒田達朗訳）『都市と不動産の経済学』創文社、2001年

参考書：

- ・宮尾尊弘『現代都市経済学・第2版』日本評論社、1995年
- ・中村良平・田淵隆俊『都市と地域の経済学』日本評論社、1996年
- ・金本良嗣『都市経済学』東洋経済新報社
- ・山田・西村・綿貫・田淵編『都市と土地の経済学』日本評論社、1995年
- ・瀬古美喜『土地と住宅の経済分析』創文社
- ・（財）日本住宅総合センター『季刊住宅土地経済』各版
- ・藤田昌久他（小出訳）『空間経済学』東洋経済新報社
- ・佐々木公明・文世一『都市経済学の基礎』有斐閣
- ・山田浩之編『地域経済学入門』有斐閣

授業の計画：

講義予定は、以下のとおりである。

1. 都市経済学と都市問題
 - (a) 都市化と都市問題
 - (b) 都市化の原因（伝統的経済学と新経済地理学）
2. 都市集中のメカニズム
 - (a) 交通費と集中
 - (b) 競争と集中
 - (c) 都市集中のパターン
3. 大都市圏の成長と衰退
 - (a) 都市の発展段階
 - (b) 都市の成長分析
 - (c) 都市の衰退分析
4. 都市の住宅問題
 - (a) 日本の住宅問題
 - (b) 付け値地代曲線
 - (c) 住宅立地
 - (d) 住宅需要分析（ヘドニック）
 - (e) 住宅供給分析
 - (f) 住宅市場分析

- (g) 住宅政策
- 5. 都市の土地問題
 - (a) 日本の土地問題
 - (b) 土地サービスと地代
 - (c) 地代と地価の関係
 - (d) 土地税制
- 6. 都市の交通問題
 - (a) 交通手段の選択と需要
 - (b) 交通混雑の分析
 - (c) 交通投資の分析
- 7. 都市の財政問題
 - (a) 日本の都市財政の推移
 - (b) 都市財政と地方公共財

履修者へのコメント：

授業にきちんと出席して、復習を特に行うこと。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）（春秋とも）
- ・レポート（春秋とも）

人 口 論（春学期集中）

教 授 津 谷 典 子

授業科目の内容：

近年さまざまな人口問題が関心を集めている。60億を超えなお増加する世界人口、それをもたらす発展途上地域の急速な人口増加と資源・環境への影響、一方では先進諸国の超低出生率とその背景にある女性の社会的地位の変化と晩婚化や離婚の増大などが広く議論され、政策的認識も高まっている。人口はその国の社会経済発展・開発と強く結びついており、労働力や消費などへの影響を通して経済成長を左右する。

本講義は人口学の主要項目を広く学び、現在の内外の人口問題について理解を深めることを目的とする。また人口統計の読み方や人口指標の計算法などの人口統計学の基礎についても実際の統計データを用い手ほどきする。このため確率や統計学の基礎的知識があることが望ましい。講義内容の詳細は第一回授業時に配布するシラバスに説明する。なお参考書は授業に先立ち通知し、資料も随時配布する。

テキスト：

- ・河野稔『世界の人口〔第2版〕』東京大学出版会、2000年

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）
- ・平常点（出席状況および授業態度）

産業社会学

教 授 金 子 勝

授業科目の内容：

グローバリゼーションの波が世界を覆うとともに、分裂と不安定の時代が始まった。明らかに、経済社会は大きな歴史的転換期を迎えている。この講義は、グローバリゼーション、冷戦型イデオロギーの終焉、リベラリズムと経済理論、市場と人間社会、日本経済の長期停滞、制度改革といった問題群を扱う。経済学だけでなく政治理論や社会学をも踏まえて、自由でラディカルな発想から新しい社会経済学を構想する。

テキスト：

- ・金子 勝『長期停滞』ちくま新書
- ・金子 勝『経済大転換』ちくま新書

参考書：

- ・拙著『セーフティーネットの政治経済学』ちくま新書
- ・共著『逆システム学―市場と生命を解き明かす』岩波新書

授業の計画：

講義は、つぎの項目にしたがって行う。

- ① 市場理論と人間像―所有と自由・合理性の限界
- ② セーフティーネットと市場―市場像の転換
- ③ 長期停滞の時代
- ④ どのような制度改革が必要なのか
- ⑤ 日本企業と日本社会の特質

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）
- ・レポート
- ・平常点（出席状況および授業態度）

社 会 史

教 授 松 村 高 夫

授業科目の内容：

社会史は、「下からの歴史」と「総合の学」を構築することを目的としている。即ち、権力側からではない、コモン・ピープル（民衆）から見た歴史を描くこと、および、分断化された研究領域の総合化を目指すこと、この二点を目的としている。本講義では、近代合理主義的モニズム（唯一主義）に対抗する研究史の流れを辿ったのち、ヨーロッパにおける現在の社会史研究の状況を述べ、社会史の具体的・歴史的展開を講じる。そこには、20世紀における戦争と虐殺の社会史も含まれる。

授業の計画：

1. 社会史の方法
 - ・「下からの歴史」と「総合の学」
 - ・研究の手段と史料収集の方法
2. 社会史の認識論的系譜
 - ・J.B. ヴィーゴからJ. ミシュレへ、さらにL. フェーブルへ
 - ・W. ブレイクからW. モリスへ、さらにE.P. トムスンへ
 - ・英独仏における社会史研究
3. 社会史の具体的展開
 - ・暴動史
 - ・労働運動史
 - ・社会運動史
4. 「戦争と虐殺」の社会史
 - ・ABC兵器と20世紀の戦争
 - ・ジェノサイドとマス・キリング

履修者へのコメント：

受講し、自らの脳細胞を使って主体的に思索することが望まれる。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・レポートによる評価
- ・平常点（出席状況および授業態度）（出席が重視される。毎回短いものを書いてもらう。）

(2) 特殊科目

ゲームの理論

(春) 助教授 グレーヴァ 香子

(秋) 教授 中山 幹夫

授業科目の内容：

理論経済学のみならず多くの分野で重要な分析道具となっているゲーム理論の基礎と応用を講義する。必要な数学は適宜補足説明するが、経済数学の知識はもちろん役に立つ。成績は各学期末の定期試験の合計で決まるが、随時行う演習の出席状況も参考にする。

テキスト：

特に指定せず、適宜、コピーを配布する予定。

参考書：

- ・中山幹夫『はじめてのゲーム理論』有斐閣
- ・ギボンズ『経済学者のためのゲーム理論入門』創文社
- ・岡田章『ゲーム理論』有斐閣

授業の計画：

[春学期]

1. ゲームとは
2. 戦略形ゲームとその解
3. 応用：クールノーゲーム、ベルトランゲーム
4. 展開形ゲームとその解
5. 応用：チェンストアパラドックス
6. ルービンシュタイン型交渉ゲーム

7. 繰り返しゲーム
8. ベイジアンゲーム

[秋学期]

1. ゲーム理論の方法
2. 提携形ゲーム (TU ゲーム)
3. 配分, 提携値, コアとその存在条件
4. 凸ゲームとその応用
5. 安定集合とその応用
6. 交渉集合, カーネル, 仁
7. 仁の応用
8. シャープレイ値, ハルサニー値およびポテンシャル

履修者へのコメント:

ゲームの理論では暗記することは意味がなく, 仮定や定義から出発して推論することが重要である。

成績評価方法:

・学期末試験 (定期試験期間内の試験) (春秋とも)

質問・相談:

メール又はオフィシアワーに。

公共経済学 総合政策学部教授 **小澤 太郎**

授業科目の内容:

テキストに沿って公共経済学の理論とその応用について一通り学んだ後に, テキストでカバーされていないテーマについて順次解説を行う。公共財の理論, マクロ経済動学, 社会的選択の理論, 公共選択論 (政府の失敗含む), ゲームの理論の応用 (動学的不整合性含む), 情報の非対称性・不確実性に基づく市場の失敗への対処の具体的事例, ネットワークの外部性 (複数均衡含む), 最適課税論, 高齢化と経済成長, 比較制度分析, 潜在能力アプローチ等, 扱うテーマはまさに多岐にわたる。抽象と具象の間をダイナミックに行き来する事で, 厚生経済学とも財政学とも一味違う公共経済学の世界を体験してもらいたい。

テキスト:

・中村慎助・小澤太郎・グレーヴァ香子編『公共経済学の理論と実際』東洋経済新聞社, 2003年

参考書:

- ・小澤太郎「電子商取引の発展と経済構造の変化」金子郁容編『総合政策学の最先端Ⅱ: インターネット社会・組織革新・SFC教育』慶應義塾大学出版会, 2003年 (第20回)
- ・井堀利宏『課税の経済理論』岩波書店, 2003年 (第21回・第22回)
- ・牛丸聡・飯山養司・吉田充志『公的年金改革: 仕組みと改革の方向性』東洋経済新報社, 2004年 (第23回・第24回)
- ・青木昌彦・奥野正寛編『経済システムの比較制度分析』東京大学出版会, 1996年 (第25回)
- ・鈴木興太郎・後藤玲子『アマルティア・セン: 経済学と倫理学』改裝新版, 実教出版, 2002年 (第26回)

授業の計画:

【春学期】

- 第1回: 通年ガイダンス
- 第2回~第8回: 公共経済学のパースペクティブ (テキスト第Ⅰ部)
- 第9回~第13回: ゲームの理論と公共経済学への応用 (テキスト第Ⅱ部)

【秋学期】

- 第14回: 秋学期ガイダンス
 - 第15回~第18回: 公共経済学の実践 (テキスト第Ⅲ部)
 - 第19回: 公共経済学の系譜 — 個人主義と公共政策 — (テキスト第Ⅳ部)
 - 第20回: ネットワークの外部性
 - 第21回・第22回: 最適課税論
 - 第23回・第24回: 高齢化と経済成長
 - 第25回: 比較制度分析
 - 第26回: 潜在能力アプローチ
- (注) 第20回目以降のテーマは変更される場合がある。第14回の秋学期ガイダンスの際に, 予定を確定したい。

履修者へのコメント:

全般的には, 直観的な理解を重視した骨太な説明を試みたいと考えている。しかしテーマによって, やや理論的にテクニカルな内容が含まれる場合があるが, 全体の議論の流れがつかめれば細部まで十分理解できなくても気にする必要はない。

成績評価方法:

・試験の結果による評価 (春学期期末試験及び秋学期期末試験の計2回)

質問・相談:

授業終了後にしてもらるのが1番良いが, あまり長い回答を要さないものであれば, メールによる質問も受け付ける。
(yossy@sfc.keio.ac.jp)。

—三田における数学・数理経済学関係の講義体系について—

経済学部専門課程での数学・数理経済学関係の講義は, 次のような体系で編成されている。

まず経済分析に数学的・統計的手法を適用する際, 最低限必要と思われる基本事項を解説するために, **代数学**, **解析学Ⅰ** の二講座を用意している。

この基本的知識を前提とし, 経済分析に有用な, さらに進んだ数学の諸分野についても, 以下のような講座を設ける。

解析学Ⅱ

数理経済学Ⅰ

数理経済学Ⅱ

数理経済学特論Ⅰ【微分方程式論】

数理経済学特論Ⅱ【確率論】

また数理経済学は

I 一般均衡理論の数理

II 動学的経済分析の数理

を隔年に開講することとし, 本年度はIをその内容とする。

学生諸君には, この講義体系をよく検討され, 有効に利用していただきたいと思う。

(丸山 徹)

代 数 学

教 授 桂 田 昌 紀

授業科目の内容:

学部1年生で履修した「線形代数」の内容 (ベクトル・行列の初歩的取り扱い) を予備知識として, この講義では, 線形代数の理論的側面については解説することが主な課題で, 以下の i) ~ iii) の流れに沿って授業を展開します; i) ベクトル空間とそれに付随する基礎的概念を導入しそれらの相互関係について理解する; ii) Jordan 標準形の理論を理解しその実際の計算が出来るようになる; iii) 産業連関分析など経済学への重要な応用を持つ Perron-Frobenius 理論を学ぶ, なお, 日吉での「経済数学ⅠB」の履修は必ずしも前提としませんが, 内容のより深い理解のためには有益です。

春学期は, まず抽象ベクトル空間を導入し, 部分空間, 1次独立・1次従属, 基底, 線形写像などの基礎概念について解説した上で, Jordan 標準形への準備として, これまでまだあまり学ぶ機会の無かった多項式の性質について, 必要となる事項に焦点を絞って述べます。さらに, その応用として, (定数係数) 線形微分方程式・線形差分方程式についても解説します。

秋学期は, 線形写像の表現行列を導入したうえで, 固有値問題に関連して, 固有値, 固有ベクトル, 行列の対角化について解説し, さらにこれらの議論をより深める形で, Jordan の標準形を導入し, その実際計算について学びます。以上の基礎理論を背景として, 分解不能行列を導入し, Perron-Frobenius の定理を定式化し証明することまでを目標とします。

テキスト:

初回の授業時に指示します。

参考書:

- ・津野義道『経済数学Ⅱ 線形代数と産業連関論』培風館
- ・二階堂副包『経済のための線形数学』培風館

授業の計画：

- I. ベクトル空間と線形写像（春学期）：
 - i) ベクトル空間；ii) 部分空間；iii) 1次結合；iv) 1次従属・1次独立；v) 基底；vi) 写像；vii) 線形写像；viii) 同型写像。
- II. 多項式の性質と応用（春学期）：
 - i) 多項式；ii) 直和分解；iii) 微分方程式の解空間；iv) 線形回帰数列。
- III. 線形写像と行列（秋学期）：
 - i) 表現行列；ii) 固有値と固有ベクトル；iii) 行列の対角化；iv) 連立線形差分方程式；v) 連立線形微分方程式；vi) Hamilton-Cayley の定理。
- IV. Jordan 標準形：
 - i) Jordan 細胞；ii) Jordan 標準形の求め方；iii) 行列の冪；iv) 連立線形差分方程式（再）；v) 連立線形微分方程式（再）。
- V. Perron-Frobenius の定理：
 - i) 非負固有値問題；ii) 分解不能行列；iii) Perron-Frobenius の定理。

履修者へのコメント：

一般論として、数学の理論を「理解」するためには：i) 理論の展開を論理的に step-by-step に follow して理解する；ii) 理論を用いて実際に実例を計算する、という二つのプロセスが本質的です。この講義では、受講者がこの二点についてのトレーニングも行えるよう出来るだけ配慮します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価（レポートは各学期数回程度の予定です）
- ・平常点（出席状況および授業態度）

質問・相談：

日吉来往舎 706 号室桂田まで、連絡してください。

解析学 I

教授 厚地 淳

授業科目の内容：

1, 2 年生時では、微積分学の概観を計算などを中心に学んだことと思う。これをより精密な形で理論を中心に講義する。まず、極限、収束や連続性といった基本的概念を明確化する。これを元に、日吉の「微分積分」と「積分入門」で概観した 1 変数の微積分の精密な内容を見る。さらに、多変数の微積分についても述べる。経済数学 I では、極値問題の計算法を主に学習し、陰関数定理の証明など理論的部分は省略されたが、これを理解する。多変数の積分についても言及する。時間に余裕があれば、確率論などに応用される積分論についても述べたい。

参考書：

最初の講義の際に述べる。

授業の計画：

前期：1. 実数と極限, 2. \mathbb{R}^n の位相, 3. 1 変数の微分, 4. リーマン積分 (1 変数)
後期：5. 多変数の微分, 6. 陰関数定理と逆関数定理, 7. リーマン積分 (多変数), 8. 級数
各トピックス 3 回程度を予定。

成績評価方法：

- ・レポート
- ・授業内試験の結果
- ・平常点（出席状況および授業態度）

解析学 II

(春) 商学部教授 小宮 英敏
(秋) 教授 丸山 徹

授業科目の内容：

[春学期]

解析学を学ぶ上で必要となる距離空間およびバナッハ空間の基本的な知識を与えることを目的とする。

[秋学期]

位相空間の理論と一般的積分の理論は現代の解析学を支えるふたつの支柱である。第一の理論は春、第二の理論については秋の学期に講義する。具体的な講義項目は概ね次のとおり。

測度空間、可測画数、積分の定義と基本性質、収束定理、Fubini の定理、複合測度と Radon-Nikodym の定理、有界変分画数と絶対連続画数、可積分画数の空間、Fourier 変換、その他。

テキスト：

[春学期]

テキストは使用しない。授業の折に資料を配る。

参考書：

[春学期]

- ・コルモゴロフ & フォーミン『函数解析の基礎』岩波書店
- ・C.D. Aliprantis & K.C. Border, *Infinite Dimensional Analysis: a hitchhiker's guide*, Springer

[秋学期]

- ・丸山『積分学』シュプリンガー・フェアラーク東京、近刊

授業の計画：

1. 距離空間
2. 開集合と閉集合
3. 連続写像
4. 完備距離空間
5. コンパクト集合
6. バナッハ空間
7. 共役空間
8. 弱位相

数理経済学 I

(春) 教授 丸山 徹
(秋) 教授 中村 慎助

授業科目の内容：

一般均衡理論とその数理的構造について述べる。

I. 数学からの準備

1. Euclid 空間の位相
2. 凸集合
3. 多価函数の連続性
4. 不動点定理

II. 一般均衡理論

1. 主体的均衡の理論
2. 競争的一般均衡の存在
3. 厚生経済学の基本定理
4. コアと競争均衡

その他

参考書：

- ・G. ドブリュー (丸山訳)『価値の理論』東洋経済新報社、昭和 52 年
- ・丸山徹『数理経済学の方法』創文社、平成 7 年
- ・丸山徹『経済数学』知泉書館、平成 14 年

履修者へのコメント：

「解析学 I」を同時に履修することが望ましい。

数理経済学特論 I [微分方程式論] (秋学期集中)

講師 大春 慎之助

授業科目の内容：

動的経済理論を支える数学的基礎を与え、様々な経済動態を記述する数学モデルの定式化とその取扱いについて解説すると共に、数値シミュレーションを援用する数学的接近について講述する。

1. 解析学と線形代数の準備
2. 微分方程式と差分方程式の基礎理論
3. 解の構成と安定性理論
4. 変分原理と安定性解析への応用

数理経済学特論 II [確率論]

講師 黒田 耕嗣

授業科目の内容：

確率論及び確率過程論のファイナンスへの応用について解説する。

テキスト：

特になし

参考書：

- ・Dothan, *Prices in Financial Markets*, Oxford University Press

・ Björk, *Arbitrage Theory in Continuous Time*, Oxford University Press

授業の計画：

春学期は離散確率空間をもとにして以下の内容で講義する。また、生保数理、損保数理への応用についても講義の中で取り上げる。

1. Random walk を例にとり、確率空間、確率変数、確率分布について解説する
2. 確率分布の期待値、分散及びモーメント母関数の性質について述べる
3. 有限確率空間をもとにした information structure と離散時間株式市場モデル、条件付期待値とマルチンゲールについて
4. 平衡価格測度と裁定戦略
5. 離散確率解析を用いたオプション価格の導出と Black—Sholes の公式について

秋学期は連続系を取り扱う。

1. リーマン積分からルベーグ積分へ
2. 測度空間とルベーグ積分の定義について
3. ルベーグの収束定理について
4. 測度論的確率論の概要（確率変数列の収束、大数の法則、中心極限定理）
5. Random walk から Brown 運動へ
6. Brown 運動の性質（Markov 性、マルチンゲール性、Maximal process について）
7. 確率積分と Ito の公式について
8. ファイナンスへの応用について（数理ファイナンスへの序論）

履修者へのコメント：

高校での数Ⅲ、数Ⅱの知識に習熟していることが必要であり、多重積分、座標変換についての知識がある事が望ましい。大学レベルの微積分についての復習は授業中に行うが、高校レベルの数学についての復習は行わないので、高校数学は各自で身につけておくこと。

成績評価方法：

授業中の演習及びレポートで評価する。

市場と法（秋学期）

教授 若杉隆平

授業科目の内容：

市場は経済活動の基本的な場を提供する。この場が十分な機能を発揮するには、そこに参加する人々が共有するルールが不可欠である。このルールは、最終的には法律によって定められることが多いが、その背景には経済的原理が存在する。たとえば、近年、国際間で大きな議論になっている知的財産権の保護を例に取り上げると、権利保護を強化することによって発明を促す利益と、権利を保有する者の独占権が強まることによって消費者が受ける不利益との問題が存在することが分かる。この問題に一定のルールを与えるには経済学的分析を避けて通ることはできない。また、ルールはより良いものを求めて進化する。進化したルールとして、何が効率的で公正なものかを判断する上においても、経済学的アプローチは欠かせない。

本授業では、市場の機能に関する基礎的概念を紹介するとともに、所有権と交渉、公共財と外部効果、イノベーションと知的財産権、独占禁止法、損害賠償など経済活動に密接に関わる法的ルールやトピックを取り上げて、市場の果たす役割と共有されるべきルールに関する経済学的な分析視点を紹介する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

- ・ 矢野誠『ミクロ経済学の実用』岩波書店、2001年
- ・ ロバート・クーター、トーマス・ユーレン『法と経済学（新版）』商事法務、1997年

授業の計画：

本授業は、市場での資源配分と市場のルール、所有権と交渉、外部性などに関する基礎的概念を紹介する部分と、環境、知的財産権、市場独占、競争制限的手段、損害賠償など、より具体的なルールを取り上げて経済学的解明を講義する後半部分とから構成される。

1. 市場と効率的取引
2. 所有権と交渉
3. 公共財と外部効果

4. イノベーションと法制度

5. 競争政策と独占禁止法

6. 損害賠償の経済分析

成績評価方法：

・ 学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価

資金循環分析

教授 辻村和佑

授業科目の内容：

資金循環分析の基礎となる資金循環勘定は家計、企業、政府という各経済主体と、中央銀行を含む金融機関のあいだの資金の流れを貸借対照表のかたちで記述するものである。今日の我が国に見るような管理通貨制度のもとにおける金融政策は、中央銀行の資産構成の変化としてのみとらえ得るわけであるから、この分析の重要性はとみに高い。この講義では次の(1)から(5)までにより構成される我が国の金融市場を(6)、(7)、(8)の関連項目を含めて、資金の流れに注目して分析し、その相互依存関係ならびに実物経済との関係を明らかにする。そしてこのような観点から金融市場に関する多岐にわたる統計資料の取り扱いを、その作成意図や背後にある制度を含めて解説する。

- (1) 預貸金市場
- (2) 債券市場
- (3) 株式市場
- (4) 短期金融市場と中央銀行の金融市場調節
- (5) 外国為替市場
- (6) 内国為替取引
- (7) 信託業務
- (8) 先物取引とオプション取引

テキスト：

- ・ 辻村和佑『日本の金融・証券・為替市場』東洋経済新報社
- ・ 辻村和佑『資産価格と経済政策』東洋経済新報社
- ・ 辻村和佑・溝下雅子『資金循環分析』慶應義塾大学出版会
- ・ 辻村和佑（編著）『バランスシートで読みとく日本経済』東洋経済新報社

参考書：

必要の都度指示する。

授業の計画：

おおむね授業科目の内容に従うが、その時点のニュースやトピックに応じて臨機応変に変更する。

履修者へのコメント：

最新の統計資料の解説等を行うので、当日の日本経済新聞朝刊を持参することが望ましい。

成績評価方法：

- ・ 学期末試験（定期試験期間内の試験）
- ・ レポート

質問・相談：

授業時間終了後に受け付ける。

—三田における計量経済学，確率論，

統計学関連の講義体系について—

経済学部専門課程での計量経済学，確率論，統計学関連の講義は，次のような体系で編成されている。

まず定量的経済分析の統計学的方法の基礎的理解のために必須である事項の解説のために**確率・統計**を設けている。経済関係式を定量的に把握しこれをテストするには，無作為抽出によって得られた標本を手がかりに母集団特性を推測する作業が欠かせない。この講義は，こうした手法の理解のために必須である基礎知識の習得を目的としている。

なお，三田で開講されている**解析学 I**の内容は，上記科目**確率・統計**で展開される理論の緻密な理解のために必要な基礎として位置付けられる。

これら知識を踏まえ，現代における経済分析に欠かすことのできない手法のさらに進んだ理解のために，以下の講義を設ける。

数理経済学特論 II

計量経済学 I

計量経済学 II

時系列分析

ベイズ統計学

上に記した計量経済学，確率論，統計学関連の科目を分類すると次の表のようになる。ただし，表中には示していないが**解析学 I**は基礎レベル，**数理経済学特論 II [確率論]**はおおよそ上級レベルに相当するであろう。

	計量経済学	確率論	統計学
基礎	確率・統計		
中級	計量経済学 I		
上級	計量経済学 II 時系列分析	ベイズ統計学	時系列分析 ベイズ統計学

計量経済学，確率論，統計学関連の科目を学ぼうとする学生諸君は，自身の関心に応じて上記表の中から自由に選び，履修計画を立てていただきたい。

(計量・統計部会)

時系列分析 (秋学期集中)

助教授 田中辰雄

授業科目の内容：

学部3，4年生を対象に時系列分析の基礎を講義する。経済データは時系列として与えられることが多く，そこに着目したさまざまな分析手法がある。データとしては株価や利率など金融データだけでなく，マネーサプライと物価などマクロ変数や，さらに最近では時系列とクロスセクションを組み合わせたパネルデータもよく用いられる。予測や因果性のテストなど応用例もひろく，話題は多岐にわたる。本講義ではよく使われる大事な手法に絞り込み，その上で，実際に使えるようになることを目的とする。

取り上げるテーマは (1) 差分方程式の安定性と確率過程の定常性，(2) ARMA モデルの同定，推定，予測，(3) ユニットルート過程とその ADF 検定，(4) Cointegration (共積分) と Error correction モデル，(5) VAR モデルと因果性のテスト，(6) パネル分析，などになる予定である。

実際に使えるようにするためには，データを使って推定プログラムを動かす作業が必要である。したがって，演習として何回か課題を出してもらう。課題では学生諸君自ら現実のデータを使って簡単な推定作業を行い，それを提出することになる。

出発点で前提とする知識として計量経済学概論レベルの知識があることが望ましい。すなわち古典的仮定のもとでの簡単な回帰分析の経験があることが望ましい。計量経済学 I，II の授業の知識があれば役立つが，本講義ではそれらを前提とはしない。必要な数学や計量分析の知識は講義のなかで適宜補充する。基礎からドリル的に組み上げていく方法をとるので，意欲さえあれば誰でも理解できるだろう。こういう講義では途中でわからなくなると間違いなく落ちこぼれるので，

課題演習により，理解を確認しながらすすみたい。

ベイズ統計学

助教授 中妻照雄

授業科目の内容：

ベイズ統計学は推測の対象となる未知の変数 (パラメータ) を確率変数として扱い，データが与えられた下での条件付確率分布 (事後分布) を使ってパラメータの分析を行う統計学です。日吉の「統計学 I & II」で習った統計学 (古典的統計学) とはかなり異なるアプローチなので最初は戸惑うかもしれませんが，基本的にベイズの法則を適用するだけなので慣れてしまえばベイズ統計学の方が楽です。

ベイズ統計学ではコンピュータによる数値計算がかなり重要な役割を果たしています。特に近年ではマルコフ連鎖モンテカルロ (MCMC) 法と呼ばれる手法によって統計分析に必要な各種の計算を行うようになってきています。そこで講義では MCMC 法の理解を深めるためにプログラミング言語である MATLAB を使った MCMC 法によるベイズ統計分析の実習を行います。

テキスト：

特に指定しません。講義ノート，MATLAB のプログラム，データなどは講義のウェブサイト配布します。

参考書：

- ・大森裕浩『マルコフ連鎖モンテカルロ法の最近の展開』「日本統計学会誌」31, 305-344, 2001 年
- ・中妻照雄『ファイナンスのための MCMC 法によるベイズ分析』三菱経済研究所，2003 年
- ・Chen, M.H., Q.M. Shao, and J.G. Ibrahim, *Monte Carlo Methods in Bayesian Computation*, Springer-Verlag, 2000
- ・Koop, G., *Bayesian Econometrics*, Wiley, 2003
- ・Lancaster, T., *An Introduction to Modern Bayesian Econometrics*, Blackwell, 2004

授業の計画：

[春学期]

1. ベイズ統計学の概要
2. 確率変数と確率分布
3. 条件付確率とベイズの法則
4. 確率モデルと尤度
5. 事前分布と事後分布
6. パラメータに関する推論 (I)
7. パラメータに関する推論 (II)
8. 事前分布の選択
9. 予測分布
10. 回帰モデルのベイズ分析 (I)
11. 回帰モデルのベイズ分析 (II)
12. 回帰モデルのベイズ分析 (III)
13. 前半のまとめ

[秋学期]

1. MATLAB 入門 (I)
2. MATLAB 入門 (II)
3. モンテカルロ法 (I)
4. モンテカルロ法 (II)
5. 擬似乱数の生成法
6. マルコフ連鎖 (I)
7. マルコフ連鎖 (II)
8. ギブズ・サンプラー
9. データ拡大法
10. M-H アルゴリズム
11. MCMC 法の応用 (I) : 構造変化モデル
12. MCMC 法の応用 (II) : 階層的ベイズ・モデル
13. 後半のまとめ

履修者へのコメント：

授業内容を理解するためには確率・統計，微分積分，線形代数の知識が必要ですが，MATLAB の予備知識は必要ありません。講義の中で MATLAB の使い方を教えます。

成績評価方法：

宿題 (30%)，各学期末の筆記試験 (春学期 30%，秋学期 40%) で

決まります。

質問・相談：

授業内容に関する質問にはメールあるいはアポイントメントを取っての面接で回答します。連絡方法は第1回講義で教えます。

近代日本社会思想史 (春学期) 専任講師 鷲木能雄

授業科目の内容：

本講義の目的は日本における「社会主義思想」の「導入と展開」に関する史的考察を通して近代日本における社会思想の理解を深めることにある。

参考書：

- ・石田 雄『明治政治思想史研究』(12刷) 未来社, 1977年
- ・杉原・長編『日本経済思想史読本』東洋経済新報社, 1979年
- ・糸屋寿雄『日本社会主義運動思想史』(I) 法政大学出版局, 1979年
- ・岡本 宏『日本社会主義研究』成文堂, 1988年
- ・中村勝巳編『受容と変容』みすず書房, 1989年
- ・太田雅夫『初期社会主義史の研究』新泉社, 1991年
- ・荻野富士夫『初期社会主義思想編』不二出版, 1993年

授業の計画：

- I. 1868(明治元)年～1896(明治29)年—近代社会思想の導入—
 1. 「社会」, 「社会思想」及び「社会主義」概念の導入について
 2. 「東洋社会党」結成前後と「自由民権」運動の思想的系譜
- II. 1896(明治29)年～1911(明治44)年—「社会問題」と「社会主義」の展開期
 1. 社会問題研究会と社会主義研究会
 2. 社会主義協会の設立とその活動
 3. 社会民主党の結成
 4. 『新社会』と龍溪矢野文雄—「転換期」と日本における「社会主義」について—
 5. 明治社会主義の終焉—大逆事件—

成績評価方法：

- ・学期末試験(定期試験期間内の試験)
- 特に基準を設けることはしない。

現代日本社会思想史 (秋学期) 専任講師 鷲木能雄

授業科目の内容：

本講義の目的は日本における「社会主義思想」の「導入と展開」に関する史的考察を通して現代日本における社会思想の理解を深めることにある。

参考書：

- ・日本思想百年史編纂委員会編『日本思想百年史』躍進日本社, 1972年
- ・杉原・長編『日本経済思想史読本』東洋経済新報社, 1979年
- ・糸屋寿雄『日本社会主義運動思想史』II・III, 法政大学出版局, 1980年, 1982年
- ・小松隆二『大正自由人物語』岩波書店, 1988年
- ・テッサ・モーリス鈴木『日本の経済思想』岩波書店, 1991年
- ・同志社大学人文科学研究所編『戦時下抵抗の研究』I・II, みすず書房, 1968年, 1969年
- ・飯田鼎著作集第4巻『日本経済学史研究』お茶の水書房, 2000年

授業の計画：

- I. 1912(大正元)年～1919(大正8)年—「冬の時代」と第一次大戦—
 1. 友愛会とその時代
 2. ロシア革命と米騒動—第一次世界大戦下の動向
 3. 大正デモクラシーの潮流
 4. 「社会思想」の全面的展開
- II. 1919(大正8)年～1926(昭和元)年
 1. 社会主義同盟の結成
 2. 「アナ・ボル」論争
 3. 日本共産党の創立
 4. 総同盟の分裂
- III. 1926(昭和元)年～1931(昭和6)年—普通選挙と社会主義—
 1. 「無産政党」と社会主義運動
 2. 「左派」と「右派」の対立

—日本社会主義の原型をめぐる問題—

3. 「労農派」の結集

IV. 1932(昭和7)年～1945(昭和20)年

—「ファシズム」と「社会主義」—

1. コミンテルンと「32年テーゼ」
2. 日本資本主義論争と「講座派」
3. 戦時下における日本の抵抗運動
4. 戦前期日本における社会主義運動と日本の「社会主義思想」—その「連続性」と「非連続性」及び「再生と復活」に寄せて—

成績評価方法：

- ・学期末試験(定期試験期間内の試験)
- 特に基準を設けることはしない。

東欧・ロシア社会経済思想史 助教授 神代光朗

授業科目の内容：

1989～91年の東欧・ロシアの旧体制の崩壊とその後の体制転換過程に伴う諸矛盾の進展は、ある意味で20世紀最大の歴史的事象に属するものの一つであった。21世紀になって、更に中・東欧のEU加盟の問題も含めて、資本主義のグローバル化に伴う混迷に充ちた世界的現実の中で、西側資本主義世界の矛盾とも関連して、これらの歴史的諸事象の意味を理解する努力は、今日、極めて大切な学問的課題であろう。しかし、そのためには、これらの地域の国々の歴史的諸問題の理解が必要である。こうした点を考慮して、本講義では、わが国で比較的認識の浅い中・東欧やロシア等のヨーロッパの後進ないし辺境地域の社会・経済の発展と社会・経済思想の関連を中心に、これらの地域のナショナリズム、西欧主義、インターナショナリズムといった問題を主に文明的視点と社会・経済思想の観点から考察してゆきたい。具体的には、ロシアの啓蒙主義とインテリゲンチアの思想、古典的ナロードニキ思想と『資本論』受容をめぐるロシアの資本主義論争、再版農奴制と分割前ポーランドの社会と国家、啓蒙期ポーランドの政治・経済的諸問題—特にポーランド分割と国内改革諸思想、19世紀ポーランドの諸問題と社会・経済思想の諸潮流及びその対抗関係、特に民族問題、農業・農民問題、工業化と「東方市場」論争等とポジティヴィズム、ナショナリズム、社会主義の間のそれらをめぐる論争などを講義の中心とする予定である。なお、担当者のポーランドにおける在外研究時の見聞等も含め、今日の中・東欧の転換過程についても歴史的展望の中で適宜、講ずる予定であり、又、年末には東欧またはロシアの映画の鑑賞も予定している。

テキスト：

特にスタンダードなテキストはない。履修者は必ず出席をし、ノートを自ら執る心掛けをもってほしい。また、必要に応じ、講義中にプリントやコピー類を配布する。

参考書：

参考文献は、授業の進行に応じ適宜指示するが、当面、森宏一『ロシア思想史』(同時代社1990年)、トマーシュ・G・マサリック、石川達夫訳『ロシアとヨーロッパI』(成文社2002年)、同、石川・長興訳『ロシアとヨーロッパII』(成文社2004年)、石川郁男『ゲルツェンとチェルヌイシェフスキー』(未来社1988年)、『ロシア史2, 18～19世紀』(山川出版1994年)、南塚信吾編『東欧の民族と文化』(彩流社1989年)、阪東宏編著『ポーランド史論集』(三省堂1996年)、ケニエーヴィチ『歴史家と民族意識』(未来社1989年)、ケニエーヴィチ編『ポーランド史』(恒文社1986年)、『講座スラヴの世界③スラヴの歴史』(弘文堂1996年)、伊東・井内・中井編『ポーランド・ウクライナ・バルト史』(山川出版1999年)、南塚編『ドナウ・ヨーロッパ史』(山川出版1999年)、柴編『バルカン史』(山川出版)又英文として Andrzej Walicki, *A History of Russian Thought*, Oxford 1988., Jerzy Jedlicki, *A Suburb of Europe*, Budapest 1999., M. Albertone & A. Mascero., *Political Economy and National Realities*, ed, Torino 1994 等が参考になる。

授業の計画：

通年講義であるが、4月はじめの3回程は、全体の計画とともに本講義に必要な不可欠な政治経済学史上の基本概念を講じ、その後、夏休み迄、従って春学期中は、主に18～19世紀のロシアの社会経済思想を、秋学期は主に18～19世紀のポーランドを中心とする東欧の歴史

と社会・経済思想を話す予定である。なお、ロシアといわゆる中東欧(特にポーランド)との比較や相互関係も適宜論じるので、春、秋ともに関連する講義内容として受講してほしい。各13回ごと、計26回の内容の概略は、4月の開講時に話す予定である。

履修者へのコメント:

基本的には、授業への出席と、自ら講義内容をノートに執ること、及び、この特殊科目の主題への学問的関心を主体的にもってほしい。

成績評価方法:

- ・学期末試験(定期試験期間内の試験)(学期末試験のみ)
- ・平常点(出席状況および授業態度)

成績評価基準は、基本的には学年末のテスト(筆記)によるが、日常の出席状況も考慮の対象となる。詳しくは、履修状況をみて具体的に決める要素もあるので、履修者の確定した段階で明確にする予定である。

質問・相談:

学問内容についての質問や相談は歓迎するが、評価方法等については、上記のとおりなので、原則的には応じられない。開講時又、それ以外でも、必要に応じ、適宜、説明する。それ以外の質問や相談がある時は、授業時間終了時に教室で、できるだけ用紙に書いて出すこと(用紙は各人が用意してほしい。)その際、学年・クラス・学籍番号・氏名を必ず記入し、簡潔にすること。

日本経済思想史

教授 小室正紀

授業科目の内容:

経済社会をどのようにとらえるか、また如何に経済社会に対処すべきか、さらにどのような経済社会を理想とするか。このような経済についての思考は、実は、国により、また時代により歴史的にさまざまであり、こうした思考の特質を認識することなしに自他の経済社会を深く理解することはできない。このような観点から、この講義では日本における経済思想の原点を江戸時代と明治時代に探してみたい。江戸時代にまで遡るのは、経済社会の展開とともに、この時代に経済思想の「原型」が次第に形成され、それが明治以降にまで影響を与えたと考えるからである。また、明治時代には、欧米という異なった社会で形成された経済思想が流れ込み、それを独自に受け止めながら、それまでの経済思想が変容されていったと見るからである。このような歴史的な考察を通して日本における経済観の特質に迫ってみたい。

テキスト:

使用せず。

参考書:

- ・川口浩『江戸時代の経済思想』頸草書房、1992年
- ・経済学史学会編『日本の経済学』東洋経済新報社、1984年
- ・小室正紀『草奔の経済思想』御茶ノ水書房、1999年
- ・逆井孝仁他編『日本の経済思想四百年』日本経済評論社、1990年
- ・テッサ・モーリス鈴木『日本の経済学』岩波書店、1984年
- ・藤田貞一郎『国益思想の系譜と展開』清文堂、1998年
- ・川口浩編『日本の経済思想世界』日本経済評論社、2004年

授業の計画:

1. 日本経済思想史の課題
2. 儒学の受容と社会経済認識: 朱子学を中心として
3. 江戸時代経済民論の原型: 熊沢蕃山・山鹿素行
4. 民間経済社会認識の原型: 伊藤仁斎
5. 経験的社会経済認識の成立: 新井白石・荻生徂徠
6. 元禄・享保期農民の思想: 宮崎安貞・田中丘隅
7. 元禄・享保期町民の思想: 井原西鶴・石田梅岩
8. 「藩重商主義」への流れと国益思想: 太宰春台・林子平・海保青陵
9. 江戸時代後期の民間経済思想: 三浦梅園・本居宣長・草間直方
10. 危機への対処と新体制への展望: 後期水戸学・本田利明・佐藤信淵
11. 幕末農民の精神と民富の思想: 二宮尊徳・大蔵永常 etc.
12. 殖産興業の経済思想: 大久保利通・工部省・内務省
13. 市民的経済主体育成の経済思想: 福沢諭吉
14. 自由主義経済学と保護主義経済学: 田口卯吉・犬養毅・大島貞益
15. 明治後期における農村問題と経済思想

16. 明治後期における労働問題と経済思想

成績評価方法:

- ・学期末試験のみ(定期試験期間内の試験)
- ・レポート
- ・平常点(出席状況および授業態度)

質問・相談:

授業時間中は適宜受け付ける。それ以外はEメールにてmkomuro@econ.keio.ac.jpへ連絡して、面会予約を取ること。

近代経済学史 I (春学期)

教授 池田幸弘

授業科目の内容:

主として八十年代以降の主要先進資本主義国における経済改革について講ずる。経済政策思想史という観点から、こうした諸改革の持つ意義を考察する。新自由主義的な経済改革の意味を理解するのが、講義の目的となる。現在日本で進行中の諸改革を理解するにあたって、歴史的な見地から政策思想を検討しておくことは意義が大きい。

テキスト:

特に用いない。

授業の計画:

ほぼ、つぎの話題にそって講義を行っていく。

1. 経済思想の歴史とは何か
2. ケインズ『一般理論』の意義
3. 初期ババレッジの経済思想
4. 後期ババレッジの経済思想
5. 政府白書『雇用政策』をめぐって
6. ケインズ経済学の歴史的背景、産業政策から公共事業へ
7. ケインズ『一般理論』の政策的含意
8. サッチャリズムの思想的背景
9. サッチャー政権下の財政構造改革
10. サッチャー政権とマネタリズム
11. レーガノミックスの思想的背景
12. レーガン政権下の諸改革

履修者へのコメント:

私語厳禁!

成績評価方法:

- ・学期末試験(定期試験期間内)

質問・相談:

授業時に質問に応じることはもちろんだが、そのほか要請があれば個別に相談には応ずる。ただし、可能なかぎり事前に予約をとっていただきたい。

近代経済学史 II (秋学期)

教授 池田幸弘

授業科目の内容:

近代経済学史Iのあとを受けて、新自由主義的な政策思想の原点の一つであるハイエク、そしてロスバードについて講ずる。これらの経済思想・政治思想を正確に理解することが、現代の経済改革を理解する上で決定的に重要だと担当者は考えている。そのような角度から講義も構築されている。なお、前期に開講する「近代経済学史I」もあわせて受講することが望ましい。

テキスト:

特に用いない。

参考書:

- ・尾近裕幸・橋本努『オーストリア学派の経済学』日本経済評論社
ほか、適宜授業時に指示する。

授業の計画:

ほぼ、つぎの話題にそって講義を行っていく。

1. 開講にあたって
2. ハイエクの自生的秩序とは何か
3. ハイエクの個人主義論
4. メンガーの貨幣論
5. メンガーの方法論
6. メンガーのロドルフ講義
7. ハイエクのルール主義

8. ハイエクの議会改革案
9. ハイエクの貨幣発行自由化論
10. ハイエクとフリードマン
11. リバタリアンの政治経済思想 その1
12. リバタリアンの政治経済思想 その2
13. Q and A

履修者へのコメント：

私語厳禁！

成績評価方法：

・学期末試験（定期試験期間内）

質問・相談：

授業時に質問に応じることはもちろんだが、そのほか要請があれば個別に相談には応ずる。ただし、可能なかぎり事前に予約をとっていただきたい。

数量経済史 教授 友 部 謙 一

授業科目の内容：

経済史のアプローチは多様である。その多様性のひとつとして、数量経済史を考える。情報技術の進展に伴い、量的／質的データの区別を問わず、マシン・リーダブルなデータの範囲は広まり、数量的な分析手法を習得する必要性が高まっている。それについて、歴史資料から数的処理可能なデータを作成する過程とそれらを基礎データとするデータベースの形成、そして分析へという一連の経済史分析を具体的に議論したい。

テキスト：

初回講義時に詳細なリーディング・リストを配布する。

参考書：

初回講義時に詳細なリーディング・リストを配布する。

授業の計画：

本年度は具体的な分析テーマを、「市場経済と生活水準の比較史」として、以下の予定で講義を行う。

[春学期] 数量経済史方法論

第1回～第5回：

歴史資料・マシンリーダブルデータへの変換・データベースの活用

第6回～第9回：

歴史統計論：歴史データと統計学の出会い

第10回～第13回：

数量経済史と生活水準研究 ― 歴史人口学・数量経済史・計量体格史から―

[秋学期] 「生活水準分析」

第1回～第4回：

市場経済の展開と生活水準の変化（Ⅰ）：17世紀から20世紀までの比較史の論点

第5回～第9回：

市場経済の展開と生活水準の変化（Ⅱ）：近世日本と近代日本の府県別分析

第10回～第13回：

市場経済の展開と生活水準の変化（Ⅲ）：近代日本のマイクロデータをういた分析

※春学期、および秋学期に、米国の研究者を招へいし、講義をする予定です。

成績評価方法：

・秋学期末試験（定期試験期間内の試験）のみ

・レポートによる評価

東欧経済史 助教授 崔 在 東

授業科目の内容：

本講義では、東欧諸国の近代から現代までの変化を概観する。対象はエルベ川以東ウラル山脈以西の地域である。ロシアをはじめ、ウクライナ、ベローロシア、ポーランド、ハンガリー、チェコ・スラヴァキア、ルーマニア、ブルガリア、アルバニア、ユーゴスラビアなどがここに入る。

本講義の問題意識と内容は、以下のようである。

第1に、東欧諸国（特にロシア）の前近代社会（特に農村社会・家族構造）は、西欧や中欧諸国のそれとは異なる性質を有している。前近代社会の特質は近代社会への移行に大きな影響を及ぼすため、東欧諸国の前近代社会の特質と近代化過程の特殊性についての解明は、東欧諸国の史的発展の基底を理解し、西欧諸国のそれを相対化するために有益である。

第2に、東欧諸国と中欧の多くの諸国は、ヨーロッパの「周辺」として位置づけられながら、社会主義体制を経験するという特殊性を有している。ロシアにおける社会主義革命の勃発は当地の前近代社会の特質に深い根を持つと同時に、ロシア型社会主義システムもそれに大きく規定されている。一方、中欧諸国における社会主義体制への移行は第二次世界大戦の結果として外部からもたらされた側面が大きい。ロシアで作られたシステムは中欧諸国にも移植されていくが、それぞれの伝統社会の特質とぶつかり合い、そのため、同じ社会主義国家であっても東欧諸国と中欧諸国の間では相違点が出てくる。東欧諸国と中欧諸国とにおいて社会主義システムがどのように形成されかつ変貌したのかは、西欧中心のヨーロッパ経済史では十分に扱うことができなかつた20世紀最大の問題の一つである。

第3に、旧社会主義圏の東欧諸国と中欧諸国は、現在、社会主義から資本主義への移行を経験する中でダイナミックな変化を経験している。ソ連の崩壊によって歴史としての社会主義は事実上終焉を告げ、それらの諸国は資本主義への移行と土地の私有化・国営企業の民営化など西欧諸国がはるか前に経験した課題に直面している。そうしたなかで、多くの国はすでにEUに加入し、ウクライナまでEUへの加盟が焦点となっている。他方、各国における私有化と民営化の過程はかなりの相違が見られているが、そこには社会主義以前の社会的特質が影響している。

テキスト：

特に指定しません。講義資料のプリントを配布します。

参考書：

講義で一覧表を配布する。

授業の計画：

講義内容は、以下のとおりである。

1. 東欧経済史の意義
2. 農奴制
3. 農奴解放
4. 農民共同体
5. 農民家族：人口
6. 農業の変革
7. 工業化（産業革命）
8. 農村小工業：地域市場
9. 農民運動、人民主義、社会主義
10. ストルピニン改革
11. 農民協同組合運動
12. 第一次世界大戦
13. 1917年ロシア革命：NEP（新経済政策）
14. 大戦の結果と再建
15. 集団化とスターリン体制の成立
16. 工業化と計画経済システム
17. 世界経済恐慌とナチズム
18. 第二次世界大戦と東欧社会主義諸国の成立
19. 「雪解け」と「新経路」
20. フルシチョフ改革：産業構造の逆転
21. プレジネフ期の停滞
22. コメコンと社会主義経済ブロック
23. ベレストロイカと社会主義体制の崩壊
24. ロシアおよび東欧諸国における農業改革と私有化
25. 自由市場体制の導入と民営化：経済の急激な落込み：産業構造の変化
26. コーポレート・ガバナンス：労働市場の構造と労使関係

成績評価方法：

・試験の結果による評価（定期試験期間内の試験）

・平常点（出席状況および授業態度）

授業科目の内容：

応用ミクロ経済学としての労働経済理論の近年の発展の中で重要と思われるトピックを選んで解説する。構成としては、応用ミクロ的な主体分析と均衡サーチ理論による就業・失業構造の分析を中心に捉えたい。

テキスト：

なし

参考書：

参考文献については講義中に指示する。

授業の計画：

- ・労働供給：静学モデル，ライフサイクルモデル
- ・労働需要：静学モデル，動学モデル
- ・家族：家計内生産と労働，分業の利益
- ・賃金決定：人的資本理論，シグナリング理論，労働市場における差別，補償賃金格差，最適インセンティブ賃金，内部昇進理論
- ・雇用変動：雇用創出・雇用喪失，離職と転職，労働移動の理論
- ・失業：均衡サーチモデル，賃金交渉モデル，効率賃金仮説，労働力フローの分析

履修者へのコメント：

基本科目の「労働経済論」を理論面から補完する内容なので、この分野に興味のある方は両方受講することを勧めたい。また、労働経済学の文脈での紹介と解釈が中心なので、数学的な一般化やマクロ的展開については、ゲーム理論、契約理論、マクロ経済学等他の講義にゆだねる。労働経済学の知識は前提としなが、ミクロ経済学と統計学の基本は必要である。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価
- ・レポートによる評価

質問・相談：

講義に関する質問は、講義の前後で受け付ける。また、Eメールの連絡も受け付ける（アドレスについては初回講義時に発表する）。

経済と法

教授 中澤 敏 明
産業研究所助教授 石岡 克 俊

授業科目の内容：

本講義は経済学を学ぶ学生に、現実の経済社会において法が経済にどのように関係しているかを明らかにし、将来企業において経済活動に携わる場合、また公務員として経済政策、経済組織等に係わる場合、さらに研究者として経済研究に携わる場合に必要とされる「経済と法」に関する基本的知識および思考方法を付与することを目的とする。従って、法現象を経済学的手法を用いて分析する「法の経済分析」という名の経済学と比較すれば法解説の色彩が濃い。しかし、「法の経済分析」の成果も視野に入れながら講義を展開していく。

本講義は、一昨年に、金子見法学部名誉教授の協力を得て開講された新しい科目であり、他の大学においても類似の講義はなかった。過去の経験と反省に基づいて今年度の講義を行いたい。

(1)「経済と法」設置の経緯

経済学部の「産業・労働部会」の担当者グループの発意で設置されることになった。同グループの認識は、これまでは、政策論の講義で、法と経済の境界面を経済学の視角から解説してきたが、片手間であった。法について磐石の知識をもつ法学者に解説してもらうことが望ましい。

「法の経済分析」の分野が成長しつつあるが、この分野の健全な発展のためには、法・経済の境界面の研究を法学の視角からの確に評価できる能力が求められる。

(2)「経済と法」がめざすもの

経済理論は、ある条件の下で市場原理の素晴らしい予定調和的な機能を明らかにするとともに、この条件が満たされないときの機能の限界を示し、それに対する処方箋を提示しています。後者に属する問題の一部は政治的プロセスによって対処されていますが、例えば経済活動にともなう外部不経済の問題の多くが法によって対処されていま

す。この問題にかかわる財産権の問題・交渉力における優劣の問題・情報の非対称性や格差の問題・フリーライダーや機会主義の問題などに、呼称の違いはあるにしても、法は体系的に対応しています。経済学と法学とは同じ問題を扱うという意味で境界を接しているところがあります。経済学も目に見えないながら逆らう者を罰する経済力学のコードを研究しているといえますが、現実には実定法をもって経済社会をコントロールする法の知識も備えることは望ましいことです。

この講義は、経済学部学生にリーガルコンシャスネスを獲得してもらうことを狙いとしています。憲法・民法・商法・社会法・後者に含まれますが経済法の大枠を、特に経済活動との係わりに光をあてながら概説します。法律の条文を独りで丹念に見ても、法の正しい理解には至りません。法学を志す者でさえ、多くの年月をかけてリーガルマインドとよばれるものを身につける過程で、法体系を理解し、その基盤の上で条文が正しく理解されるわけです。一年間の講義には大きな限界がありますが、小さな一歩でも法の世界に足を踏み入れ、これになじみを感じていただければと思います。講義は、法学の側面を主軸に行われますが、受講者は経済学の知識を基礎にして、経済学との異同を見出し、新しい論点の発見に努めてもらいたいと考えます。

テキスト：

新しい科目であり適切な教科書がありませんので今年度も教科書は使用しません。六法を使用しますが、講義で案内します。

参考書：

各回の講義の内容に応じて参考書は適宜示したいと思います。「履修者へのコメント」にあげたウェブサイトにもいくつか示される予定です。参照してください。

授業計画：

- I 総論（経済と法）
 - 1 経済秩序と法秩序の関係
 - 2 法の目的から見た「経済と法」
 - 3 法の機能から見た「経済と法」
 - 4 法的思考方法 (legal thinking) と経済
 - 5 現代市民社会における法の基本的原理と経済
- II 各論（現代市民社会における経済と法の関係）
 - 1 自由主義経済（市場）社会と法
 - 2 自由主義経済社会を実現するための法による経済制度設定
 - 3 法による自由な経済活動の保障
 - 3.1 経済活動の主体に関する保障
 - 3.2 経済活動の客体に関する保障（所有制度）
 - 3.3 経済活動そのものに関する保障（契約制度）
 - 4 経済への国（政府）の関与
 - 4.1 私的経済分野への国の関与
労働法・社会保障法・経済法等の出現
 - 4.2 公的機関による財・サービスの提供
公共調達・公的サービスをめぐる法と経済

法にかかわる主たる講義を石岡が、経済学からの視点を中澤が、担当します。

履修者へのコメント：

各回の講義のレジュメや資料など必要な情報は主として講義担当者的の下記ウェブサイトを通じて公表されます。ウェブサイトの URL は以下の通りです。

OFFICE ISHIOKA <<http://www.ishioka.org/>>

成績評価方法：

- ・学期末試験

質問・相談：

履修にあたっては、初回の講義の際に受け付けます。授業については、授業の後に応じています。メールでは受け付けていません。

ゲーム理論と産業組織

助教授 石橋 孝 次

授業科目の内容：

ゲーム理論の考え方に基づいた産業組織 (Industrial Organization) の理論的側面を解説する。ゲーム理論は経済学の様々な分野で不可欠な分析用具として定着しているが、中でも産業組織はゲーム理論の最も実り多い応用分野である。この科目では、適宜必要なゲーム理論の解説を織り交ぜながら、不完全競争市場の構造と企業行動・経営戦

略、および経済厚生観点から評価と競争政策について講義する。

参考書：

・ J. Church and R. Ware, *Industrial Organization: A Strategic Approach*, McGraw-Hill, 2000

授業の計画：

[春学期]

1. 産業組織の目的と方法
2. 部分均衡分析の基礎
3. 企業理論
4. 市場支配力
5. 品質と製品選択
6. 価格差別
7. ゲーム理論 I (戦略型ゲーム)
8. 静学的寡占理論：クールノー・モデルとベルトラン・モデル
9. ゲーム理論 II (展開型ゲーム・繰り返しゲーム)
10. 動学的寡占理論：暗黙の共謀

[秋学期]

11. 製品差別化
12. 戦略的参入阻止
13. 2 段階競争
14. 研究開発と特許制度
15. ネットワーク外部性
16. ゲーム理論 III (不完備情報ゲーム)
17. 略奪価格
18. 垂直的取引制限
19. 水平合併
20. インセンティブ規制

各トピックごとに練習問題を配布する。また、練習問題に基づいた小テストを授業中に数回行う。

履修者へのコメント：

ミクロ経済理論の現実的な問題への応用に興味をもつ学生の受講を期待している。ゲーム理論の知識は前提とはしないが、「ミクロ経済学初級」の内容を理解していることは必要である。

成績評価方法：

・ 授業内の小テスト 20 % ・ 春学期末試験 40 % ・ 秋学期末試験 40 %

質問・相談：

毎回の授業の後に受け付ける。

経済政策のミクロ分析

助教授 藤田 康 範

授業科目の内容：

この講義では、貿易政策、環境政策、財政政策、金融政策などの様々な経済政策について分析する能力を身につけるとともに、政策論議への関心を高めることを目標とします。ミクロ経済理論、ゲーム理論、新産業組織論、契約理論などの近年の進展を踏まえて講義を行います。可能な限り平易に説明するよう努めますので、特別な予備知識は不要です。詳細については、第 1 回の講義の際に説明します。

参考書：

・ 藤田康範『よくわかる経済と経済理論』学陽書房
・ 藤田康範『よくわかる金融と金融理論』学陽書房

授業の計画：

[春学期]

1. ガイダンス
2. 貿易政策のミクロ分析 (計 3 回)
3. 環境政策のミクロ分析 (計 3 回)
4. 医療政策のミクロ分析 (計 3 回)
5. 販売戦略のミクロ分析 (計 3 回)

[秋学期]

1. 企業の海外展開のミクロ分析 (計 3 回)
2. 金融政策のミクロ分析 (計 3 回)
3. 財政政策のミクロ分析 (計 3 回)
4. 産業政策のミクロ分析 (計 3 回)
5. まとめ

履修者へのコメント：

テーマや進行方法については、履修者の希望を最優先したいと考え

ています。

原則として、3 コマで一つのテーマが完結するようにし、やむをえず欠席した場合でも復活が容易となるように配慮する予定です。

意欲のある人たちの参加を希望しています。

成績評価方法：

確認のための簡単な試験 (持込み可)、レポート等に基づいて総合的に評価する予定です。履修者の希望を最優先したいと考えています。

質問・相談：

随時受け付けています。

ファイナンス入門

助教授 新井 拓 児

授業科目の内容：

本講義では、主にポートフォリオ選択理論と金融派生商品の価格付け理論を扱う。ファイナンス理論では高度な数学を使うことが多々あるが、本講義は入門コースであるため、数学的記述を出来る限り排除し、平易な説明を行うよう工夫する。

テキスト：

久保田敬一著『ファイナンス』東洋経済新報社

参考書：

授業中に紹介する。

授業の計画：

次の内容に従って講義を行う。

[春学期]

- ① 現在価値と利子率
- ② ポートフォリオ理論における平均・分散アプローチ
- ③ 分離定理とマーケットポートフォリオ
- ④ 資産価格モデル (CAPM)
- ⑤ 裁定価格理論 (APT)
- ⑥ リスク管理

[秋学期]

- ① 金利の期間構造
- ② オプションとは
- ③ 先物と先渡し
- ④ 1 期間 2 項モデルにおけるオプション価格付け理論
- ⑤ 多期間 2 項モデルにおけるオプション価格付け理論
- ⑥ Black-Scholes モデル

成績評価方法：

試験の結果による。

質問・相談

メールまたはオフィスアワー

公共選択論

助教授 土居 丈 朗

授業科目の内容：

公共選択論とは、政治過程を経済学的に分析する研究分野です。より具体的には、政策決定過程で有権者、政党、官僚、圧力団体などの主体がどのように行動するか、財政政策、金融政策、通商政策、選挙政策などがこれらの主体の間でどのように決まるかなどを、経済学的に考察します。

今年の公共選択論では、日本政治の経済分析をテーマとします。日本の政策決定過程における予算編成、財政赤字、公共投資政策、社会保障政策、地方分権、選挙制度、連合政権などについて、これまでに政治学・行政学などで分析されてきた仮説が経済学的にどう解釈できるか、実証分析でとらえられる日本の政治過程はどうであるかなどに、焦点を当てます。

テキスト：

・ 井掘利宏・土居丈朗『日本政治の経済分析』木鐸社

参考書：

・ 土居丈朗『地方財政の政治経済学』東洋経済新報社
・ 井掘利宏・土居丈朗『財政読本 (第 6 版)』東洋経済新報社
・ 土居丈朗『三位一体改革 ここが問題だ』東洋経済新報社
その他、授業の進行に合わせて紹介します。

授業の計画：

次の項目を順番に進めて行きます。それぞれの項目は、受講者の理解の度合い等を見ながら、講義回数を適宜増減します。

第1部 日本の政治

第1章 日本の政治：経済分析の課題

第2部 政治を動かす人々

第2章 有権者の投票行動

第3章 政党と選挙

第4章 官僚の評価

第5章 圧力団体

第3部 政府の政策決定

第6章 景気と政治

第7章 予算編成と財政赤字

第8章 財政政策

第9章 金融政策

第10章 貿易政策

第4部 日本政治のあるべき姿

第11章 選挙制度

第12章 連合政権

第13章 財政再建

第14章 地方分権

第15章 政治と国民

履修者へのコメント：

講義は、テキストに書かれていることだけでなく、講義と同時期に進行する日本の政治経済の動向も取り入れつつ、テキストには書かれていない内容も扱う予定です。

成績評価方法：

・学期末試験のみ（定期試験期間内の試験）

NPO 経済論 I（春学期）

教授 山田 太門

授業科目の内容：

近年、政府の財政における諸々の制約を原因として、政府に代わって民間部門が公共的財・サービスを供給する活動が目立っている。いわゆるボランティア活動や企業のフィランソロピー活動などの非営利公益活動がこれに当たる。これらの活動は個々に行われるだけでなく、むしろそれらの活動が複合した形で様々に組織化されており、各種の財団、社団などの公益法人が存在している。この講義の目的は、これらの民間非営利組織とその活動が全体の経済の中にどのように位置づけられるかを理論経済学的に説明し、またこれら非営利部門（第3セクター）に対する全体および個別の制度、政策がどうあるべきかを公共経済学の理論を用いて検討することである。

テキスト：

授業中に指示する。

参考書：

・山内直人『ノンプロフィット・エコノミー』日本評論社、1997年
・島田晴雄編著『開花するフィランソロピー』TBSブリタニカ、1993年

授業の計画：

1. マクロ経済における NPO 部門
2. 政府部門と NPO
3. 寄付行動とボランティア活動
4. 非営利活動の経済理論
5. 租税制度と非営利活動
6. 公益法人制度
7. 企業のフィランソロピー活動
8. NPO と民間営利企業の関係
9. 助成活動と事業活動（ファンド・レイジング）
10. 福祉・医療と NPO
11. 教育と NPO
12. 文化・芸術と NPO（文化経済学）

履修者へのコメント：

できるだけ NPO 経済論 II とセットで履修することが望ましい。

成績評価方法：

・試験の結果による評価
・平常点（出席状況および授業態度）

NPO 経済論 II（春学期）

講師 田中 弥生

授業科目の内容：

貧困、紛争、環境問題など地球規模の問題、保育や高齢者問題などの地域社会の問題、いづれにおいても NGO、NPO が問題解決の有力なアクターとして注目されている。しかしながら、これら民間非営利セクターに関する研究は新しく、その取り組みの歴史は浅い。NPO 研究はまさに、その発展が有望視される新研究分野である。

本講義では、理論的なフレームワークを押さえるとともに、非営利セクターの現状を国際的視野から事例や実証分析によって把握してゆく。まず、NPO および非営利セクターの存在意義を示す非営利セクター論を情報の非対称性や取り引きコスト論などを用いて概観することによって、われわれが取り組もうとしている対象を明らかにする。また、実践的な視点を身につけるために、非営利組織のマネジメント論、評価手法を学ぶ。また、日本の NPO 活動事例、途上国における NGO による開発援助事例など、実例を学ぶがここでも、実例に留まらず実践と理論を織り交ぜて考察したい。

テキスト：

- ・田中弥生著『社会と NPO をつなぐ 仲介・評価・説明責任』（仮題）東京大学出版会、（2005年3月予定）
- ・田中弥生著『NPO 幻想と現実～それは本当に人々を幸福にしているのか』同友館、1999年
- ・ピーター・ドラッカー、G.J. スターン著 田中弥生監訳『非営利組織の成果重視マネジメント～NPO、行政、公益法人のための「自己評価手法」』ダイヤモンド社、2000年
- ・ロナルド・コース著 宮沢健一他訳『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992年

参考書：

- ・レスター・サラモン著 入山映訳『米国の非営利セクター入門』ダイヤモンド社、1994年
- ・重富真一監修『アジアの国家と NGO ～15ヶ国の比較研究』明石書店、2001年
- ・Burton Weisbrod, *The Nonprofit Economy*, Harvard University Press, 1988
- ・Walter W. Powell, *The Nonprofit Sector*, Yale University, 1987
- ・Peter Rossi, *Evaluation, A Systematic Approach 6th Edition*, SAGE Publication inc., 1999

授業の計画：

- ① 非営利組織論レビュー（経済学および社会学）
- ② 非営利セクターの経済規模（日本、海外）
- ③ 非営利組織と資源提供者のミスマッチ問題
- ④ ミスマッチ問題分析：情報の非対称性、取り引きコスト論
- ⑤ ミスマッチ問題解決1：個々の非営利組織のマネジメント
- ⑥ ミスマッチ問題解決2：インターメディアリ
- ⑦ 非営利組織のプログラム評価：政策評価手法の適用
- ⑧ 非営利組織のアカウントビリティと評価：組織評価
- ⑨ 事例紹介：途上国における NGO による開発援助活動、NGO アドヴォカシー活動、福祉サービス（社会的起業による活動）

成績評価方法：

学期末試験の結果による評価。

アジア経済と日本（春学期）

教授 吉野 直行
本塾教授 榊原 英資

授業科目の内容：

1997年のアジア通貨危機は、タイ・インドネシア・香港・韓国・マレーシアなどに波及し、タイ・インドネシア・韓国では、一時的に大きな打撃を受けた。香港はカレンシーボード制を採用、マレーシアは資本流出規制を施行、シンガポールは12カ国通貨によるバスケット通貨制を採用しており、通貨危機の影響をある程度、食い止めることに成功した。また、中国は、固定相場制を継続しており、外貨準備が溜まっている。こうしたアジアの為替制度の現状、その理論分析・計量分析について講義することが一つの目的である。

さらに、アジア各国の経済政策の実行の背景には、その制度的・政

治的な違いが存在する。こうした違いを、当時の政策担当者としての経験も踏まえて、講義を行う。

また、インドは、インターネットの発達と英語が共通語であるために、欧米からのさまざまな業務をインドが引き受けるようになってきている。カースト制度などにより成長の遅れていたインドについても、講義の中では言及する。日本経済とアジアとの連関関係、日本がアジアにおいて果たすべき役割などについても言及する予定である。

授業の計画：

主な講義の内容は、

- (1) アジア経済のマクロ分析
 - (2) アジアの為替制度、アジアの共通通貨への道
 - (3) アジア経済の連関性と日本経済
 - (4) ASEAN 諸国の文化・政治システムと経済政策
 - (5) 中国経済の歴史と現状
 - (6) 中国の金融問題・為替政策
 - (7) インドの隆盛とその背景
 - (8) 日中韓の動きと ASEAN
 - (9) 日本企業とアジア経済
- などが講義される予定。

格差と援助の経済学

助教授 大平 哲

授業科目の内容：

援助の経済学を整理する。春学期は主として援助側の視点にたつて援助の目的、制約をまとめる。秋学期はまず前半で被援助側の視点から、開発と援助との関係を考え、後半では援助側と被援助側の双方の思惑から、現実の援助がどのような形態になるかを考える。

テキスト：

なし。講義ノートを配る。講義ノートはこの授業専用のウェブサイト <http://www.econ.keio.ac.jp/staff/tets/kougi/aid/> 上に随時掲載される。各自がダウンロードしてくるようになっていく。

参考書：

・講義の進展に応じてインターネット上の文献を紹介していく。

授業の計画：

およそ次の内容と予定している。履習学生の関心に応じてスケジュールは柔軟に変更する。

[春学期]

1. 授業計画の説明、方針の決定
2. 援助側の目的 (1) 二国モデルで検討
3. 援助側の目的 (2) 社会厚生関数
4. 援助側の目的 (3) 社会厚生関数と統計量
5. 援助側の目的 (4) アトキンソンの定理
6. ODA 大綱 (1)
7. ODA 大綱 (2)
8. 予備日
9. 援助の評価
10. ブループリント・アプローチ
11. 試験
12. 春学期のまとめ
13. 試験の返却・解説

[秋学期]

1. 平等性と効率性 春学期の復習
2. 被援助側の視点 (1) 2つのギャップ
3. 被援助側の視点 (2) 社会要因、環境要因
4. 被援助側の視点 (3) 情報の経済学
5. 被援助側の要因 (4) 外部性
6. 予備日
7. 参加型開発 (1) 理念
8. 参加型開発 (2) 手段
9. 援助側と被援助側の交錯 (1) ファンジビリティ、トランスファー問題
10. 援助側と被援助側の交錯 (2) 国際機関の役割
11. 試験
12. 一年のまとめ
13. 試験の返却・解説

履修者へのコメント：

援助や補助金の現状を理解し、今後のありかたを考えるためには、制度に関する知識、現実の経験など、知らなければいけないことがいくつもあります。この授業では多くの資料を読んでもらうことになります。また、事実を蓄積するだけでなく、経済理論の道具を用いて体系的に整理することを重視します。制度や歴史への関心と、理論的な分析をバランスよく身につけたいと考えている学生の履修を望んでいます。

成績評価方法：

春、秋学期の学期末試験（授業期間内に実施）の点数、および何回かの小レポートの点数の合計で決める。学期末試験を2回とも受けることは必須。その他詳細については初回の授業で説明する。

質問・相談：

日時を約束した上で随時受け付ける。

現代中国経済論（秋学期）

助教授 駒形哲哉

授業科目の内容：

本講義は、包括的な現代中国経済論とは一線を画し、移行期に特徴的な課題を選んで集中的に論ずる。2005年度は、体制移行と市場経済化促進をもっともよく体現していると考えられる「中小企業」を切り口に論じていく予定である。

雇用の場、起業家の自己実現の場、市場の変化への迅速で弾力的な対応が可能な供給者として、中小企業は市場経済の存続と発展に不可欠の存在である。ただし、現在の中国では、中小企業の役割・性質は市場経済におけるそれにとどまらず、移行期に固有の役割や問題を含んでいる。そこでこの講義では、中国における中小企業の現状、政策と問題点について、主に実際に調査を行なった個別事例にもとづきながら論じていく。現地調査の進展状況によっては、講義内容が変更される可能性もある。

本講義のガイダンスを「経済体制論」の初回講義時間にあわせて行う。

テキスト：

・拙著『移行期・中国の中小企業—産業発展と地域変容』（仮題）税務経理協会、2005年（予定）

参考書：

講義のはじめに紹介する。

授業の計画：

第1回、第2回「なぜ中小企業なのか？」

1998年に「中小企業司」という中小企業専門の役所が初めて設置された。なぜこの時期に中小企業専門の役所が生まれ、それはどのような役割を担っているのだろうか？中小企業の重要性は、実は90年代末に突如高まったわけでもない。毛沢東時代からの中小企業の重要性について確認し、体制移行により、企業区分の重点が地理的区分、管轄別区分から規模別区分へと移ってきたことを、この部分では示す。また、中国版中小企業白書の内容から、近年における中国政府の中小企業観、政策の重点を確認し、中小企業促進法の内容とその実施経過について述べる。

第3回、第4回「体制改革と地域経済の変容」

経済改革初期の中小企業の代表格は「郷鎮企業」とよばれる農村企業体で、この郷鎮企業の形成と発展を時系列的に追うと、地域経済の変容を合わせて理解できる。この部分では、天津の一村の事例から改革開放政策の歩みを確認し、市場経済化が地域経済の変容をもたらすプロセスを説明する。この事例は、公有制企業の役割とその時限性を示すものだが、天津の他村の事例ならびに、地域との紐帯を切ることの難しさと、同じく山東淄博の事例から国レベルでは改革の最大の焦点ともいえる国有企業改革の展開について述べる。

第5回、第6回「産業連関と産業集積」

浙江紹興にはアジア最大といわれる繊維市場がある。テナントビルタイプのこの繊維市場には数千の零細な卸売業者が入居している。これらの卸売業者は私的経営業者であり、この市場の存在がこの地域の織布工場を支えており、染色業者も存在することにより、同業者や関連する業種の企業群が空間的に集中する産業集積を形成している。では、この地域に繊維の産業集積が成形されたのはなぜ

か、そしてこの集積地が拡大再生産されてきたのはなぜか、前者の問いについては政府の役割に、後者の問いについては、競争と情報の搬入に留意して答えたい。またこの集積のもつ課題についても述べる。

第7回, 第8回「体制改革と産業集積」

天津はかつて上海とならびブランド固有自転車メーカーを有する二大自転車産地であった。しかし、90年代に入ると、市況の変化と競争の激化に対応できず、急速に衰退した。天津は自転車産地として終わったかに見えた。ところが2000年の上海自転車展示会で内外の関係者は、新生・産地天津の姿を認識することになる。90年代の10年間に何があったのか国有一社体制から中小企業主体の構造への変容、産業集積の形成と集積の発展について、制度変更(規制緩和)、内発的要素(国有企業における技術蓄積等)、民活、外資の役割に留意しながら述べる。また、ある地域の産業集積がその内部で完結しているのではなく、産地間で広範な分業関係が形成されていることにも注意を喚起したい。

第9回, 第10回「商品経済のエッセンスとネットワーク」

改革開放の成果は、広大な中国全土に均一にもたらされたわけではない。むしろ移行の促進は計画経済が機能しなかった地域からもたらされた。浙江温州は、古くから商品経済の伝統をもち、計画経済期にもそれが途絶えることなく存続し、しばしば社会主義イデオロギーとぶつかりながらも巧みに、それをかいくぐって、中国の市場経済化を先導した。温州の経済発展は経済改革当初から私営中小企業によるものであったといつてよい。独自の情報と流通のネットワークにより市場を先行して占拠したのが温州の企業群であった。また近接者の成功に次々に追随することにより、温州には様々な産業集積が形成された。この部分では、産業集積の実態とネットワークのありようについて、靴製造や靴下産業の事例を用いて述べる。また、個別企業の戦略についてもアパレル企業を例にとり紹介する。私営中小企業による発展を特徴とする温州経済ではあるが、その発展は、市場や技術獲得の面で他の地域および国有企業の蓄積なしにはありえなかったことに注意を喚起したい。さらに一旦発展を遂げた産業集積が「衰退」した事例をあげ、集積の維持のカギがどこにあるのかについて考察する。

第11回, 第12回「中小企業金融」

従来、国の計画にしたがって、あるいは政府の債務保証の下で公有企業群に資金供給を行っていた金融機関にとって、私営中小企業群に融資することは経験のない事業であった。融資の基本制度はなお大企業に有利にできており、市場経済の担い手である中小企業の多くは融資へのアクセスが非常に悪い。いかに中小企業に資金調達の道を開いていくのか、信用保証制度の導入によって間接金融を促進したり、中小企業ボードの設置により直接金融への道を開いたりしてはいるものの、これらはいずれもまだ緒についたばかりである。この部分では、金融機関の融資姿勢、「民間」金融の実態、信用保証制度の展開、中小企業ボードの現状などについて、調査事例や報道を利用して述べる。

第13回 講義のまとめ

成績評価方法：

期末筆記試験により決定する。授業進行の状況によっては授業内レポート提出を求めることがある。

開発経済学

教授 高梨和紘

授業科目の内容：

開発の途上にある諸国の経済現象を分析し、特定の開発目標を達成するための政策手段を検討することが、この学問の狙いである。分析にあたっては、新古典派の経済理論が基本に据えられる。しかし、開発途上諸国においては経済活動の指針となるはずの財、サービス、生産要素等の『価格』は、市場それ自体の分断性や硬直性等の理由のために歪みを伴っている。また経済開発の初期段階から制約要因としての環境、エネルギー、ジェンダー等の問題を抱えている。したがって、市場が正常に機能することを前提に右肩上がりの経済成長をひたすら追及する近代経済学の分析手法をそのまま当てはめる訳にはいかない。このような理由から、開発経済学を学ぶ際にわれわれに求められる学問の姿勢としては、開発とは何かという問題意識を鍛え上げつ

つ、新古典派経済学の分析手法を中心に据えながらも、隣接する諸学問の知識を動員し、開発の諸問題に取り組むことが望まれる。その方向でこの講義を進めて行きたい。

テキスト：

・山形辰史, 黒田卓『開発経済学』日本評論社, 2003年

参考書：

・速水佑次郎『開発経済学』創文社, 2000年

授業の計画：

春学期は理論分析を秋学期は現状分析を中心に行う。

履修者へのコメント：

つねに問題意識を持って、参加してほしい。

成績評価方法：

・学期末試験(定期試験期間内の試験)(春秋とも)

・レポート

・授業内試験の結果

成績は3~4回の小レポート(60%)と秋学期末の文献サーベイレポート(40%)におけるパフォーマンスで評価する。小レポートでは、講義内容に関わる簡単な実証研究の練習をせよ。文献サーベイレポートの形式・内容は追って指示する。

EU・ジャパン・エコノミック・リレーションズ(秋学期)

講師 林 秀 毅

授業科目の内容：

This course is intended to understand the EU-Japan relations, offered in English. Emphasis will be on the economic side of EU-Japan relations, rather than the political or historical.

In each lecture, points will be discussed, based on Powerpoint documents. As it is expected to be a small class, active questions and comments by students are welcome.

At the end of each lecture, the topic to be discussed in the following week will be announced. Students are supposed to submit report on the topic one week after.

テキスト：

・Julie Gilson, *Japan and the European Union: A Partnership for the Twenty-First Century*, Palgrave Macmillan, 2000 (several copies of the text are on reserve at the library.)

参考書：

・*The Xenophobe's Guide to the Japanese*, Oval Books, 1999

授業の計画：

Lectures will be based mostly on chapters of the text.

Chapter 1 Introduction: Assessing Bilateral Relations (1)

Chapter 2 Developing Cooperation 1950s - 80s (2)

Chapter 3 Japan and its Changing Views of Japan (3, 4)

Chapter 4 European Integration and Changing Views of Japan (5, 6)

Chapter 5 The 1990s and a New Era in Japan-EU Relations (7, 8)

Chapter 6 Cooperation in Regional Forums (9, 10)

Chapter 7 Addressing Global Agendas (11, 12)

Chapter 8 Conclusions: A partnership for the Twenty-first Century (13)

Each number in parenthesis indicates the number of the lectures, subject to change. Additional articles and materials will be introduced, if necessary.

履修者へのコメント：

The knowledge on European language (French, German, Italian, or Spanish) is preferable, but not essential.

成績評価方法：

・試験の結果による評価

・レポートによる評価

・平常点(出席状況および授業態度)

質問・相談：

Anytime during the class, also by e-mail.

授業科目の内容：

環境汚染と廃棄物・リサイクル問題を、経済学的な視点から分析する。以下のテーマからいくつか取り上げて講義するが、常にリアルタイムでの問題を念頭において話題を展開するので、以下の項目には多少の変更があり得る。尚、日吉でのミクロ経済学初級、マクロ経済学初級の知識を前提にする。

1. グッズの世界, バッツの世界
 - (1) グッズとバツ
 - (2) 逆有償とマイナスの価格
 - (3) グッズとバツの境界
 - (4) 伝統的な経済学との関係
2. 動脈産業と静脈産業
 - (1) 動脈産業はメイン・ストリームか
 - (2) 潜在技術の顕在化
 - (3) 静脈技術の技術進歩
 - (4) 発展する静脈の世界
3. バツとゼロ・エミッション
 - (1) バツの処理と最終処分場
 - (2) 最終処分場の最終管理
 - (3) バツの発生抑制と排出抑制
 - (4) ゼロ・エミッションは可能か
4. 安定した市場リサイクルの条件
 - (1) 市場リサイクルの可能性
 - (2) 動脈と静脈の相互関係
 - (3) 規制と公共関与
 - (4) 企業のイニシアティブ
5. 逆選択とパートナーシップ
 - (1) 逆有償が解消しないとき
 - (2) 情報の非対称性と競争のデメリット
 - (3) 優良業者の悲哀
 - (4) 競争と協調
6. PPP（汚染者支払い原則）と費用負担
 - (1) PPP（汚染者支払い原則）とは何か
 - (2) 市場原理と費用負担
 - (3) 応分の負担とは
 - (4) 市場を活用することの本当の意味
7. 環境保全のトレード・オフ
 - (1) あれかこれかの世界
 - (2) 経済と環境は両立可能か
 - (3) 環境要素どうしのトレード・オフ
 - (4) 環境評価の難しさ
8. バツのマクロ経済学
 - (1) ハーマン・デイリーの不満
 - (2) マクロ経済メカニズムの誤解：蚊が増えると GDP は増えるか
 - (3) GDP で生活の真の豊かさを測れるか
 - (4) 新しい社会への移行とその調整費用
9. 環境制約と経済成長
 - (1) 環境ビジネスは成長を支えるか
 - (2) 環境ビジネスと経済成長：理論的な観点から
 - (3) 経済発展経路の転換にかかわる問題
 - (4) 経済成長の神話 vs ゼロ成長の神話
10. バツの管理システム
 - (1) 現行の廃棄物レジームの限界
 - (2) バツ・フローの最適制御(1)：制御主体の観点から
 - (3) バツ・フローの最適制御(2)：包括的環境政策
 - (4) バツ・フローの最適制御(3)：バツ処理・再資源化の費用論再論
 - (5) バツ・フローの最適制御(4)：いくつかの例
 - (6) 環境パートナーシップ

テキスト：

・細田衛士『グッズとバツの経済学』東洋経済新報社

参考書：

・ウェブ・サイトに提示
 (http://www.econ.keio.ac.jp/staff/hosoda/lecture/)

授業の計画：

「授業科目の内容」で示した内容を半期集中 13 回で行う。尚、リアルタイムで起きている環境問題についても随時解説を行うので、計画の遂行は、伸縮的に行う。

履修者へのコメント：

- (1) 就職活動を理由にした欠席は、公欠とはみなさない。
- (2) 基本資料は細田のウェブサイトから探しておくこと。(経済学部のウェブサイトからも入ることができる。)

成績評価方法：

・学期末試験（定期試験期間内の試験）（春秋とも）
 年 2 回の試験をもって行う。但し、場合によってはレポートを課し、成績評価の一部とすることもあり得る。

質問・相談：

講義終了時に随時受け付ける。

地域経済論（秋学期）

講師 高橋 孝明

授業科目の内容：

経済構造の質的転換の中で、国民経済の内部における成長地域と停滞地域が明確になるとともに、国境を越えた生産や消費のネットワークが築かれるようになり、国を越えた地域経済間の競争と協力も現実のものとなっている。また、EU をはじめ、地域経済統合の行方が世界経済の今後を決める要因の一つとなろうとしている。本講義は、このような背景の下で地域経済への関心が高まっている現実を踏まえて、地域経済の分析と課題について、入門的な講義を行い、地域経済の基礎的理解を深めることを目的とする。

テキスト：

開講時に指示する。

参考書：

開講時に指示する。

授業の計画：

時間の制約に応じて、以下の項目から適宜選択して講義を進める。

1. はじめに
 - (1) 地域経済論の課題と方法
 - (2) 国民経済のサブ・システムとしての地域経済
 - (3) グローバル経済のサブ・システムとしての地域経済
 - (4) 地域経済論の隣接社会科学分野：
空間経済学，都市経済学，国債貿易論，経済地理学
2. 国民経済の地域的構成
 - (1) マクロ経済分析と地域経済計算
 - (2) 地域所得の決定
 - (3) 地域内・地域間産業連関分析
3. 地域経済のダイナミクス
 - (1) 人口動態と地域経済の変容
 - (2) 地域経済の成長モデル
 - (3) 地域間経済格差
4. 地域経済の空間構造
 - (1) 規模の経済と不可能性定理
 - (2) 空間的競争と地域独占・寡占
 - (3) 産業立地と集積の利益
 - (4) 集積の利益と社会的厚生
5. 地域経済の階層構造
 - (1) 中心地と都市システム
 - (2) 地域経済における階層構造の生成メカニズム
 - (3) グローバル都市ネットワークと地域経済
6. 地域経済の国際的展開
 - (1) 比較優位と規模の経済
 - (2) 国際貿易と国内地域構造
 - (3) 国際的産業集積
 - (4) 地域経済統合
7. 地域経済の政策的課題
 - (1) 産業政策と国土政策

- (2) 地域経済システムの再編と一極集中
- (3) 社会資本と公共投資

8. おわりに

生産と消費の場としての地域経済

成績評価方法：

- ・学期末試験の結果による評価

質問・相談：

随時オフィスアワーを設けるが、事前にメールで担当教員に連絡をとり、日時を決めること。

連絡先：takaaki-t@csis.u-tokyo.ac.jp

地域環境問題

講師 山口光恒

授業科目の内容：

「地球温暖化を中心に」

ロシアの批准でいよいよ京都議定書が発効する。温暖化対策は経済への影響の大きさ故に、いかにして環境と経済の両立を図るかが最大の課題である。環境問題への対処の主体は政府、地方自治体、企業、消費者、即ち社会の全構成員で、しかもグローバルな対応が求められている。本講座では地球環境問題の本質について説明した後、企業、政府、消費者の順に各主体と環境の関係を述べる。次いで、日本、アジアの最新の動向を解説し、つづいて国際的にもっともホットな問題である地球温暖化問題を集中的に講義する。1年間の講義で、世界の温暖化問題の最新事情が理解できるようになると同時に、日本の取り組みに対する諸君の考え方を形成する上での基礎を学ぶことが出来る。尚事情が許せば企業の一線で環境問題に取り組んでいる方を招き討論を行う。主な内容は以下のとおりである。

テキスト：

- ・山口光恒『地球環境問題と企業』岩波書店、2000年

参考書：

- ・F.ケアンクロス（東京海上グリーンコミティ訳）『地球環境と成長』東洋経済新報社、1995年
- ・山口光恒・岡敏弘『環境マネジメント』放送大学教育振興会、2002年
尚、放送大学大学院（TV）で「環境マネジメント」と題する講義を行っているので、そちらも視聴することが望ましい。

授業の計画：

1. 地球環境問題の本質 経済学的側面から
(企業)
2. 地球環境問題と企業
3. 環境管理の国際標準化（ISO14000 シリーズ）と日本企業
4. LCA — 製品に対する総合的環境配慮の手法
5. 地球環境問題と企業経営
(政府)
6. 環境政策の目的費用と便益
7. 政府の介入の必要性と PPP の原則
8. 経済的手法の理論と実際
9. 排出権取引と炭素税
(消費者)
10. NGO 住民・消費者の役割
(日本)
11. わが国の環境問題
(海外)
12. アジアの環境問題
(地球温暖化)
13. IPCC 第3次報告 その1
14. 同上 その2
15. 気候変動枠組み条約
16. 締約国会議
17. 京都議定書 その1
18. 同上 その2
19. 議定書後の日・米・EU の対応
20. EU の排出権取引 理論と現実
21. 議定書批准と日本の対応 その1 環境税、排出権取引
22. 同上 その2 中国を中心とした CDM 促進策
23. POST 議定書 — 新たなレジームの構築に向けて

24. 自由貿易と環境保護の両立 温暖化問題を巡って

履修者へのコメント：

私語、遅刻厳禁

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）
- ・平常点（出席状況および授業態度）

環境評価論（秋学期）

専任講師（有期）河田幸視

授業科目の内容：

本講義は、自然環境が有する経済的価値を評価する手法を解説する。

今日、自然環境の大部分は、人間活動の影響下にあり、とりわけ大規模な変化が生じる場合には、しばしばその是非が問われる。経済的観点からは、人間活動が自然環境に及ぼす様々な効果が費用と便益に整理され、これらが比較される。近年では、費用、あるいは便益の一部として、自然環境が有する価値や人間活動による環境質の変化を経済的に評価することに対して関心が高まっている。

例えば、森林を伐採して公園整備事業を行う場合、公園の整備にかかる費用や期待される入場料だけでなく、森林伐採に伴う環境質の変化（水涵養機能や生物多様性の低下など）を考慮する必要がある。また、中山間地域では農耕地の放棄が問題となっている。しかし、農林業活動は、農林作物の生産機能だけでなく、地域の景観形成、災害防止などの公益的な機能を有し、良好な環境質を提供していることに配慮する必要がある。

人間活動によって生じる環境質の改善や悪化は、市場を通じた取引がなされない外部効果である。このため、社会的効率性を達成するためには、環境質を経済的に評価してその価値を明らかにし、内部化を行う必要がある。本講義では、こうした目的に用いられる環境評価手法について解説する。

テキスト：

指定なし

参考書：

講義中に指示する。

授業の計画：

- (1) ガイダンス&環境評価とは？（1回）
- (2) 環境評価のための経済理論（2回）
- (3) 費用便益分析（3回）
- (4) 表明選好法（3回）
- (5) 顕示選好法（3回）
※予備日（1回）

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価

アジア社会史

教授 倉沢愛子

授業科目の内容：

新しい文明の到来、外国による植民地支配、さらには近年の経済発展などの結果東南アジア社会はどのような社会変容を体験してきたのかを論じる。

現代に関する部分は、インドネシアにおける倉沢のフィールド調査の結果をもとに、映像などを使いながら具体的な問題を取り上げて論じる。

試験は年度末にまとめて行う。三分の二以上の出席が無い場合は受験資格がない。（就職試験の当日と重なるなどやむをえない事情によって欠席する者は証明を添付して届け出れば考慮する）

テキスト：

- ・倉沢愛子『ジャカルタ路地裏フィールドノート』中央公論新社、2001年

授業の計画：

- (1)－(4) 東南アジアの伝統社会と（新文明の到来、交易 etc）、
- (5)－(10) 植民地支配下の東南アジア社会（植民地経済、西洋文明、近代化 etc）
- (11)－(13) 東南アジア諸国の独立と国家建設
- (14) 経済開発と社会変容

- (15) 外資の導入と工業化
- (16) 経済協力の問題点
- (17) 大都市の変容 (都市計画とスラムの破壊)
- (18) 農村社会の変容 (緑の革命 etc)
- (19) 伝統的「市場」
- (20) 教育
- (21) 保健衛生
- (22) 新中間層の台頭
- (23) 宗教
- (24) グローバル化する文化
- (25) メディア
- (26) 労働力移動

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価

ラテンアメリカ社会史

教授 清水 透

授業科目の内容：

この講義では、西欧文明とインディオ社会との関係史を紹介しつつ、現代の諸問題の原点を近代以降の歴史のなかにさぐります。同時に、政治史・経済史を中心に描かれてきた従来の歴史叙述と歴史の方法について、社会史の視点から検討を加えます。

具体的には、20年以上にわたり私が通いつづけてきたメキシコのマヤ系インディオ村落チャムーラ社会でのフィールドワークの体験を織りまぜつつ、「発見」以降のラテンアメリカの歴史を、一インディオ村落の側から見つめなおし、そこから見えてくる歴史と「未開」社会の価値の世界が、テロと報復戦争で幕を開けた21世紀に生きる私たちに、何を問かけているか、じっくり考えてみたいと思います。究極的には、「近代といのち」というテーマを追究することとなります。

テキスト：

なし

参考書：

- ・清水透『エル・チチヨンの怒り―メキシコ近代とアイデンティティ―』東京大学出版会、1998年
- この他、毎回のテーマに従って、その都度配布するレジユメに参考文献一覧を紹介する。

授業の計画：

- 1) インディオと私：自分史
- 2) 1492年と他者の創造：近代的まなざし成立の契機
- 3) 「文明」の空間と「野蛮」の空間：空間構造の植民地的再編
- 4) 「文明」の神とインディオの神：神意識の自己再編過程
- 5) 「野蛮」の抵抗―「敗者の歴史」再考
- 6) 近代化と共同体(1)：独立と白色国民国家構想
- 7) 近代化と共同体(2)：資本主義開発と共同体の論理
- 8) 問われ始めた「文明」：ナショナル・アイデンティティの創造と共同体
- 9) 村の液状化・都市の液状化：現代の〈都市〉＝〈共同体〉関係
- 10) 「文明」と「弱者」

履修者へのコメント：

下記の成績評価方法からも明らかなおおり、就職活動等による欠席は、成績評価の際に全く考慮されない点を、十分承知したうえで、聴講するか否かを定めること。

成績評価方法：

- ・講義内容の論点・コメント・批判・疑問点について、毎回レポートを提出すること。字数制限なし。
- ・レポートは次週の講義中に回収する。代理提出は認めない。
- ・欠席して提出できなかったレポートは、その次の講義までに提出する。
- ・提出されたレポートについて7段階評価を行い、最終講義日までの総得点のみにより、成績評価を行う。したがって、追加レポート、追試験等は実施しない。ちなみに、昨年度の実質聴講者数は58名、単位認定されたもの約80%。

地方分権論 (秋学期)

教授 金子 勝

授業科目の内容：

多くの国々で地方分権の動きが強まっている。最近、日本でも「三位一体改革」として、地方分権が重要な政策課題となり、多くの人々の関心を集めている。こうした状況をふまえて、日本を含む世界の地方分権の動向を、政治的行政的あるいは財政的な側面を含めた広い視野から考察する。

テキスト：

随時プリントを配布する。

授業の計画：

授業は以下の項目にしたがって行う。

- ① 欧米諸国における地方分権の動向
 1. 米国：1970年代から今日まで
 2. 英国：サッチャー改革からブレアまで
 3. EU統合と地方自治憲章
 4. 中国：分税制改革と集権化
- ② 日本における政府間関係の歴史
 1. 高度成長から田中角栄型政治へ
 2. バブル崩壊と景気対策の歪み
 3. 三位一体改革：その問題の位相
- ③ 地域格差と地域再生：具体例を示しながら

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点 (出席状況および授業態度)

簿記

講師 千葉 洋

授業科目の内容：

会計は企業における経済活動を企業資本の機能活動の具現形態とみなし、その運動の経過ないしは末を計数的に測定・描写して企業資本の統一的・全体的な管理をおこなおうとする技術的な行為であり、複式簿記はこうした企業資本の統一的・全体的な管理を行うためのいわば装置としての役割を果すものである。

本講義では複式簿記の基本構造とその一巡の主要手続きとを体系的に解説する。なお理解を深めるために随時演習も課す予定である。

テキスト：

- ・山榎忠恕『複式簿記原理 (新訂版)』千倉書房

授業の計画：

講義の概要はつぎのとおりである。

ガイダンス (1回)

I. 複式簿記の基礎

1. 複式簿記の意義と特質 (計2回)
2. 勘定科目の設定 (計2回)
3. 取引の仕訳 (計2回)
4. 元帳への転記 (計2回)
5. 試算票の作成 (計2回)

II. 勘定科目詳説 (計8回)

III. 決算の諸手続き

1. 決算予備手続き (計3回)
2. 決算本手続き (計3回)

IV. 精算表と財務諸表

総括 (1回)

履修者へのコメント：

積極的に学ぶ意欲を持つ学生を歓迎します。

成績評価方法：

- ・秋学期末試験のみ (定期試験期間内の試験)
- ・平常点 (出席状況および授業態度)

質問・相談：

授業時および終了時に受け付けます。

金融資産市場論 (野村ホールディングス寄附講座)

コーディネーター 教授 吉野直行
助教授 藤田康範

授業科目の内容：

寄附講座であり、毎回、民間金融機関のトップ、政策担当者などにより、実務の立場から金融の現状について講義を行う。講義は、前期・後期ともに、それぞれ2/3以上の出席がなければ単位は与えない。毎回の講義では要点を配布用紙にまとめて提出すること。成績は、出席点、学期末試験を合計して評価する。

授業の計画：

主な内容としては、

- (1) 日本の金融市場、金融資産市場の変遷と現状
 - (2) 不良債権問題と銀行行動の変化
 - (3) バブル経済と銀行の内部組織問題
 - (4) 日本の金融政策
 - (5) 株価の変動と日本経済
 - (6) 地価と不動産金融
 - (7) 日本の証券市場
 - (8) 金融行政
 - (9) IMFの役割とその経済政策
 - (10) 世界銀行の貧困削減政策
 - (11) アジア開発銀行とプロジェクトファイナンス
 - (12) BIS規制と銀行行動
- などを予定している。

中小企業金融論 (信金中央金庫寄附講座)

コーディネーター 教授 吉野直行
助教授 藤田康範

授業科目の内容：

寄附講座で、中小企業金融をテーマに、毎回、実務家・中小企業・政策担当者などによる講義が行われる。講義には、2/3以上の出席がなければ、単位は与えない。毎回、配布用紙に講義の要点を書いて提出すること。成績は、出席点、学期末試験を合計して評価する。

授業の計画：

主な講義内容は、

- (1) 日本の中小企業の現状
 - (2) 中小企業金融行政の変遷
 - (3) 経済産業省(中小企業庁)の中小企業政策
 - (4) 金融庁による中小金融機関の検査・監督
 - (5) 借手中小企業の現状と金融機関との関係
 - (6) 信用金庫の行動分析
 - (7) ノンバンクによる中小企業金融
 - (8) 政府系金融機関による中小企業金融
 - (9) 地域金融の現状と課題
 - (10) 中小企業貸出債権の流動化
- などを予定している。

企業金融論 (みずほ証券・新光証券寄附講座)

コーディネーター 教授 池尾和人
助教授 土居文朗

授業科目の内容：

ファイナンスは、①企業金融論と②投資理論および資産市場論の2本柱から構成される。本講義は、もちろん前者を中心とする。それに伴い、本年度の特殊科目「ファイナンス入門」は、後者を中心に講述される予定である。

企業金融論の場合には、理論と実践のバランスがとりわけ重要である。そのために、講義では、実務経験の豊富な外部講師に多くを担当してもらう。ただし、その場合でも、理論的な整合性等には最大限の配慮を払うように依頼し、同一者に1回限りではなく2~3回の講義を担当してもらうことで、できるだけ体系的な説明がなされるようにする。

加えて受講者には、講義への参加とともに、積極的に自習を行うことを求めたい。具体的には、企業金融論の最も標準的なテキストであるBrealey & Myers, *Principles of Corporate Finance* の邦訳を指定教科書とし、その内容を講義の予習復習として自習することを受講の条件とする。

テキスト：

・リチャード・ブリーリー、スチュワート・マイヤーズ(藤井真理子・国枝繁樹監訳)『コーポレート・ファイナンス(第6版)』上・下、日系BP社、2002年

参考書：

・大村敬一・他著『経済学とファイナンス』東洋経済新報社、2004年
・池尾和人編著『エコノミックス・入門金融論』ダイヤモンド社、2004年

授業の計画：

春学期は、指定教科書『コーポレート・ファイナンス』の上巻の構成に対応させて、ガイダンス(1回)のあと、

- 第1部 価値(2回)
- 第2部 リスク(2回)
- 第3部 資本支出予算における実際的な問題(2回)
- 第4部 資金調達決定と市場の効率性(3回)
- 第5部 配当政策と資本構成(3回)

という順序で講義を行う。

講義は、外部講師を招いて実施することを基本とするが、当初は、基礎的なファイナンスの知識を受講生に与えることが不可欠なので、前半6回のうち、4回についてはコーディネータのうち一人(池尾)が講述する。その間に、企業金融・財務の活動について幅広い経験をもった実務家とコーポレート・ガバナンス(企業統治)に関する見識の高い経営者をゲスト講師として招へいし、それぞれ1回ずつ担当してもらう。

後半の第4部は証券会社、第5部は事業会社の財務部門の実務家を招いて、それぞれ3回構成で講義を行ってもらう。

秋学期は、指定教科書『コーポレート・ファイナンス』の下巻の構成に対応させて、春学期の復習(1回)のあと、

- 第6部 オプション(3回)
 - 第7部 負債による資金調達(2回)
 - 第8部 リスク管理(2回)
 - 第9部 財務計画と短期の財務管理(2回)
 - 第10部 合併および企業のコントロールとガバナンス(3回)
- という順序で講義を行う。

第6部については、デリバティブ全般について、実務家と大学研究者の組み合わせで3回の講義を行う。第10部についても、同様の構成を考える。第7, 8, 9部については、それぞれ証券会社、銀行、事業会社の適切な実務家を外部講師として招へいし、2回ずつの講義を担当してもらう。

履修者へのコメント：

企業金融論(ファイナンス)の基礎知識は、財務や経理の分野で職を得ようとする者のみにとどまらず、現代の社会に生きるすべての者にとって、いまや必要不可欠なものとなっている。その意味では、企業金融論は、就職を控えた経済学部4年生は全員履修してもおかしくない科目である。

しかし同時に、企業金融論の内容を十全に習得するためには、かなりの学習量を必要とする。それゆえ、既述のように、受講生にはしっかりとテキストの自習を行い、ファイナンス理論の理解を深めるように十分に努力することが求められる。この点では、真に学習意欲の高い学生でなければ、本講義から十分な成果を得ることは難しいといえる。

成績評価方法：

成績の評価は、春学期・秋学期の各々終了時に試験を実施し、その得点の合計による。出席点は特に考慮しない。試験の出題範囲は、講義中に述べられたもののみならず、指定テキストの内容も含むものとする。

授業科目の内容：

この科目では、産業連関分析、ならびにその前提として国民経済計算 (SNA) を体系的に理解し、現実の経済を分析するための手法を身につけることを目的としています。

また演習においては現実のデータである公表された産業連関表を用いてさまざまな分析を受講者諸君にやってもらう予定です。

産業連関分析はかなり強力なツールですが、分析のために膨大な量の計算を必要とします。ある程度型にはまった分析であれば、公表された表に付随している計数表をみることでわかることもあります。特定の部門について詳細に分析したいときや、さまざまな仮定においてシミュレーションを行いたいときには、自分でそのような計算をやらなければなりません。2行2列の行列演算で足りるような仮設例としての産業連関表での分析であれば筆算や電卓でも計算できますが、いやしくも現実の経済を分析しようというならばここでは数十から数百部門の行列での掛け算や逆行列計算が必要になります。そのためには、コンピュータを使った計算ができなければお話になりません。

これらの計算は、以前であれば、プログラミングができなければ難しかったのですが、最近では Excel のような表計算ソフトによって (小規模の表であれば) 行うことは可能です。この演習では、この Microsoft Excel を使ってさまざまな産業連関分析の計算を行う予定です。

テキスト：

最初の授業の際に指示します。

授業の計画：

授業は学生のレベルを考慮しつつ進行します。主な内容は次のとおりです。

- ・ SNA と産業連関表
- ・ 産業連関分析の理論的枠組
- ・ 日本の産業連関表の特徴
- ・ 実際の表を使った基本的な分析

履修者へのコメント：

上記の通り Microsoft Excel を使って演習を行いますので、最低限、表計算ソフト Microsoft Excel が使える (「絶対参照」と「相対参照」の違いがわかっており、関数を使った計算ができる) ことを前提として4月からの授業を行います。

また、E-mail を使えることも前提として授業を運営します。さらにインフォメーション・テクノロジー・センターの Windows PC のアカウントをもっていることも必要です。

なお、追加的な情報について、WWW でお知らせしますので、<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/akab/lecture/> をご覧ください。

成績評価方法：

基本的には平常点です。ただし参加する人数が多くなった場合にはレポートを併用する可能性もあります。

授業科目の内容：

ファイナンス理論、特に派生商品価格付け理論に関する輪読を行う。内容は研究会に準ずる。従って研究会参加者は必ず履修すること。

テキスト：

第1回の授業の時に紹介する。

参考書：

授業中に紹介する。

履修者へのコメント：

「金融論」、「ファイナンス入門」、「確率・統計」の講義を履修していることが望ましい。

成績評価方法：

平常点 (出席と授業態度)

質問・相談

メールまたはオフィスアワー

授業科目の内容：

ミクロ経済学の応用理論である産業組織および企業理論の研究を行う。ゲーム理論と契約理論を分析用具とし、企業組織・企業行動や経営戦略について学習することを目的とする。春学期前半に初歩的な契約理論の習得を行った後、以下のテキストを教材とする予定である。参加者による Power Point を用いたプレゼンテーションに基づいて授業を行う。

テキスト：

- ・ Brickley, Smith and Zimmerman, *Managerial Economics and Organizational Architecture, Third Edition*, McGraw-Hill, 2003

履修者へのコメント：

この「演習」は石橋が担当する研究会 (3年) を補足する目的を兼ねているので、石橋研究会の会員は履修すること。また演習という科目の性格から少人数の履修が望ましいので、履修希望者が多すぎる場合には何らかの方法で履修制限を行う可能性がある。したがって履修希望者は第1回目の授業には必ず出席すること。

成績評価方法：

- ・ 平常点 100 %

授業科目の内容：

以下の学部上級・大学院レベルの契約理論のテキストを教材として、契約理論を学習する。参加者による報告に基づいて授業を行い、履修者は複数回の報告が義務付けられる。

テキスト：

- ・ 伊藤秀史『契約の経済理論』有斐閣、2003年

履修者へのコメント：

履修希望者は各自で教材を用意しておくこと。履修にあたっては、不確実性と情報の経済理論・ゲーム理論および非線形計画の基礎地域が必要である。また演習という科目の性格から少人数の履修が望ましいので、履修希望者が多すぎる場合には何らかの方法で履修制限を行う可能性がある。したがって履修希望者は第1回目の授業には必ず出席すること。

成績評価方法：

- ・ 平常点 100 %

授業科目の内容：

テーマは若年雇用問題とし、若年失業、七五三離職、ニート等の問題を考える上で参考になる文献を、国内・海外から渉猟して読んでいきたい。必要に応じて、経済学のみならず教育社会学や産業社会学の文献も視野に入れてゆく。形式としては、最初は基礎的な文献を示し、そのいくつかを輪読の形で読んでいくが、参加者の関心に基づいた報告も行ってもらうことを考えている。

テキスト：

初回到論文・著書などの紹介を行う。ただし、次の文献は基本書として掲載しておく。

- ・ D.G. Blanchflower and R.B. Freeman, eds. *Youth Employment and Joblessness in Advanced Countries*, NBER, 2000

履修者へのコメント：

英語文献も含めて多くの文献を読みたいので、意欲のある学生に参加してほしい。

成績評価方法：

- ・ 平常点 (出席状況および授業態度)

演習	助教授 大平 哲
	助教授 山田 篤裕

授業科目の内容：

貧困、所得の不平等の問題を分析する経済学を展望する。いままで経済学では、分析の中心は効率性であり、貧困・不平等の問題を十分に分析の対象にしてこなかった。しかし、社会保障の役割や、なぜ途上国支援をするのかといった問題を考えるためには、効率性だけでなく、貧困・不平等の問題をどのように評価するかについても、きちんと考えておく必要がある。具体的には、A. センによる研究をはじめとしたいくつかの文献を輪読する。取り上げる文献は履修者との相談の上で決めることにする。いくつかの候補を <http://www.econ.keio.ac.jp/staff/tets/kougi/study/2005/> に掲載する。このサイトには、授業に関する補足情報もある。参考にしてもらいたい。

テキスト：

履修学生の意見を聞いたうえで、上記ウェブサイト上の文献リストからいくつか指定する。

参考書：

テキストの候補のほか、貧困、格差の問題を考える上での重要文献を上記サイトに掲載してある。

履修者へのコメント：

ややレベルの高い文献もありますが、すべての履修者が内容を理解できるよう工夫します。担当者が2人いるので、1つの質問に対してちがった角度から回答できることも強みです。教室の中での議論だけでなく、メーリングリストを活用して内容理解を深めるつもりでもあります。世界の貧困問題や、社会保障の問題など、現実の出来事を扱いながらも、事実を追うだけでなく、それらを説明する理論まで深く探求することをこの授業では考えています。理論と現実をバランスよく学習したいと考えている学生の参加を望みます。(大平 哲)

労働者が減少する中で、限られた経済的成果をどのように配分するか(パイの分け方)は、あらゆる場面で、今後、常に問題となるでしょう。理論よりも、幅広くこうした現実問題に関心をよせる学生の受講を特に歓迎します。とはいえ、感情論に流されずに、どのような政策が望ましいか判断するには、回りくどいようでも、理論を理解した上で、どのような方法で、それを現実にあてはめることができるのか(実証問題)、そのプロセスを学ぶことが大切です。この演習を一年間履修することで、開発経済学や社会保障における公平性の問題を分析する理論的・実証的枠組を身につけることが期待されます。(山田篤裕)

成績評価方法：

履修者に応じて春、秋それぞれ何回かレポーターを務める。その平常点、および各学期末に提出するレポートの内容で決める。

質問・相談：

メール、および日時を約束した上で随時。

演習	助教授 大平 哲
----	----------

授業科目の内容：

日本国内の地域経済の実状を調べる。自分が興味をもっている地域を取り上げ、一年間をかけて、その地域の実状、今後の政策運営のありかたなどをまとめるレポートを作る。文献情報だけでなく、可能なかぎり現地を実際に訪れることを大事にする。くわしい情報を <http://www.econ.keio.ac.jp/staff/tets/kougi/chiiki/> に掲載する。

テキスト：

なし

参考書：

上記ウェブサイトに参加文献を掲載してある。

授業の計画：

履修者がレポーターとなって自分の調べた内容を教室で報告し、全員で議論する。一年の授業が終わった時点で、日本各地の地域経済がかかえている問題点が展望できるようなまとめを全員で作ることを目的にしている。

履修者へのコメント：

この授業では、現地を実際に見ること、そこで暮らしている人たち

の生の意見に接することを大事にします。活動的な学生の履修を望みます。また、自分の見聞を体系的に整理することで、他の学生にも知見を伝える能力を身につけることができます。レポートを書くことを必修にしているのはそのためです。どれだけ有用な体験をしても、それを他人に伝える工夫をしないうと、体験を自分のものとして消化することができないものです。せっかくの有用な体験を一時のものとして忘れてしまうのではなく、しっかりと自分の血肉にするために、体験で得たことを他人と共有するという考えです。現地での体験を重視しながらも、文献情報も同様に重視するのは同じ考えからです。独りよがりの経験談ではなく、他人の経験や思索も参考にした上で、多くの人々の間で共有できるような知恵を生み出す能力を身につけることを、この授業では重視しています。

成績評価方法：

・平常点(出席状況および授業態度)

質問・相談：

メール、および時間を約束した上で随時。

演習(秋学期)	教授 大沼 あゆみ
---------	-----------

授業科目の内容：

「生物多様性の減少」に着目し、個別種および生態系の保全についての英語論文を輪読する。個別種保全の問題として、「アフリカゾウ」の保護と密猟に関する研究、および生態系保全の問題として「熱帯雨林」の保全インセンティブについての研究を展望する。これらを通じて、生物多様性保全メカニズムについての洞察を得ることを目的にする。英語読解力と経済数学、および環境経済学の基礎知識を前提にする。英語論文は最初の授業時に配布する。

成績評価方法：

毎回の授業での出席及びレポートの内容により評価する。

質問・相談：

随時受け付ける。メールでアポイントメントをとること。

演習	教授 尾崎 裕之
----	----------

授業科目の内容：

経済発展論の大変優れたテキストである Debraj Ray, *Development Economics*, Princeton U. Press, 1998 の後半の章(国際貿易に関する部分)をなるべく丁寧に輪読する。演習参加にあたっては、ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎知識を前提とする。平易な英語で書かれているので、英語力に関してはそれほど心配することはないと思う。なお、この演習は、担当者の研究会(3年)と連動しているため、研究会参加者は履修することが望ましい。

演習	専任講師(有期) 河田 幸視
----	----------------

授業科目の内容：

本演習では、環境評価手法のうち、CVM(Contingent Valuation Method, 仮想評価法)とトラベルコスト法を解説したマニュアルを輪読する。

CVMは、アンケートを用いて環境便益を尋ねる表明選好法に分類される。環境の質が変化することに対する支払意思額ないしは受入補償額を尋ね、それをもとに社会全体の環境便益を推定する方法である。

トラベルコスト法は、人々の消費活動をもとに環境便益を推定する顕示選好法に分類される。レクリエーション活動で得られた物理的・精神的便益を、レクリエーションサイトの価値として金銭的に評価する手法である。

受講者は、ミクロ経済学および計量経済学の基礎知識が備わっていることが望ましい。

テキスト：

- ・肥田野登編著『環境と行政の経済評価 CVM〈仮想市場法〉マニュアル』勁草書房、1999年
- ・Ward, F.A. and D. Beal, *Valuing Nature with Travel Cost Models: A Manual*, Edward Elgar, 2000年

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）

演習 教授 倉沢 愛子

授業科目の内容：

イスラーム社会に住む人々の生活を、特に経済開発や「近代化」との関連で論じる。

イスラームは、近年「テロ」との関連で注目されているが、本来イスラームは急進的な危険な宗教ではない。しかしながら日本社会にはまだ偏見も多いように思われる。様々に誤解されているイスラーム教とイスラーム社会について一緒に考えたい。

まずメッカ巡礼、日に5回の礼拝、断食などイスラームに関する基本的な事項についての知識を習得したのちに、現在のイスラーム社会が直面しているさまざまな問題について考える。その際に焦点を、われわれに身近な東南アジアのイスラーム社会におく。

一般に近代化や経済発展と共に、宗教は薄れていくといわれているが、アジア社会の現実を見るとイスラームの信仰は近年、より深まってきている。世界最大のイスラーム人口をかかえるインドネシアにおいて、とりわけその傾向が顕著である。それはなぜなのか？なにゆえイスラームは人々の心をひきつけているのか？こういった疑問を、特に近代化や経済開発、さらにその結果として生じたさまざまな社会変容との関連で考える。

よりリアルなイメージを描けるように、授業では倉沢が撮影したさまざまな映像を紹介する。

授業は、講義形式を中心とするがディスカッションの時間をとるようにし、受講生の積極的な参加を希望する。授業の最後の数回は、受講生が各自テーマを決め、一回ずつ研究発表を行う。

テキスト：

特になし

参考書：

- ・小松久男・小杉泰編『現代イスラーム思想と政治運動』東京大学出版会、2003年
- ・見市健『インドネシア・イスラーム主義のゆくえ』平凡社、2004年

授業の計画：

- (1)－(4) イスラーム教の歴史と教義（巡礼・断食・礼拝）
- (5)－(6) 日本とイスラーム（歴史的視点から）
- (7) 東南アジアのイスラーム社会
- (8) インドネシアの伝統社会とイスラーム
- (9) インドネシアのナサコム体制とイスラーム
- (10) イスラームと9・30事件
- (11) インドネシアの開発体制（スハルト政権）とイスラーム
- (12) 新中間層の台頭と社会変容
- (13) キャンパス中心に芽生えた宣教活動
- (14) 女性のイスラーム服とヴェールの着用
- (15) 巡礼とその周辺産業の発展
- (16) イスラームと教育
- (17) イスラーム社会の女性（女性の地位。婚姻法・家族計画）
- (18) イスラーム急進派とテロリズム
- (19) 民主化とイスラーム政党
- (20)－(26) 受講生による研究発表

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）

質問・相談：

火曜日・木曜日に研究室に電話（5427-1335）

演習 助教授 グレーヴァ 香子

授業科目の内容：

研究会の授業の延長として行う。申し訳ないが、参加者は研究会の参加者に限定する。

テキスト：

研究会と同じ。

参考書：

研究会と同じ。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度による評価）

演習（秋学期） 教授 杉浦 章介

授業科目の内容：

空間的経済データの分析手法について演習を中心に行う。実証分析を基にするレポートや卒論の書き方・まとめ方についてもふれて行く。

テキスト：

テキストは使わない。

参考書：

テーマ毎にプリントを配布する。

授業の計画：

1. 空間的パターンの識別
2. 空間的データの記述統計量の算出
3. 地図情報の活用法
4. その他

履修者へのコメント：

演習なので、毎回出席し、2週に1回、課題の報告を行うこと。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点（出席状況および授業態度）

演習 専任講師 蔦木 能雄

授業科目の内容：

本演習では、「慶應義塾と近・現代日本の社会思想」をテーマにして福澤諭吉の思想と門下生たちの業績を取り上げてみたい。

今年度は「転換期」における日本の社会問題と「社会主義思想」との関連を議論する予定である。「社会思想史」に関心のある学生諸君の参加を期待する。

テキスト：

・福澤諭吉『文明論之概略』他

参考書：

- ・丸山真男『『文明論之概略』を読む』岩波書店、1986年
- ・飯田鼎著作集第6巻『福澤諭吉と自由民権運動—自由民権運動と脱亜論』御茶の水書房、2003年

授業の計画：

ガイダンス 1回

『文明論之概略』を一例に挙げると諸文と本論が10章の構成となっている。

前半（春学期）で「卷之二」第5章までを、後半（秋学期）で「卷之三」以降10章を読了する予定。

履修者へのコメント：

学ぶことに積極的な学生諸君を希望する。
毎回報告、毎回報告要旨作成の必要あり。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）
- 出席重視、授業態度重視

演習 教授 寺出 道雄

授業科目の内容：

経済思想史の概要を学ぶため、前期においては下記のテキストの講読を行う。後期においては、受講者の関心に応じてテキストを選定し講読を行う。

テキスト：

- ・R.L. ハイブルローナー『入門経済思想史 世俗の思想家たち』ちくま学芸文庫、2001年

授業の計画：

前半期 上記テキストの講読
後半期 前期において指定したテキストの講読

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点（出席状況および授業態度）

演習（秋学期）

教授 前多康男

授業科目の内容：

金融経済学に関する基本的な知識を身に付けることを目的とする。

テキスト：

- ・酒井良清・前多康男『金融システムの経済学』東洋経済新報社、2004年

参考書：

- ・池尾和人・大橋和彦・遠藤幸彦・前多康男、渡辺努『入門 金融論』ダイヤモンド社、2004年
- ・酒井良清・前多康男『新しい金融理論』有斐閣、2003年
- ・岩本康志、斎藤誠、前多康男、渡辺努『金融機能と規制の経済学』東洋経済新報社、2001年

授業の計画：

まず、教科書を用いて、数回の講義を行い、その後、内外の文献を輪読していく。具体的なトピックスについては、以下の通りである。1. 金融取引の機能について、2. リレーションシップ取引と市場取引、3. 間接金融、直接金融、市場型間接金融、4. 銀行の規律付け、5. 銀行の業務、6. 金融業に対する規制。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）

演習

教授 矢野 誠

研究会に準じる。研究会の要綱を参照してください。

専門外国書講読（英）

教授 飯野 靖 四

授業科目の内容：

OECD が行う日本経済の審査を英文で読むことを通じて、日本経済の動きを勉強すると同時に、経済用語の英単語を勉強することを主目的とする授業である。したがってゼミで英書を使っていないが英書に親しみたい学生向けの授業である。

テキスト：

- ・OECD *Economic Outlook: Japan*

授業の計画：

テキストの輪読。時には *Economist* 等の記事も輪読してみたいと考えている。

履修者へのコメント：

授業の関係上、履修者は先着 20 名に限定したいと考えている。
授業時間中の飲食、携帯電話は遠慮してほしい。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点（出席状況および授業態度）

質問・相談：

できたら授業の直後をお願いしたい。Eメールは顔が見えないので好まない。

専門外国書講読（英）

教授 倉 沢 愛 子

授業科目の内容：

全員で教科書を読み、和訳するという作業を進めながら、その中で扱われている諸問題（経済発展と村落社会の変容、国家と村落社会の関係 etc）についての概説を講義する。

英語の逐語訳よりも大意把握の能力を養う事に重点を置く。

教科書全部を読み終わることは難しいので、進行の度合いを見ながら、適宜必要箇所をコピーして配布する。

試験は年度末にまとめて行う。英語力を試す問題と、教科書で述べられた諸問題に関する理解度を試す問題と半々で出題する。三分の二以上の出席がない場合は受験資格がない。（就職試験の当日と重なるなどやむをえない事情によって欠席する者は証明を添付して届け出

ば考慮する）

テキスト：

- ・Hans Antlov, *Exemplary Center, Administrative Periphery: Rural Leadership and the New Order in Java*, Curson Press, 1995

授業の計画：

- (1) - (5) 教科書の背景になっている社会についての概説
- (6) - (9) 国家と村落（歴史的背景）
- (10) - (13) 村落の経済
- (14) - (16) 村落のリーダーシップ
- (17) - (19) 中央集権国家と村落社会
- (20) - (23) 文化とコミュニティー
- (24) - (26) 地方政治と国政選挙

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価

質問・相談：

火曜日・水曜日に研究室に電話（5427-1335）

専門外国書講読（英）

教授 杉 浦 章 介

授業科目の内容：

空間経済や経済地理と、法の重なり合う領域は今日ますます重要なものとして関心を集めている。しかしながら、これまで「法と経済」との関係についてはさまざまな分析の試みがなされてきたが、「法と地理学」については必ずしも紹介されることは多くなかった。本専門外国書講読においては、以下の教材を中心に、この分野についての基本的知識や考え方を学び、さらにこの分野のより専門の文献についても探究できるようにしてゆきたい。法律の知識は特に必要としないので、適宜、必要に応じて解説を行う。輪読の形式を取ることで毎回出席できることを履修条件とする。

テキスト：

- ・Blomley, N., et al, *The Legal Geographies Reader, Law, Power and Space, paper edition*, Blackwell, 2001

参考書：

適宜、紹介して行く。

授業の計画：

- Part I Legal Places
 - (1) Public space
 - (2) Local racisms ad the law
 - (3) Property and the city
- Part II National Legalities
 - (1) State formation and legal centralization
 - (2) Environmental regulation
- Part III Globalization and Law

以上項目の 22 の論文を順次輪読を行い、分担者はレジュメを作成した上で、口頭での報告を行うものとする。

履修者へのコメント：

英語を読みながら、英語でも考えられるようになってもらいたい。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点（出席状況および授業態度）

専門外国書講読（英）

教授 高 梨 和 紘

授業科目の内容：

本年度は開発途上国に関するテーマを春学期、秋学期それぞれに選び、そのテーマに関連する論文を様々なソースから集めて読んで行きたい。ある程度知識を積み上げたところで、参加者間でテーマを巡って意見の交換ができるようにしたい。テーマは現在検討中であるが、具体的には貧困問題の需要サイドからのアプローチに焦点を合わせた論文を選びたい。

テキスト：

参加者に共通する教材を選ぶ。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）

授業科目の内容:

今年度は Thomas E. Willey, Back to Kant, 1978 を用いて 1860 年から 1914 年に至る時代と「ドイツ社会主義思想史」を講義してみたいと考えている。

「Back to Kant」の表題から判るように、この時代はカント主義が復活した時期であるが、一方では資本主義の全盛期を迎え、他方では労働者運動と社会主義思想が興隆期を迎える時代でもある。それはまた経済学にとっても「新しい時代」を迎えることにもなった時代である。

本講義では、そうした「新しい時代」を迎えた社会的背景を考察しながら、では何故「カントへ返れ」という動きが生じてきたのか、その思想的・哲学的基礎を考察してみる。

本講義で用いるテキストの構成は以下の如くである。

1. The Political and Intellectual Setting
2. Back to Criticism: Rudolf Hermann Lotze
3. Hegelians Manqués: Kuno Fischer and Eduard Zeller
4. Friedrich Albert Lange: Kantian Democrat
5. Neo Kantian Socialism
6. The Southwestern School
7. Individuality, Society, and Humanity: The Consequences of Neo-Kantianism

社会思想史に関心のある学生諸君の受講を希望する。尚、私の講義では出席を重視し、その都度「討論と報告」を行っていただくことになり、これらを総合して成績評価を行うつもりである。

テキスト:

Thomas. E. Willey, Back to kant は目下絶版中につき適宜作成して配布する予定。

参考書:

・関嘉彦著『社会主義の歴史』1, 2 力富書房, 1987 年

授業の計画:

春学期でドイツ近代史を巡る問題を含めて 13 回。

秋学期でドイツ社会主義思想の各論を 13 回を予定。

履修者へのコメント:

学ぶことに積極的意欲のある学生諸君の出席を希望する。

成績評価方法:

・平常点 (出席状況および授業態度)

授業態度重視, 出席重視。

授業科目の内容:

現代社会の諸問題について論じたドイツ語の学術的講演をテキストとして取り上げ、それを日本語に翻訳する作業を行う。今年度は Wiener Vorlesungen im Rathaus のシリーズの中から、Tamara K. Hareven/Michael Mitterauer, *Entwicklungstendenzen der Familie*, Bd. 43, 1996 か、Irene Hardach-Pinke, *Über die Vereinbarkeit von Beruf und Familie, Ein Situationsbericht aus Ost- und Westdeutschland*, Bd. 42, 1995 のいずれかを取り上げること考えている。参加者の作成する訳稿について、担当教員が添削指導を行うことで、ドイツ語の学術文献を正確に読みこなす能力を養うことが第一の課題である。そして時間の許す限り、テキストの内容について意見交換を行いたい。なお、ドイツ語文法を修得済みの学生が対象である。

成績評価方法:

授業中に提出してもらったテキストの訳稿にもとづいて行う。

授業科目の内容:

今年度は現代における権力をテーマに、フーコー、ドゥルーズ、デリダなどのテキストを読む予定である。授業は訳読のかたちで進め、随時、参考文献を紹介しながら、内容の補足説明をする。

テキスト:

コピーを配布する。

参考書:

授業中に指示する。

履修者へのコメント:

受講者にはテキストの予習はいうまでもなく、内容について積極的に議論に参加することを期待する。

成績評価方法:

・平常点 (出席状況および授業態度)

授業科目の内容:

この授業では、中国経済の現状に関するトピックを新聞、雑誌、ウェブから選択して読む。できるだけ経済学的背景をもって読み進めるが、中国経済を中国語で読む場合、言葉としての中国語だけでなく、中国の文化、社会の現状、そして中国人のものの考え方などある程度理解することも不可欠になってくる。

したがって、本授業は上記の内容を目標としつつ、中国語文章の解読・文法・朗読などを練習・解釈することも重視する。同時に、学生の要望に応じて、映像などの資料を用いて、中国事情について説明や討論も行う予定である。

テキスト:

メイン: プリントを配る。

サブ (必用): 三瀧正道・陳祖蔭著『2005 年度版 時事中国語の教科書』朝日出版社

参考書:

授業時指示。

授業の計画:

最初の 2 回程度は受講者のレベルを把握しつつ試行授業を行う。

春学期は上記テキスト (三瀧正道・陳祖蔭著) を用い、発音の練習をはじめとして、中国語の文法の基本や解読の要領に重点におく。

後期は、3. 内容に記したように、最近の中国経済に関する文章を読み、訳および見解の発表と討論など、実践的に授業を進めていく。

履修者へのコメント:

指示に従って辞書などを準備すること。

<http://www.aoni.waseda.jp/tingma/index.html>

成績評価方法:

・平常点 (出席状況および授業態度)

質問・相談:

アドレスにメールで連絡。メールの「件名」に必ず「慶応—三田」と名前を記入すること。

授業科目の内容:

- ・すでにスペイン語文法を習得した方々を対象とします。
- ・ラテンアメリカ地域研究へ向けて、基礎的学術論文を読み取る能力の向上をはかります。
- ・ただし、入門スペイン語を終え、さらに語学力を高めた方々も歓迎します。
- ・使用テキストの内容は、ラテンアメリカ文化論・社会史が中心となります。

テキスト:

適宜配布します。

参考書:

なし

授業の計画:

夏季休暇以前までは、緻密な読みに徹します。

秋学期からは、内容の把握に重点をおき、スピードアップします。

履修者へのコメント:

昨年はサバティカルのためこの講義は休講でしたが、一昨年には受講生 3 名で、本当に充実した授業になりました。

成績評価方法:

・平常点 (出席状況および授業態度)

〔研究会〕

研究会

助教授 秋山 裕

授業科目の内容：

本研究会は、経済発展に関わる問題について計量経済学の手法を活用した実証を中心とした研究を行います。経済現象の分析にあたっては、「経済問題」、「経済理論」、「経済統計」をバランスよく組み合わせることが不可欠です。本研究会では、経済発展という幅広く重要な問題について、理論を踏まえながら、実証的に研究することを柱とします。

そのため、①本ゼミでは、経済発展に関わる「経済問題」と「経済理論」を中心に学習し、②サブゼミでは、コンピュータを用いながら実証分析の実際を中心に学習し、③オフィス・アワーでは、4年次での卒業論文の作成を念頭に置きながら、個別プロジェクトの進展をはかっていきます。

また、本研究会では共同研究を重視しています。三田祭りでの研究発表はもちろん、本ゼミでの学習においてもグループ単位での準備、発表、討論によって、より質の高い研究を行うことができるように心がけています。

テキスト：

第1回授業時に本ゼミにおける輪読文献を指示します。

参考書：

個別テーマの参考文献は授業時に指示します。

授業の計画：

授業の構成は以下のとおりです。（それぞれの授業回数は進度に従って調整します。）

[3年・春学期]

1. プレゼンテーションの練習
2. 基本文献の輪読
3. コンピュータによる分析手法の習得
4. 共同論文の企画立案

[3年・秋学期]

5. 共同論文の執筆、討論
6. 共同論文の三田祭における発表
7. 卒業論文の企画立案

[4年・春学期]

8. 卒業論文の執筆、発表
9. 共同論文の企画立案

[4年・秋学期]

10. 卒業論文の執筆、発表
11. 共同論文の執筆、討論

履修者へのコメント：

「経済発展」は人類の究極の目的であり、先進国でも達成されたとはいえませんが、この経済的進歩に少しでも貢献できることが重要であると思います。そして、研究会活動を通じて、社会で通用するエコノミストになれるように、互いに切磋琢磨していけたらと思います。そのため、研究会活動には常にある水準以上の行動が必要であると考えています。

研究会活動については学生が管理している秋山裕研究会 Web サイト (<http://www.clb.econ.mita.keio.ac.jp/akiyama/>) を参照してください。

成績評価方法：

- ・研究会活動への貢献
- ・卒業論文

質問・相談：

履修者の質問に答えるため、週1回のオフィスアワーを設置します。時間および場所については第1回目の授業にて指示します。

研究会 (3年)

助教授 新井 拓児

授業科目の内容：

ファイナンス理論に関するゼミを行う。特に、金融派生商品の価格付け理論を中心に、その基本的考え方を理解することを目的とする。

リスク管理、信用リスク、リアルオプションなど幅広いテーマを取り上げたい。ゼミは輪読形式で行うが、それ以外にコンピューターを用いた数値計算に慣れてもらうため、何度かレポートの提出を求める。

テキスト：

第1回の授業の時に紹介する。

参考書：

授業中に紹介する。

履修者へのコメント：

研究会参加者は「金融論」、「ファイナンス入門」、「確率・統計」の講義を履修すること。その他、数学関連の講義を多く履修していることが望ましい。高度な数学は必要でないが、数学やコンピューターに苦手意識がないことが条件である。

成績評価方法：

- ・レポートと平常点（出席と授業態度）

質問・相談

メールまたはオフィスアワー

研究会

助教授 飯田 恭

授業科目の内容：

本研究会では、ヨーロッパと日本に関する比較社会経済史の研究を行う。具体的には、この共通テーマに関する基礎文献をメンバー全員で輪読すると同時に、各メンバーが個別の研究テーマを設定し、それについて三田祭論文及び卒業論文を完成させることとなる。

研究会 (3年)

教授 飯野 靖四

授業科目の内容：

最初の数回は新聞や雑誌の記事を利用して、日本経済・財政の問題点をさぐる。その後は、学生諸君が重要と考えるテーマについて全員で検討したいと考えている。

テキスト：

なし

参考書：

なし

授業の計画：

1. 最初の数回…新聞や雑誌の記事を利用して、日本経済・財政の問題点をさぐる（講義）
2. その後の春学期…学生諸君が重要と考えるテーマについて全員で検討
3. 秋学期…定まったテーマについて全員で検討（討論会、三田祭）

履修者へのコメント：

失敗しても良いからゼミ活動に積極的に参加してほしい。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価（卒業論文）
- ・平常点（出席状況および授業態度）

研究会

教授 池尾 和人

授業科目の内容：

本研究会は、「日本経済の応用ミクロ分析」を基本テーマとして研究している。

1990年代は、日本にとって「失われた10年」と呼ばれているが、この間、ただ単に低迷が続いていたわけではない。民間企業部門が抱えた過剰債務の政府部門への付け替えがなし崩し的に進むとともに、それによって身軽になった民間企業部門の新たな環境への適応が進められてきた。その結果、特に日本の製造業は、東アジアとの間での分業構造の拡大・深化を図ることによって、復活の手がかりを得るようになった。

こうした変化が、現下の日本経済が回復基調を示すようになった背景にあると考えられる。しかし、調整がすべて終わったわけではない。政府部門には膨大な債務が積み上がっており、日本の財政は潜在的には破綻状態にあるといっても過言ではない。民間企業部門に比べて政府部門の調整は明らかに遅れており、こうした跛行性が放置されるならば、再び日本経済に大きな混乱がもたらされるリスクが高まっ

ている。

換言すると、政府部門の調整を進め、社会保障制度を含む広い意味での財政システムを持続可能なものとして再構築することが、火急の課題となっている。けれども、残念ながら、そうした社会保障・財政システムの再構築へ向けた取り組みは、実際には停滞していると懸念される。

しかしながら、持続可能な社会保障・財政システムの確立が遅れば、そのことによる不利益をより多く被るのは、いまの若い世代であろう。こうした状況において、日本経済についてトータルな考察を行うことは、単に知的な興味を引くことにとどまらず、若い世代の将来にかかわるきわめて実践的な意義をもつことでもあるといえる。

授業の計画：

例年通り、4-6月は、応用ミクロ分析の基礎的な考え方を身につけるためのウォーミング・アップ期とし、そのために有益と思われる文献を輪読する。その後、それを基礎にして3年生には、三田祭論文の作成に向けて、日本経済の現状にかかわる具体的なテーマに取り組んでもらうことになる。また、秋学期には、4年生の全員に卒論の中間報告をしてもらう。

研究会 教授 池田 幸弘

授業科目の内容：

新自由主義の古典を輪読する。
フリードマン、ハイエク等を想起されたい。

テキスト：

未定

参考書：

適宜指示する。

授業の計画：

三年生と四年生からなるゼミナールを運営する。三年生は夏休みの期間中に、担当者の指示に基づきレポートを作成する。また、一昨年度からの試みとしてインターカレッジのセミナーを企画している。四年生は卒業論文の執筆が中心となる。卒業論文の提出は、単位取得のための要件である。

履修者へのコメント：

研究会に参加する学生諸君は、願いがかなわなかった他の人たちを排除して参加しているのだから、それ相応の自覚を持ってほしい。また、積極的に議論に参加することが何よりも求められることは言うまでもない。

成績評価方法：

- ・レポート
- ・平常点

質問・相談：

研究会の時間以外は、事前に面談の予約をとっていただくことが望ましい。

研究会 (3年) 助教授 石橋 孝次

授業科目の内容：

ミクロ経済学の応用理論である産業組織および企業理論の研究を行う。ゲーム理論と契約理論を分析用具とし、企業組織・企業行動や経営戦略について学習することを目的とする。さしあたり春学期は、下記のテキストを用いてゲーム理論の習得に重点を置く。学生によるPower Pointを用いたプレゼンテーションに基づいて授業を行う。秋学期の教材は追って指示する。

テキスト：

- ・ Martin Osborne, *An Introduction to Game Theory*, Oxford University Press, 2004

成績評価方法：

- ・ 平常点 100 %

研究会 助教授 伊藤 幹夫

授業科目の内容：

この研究会は、マクロ経済学の近年を展開を念頭において、理論と

実証の学習を行う。今年度は、金融市場をマクロ経済との関連であつかう。前期において、金融市場に関するミクロ経済学的な理論と、金融市場ならびにマクロ経済の実証分析に必要な計量経済学の基礎を学ぶ。後期においては、計量モデルを用いた実証分析を行う。さらに入会者は、3学年のおわりに共同でゼミの活動を共同論文の形でまとめ、4学年において前年に自らが関わった研究を展開させた形で卒業論文を作成する。

テキスト：

- ・ J.E. スティグリッツ・B. グリーンワルド『新しい金融論—信用と情報の経済学』東京大学出版会、2003年
- ・ J.Y. Campbell・A.W. Lo, C. MacKinlay『ファイナンスのための計量分析』共立出版、2003年

参考書：

- ・ 参考文献の指定、講義資料などは順次
<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/ito/lecture> において公開する。

の計画：

1. ゼミ活動に必要な IT 関連のスキル習得 (3 週)
2. 最近の金融理論の展開に関する学習 (8 週)
3. 後期に必要な計量分析の基礎テクニックの習得 (7 週)
4. (上記二つと平行して) 基礎的な数学 (確率論・解析など) の学習
5. 日本の金融資産市場に関する実証分析 (9 週)
6. マクロ的金融政策の有効性の実証分析 (6 週)

履修者へのコメント：

ややレベルの高いことを丁寧に指導するので、やる気のある学生諸君は課題をこなすことができるならば達成感が得られる。

成績評価方法：

- ・ 平常点

研究会 (3年) 助教授 大平 哲

授業科目の内容：

国内外の地域経済に関する諸問題を考察する。本ゼミでは地域経済の分析をする上で必要な経済学の理論を学習する。本ゼミのほか、いくつかのパートに分かれて個別テーマの研究をすすめる。くわしい情報を<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/tats/kougi/seminar/>に掲載する。履修希望者はこのページをよく読むこと。

研究会 教授 大沼 あゆみ

授業科目の内容：

この研究会では、環境経済学のディシプリンを身に付けながら、現実の環境問題に適用することにより、その有効性と可能性を考察していきます。代表的なテキストの一冊を輪読・議論していきますが、並行して、環境経済学のカバーする諸領域から特に各自関心のある問題・テーマを選択し、理論・実証の両側からの学習を進展させてもらいます。

また、毎回、一定の時間、内外の最新の環境問題のニュースを簡潔に報告してもらい、それぞれの問題について議論する予定です。

成績評価方法：

- ・ 平常点 (出席状況および授業態度)

研究会 教授 大村 達弥

授業科目の内容：

構造改革政策の名で日本はこれまで国際的調和、規制緩和、金融ビッグバン、財政構造改革、不良債権処理を進めてきたが、安定的に潜在成長率を維持することは難しい情勢である。戦後わが国は日本型経済システムの下で右肩上りの発展を経験してきたが、グローバル経済の環境変化への対応が遅れ金融・財政、産業の各方面で大きな壁に直面している。構造改革政策は正しいのか、進め方に誤りは無いか、景気対策やデフレ対策も積極的に進めるべきではないのか、等議論は尽きない。

この研究会では、これら政策のあり方について、理論、実態両面から関連の文献に当たり、研究発表形式で授業を進めてゆく。また、サ

ブゼミ単位で論文を作成し、研究会の内外で討論を進める。研究に必要な基本知識は、経済政策学・ミクロ・マクロ経済学であり、必要に応じて財政・金融、企業・労働、公共選択論等の各分野に探求の手を伸ばす。ゼミの実際の進め方としては、このように大きな目で経済を捉えつつも、研究範囲をより絞りながら、学期始めに提示される特定のテーマに焦点を合わせ、関連する文献を選んで、調査、研究、論文作成、発表、討論を行う。

テキスト：

授業の最初に指示する。

授業の計画：

春学期 テキストに沿ってパートごとの発表を中心に進める。
夏合宿 出題されたテーマでパートごとに論文を作成し発表する。
秋学期 3年生：論文発表会準備 4年生：卒論作成準備

成績評価方法：

・平常点

研究会 (3年)

教授 尾崎 裕之

授業科目の内容：

「ミクロ経済学、マクロ経済学、ゲーム理論の応用」を研究テーマとし、最終的には卒業論文の完成を目標とする。卒業論文のテーマとしては、それが、ミクロ経済学、マクロ経済学、ゲーム理論のいずれか（あるいは、その全て）の応用であれば何でもかまわない（公共経済学、国際経済学、環境経済学、労働経済学、都市経済学、医療経済学、産業組織論、などなど）。研究テーマそのものよりも、経済学的直感を養い、理論を正しく応用できるようになることに主眼を置く。ミクロ、マクロ、ゲーム自体については、ゼミで直接取り上げない。日吉や三田での講義、あるいはサブゼミによる自主的な勉強を望む。

テキスト：

本年度は、経済発展論の英文のテキスト (Debraj Ray, *Development Economics*, Princeton U. Press, 1998. 理論の応用の好例であるとともに、発展論の教科書としても大変優れた本) を輪読する予定。

研究会

教授 長名 寛明

授業科目の内容：

ゲーム理論を主要な分析用具として用いる最近のミクロ経済学を学びながら、その応用としての契約の理論をめぐり討論する。

テキスト：

・D.M. Kreps, *A Course in Microeconomic Theory*, Princeton University Press
・伊藤秀史『契約の経済理論』有斐閣

授業の計画：

上記の2つの教科書を交互に取り上げて、モデルの構成、結果の叙述と証明、経済的解釈を説明することを学生が行い、討論する。

成績評価方法：

・平常点 (出席状況および授業態度)
・卒業論文

研究会

教授 金子 勝

授業科目の内容：

制度派経済学の知的革新を考えながら、現状の経済問題と制度改革について取り上げ学ぶ。世界経済、財政金融、社会保障と社会福祉、地域経済、産業と企業のあり方…等々、取り上げるべきテーマが広範囲に及ぶので、学生諸君と協議しつつテーマを絞りたい。

論理的に考え、文章を書き、人と議論するのが好きな学生諸君の参加を望む。

テキスト：

ゼミ生と相談して決定する。

授業の計画：

前期はテキスト輪読から入り、テーマを絞って自分たちで問題を設定し、自分たちで調べて報告討論する。夏合宿より三田祭論文に合わせて、討議と報告書を作る。4年生は定期的に卒論報告会を行い、年末に発表会を行う。

成績評価方法：

・平常点 (出席状況および授業態度)
論文と卒論を評価として重視する。

研究会

助教授 河井 啓希

授業科目の内容：

一産業組織論の理論と実証—

産業組織論の理論とその実証分析についての研究を行う。伝統的な独占や寡占の議論にとどまらず、重要性が高まっている製品品質と差別化、情報の非対称性、ネットワーク外部性といった問題についてもとりあげる。

4時限目は、産業組織論のやさしい教科書をテキストとして輪読を行い、理論的な側面を Tirole J, *The Theory of Industrial Organization*, MIT Press や Shy O, *Industrial Organization-Theory and Application*-, MIT Press で補う。

5時限目は、別途配布する Reading List でとりあげられる重要な貢献をした専門論文 (Rand Journal of Economics や Journal of Political Economy などから引用する) を読み、基礎的な理論が実証分析ではどのように応用されているかについて学ぶ。

テキスト：

・Carlton DW & Perloff JM, *Modern Industrial Organization 4th ed*, Addison-Wesley, 2004

参考書：

・Cabral LMB, *Introduction to Industrial Organization*, MIT press, 2000
・小田切宏之『新しい産業組織論』有斐閣, 2001年
・丸山雅祥・成生彦彦『現代のミクロ経済学—情報とゲームの応用ミクロ』創文社

授業の計画：

1. ミクロ経済学の基礎 (需要と供給, 企業, ゲームと戦略)
2. 完全競争と独占
3. 寡占 (寡占, カルテル, 市場支配力)
4. 価格戦略と非価格戦略 (価格差別, 垂直統合, 製品差別化)
5. 情報の経済学 (情報の経済学, 広告)
6. 参入と退出 (参入退出, 戦略的行動)
7. 技術戦略 (研究開発, ネットワークと標準化)

履修者へのコメント：

授業ではミクロ経済学と統計学の知識が必要となる。

成績評価方法：

成績評価は普段に行われる報告内容, 3年時の三田祭報告論文, 4年時の卒業論文にもとづいて行う。

質問・相談：

クラスページを通じて、質問や相談に応じる。

研究会

教授 北村 洋基

授業科目の内容：

本研究会は、現代日本経済論および工業経済論が主たる対象範囲であるが、特に日本の産業経済の実態の批判的分析と理論的検討に中心的なテーマを置く。その際、今日の日本経済ならびに産業構造を、一方では世界経済との関わりにおいて、他方では日本経済の歴史的展開における現段階の到達点との関わりにおいて、位置づけ解明することに留意したい。

テキスト：

テキスト等は第一回研究会の際に指定する。

研究会

教授 木村 福成

授業科目の内容：

当研究会では、広く国際経済問題・開発経済問題を取り上げ、経済理論と実証研究の両面から学んでいく。

特に国際経済学や開発経済学の分野では、国際競争力、貿易・経常収支、幼稚産業保護、経済開発における政府の役割、途上国の経済主体の経済合理的行動などをめぐり、理論とアドホックな実証・政策論議との間の不整合が大きい。また、近年の企業活動の国際化に伴い、

国際的な通商政策ルールと既存の国内経済政策体系との関係を抜本的に見直す必要性も生じてきている。現実経済の分析に役立つ理論はどれか、あるいは逆に理論に立脚した実証・政策分析はいかに行えばよいのかについて、議論を深めていきたい。

本ゼミでは、春学期は国際経済学（特に国際貿易論）と開発経済学の基礎固め、秋学期はより進んだ文献講読と3年生のパート論文の中間発表、4年生の卒業論文の中間発表を行う。本ゼミで使用する教科書・専門論文のほとんどは、英語で書かれたものを使用する。卒業論文の多くは、何らかの統計データの分析を含む実証研究となっている。

知力・気力・体力に加え、企画力のある諸君の参加を期待する。

テキスト：

後日指定する。

参考書：

後日指定する。

授業の計画：

後日指定する。

履修者へのコメント：

後日伝える。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）

研究会 助教授 **神代光朗**

授業科目の内容：

当研究会の研究領域は、経済学（思想）史および中・東欧の歴史と経済体制を研究の対象とするものである。担当者の当面の主な専門研究分野は、19～20世紀のポーランドの社会・経済思想、とりわけ、ポーランドの今日の社会・経済的諸問題の原型が形成されてくる19～20世紀転換期の市場問題、農業問題、民族問題等と、ポーランドの社会主義やナショナリズム、ポジティヴィズム等の社会・経済思想史的関連が中心であるが、研究会としては、戦後の中・東欧やポーランドの現代史および今日の体制転換やEU加盟にかかわるテーマについても、広い意味で経済学史的な関心と歴史的な方法による研究を方法的に取り入れることを志す者の入会を認めている。また、より広く、経済学史・経済思想史に関するテーマの研究を志す者の入会をも認めているが、入会については、担当者の指導範囲と入会者の希望を考慮して個別的に適否を検討する。研究会の運営や選考方法等については、毎年、ゼミナル委員会の刊行する研究会案内を参照されたい。

また、特に最近、経済学史あるいは一般に歴史的テーマへの関心がうすれている傾向が、会員にみられるので、この点を改善することを留意した選考を行いたい。

テキスト：

毎年、輪読用のテキストと、夏季合宿用のテキストを別々に、2～3の文献を討論・輪読のために準備するが、4月の開講時に通常のテキストは決める予定である。英文のテキストを用いることもある。

参考書：

ゼミナル委員会の刊行する研究会案内の2005年版に、参考文献を掲載してあるので、それを参照してください。

授業の計画：

輪読と卒業論文の研究報告の二本立てで運営している。卒業論文は2年間で3～4回の発表が、提出の前提条件であり、義務である。3年生、4年生ともに演習を行うのが原則である。

履修者へのコメント：

研究会の時間は、とにかく、学問に集中してほしい。また、無断欠席や、報告担当責任をのがれるようなことは認められない。

成績評価方法：

成績評価は2年間履修の結果、提出される卒業論文の内容の評価と、日常の報告（中間報告・輪読報告）、討論への参加状況、出席状況等を総合的にみて判定する。

質問・相談：

研究会の中での質疑において、質問の相談に応じる。

研究会（3年） 教授 **倉沢愛子**

授業科目の内容：

開発とその結果生じた社会変容、さらに民主化の波に揺れる東南アジア社会を総合的に研究する。開発論や、政策論ではなく、そこにすむ人々の生活に焦点をあて、生産活動、商業活動、浪費形態、居住環境、宗教、教育、保険衛生、移動などの問題を考える。

3年生の夏にインドネシアへ一週間ないし10日程度の研修旅行を行い、村にホームステイする。研修旅行への参加は義務ではないが、この研究会の中心的な活動であるので、参加が望ましい。

特別な理由が無い限り、卒論のテーマは、研修旅行で見聞したインドネシア社会に題材をとって書く。

研修旅行前の前期の授業は基本的に研修旅行に際して必要な基本的知識の習得とインドネシア理解に力点を置く。その間に自分の関心テーマを見つけ、研修の際にはその関心に沿ってグループ分けを行う。ゼミの時間外に、基本的なインドネシア語習得の機会を設定する。

この年度の研修テーマを何にするかは、前期の研究会の授業の中で全員でディスカッションしながら決定する。単なる旅行ではなくそのテーマに沿って研修計画を立案する。

なお、研究会に参加を希望する学生は、平行して火曜日二限の「アジア社会史」の受講を義務付ける。

4年生で書く卒論のテーマは、特別な理由が無い限り、研修旅行で見聞したインドネシア社会の諸問題に題材をとって書く。

テキスト：

・倉沢愛子『じゃかるた路地裏フィールドノート』中央公論新社、2001年

参考書：

・『もっと知りたいインドネシア』

授業の計画：

- (1)～(5) 東南アジア社会に関する基本的な状況についての講義（倉沢）と基本図書の輪読
- (6)～(10) 各自の関心テーマを定め個別発表
- (11)～(13) 研修旅行準備（テーマ設定、訪問先選定）とディスカッション

後期

- (14)～(20) 研修旅行報告会（各自の発見を報告しそれに関してディスカッション）
- (20)～(26) 東南アジア社会に関するより専門的な講義（倉沢）

履修者へのコメント：

これまでの成績は問いませんが、今後の学習に意欲のある人を望みます。東南アジア社会に強い関心を持っている人を歓迎します。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）

質問・相談：

火曜日・木曜日に研究室に電話（5427-1335）

研究会（3年） 助教授 **グレーヴァ 香子**

授業科目の内容：

本研究会では、ミクロ経済学の理論、応用およびゲーム理論について学び、理解するのみならず、他の人に説明したり、自分でも簡単な研究を行って、卒業論文としてまとめたりできるようにする。

テキスト：

・松井彰彦著『慣習と規範の経済学』東洋経済新報社、2002年

参考書：

- ・中山幹夫著『はじめてのゲーム理論』有斐閣、1997年
- ・岡田章著『ゲーム理論』有斐閣、1997年
- ・ギボンズ著『経済学のためのゲーム理論入門』創文社、1995年

授業の計画：

3年前期：理論的文献の読解、レジュメの作り方、報告のし方を学ぶ。
3年後期：文献の輪読を進め、卒業論文のテーマを考える。

学年末に担当者と同面談し、テーマを決め、研究計画を立てる。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）

授業科目の内容：

「経済体制論・地域研究・中国経済論」

当研究会では、現代中国経済を題材に、現実（含歴史）を把握し、そこから論理を抽出し、それを的確に表現することを目指します。

私たちの生活は、何らかの形で中国と密接なかかわりをもたざるをえなくなっています。その中国はまさに今、体制移行のヤマ場を迎えており、その成否は日本のみならずアジア太平洋全体の経済発展と安全保障にも関わってきます。それゆえ、この巨大な対象をどのように捉えるべきか、単なる好き嫌いではなく、自分なりに系統的に把握しておくことが望まれます。

中国は長い歴史と地域的多様性を持ち、その分析にあたっては、既存の理論的枠組をアプライすることの有用性を重視すると同時に、地域としての固有性についても十分留意する必要があります。経済体制とは「諸制度の体系」と定義できますが、一つの制度を分析するには、それと複雑に絡み合っている他の制度の理解も欠かせません。そこでこの研究会では、まず対象を徹底的に学び、既存の研究の枠組を検証したうえで、経済発展の普遍性と固有性を考えます。

授業科目の内容：

日本の経済思想史を中心として、それと関連する思想史・経済史・政治史・社会史・文化史についての研究を行う。指導の目標は、各自の論文作成の過程を通じて、社会科学における歴史的な考え方と、その楽しさを知ってもらうことである。

具体的には文献講読と論文作成指導を学習の柱とする。文献講読では、春学期には概説的な比較的易しい文献を出来るだけ多く速読し、また秋学期には専門研究書を取り上げ、これ等を題材に質疑応答と討議をする。また適宜に、指定した基本的文献の読書報告を求める。論文作成については、研究の技術的な方法については講義をし、また個々の研究内容については個別面接も繰り返しながら指導を行う。履修者はできるだけ早い時期に課題を決定し、文献探索・研究史の整理を行い、関連史料を捜し、秋からはそれぞれの研究の中間発表を行う。

なお、私自身の現在の研究領域は江戸時代から明治前期までである。この時代の研究がもっとも指導しやすいが、経済思想などを中心とした歴史的考察であるかぎり、履修者の研究課題は必ずしもこの時代でなくてもよい。

テキスト：

随時指定する。

参考書：

随時紹介する。

授業の計画：

開講時に年間スケジュールを配布する。

履修者へのコメント：

正当な理由がなく欠席をしたり、発表やレポートの提出を怠った場合には、その後の履修を認めない。

成績評価方法：

- ・レポート
- ・平常点（出席状況および授業態度）
- ・卒業論文

質問・相談：

定期的に個人面接の時間を設定するが、それ以外でも随時、質問・相談に応じる。

授業科目の内容：

本研究会は、欧米を中心とする社会思想・経済思想の歴史と理論の研究に従事している。その目標は卒業論文の作成であり、提出までに計3回の中間報告が求められる。文献探索や論文執筆の方法についても必要に応じて指導する。また、3・4年生が共通に議論を交える場

として輪読があり、古典的な必読文献と現代の定評ある研究文献とを毎年設定する共通テーマのもとに精読する。

授業科目の内容：

研究会では、バブル崩壊以降の「失われた10年」の日本経済の分析を行います。具体的には次の3点に焦点を充てた研究を行います。

1. この10年間、GDPの経済成長率はゼロないし若干のプラスなのになぜ地価・株価などの資産価格は一貫して下落しているのか？「均斉成長 (balanced growth)」の考え方に拠れば、GDPと資産価格は同率で成長するはずですが、わが国の過去の経験はこの理論的仮説を大きく裏切るものです。この問題をどのようにとらえたらよいのか、考えていきたいと思います。
2. 国別データを使った各国比較によって、90年代の低成長の原因を探りたいと思います。経済成長の源泉を国別データを使ってさぐる「成長回帰分析」という研究領域が90年代に大きく発展し、経済成長の要因が明らかになりつつあります。この手法を使って90年代の日本経済の低迷の原因を探っていききたいと思います。はたして金融システムの動揺がわが国の経済の足をひっぱっているのか、あるいは少子高齢化、IT化の立ち遅れなど別の要因が低成長の原因なのかを探っていききたいと思います。
3. わが国の景気停滞の原因として金融問題、特に不良債権問題が挙げられています。不良債権問題とはなにかを考えることを通じて、わが国の金融システムのどこが問題なのかを議論していきたいと思います。また、金融システムの現状の理解にとどまらず、どのような仕組みを構築していったらよいのかを探っていききたいと思います。

テキスト：

・岩田規久男・宮川努編『失われた10年の真因は何か？』東洋経済新報社

履修者へのコメント：

ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎をマスターしていることが望ましい。計量経済学の授業はぜひ履修してほしい。理論だけでなく、現実の経済に対して強い好奇心をもっている学生を歓迎します。また、共有する知識を広げようとする観点から、商学部の跡田ゼミと合同で研究会を行います。

成績評価方法：

・平常点

授業科目の内容：

現実の経済現象を分析する手段としての理論経済学、および金融問題の理論的分析に興味を有する学生を対象とした演習である。

取り上げる文献として、理論的分析手法の基礎を身につけるもの、金融の実態を扱ったもの、日本経済あるいは国際経済の概要を把握するためのものなどを予定しているが、詳しくは最初の授業時間に指示する。

また各履修者は理論パート・金融パート・応用パートの少なくともひとつに所属し与えられたテーマのもとでの共同研究、ならびに個別の研究プログラムを進めていくことが求められ、適宜個別指導を行う。

授業科目の内容：

私の研究会では日本の経済や経営の直面している問題をひろく国際経済社会の脈絡の中でとらえ、その課題を実証的に分析し、政策的合意を検討する事に主眼をおいて研究活動を行う。

多様で複雑に関連しあった問題群の分析を効果的に進めるため以下のような方式で研究を進める。まず分析の視点に即して、以下の5つのパートを組織し、各々専門研究を深めるとともにその過程で研究成果を逐次報告し、相互に切磋琢磨をはかり、かつ相互の協力と情報の共有を進めることで研究活動全体の集積・相乗効果を生かす。

1. 労働経済
2. マクロ経済の理論と政策
3. 国際経営
4. 国際政治経済システム
5. 環境政策

各パートは一定の理論枠組にもとづいて恒常的に観察事実を収集・整理し、そして体系的に集積するとともに、毎年、各々特定のプロジェクトを編成して研究を行う。

また、本年度より2ないし3年間の期間、日本経済の構造改革と人々の生活の質の向上をめざし、新しい生活産業創出のための活動を、日本の主要企業グループと多くの地域企業が連鎖するコンソーシアムをつうじて展開する。興味ある学生諸君にはそうした現実の新規事業創出の努力に参加して多くを学ぶ機会も提供される。

一方、夏には、韓国、台湾など隣国の学生諸君との学術討論会をソウルで行う予定であり、そのために、eメールをつうじての相互に準備と学習を行う。

さらに、毎年特定の共通な政策問題を選定して、ディベートイングコンテストを行う。

以上のようなさまざまな研究活動をつうじて、問題の発見、仮説の設定から分析、発表、そして討論を含む一連の実証研究の力を磨く事に努める。

テキスト：

適宜選定し、多数の文献を読む。

参考書：

適宜選定し、多数の文献を読む。

研究会 教授 清水 透

授業科目の内容：

- ①わが国では、ラテンアメリカ世界は未知の分野にも近い。研究会ではまず、わが国における研究の現状と問題点を紹介しつつ、ラテンアメリカの歴史と現状について概観し、ラテンアメリカ研究の基礎知識を学習することに重点を置く。
- ②論文の読解と報告をつうじて、論文の読み取り方、レジュメ作成の技法等についても学ぶ。
- ③夏以降は、卒業論文の作成へ向けて、各自が個別研究を行う。したがって、研究会は個別報告と集団討論が中心となる。

テキスト：

適宜指示する。

参考書：

適宜指示する。

授業の計画：

- 1) 歴史学における社会史（講義）
- 2) フィールドワークとオーラルヒストリーの可能性（講義）
- 3) 卒論テーマについての報告（5月12日、19日）
- 4) 文献輪読
- 5) 卒論テーマについてのレポート（参考文献一覧を含む）（4000字）提出（6月30日）
- 6) 提出レポートの発表・討論
- 7) 夏期合宿

履修者へのコメント：

定期的な報告、レポート、合宿参加等、研究会の義務を果たせない者は、自動的に参加資格を失う点、十分認識しておくこと。

成績評価方法：

・レポートおよび平常点

研究会 兼任教授 清水 雅彦

授業科目の内容：

3年生は、前期（春学期）において、マクロ経済分析の視点から日本経済の特質を分析するために、マクロ経済学の基礎理論を再度学習する。併せて、実証理論分析のための分析手法に関する基礎的な文献の輪読を行う。後期（秋学期）には、1980年代以降の日本経済における問題点を取り上げ、経済理論と照らし合わせながら、討論する。その際、3年生諸君は幾つかのグループに分かれ、グループ毎に問題

点に関する分析レポートを作成し、報告レポートに基づいて全員で討論する。

4年生は、現実の日本経済に関わる制度・政策について、経済理論で想定される資源配分の在り方を歪めていると考えられる問題点を取り上げ、各自の卒業論文における分析テーマとする。分析テーマが決まった段階で、分析に必要な基礎知識に関わる文献リストを作成し、各自で文献を精読する。前期（春学期）に、各自が選んだ分析テーマについて授業時間中に発表し、全員で討議する。夏合宿までには、4年生全員が分析テーマを決定し、後期（秋学期）に分析結果に関する中間発表を行う。

テキスト：

3年生に関しては、共通のテキストを前期の最初の授業時間に指定する。4年生に関しては、特に共通のテキストを指定せず、各自の文献リストをテキストとする。

参考書：

適宜、授業時間中に参照すべき参考書あるいは参考文献を指示するが、指示された参考書あるいは参考文献は必ず読むことが求められる。

授業の計画：

前記（授業科目の内容）の通りであるが、本研究会では必要に応じて討論のテーマに即した講義を行う。

履修者へのコメント：

本研究会（ゼミナール）では、履修者の自発的な学習と討論における積極的な発言が求められる。経済分析に関心がなく学習意欲に欠ける者は、最初から参加すべきではない。

成績評価方法：

本研究会では、3年生時の成績は平常点（出席状況および授業態度）により評価し、4年生時の成績は卒業論文における分析結果の内容によって評価する。

質問・相談：

研究会（授業）時間の終了後に、適宜受け付ける。

研究会 助教授 白井 義昌

授業科目の内容：

卒業論文作成のための research project のたて方、報告文の書き方、発表方法、論文の読み方といったトレーニングを行う。材料としてマクロ経済学、国際経済学の学術論文を用いる。

授業の計画：

- ・基本論分を1, 2本読む
- ・研究計画を書く
- ・研究計画の発表を行う

以上のプロセスを2, 3回くりかえし研究計画の具体化および精緻化をはかる。その過程で参加者それぞれに必要な具体的作業や勉強も明らかになるはずである。

研究会 (3年) 教授 杉浦 章介

授業科目の内容：

杉浦担当の基本科目「経済地理」の履修を前提に、経済地理学の基礎と応用を学習する。本年度は、3年生のみであるので、ゼミにおいては現代経済の現実を空間的（地理的）視点から分析する能力を涵養するために、下記の教材を用いながら、それぞれのテーマを見出し、それについて分析調査を行い、さらにその結果について報告し、討議を行うこととしたい。

テキスト：

前期：藤本隆宏『能力構築競争：日本の自動車産業はなぜ強いのか』中公新書、2003年

後期：石倉洋子他『日本の産業クラスター戦略：地域における競争優位の確立』有斐閣、2003年

参考書：

適宜紹介する。

授業の計画：

前期は、教材を中心に報告を行い、「経済地理」の概念的基礎を学習する。前期末までに「三田祭」の参加テーマを決定する。後期は、

三田祭準備と後期教材によって、基礎知識の応用を目指す。後期末までに、各自、卒論テーマを発表できるようにする。

履修者へのコメント：

学生時代で最も勉強した、と後から言えるようにしてほしい。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）

質問・相談：

ゼミの時間中、適宜行う。

研究会 (3年)

教授 杉山 伸也

授業科目の内容：

この研究会のおもな焦点は、第2次世界大戦までの、日本とアジアの経済史・経営史であるが、日本・東南アジア関係史や日米経済関係史などの対外関係史、日本とヨーロッパ諸国あるいはアジア諸国との比較社会・経済史などの研究テーマも対象とする。

研究会の目的は、大学生活の集大成として、卒論を完成させることにある。卒論では、原則として自分で課題を設定し、資料や研究文献をさがし、自分の設定したテーマを解明していくことになる。その過程で、適宜レポートの提出と口頭発表をしてもらうが、課題を十分にクリアできない場合は、退会してもらうこともある。

研究会は、3・4年合同でおこなっている。3年生は、経済史の基礎的な研究文献（英文をふくむ）の講読と発表を中心とし、4年生は卒論の報告が中心となる。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）

研究会

教授 須田 伸一

授業科目の内容：

本研究会では基本的なテキストを用い、ミクロ、マクロ両方の理論を習得することを目標とする。また、入会者は最終的に卒業論文を作成することになるので、そのための中間報告も随時行う。本年度用いるテキストは1回目の研究会の際に指定する。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）

・卒業論文

研究会

教授 瀬古 美喜

授業科目の内容：

本研究会では、理論経済学、計量経済学、都市経済学、公共経済学について、ミクロ経済学とマクロ経済学に基づいた研究を行う。春学期には、理論経済学の中でも主にミクロ経済学やマクロ経済学の基礎を洋書を用いて固め、併せて応用経済学としての都市経済学の教科書を輪読する予定である。秋学期には、より専門的な本や論文の輪読を行う。3年生は、1年間で卒業論文のテーマを選ぶこととなる。

テキスト：

・瀬古美喜・黒田達朗訳『都市と不動産の経済学』創文社、2001年

参考書：

主な文献として、以下のようなものを挙げておく。

・ブランチャール『マクロ経済学上・下』東洋経済新報社

・Robert S. Pindyck and Daniel L. Rubinfeld, *Microeconomics*, Prentice Hall

・伴金美・中村二郎・跡田直澄『エコノメトリックス』有斐閣

・Denise DiPasquale and William C. Wheaton, *Urban Economics and Real Estate Markets*, Prentice Hall, 1996

・瀬古美喜『土地と住宅の経済分析』創文社、1998年

・藤田昌久、ポール・クルーグマン他（小出訳）『空間経済学』東洋経済新報社、2000年

・山田浩之編『交通混雑の経済分析』劉草書房、2001年

・Robert W. Wassmer ed., *Readings in Urban Economics Issues and Public Policy*, Blackwell

授業の計画：

テキストの輪読、実際のデータを用いた実証分析、三田祭論文のグ

ループでの作成、卒論執筆を、総合的に行います。

履修者へのコメント：

経済理論、現実の問題など、幅広い興味を持って、総合的な観点で学ぶことを、希望します。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）

研究会

教授 高草木 光一

授業科目の内容：

本研究会は、社会思想史、とりわけ近代ヨーロッパ社会思想史を研究対象とする。私自身は19世紀フランス社会思想史を専攻しているが、卒業論文のテーマは、各人の自発的問題意識に従って広義の「社会思想史」から選択しうるものとする。研究会の活動は、基礎的文献の輪読と卒業論文作成のための個人報告を柱とする。サブ・ゼミの運営等については開講時に参加者と相談の上決めたい。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）

・卒業論文

研究会

教授 高梨 和紘

授業科目の内容：

当研究会は、貿易、資本移動、技術移転など、国境を越えて生ずる経済現象を研究の対象にする。そのうち、先進工業諸国と発展途上諸国の間で生じている問題、たとえば発展途上国産の軽工業製品に対する先進工業諸国の市場開放問題、直接投資とりわけ巨大多国籍企業のもたらす問題、技術の選択や移転問題、債務累積問題、さらには援助の規模と質の検討などを取り上げる。しかしこれら国際面問題は、発展途上諸国の経済構造やその変容のメカニズムの理解なしには解明されえない。そこで研究会では、発展途上諸国の国内経済分析と対外経済を並行して進めていく。他方、先進工業諸国が果たすべき役割を、上述の発展途上諸国分析を踏まえて検討したい。

ところで、これまで多くの発展途上諸国でそれぞれに工業化の実験を重ねてきた。そして70年代以降、この分野で多くの開発理論が提示されて来たが、低開発性あるいは南北格差は依然として未解決の部分が多く残されている。その意味でこの時期にわれわれが過去の業績や現実に関する数多くの情報を整理、検討し、新たな開発理論を模索する意義は十分に認められる。研究会はその為の作業場としたい。夏季にベトナム、タイ、インドネシアの現地調査を続けている。成果は『国際開発ジャーナル』に掲載している。

テキスト：

・山形辰史・黒田卓『開発経済学』日本評論社、2003年

参考書：

・速水佑次郎『開発経済学』創文社、2000年

授業の計画：

テキスト、国際機関の報告書等のデスクワークと、夏季の現地調査を行う。

履修者へのコメント：

理論と実践の両方に積極的に取り組んでほしい。

成績評価方法：

・平常点

研究会

教授 竹森 俊平

授業科目の内容：

国際経済学のミクロ理論の検討と、卒業論文の指導を行う。本年用いるテキスト等は第1回研究会の際に指定する。

研究会

助教授 武山 政直

授業科目の内容：

都市における経済活動について、経済地理学をはじめとする関連分野の調査・分析手法を用いて研究を行います。特に、文化的経済価値の生産と消費の場として都市をとらえ、都市生活者のライフスタイル

や消費行動、それらの人々を都市に引き寄せる商業施設や文化・アメニティー施設の立地や空間デザイン、マーケティング戦略等に注目します。また、それらの活動の特性の分析や解釈を通じて、魅力あるサービスや施設、都市づくりについての企画や政策提言を行います。研究のスタイルとして、文献の読解をはじめ、現実の施設や都市のフィールドワークを実施することで概念的な知識と感覚的・体験的な知識との相互補完的な理解を促進します。さらに、研究には各種の情報技術を活かした表現やコミュニケーション、分析の技法も積極的に取り入れていきます。

授業の計画：

本年度は下記のテーマを中心に研究活動を進めます。

- 1) 都市生活者のライフスタイルおよび消費行動の調査と分析
- 2) 商業店舗や施設、文化・アメニティー施設の立地とマーケティング分析
- 3) モバイルメディア（携帯電話など）を利用した都市フィールドワーク手法の開発
- 4) ユビキタス時代のメディア利用、情報サービスやビジネスモデルの企画提案
- 5) 施設や都市空間に関連するイメージや意識の調査
- 6) 地域特性のマルチメディア表現や地誌の編集

成績評価方法：

・平常点

質問・相談：

takeyama@econ.keio.ac.jp

研究会

助教授 田中辰雄

授業科目の内容：

IT産業を主として実証的に分析する。IT産業は、インターネットの急成長、企業取引の電子化、ブロードバンドの普及、シリコンバレーの隆盛など急激な変化が続いている分野である。ここ10年の日本経済衰退の要因はIT産業にあったが、次第に日本経済でもIT化が進み、携帯電話・ブロードバンド・情報家電などでは世界のトップランナーになりつつある。

経済理論の面から見ると、IT産業では技術革新が非常に早い・ネットワークの外部性が働きやすい・費用逓減が起りやすいなどの特徴があり、標準的理論が当てはまりにくい。実証的分析も、観察される現象がここ数年であるためデータが取りにくく、まだ十分になされていない。逆に言えば既存の研究例が少ない分、自分の頭で考えて仮説を考えることができる。特に、インターネットや携帯電話、コンピュータに関する個別知識などでは学生の方が先生より優る面もあるわけで、意欲的な学生の参加を期待したい。

本研究会では理論の勉強を行いつつも、実証をメインにする。データの収集は既存のデータベースが存在しないので、データの収集自体が作業の中心のひとつとなる。国会図書館や業界団体に出かけたり、web上の資料から自分で集めるなどの作業が必要になる。その作業を厭わない人を歓迎する。なお、研究会参加者は三田で「計量経済学Ⅰ」の講義を受講することが望ましい。

研究会

助教授 玉田康成

授業科目の内容：

本研究会では理論経済学、特にミクロ経済学の専門的知識としての習得を第一の目的とし、さらに、その考え方を様々な経済現象に応用して検討する。従来の価格理論に加え、ゲーム理論、情報の経済学、契約理論などを分析ツールとして獲得したことにより、経済学はその分析対象の大幅な拡張に成功し、それは産業組織論、公共経済学、労働経済学（人的資源管理）などの多分野に及んでいる。そのキーワードのひとつとして、「インセンティブ」を挙げることができる。広いテーマとしては、いかにして経済主体に対して適切なインセンティブを与えるかという問題意識を設定し、経済現象に関する議論をしたい。

本ゼミでは、教科書もちいてミクロ経済学理論やゲーム理論の正確な理解を目指し、また適宜、現実の経済現象を理論的に分析した応用的文献を読む。さらに、3年生はサブゼミとパートゼミに参加す

る。サブゼミは本ゼミを補完するものとして位置付け、本ゼミで取り扱うことのできない重要な文献を輪読する。パートゼミでは関心ある研究テーマについてパートに分かれ、三田祭論文の作成を目指す。また、適宜インゼミ等の論文報告の機会を設ける予定である。4年生は各自関心ある研究テーマを分析し、卒業論文を完成させる。

研究会 (3年)

助教授 崔 在 東

授業科目の内容：

「近代社会経済史」

本研究会では、近代化過程で人々が逢着していた様々な問題について多国の比較研究を行う。担当者の専門領域は19世紀後半から20世紀初頭のロシアの社会経済史であるが、関心領域はロシアに限らず、ポーランドとハンガリーなどの東欧諸国、ルーマニアとブルガリアなどのバルカン諸国、そしてイギリス・ドイツ、フランスなどの西欧諸国を含んでいる。なお、本研究会では韓国（朝鮮）、日本、中国なども視野に入れて、比較経済史的研究を進め、ユーラシアの視点からヨーロッパを相対化していくような研究と議論を試みたいと思っている。

比較研究の素材は、前近代社会の農村構造であり、また近代化の過程でもたらされた諸変化である。具体的には「家族—世帯」、「共同体」、「土地」を共通テーマとする。世代継承の基礎単位である「家族—世帯」と「共同体」のあり方は国によって異なり、「土地改革」と近代化過程における対応も異なる。さらに、「ジェンダー」、「人口」、「植民と移民」、「農民運動」、「社会主義」、「労働と労使関係」などもその射程に入る。

前近代社会から近代社会への移行は国によって非常に多様な形で行われるが、いずれも極めて変化に満ちた興味深い過程を見せている。人々がどのように変化の時代を生き延びようとしたのか、各国の政府はどのような政策を講じていったのか、変化と相違をもたらす原因とその結果を究明していくこと、さらには現代とのつながりを模索することが、本研究会の基本課題となる。

研究会では、まず共通テーマに関連文献の輪読を行う。輪読文献は、共通テーマに関連する多国の事例研究の中でピックアップし、議論の叩き台とする。

メンバー全員に、輪読と議論などを通じて独自の研究テーマを見つけると共に、実証的論文（卒業論文）をまとめていくことを義務とする。

なお、研究会はあくまでも学生が主体となって自主的に運営されることを原則とする。

テキスト：

随時指定する。

参考書：

適宜紹介する

履修者へのコメント：

比較的視点からの積極的な問題提起と議論を期待する。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）

研究会

教授 辻村和佑

授業科目の内容：

本研究会では、実証分析の基礎に立って、制度と経済のパフォーマンスの問題を取り扱う。具体的には我が国の金融市場を共通の研究テーマとして取り上げ、短期金融、債券、株式、外国為替などの各市場のしくみと相互依存関係を経済全体との関連で考察してみたい。個々の参加者の研究課題については、実証分析を伴うものであれば上記の範囲に限定しないが、具体的なテーマが設定されていることが不可欠である。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）

・卒業論文

授業科目の内容：

本研究会は、人口学の主要研究領域である死亡と死因、出生、結婚と家族・世帯、人口の年齢構造と高齢化、都市化と人口移動、ジェンダーと人口問題などについて、理論的枠組と統計を使っての計量分析の方法を学ぶことを目的とする。今年度の春学期は、英語および日本語の文献を基に人口学の基礎理論を学習し、また実際のデータを使って人口統計分析の基礎を実習する。秋学期は、さらに専門的な応用をめざし、各自が研究テーマを選び、既存文献の収集と検討を行い、データの収集や分析方法についても話し合い計画を立てる。来年度（4年生時）は、卒業論文の作成に集中するが、内容の中間報告をして研究発表を随時行い、それについての質疑応答とクラス討論を実施する。

なお、研究対象とする人口・社会は現代のみでなく、戦前もしくは近世の歴史人口でも良い。これらの人口データや統計についても説明し、研究・分析を指導し援助する。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）

卒業論文の作成と、それに関する発表をクラス内で行う。

授業科目の内容：

この研究会では、主に農業問題について学ぶ。受講者の関心事は、狭い意味での農業問題でなくても、何らかの意味で自然と経済の関わりについてであればかまわない。

①文献の輪読、②幾つかのグループに分かれての共同研究、③何回かのディベート等を行う。

輪読する文献については、最初の授業で受講者の関心事も考慮して決定する。他の点についても、最初の授業で説明する。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）

・卒業論文

授業科目の内容：

本研究会は、近世日本をおもな研究領域とした社会経済史研究を行うことを目的としています。特に、数量的な分析を重視することにより、「経済学」やその他の社会科学との学際的領域の研究に力を入れております。

研究会の活動は、本ゼミとサブゼミから成り立っています。本ゼミの通年活動では、経済史、社会史に関する英文のモノグラフを輪読します。そこでの質疑応答により、社会経済史研究への態度や知識に磨きをかけます。また、卒論作成は勿論3年次より取り組みますが、3年生にはオフィスアワーを設けて、チュートリアルを通じて指導します。4年生は順次ゼミにて報告を義務付けます。サブゼミ活動も徳川パートと明治パートにわけ、各々コンピュータを使ってデータ作成をいたし、分析を進め、三田祭の発表やインゼミに備えます。とにかく、2年間を社会経済史研究にうち込む覚悟をもつ学生諸君を求めています。

テキスト：

・Paul A. David & Mark Thomas, eds., *The Economic Future in Historical Perspective.*, London, Oxford University Press, 2003 他予定

授業の計画：

英文テキストの輪読：通年

履修者へのコメント：

英語を読んで努力を継続してほしい。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）

授業科目の内容：

本研究会は、財政金融政策をはじめとする経済政策を政治経済学的に考える力を養うことを目的とします。主に公共投資政策、地方分権改革、社会保障政策、税制改革、量的金融緩和政策、国債管理政策を対象に、政治の影響を考慮しつつ経済学的にどう分析できるかに取り組みます。特に、最近では、経済学的に専門性が高い政策課題に直面し、高度の政治的な意思決定を伴う局面が多く、それらを理解する上でも経済学的な素養が必要となってきています。

ちなみに、近年における経済学の潮流の中で、「政治経済学 (political economy)」が台頭しています。これは、従来の政治の経済分析であった公共選択論の成果を取り入れつつも、主に次のような点でそれとは異なる特徴があります。まず、政治活動を行う主体は、標準的なミクロ経済学やゲーム理論で想定している効用や利潤や利得を最大化することを前提に、その行動を分析することです。また、現実の政治現象を、政治過程にかかわる主体に内在する要因（目的や選好）よりも、政治過程を取り巻く制度に伴う要因で説明する志向が強いことです。例えば、官僚が汚職をするのは、官僚が予算やレントを追求する目的（関数）を持っていたり、そうした選好が強かったりするという要因より、自らの効用や利得を最大化するという意味で合理的な官僚に、汚職をする誘因を生む現行制度（予算配分の権限や決め方など）が与えられているという要因を強調します。

本ゼミでは、数人のゼミ員に事前に与えられた課題について発表してもらい、それに基づいて皆で議論をしながら進めます。また、経済分析に不慣れな3年生のために、分析方法などを必要に応じて指導します。分析手法は、ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学を中心に使います。ただ、最近の経済政策は現行の財政金融制度の理解も不可欠なので、制度を解説した文献を通じて理解を深めてゆく予定です。より詳細については、最初の授業で説明します。

現実の経済政策について高い関心を持ち、経済学の理論を駆使してそれらを説明したいという強い意欲のある学生を歓迎します。専門的な文献が英文でしか得られない場合があるため、英文を読むことに抵抗を感じない学生の参加を望みます。

サブゼミ、パートゼミなどの進め方については、ゼミ員と相談して決める予定です。

テキスト：

・土居文朗『経済政策Ⅱ 財政金融政策』日本放送出版協会

その他、研究会の進行に合わせて紹介します。

参考書：

・土居文朗『入門 | 公共経済学』日本評論社

・井堀利宏・土居文朗『財政読本（第6版）』東洋経済新報社

研究会の進行に合わせて紹介します。

授業の計画：

春学期では、教科書等を用いて経済政策を政治経済学的に分析する基礎を身につけ、秋学期では、より高度で現実的な問題を取り上げて具体的な調査・分析作業を進め、論文を作成することを予定しています。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）

授業科目の内容：

産業組織論 (Industrial Organization) を研究における視座として、経済現象や制度一般を分析する研究会です。当研究会の IO については、経済の現実+ミクロ経済学+計量分析とイメージすれば、あたらずとも遠からず。当研究会では、必要に応じて、担当者の講義もおこなわれますが、学生主体で運営される部分が大きいです。本ゼミでは、選ばれたテキストや論文を輪読しますが、これとともに経済現象を学生が選択して個人ないし少人数グループで、輪番で発表する場を設けており、これを通じて学生の現実経済の主に時局的研究がなされています。もっと大きなグループ研究が別にあり、3年生の大きな目標は、秋におけるインターゼミナールまたはフォーラムなどの場で、

他大学の研究会とともに、研究発表をします。これに対して、4年生は、秋学期末の卒論発表が目標になります。本ゼミで、これらの研究の進捗に合わせて中間発表を行ってもらい、テーマの絞り方・アプローチの仕方・研究の改善方法他の議論も行います。

テキスト：

未定。研究会の場で示します。昨年度は、3年生による研究発表(内部発表・レニエンシー)、4年生による公取委員会報告の解説等が中心で、輪読形式ではありませんでしたが、今年度はテキスト輪読をとり入れることを検討します。

参考書：

- 未定。研究会の場で示します。候補としては、
- ・ Dutta, *Strategies and Games*, MIT
 - ・ S. Martin, *Advanced Industrial Economics*, Blackwell
 - ・ P. Geroski and J. Schwalbach(ed), *Entry and Market Contestability*, Blackwell
 - ・ Scherer, *Industrial Structure, Conduct and Market Performance*, Mifflin
 - ・ 金子晃他編『企業とフェアネス』信山社

授業の計画：

1. IO テーマ紹介
2. テキスト輪読・小グループ研究発表
3. 夏合宿での集中学習・卒論中間発表
4. インターゼミの研究テーマにかかわる研究発表
5. 個人研究発表・卒論発表・IO 研究紹介

履修者へのコメント：

日吉在籍時に当研究会について知りたいときには、12月のオープンゼミ(インゼミ活動を紹介)が参考になります。書籍としては、上記 Scherer を参照されたい。産業組織論以外に、計量経済学・ゲーム論などの分析手段、個別市場の分野の履修を勧める。

成績評価方法：

・ 卒論提出後、研究会への貢献(本ゼミ・サブゼミ・合宿・インターゼミナールなど)(4単位)、卒論(4単位)に分けて評価。

質問・相談：

研究会について知りたいときは、数度行われるゼミの説明会・オープンゼミなどで受け付けます。

研究会 助教授 中妻照雄

授業科目の内容：

中妻研究会は計量経済学の分析手法を学び、データを用いて計量分析を行う技能を身につけることを目的としています。特にファイナンスにおける計量経済学の応用を中心に学習する予定です。本研究会は本ゼミ、パートゼミ、サブゼミから成り立っています。

本ゼミは研究会の参加者が身につけなければならない計量経済学とファイナンス理論の基礎的な知識の習得に当てられます。そして、基礎が固まった段階で計量経済学やファイナンス理論の応用を扱った論文を幾つか読み、その分析結果を実際のデータを使って再現し研究会で報告してもらうことになります。

パートゼミでは本ゼミで読んだ研究論文などを発展させる形でグループ(パート)に分かれて共同研究を行います。このパートゼミでの共同研究が3年次の三田発表となり、さらに発展させて4年次の卒業論文になります。現在、債券・金利パート、デリバティブ・パート、ポートフォリオ・パートの3つのパートがあり、保険パート(生保数理、損保数理)、年金パート(年金数理)、ベイズ統計学パートなどを学生の意欲と能力に応じて増やす予定です。

サブゼミでは MATLAB の使い方を学びます。計量経済学の実証分析、ファイナンスにおける価格評価やポートフォリオ運用などではコンピュータによる高度の数値計算が要求されます。MATLAB はこのような要求に耐えうる強力なプログラミング言語です。

MATLAB は行列演算を簡単に行うことができ、C 言語などと比べてプログラミングが平易で、処理速度も比較的高速であるという特徴を持っています。そして、現在では統計分析、ファイナンス、工学など幅広い分野で用いられています。

- 中妻研究会は、2年間のゼミ活動を通じて
- ・ 計量経済学とファイナンスの理論的基礎

- ・ MATLAB を用いてモデルの推定やシミュレーションを行う手法
- ・ ファイナンス理論の実証研究や実務への応用のための技術を学びたいという学生諸君を歓迎します。

テキスト：

基本的には私が用意したレジюмеを使って教えますが、レジюмеの内容は

- ・ 計量経済学 Stock, J.H., and M.W. Watson, *Introduction to Econometrics*, Addison Wesley, 2002
- ・ ファイナンス Hull, J.C., *Options, Futures and Other Derivatives*, 5th ed., Prentice Hall, 2002

を参考にしています。英語で書かれた安くない本ですが、興味のある学生諸君は購入してみてください。

参考書：

参考書のリストは研究会の中で随時配布します。

履修者へのコメント：

上記の研究会の内容を読むと高度すぎてついていけないような印象を持つかもしれません。しかし、前提としている知識は日吉で習う統計学、微分積分、線形代数にすぎません。あとは本人のやる気次第でいくらでも補えます。本研究会では各自で自発的に学習を進めることが求められます。新しい事柄への好奇心を持ち続け、自主的に考え実行していく姿勢が何よりも重要です。

また、研究会の中だけで計量経済学とファイナンスに関する必要な知識を全て学ぶことは不可能です。可能な限り

- ・ 計量経済学関連科目 — 計量経済学Ⅰ, 計量経済学Ⅱ, 時系列分析, ベイズ統計学
 - ・ 確率論関連科目 — 確率・統計, 数理経済学特論Ⅱ [確率論]
 - ・ 金融関連科目 — 金融論, 企業金融論, ファイナンス入門, 国際金融論
- などを並行して履修するようにしましょう。

成績評価方法：

- ・ 平常点(出席状況と研究会での報告の内容)

質問・相談：

授業内容に関する質問にはメールあるいはアポイントメントを取っての面接で回答します。連絡方法は第1回講義で教えます。

研究会 教授 中村慎助

授業科目の内容：

本研究会においては、理論経済学及び公共経済学を中心に基本的な文献の輪読と各人の研究報告を行う。具体的な授業内容については、開講時に指定する。

研究会 教授 中山幹夫

授業科目の内容：

ゲーム理論は1944年、フォン・ノイマンとモルゲンシュテルンの共著『ゲームの理論と経済行動』の公刊によって生まれたが、80年代に入ってから産業組織論や情報の経済学などへの関心の高まりのなかで、それまでの均衡概念をさらに扱いやすくした方法論上のイノベーションと、生物学などからの刺激もあって、経済学に取り入れられるようになった。今日では、特にマイクロ分析のための強力な道具となっている。

また、特に近年、慣習やしきたりにもとづいて熟考しないで行動する人間や生物、遺伝子、オートマトンなどの機械、プログラム、アルゴリズムなどがプレイヤーであるようなゲームを考察するという、限定合理性の研究も盛んである。さらに、フロンティアでは知識や推論能力自体に制限を加えるという新しいアプローチもチューリング・マシンや様相論理の方法によって試みられている。

ゲーム理論は演繹的な構造物であるから、仮定や定義から出発して階段を1歩づつ昇るように根気強く思考することが必要で、知的好奇心や強い興味、関心をもっていることが望ましい。数学は、最低限、好きでなければ理論の面白さがわからず楽しくないであろう。英語については、文学的ではなく、論理的に読解することが必要である。

報告は、完璧である必要はないが、理解したことと、わからなかったことを区別して人に説明するという努力を評価する。その他の活動

については、学生諸君の自発性に委ねる。

テキスト：

テキストとしては、現在のところ未定であり、適宜コピー、資料を配布する予定である。

参考書：

- 参考文献としてはとりあえず以下の7点をあげておく。
- ・Osborne and Rubinstein, *A Course in Game Theory*, MIT Press, 1994
- ・Gibbons (須田・福岡訳)『経済学のためのゲーム理論入門』創文社, 1995年
- ・岡田章『ゲーム理論』有斐閣, 1996年
- ・中山幹夫『はじめてのゲーム理論』有斐閣, 1997年
- ・梶井厚志・松井彰彦『ミクロ経済学・戦略的アプローチ』日本評論社, 2000年
- ・中山幹夫・武藤滋夫・船木由喜彦共編著『ゲーム理論で解く』有斐閣, 2000年
- ・武藤滋夫『ゲーム理論入門』日本経済新聞社, 2001年

履修者へのコメント：

報告者は報告内容に責任をもつこと。あらゆる質問に答えなければならない。ただし間違えてもそこから議論が始まればよい。

成績評価方法：

- ・平常点 (出席状況および授業態度)
- 授業中、自由に質問やコメントすることを評価する。

質問・相談：

随時。メールも可。

研究会

助教授 延 近 充

授業科目の内容：

日本経済は10年以上にわたって出口の見えない深刻な不況に陥っている。この間、世界の中で例外的に好調な状態を保っていたアメリカ経済も陰りを見せている。アジア経済は数年前までの急速な経済成長から一転して不安定となったが、そのなかで順調な経済成長を続けた中国のWTO加盟は世界経済に新たな変化をもたらすに違いない。

各国・地域経済の諸問題の分析はもちろん重要であるが、それらを単独で分析するだけでは充分ではない。1980年代後半以降、冷戦という戦後世界を規定してきた要因が消滅するとともに、国境を超えて移動する巨額の資金や巨大多国籍企業の提携・合併のような世界市場の再編の動き、経済的な相互依存が深まり一国の経済政策が他国に与える影響が大きくなって、混迷を深める経済問題や地球環境問題などの解決のために各国間の協力の必要性が強まる一方、政策手段は手詰りとなり活路を見出せない状態に陥るといった世界的な一大転換期にあるからである。

こうした現代資本主義が直面している諸問題の根源を明らかにするためには、理論的検討と現状分析を世界史的視野から行う必要がある。その際には、第2次大戦後、冷戦対抗のもとで、アメリカの主導によって構築された資本主義の復興・成長の国際政治・経済の枠組みとその崩壊のメカニズムの分析が不可欠である。

本研究会の基本テーマは、このような問題意識から現代資本主義の直面している諸問題を分析することにある。本年度の共通テーマとしては、戦後の日本の経済復興・成長とそこに内在する問題点について、日米関係を基軸として考えていく。研究会員個々の研究テーマとしては、環境問題や個別産業問題も含め、広く現代経済の抱える問題に関心をもって選択し研究してもらいたいと思っている。

テキスト：

- ・井村喜代子『現代日本経済論』有斐閣

研究会

助教授 藤 田 康 範

授業科目の内容：

本研究会では、新聞・雑誌等の経済記事に関心をもつこと、その内容を理解して平易に説明する能力や論評を行う能力を身につけることを第一の目的とします。これらを通じて、経済分析の重要性を再確認することも目的の一つとします。私を含めて、様々な背景を持つ人たちが接して知識を共有し、分業と協業によって経済や学問に関する理解を深める場にしたいと考えています。

授業の計画：

〔春学期〕

1. ガイダンス
2. 応用理論分析の手法を身につける (計4回)
応用理論分析を行った論文を輪読し、手法を会得します。
3. 日本経済および世界経済の現状と問題点を把握する (計4回)
標準的な経済書を輪読する予定です。
4. 日本経済新聞の記事を読む (計4回)
日本経済新聞の記事の中から当研究会にふさわしいものを選んで発表していただきます。

〔秋学期〕

1. 経済に関する良書を読む (計2回)
昨年度は、松島克守著『MOTの経営学』(日経BP)、小宮山宏・松島克守編『動け!日本 イノベーションで変わる生活・産業・地域』(日経BP)を輪読しました。
2. 三田祭論文の中間報告および最終報告 (計4回)
3. 卒業論文の中間報告および最終報告 (計4回)
4. 経済問題を理論分析する (計2回)
5. まとめ

履修者へのコメント：

3年生は、本ゼミおよびサブゼミを通じて経済現象一般について教養を広げると同時にパートゼミで各自の専門性を深め、4年生は卒業論文の完成につとめていただきたいと思います。

成績評価方法：

研究会という科目の性質上、平常点および卒業論文に基づいて成績評価を行います。

質問・相談：

随時受け付けています。

研究会

教授 古 田 和 子

授業科目の内容：

近代アジア経済史の研究を行う。

研究会では、19世紀後半から20世紀前半における中国を中心に、東アジア・東南アジア地域における社会経済構造の変化やアジア域内における国際経済関係の変遷を検討していく。

アジア経済史の研究は緒に着いたばかりである。アジア研究の方法論についてもさまざまな考え方があり、研究されるべき課題や領域も多いのでその分やり甲斐はある。しかし同時に歴史データの収集などの面で困難な点があるのも事実である。

3年次は基礎的な研究文献の講読と討論をとおり、メンバー全員がアジアに関する基本的な知識を共有できるようにしたい。4年次は各自テーマを設定して卒論を作成する。本ゼミの研究対象は「多様なアジア」であるから、〈多様な個性〉の参加を希望している。

成績評価方法：

- ・レポート
- ・平常点 (出席状況および授業態度)

研究会

教授 細 田 衛 士

授業科目の内容：

本研究会では、環境経済学、経済成長理論、所得分配理論などを中心とした研究を行う。主に、理論経済学的手法をもってこのような問題にとり組む。ここ数年、環境経済学に重点をおいているが、本年度もこの方針は変わらない。フィールド・ワークやプレゼンテーションも研究会の重要な要素となる。春学期では、主に環境経済学の基礎を修得し、秋学期ではマクロ経済学の基礎、ならびに現実経済への応用について学ぶ予定である。

テキスト：

- ・バリー・C・フィールド『環境経済学入門』

参考書：

ゼミの時間に逐次提示する。

授業の計画：

1. 今週のトピック (プレゼンテーション)
2. フィールド・ワーク：論文作成及びプレゼンテーション

3. メインテキストの輪読
4. インターゼミ準備・参加

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）

研究会 **教授 前多康男**

授業科目の内容：

この研究会では、マクロ経済学に関する研究を行う。実際の経済の現状を、的確に把握し、そこに経済理論を適切に応用することによって、さまざまな政策的な課題に答えていくことを目的とする。

現状の日本経済は、バブルがはじけてから10年以上の長きにわたって不況下にある。この不況の原因や、不況から脱出するための処方せんを提示することは、マクロ経済学に課せられた使命である。しかし、我が国の経済で現在起こっている不況は、従来の不況とは異なっていることも事実であり、そのために、通常の教科書的なマクロ経済学の範囲では、現状の分析や適切な政策を提示できない状態に陥っている。このようなマクロ経済の諸問題に、既存のマクロ経済理論に捕らわれない自由な発想をもって、政策的な提言を行っていきたいと思っている。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）

研究会 **教授 マッケンジー, コリン**

授業科目の内容：

本研究会では外国と比較しながら日本経済の実証分析を行う。今までのゼミでは規制緩和や構造改革について勉強してきた。2005年度春学期に取り上げるトピックは社会保障制度（年金、健康保険、介護保険、失業保険など）の事態と改革となる。下記のテキストは最近のアメリカにおける社会保障制度改革についてのもの、それを輪読しながら関係する日本の社会保障制度について勉強する。本の輪読が終わったらマッケンジーが紹介する英文文献を輪読する。このゼミの“輪読”とはただ文献（又は文献の議論）を日本語に訳することだけでなく、著者の言いたいことを簡潔にまとめること、内容について疑問点を投げかけること、日本の関係する文献・制度を紹介することになる。秋学期には、三田祭論文（3年生が中心）、個人論文（3年生）と卒業論文（4年生）について報告したり、議論したりする。計量の実習をゼミの一環としてやる。2004年度にTSPという計量ソフトについて指導したが2005年度の適切な時期に、EViews 5.0という最新の計量ソフトの使い方について指導する。

テキスト：

- ・ Sanger, M.B., *The Welfare Marketplace*, Brooking Institution Press, Washington., 2003

参考書：

- ・ 松浦克己・マッケンジー・コリン『EViews5.0による計量経済学入門分析』（仮称）、東洋経済新報社、2004年

履修者へのコメント：

ゼミ中携帯の使用は禁止。

成績評価方法：

ゼミの成績は2年間のゼミ活動（個人論文、卒業論文、ゼミでの出席率・報告・議論の参加など）を総合的に判断・評価することによって決定する。個人論文・卒業論文の提出が遅れたり、報告の日を欠席したり、欠席が目立ったりする場合、成績のペナルティがあることに注意すべき。

質問・相談：

気楽に mckenzie@econ.keio.ac.jp に問い合わせてください。

研究会 **教授 松村 高夫**

授業科目の内容：

社会史の研究を行うゼミである。卒業論文の作成が重視されるが、対象とする国は、イギリス、日本以外でもよい。並行して、E.P. トムスン『イギリス労働者階級の形成』等社会史の基礎的文献を輪読する。

研究会 **教授 丸山 徹**

授業科目の内容：

経済理論の基礎的学習。

研究会 **助教授 宮内 環**

授業科目の内容：

「市場の数量分析」

当研究会では「市場の数量分析」の方法を実際の分析事例にそくして学ぶ。具体的な分析事例で明らかにされようとしている問題の所在、その分析のために要請される理論構成、そして適切な分析方法の選択、さらにこうした「市場の数量分析」の意義について、議論を集中して行う。今年度は市場の数量分析、および計量経済学的方法の基礎的な文献の輪読を中心に、数量分析の方法の基礎を固める。さらに研究会参加者は自らの研究テーマを選び、その研究報告も併せて行う。

テキスト：

研究会参加の学生諸君と相談の上決める。

参考書：

計量経済学的方法の基礎；

- ・ 小尾恵一郎『計量経済学入門』日本評論社、1972年

- ・ 小尾恵一郎『統計学』筑摩書房

市場の数量分析とその意義；

- ・ 小尾恵一郎・宮内環『労働市場の順位均衡』東洋経済新報社、1998年

- ・ 辻村江太郎『経済政策論』筑摩書房、1977年

- ・ 辻村江太郎『計量経済学』岩波全書

計量経済学の方法論；

初級；

- ・ Kennedy, P., *A Guide to Econometrics*, MIT Press, 1988

中級；

- ・ Greene, W. H., *Econometric Analysis, 3rd. ed.*, Prentice Hall, 1997

- ・ Gujarati, D. N., *Basic Econometrics, 3rd. ed.*, McGraw Hill, 1998

上級；

- ・ Griliches Z. and M.D. Intriligator eds, *Handbook of Econometrics, vol. 1-3*, Essevior, 1994-96

- ・ Engle R. F. and D.L. McFadden eds, *Handbook of Econometrics, vol. 4, 5*, Essevior, 1994-98

- ・ Juud, K., *Numerical Methods in Economics*, MIT Press, 1998

- ・ White, H., *Estimation, Inference and Specification Analysis*, Cambridge University Press, 1996

履修者へのコメント：

履修者諸君は、当研究会活動を通じて、検証可能な仮説の設定と、当該仮説を検証するために適切な観測方法の選択という、科学の基本的な研究作法について学んでほしい。

成績評価方法：

成績の評価は研究会における報告と卒業論文とを勘案して行う。

質問・相談：

研究会の最初の時間にオフィス・アワーについて連絡する。

研究会 **教授 柳 沢 遊**

授業科目の内容：

本研究会では、今年も20世紀前半の日本と東アジア諸地域の経済・社会を対象とする実証研究を行う。今年度は、「20世紀前半の日本経済・日本社会」を年間テーマとし、1930～50年代の都市商店街の形成、戦争経験、戦後改革、都市型生活様式の普及、失業者の生活、中小商工業金融、高度経済成長の開始などについて、1980～90年代の研究の到達点を把握し、論点を整理していきたい。使用する文献は、大門正克・天野正子・安田常雄編『戦後経験を生きる』吉川弘文館、石井寛治編『近代日本流通史』東京堂出版。

卒業論文のテーマについては、20世紀の日本とアジア諸地域に関する内容である限り自由に設定しうるが、4年の学年末には400字で60～100枚の卒業論文の提出が義務づけられている。

テキスト：

- ・大門正克・天野正子・安田常雄編『戦後経験を生きる』吉川弘文館
- ・石井寛治編『近代日本流通史』東京堂出版

参考書：

- ・大日方純夫・山田朗編『近代日本の戦争をどうみるか』大月書店、2004年1月刊

授業の計画：

- ・4～6月期はテキストの輪読を中心に、参加者のディスカッション能力を向上させる。
- ・7～10月期は、三田祭企画への取り組みを学生主導で行い、調査・研究手法を向上させる。
- ・10～1月期は、三田祭の研究発表をふまえて、各自卒業論文に取り組む。

履修者へのコメント：

毎回出席し、1つでいいから、疑問点を提出してください。他大学ゼミ（法政大学・東京大学など）との交流に意欲的に取り組んでください。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）
- ・卒業論文を納得いく形で執筆できるかどうか、柳沢研究会卒業のあかしです。しっかりした卒論を、同期生や先輩のはげましのなかで、書きあげて卒業しましょう。

質問・相談：

火曜日の昼休みや火曜日の夕刻以降は、できるだけ、質問や相談に応じるつもりです。

研究会 (3年)

教授 矢野 誠

授業科目の内容：

本ゼミナールは、公共経済学の理論の観点から政府の役割についての検討を行う。経済学では、どのような経済活動についても、そこから生み出される便益とそれを生み出すための費用との両面から考えるものである。これは政府の役割の経済学的分析についても同様で、政府が社会にもたらす便益と政府の活動から生み出される費用とを考慮することができる。便益と費用の相対的サイズをどう評価するかで、それぞれの経済学者が望ましいと考える政府のサイズも異なってくる。こうした異なる考えかたの背後にある経済理論をはば広く検討しつつ、現代社会における政府の役割を議論していきたい。

経済学が分析対象とするのは、現実の経済におけるいろいろの現象である。これらの現象は複雑に絡み合い、ひとつの分野に完全に納まってしまうことは非常に少ない。したがって、本ゼミナールでは、公共経済学的トピックに中心課題をおきながら、その他いろいろの経済現象に対する理論的分析手法をさぐることも目的とされ、そのための数学的手法の学習にも重点がおかれる。

研究会

教授 山田 太門

授業科目の内容：

公共経済学・財政学および文化経済学について、マクロ経済学とミクロ経済学を基礎とした研究を行う。本ゼミでは専門書の輪読を行う予定。予定人員は20名程度で応募者が多い場合には選考を行う。

4年生については各自の卒業論文のテーマについて研究報告を行う。

研究会

教授 吉野 直行

授業科目の内容：

(3年生)

毎回、経済指標の動きを勉強する。為替、金利、マネーサプライ、経常収支、外貨準備、失業率、稼働率、設備投資動向、消費動向、財政バランスなどの動きを、日本・米国・欧州・アジアのデータで比較し、マクロ経済理論を用いた説明を試みる。輪読では、

- (i) 国際経済 (Exchange Rates and International Finance, Laurence Copeland)
- (ii) 計量経済 (Introduction to Econometrics, Maddala)

(iii) ファイナンス (Financial Economics, Brian Kettell)

などを用いた基礎的な学習を行う。さらに、各パートに分かれて、計量分析手法を用いながら、三田祭論文を作成する。テーマとしては、(i) 日本の為替変動の現状とその要因分析、(ii) わが国の金融機関行動に関する実証分析、(iii) 資産価格の変動（株価・地価の変動）、(iv) 財政赤字の現状とマクロ経済効果、(v) 日本の地域経済の動向と地域間格差などである。

(4年生)

毎回、経済指標の動きを勉強する。為替、金利、マネーサプライ、経常収支、外貨準備、失業率、稼働率、設備投資動向、消費動向、財政バランスなどの動きを、日本・米国・欧州・アジアのデータで比較し、マクロ経済理論を用いた説明を試みる。輪読では、

(i) 国際経済 (Exchange Rates and International Finance, Laurence Copeland)

(ii) 計量経済 (Introduction to Econometrics, Maddala)

(iii) ファイナンス (Financial Economics, Brian Kettell)

などを用いた基礎的な学習を行う。さらに、各自の卒業論文のテーマに沿って、演習を行う。テーマとしては、(i) 財務諸表による日米の銀行行動の比較、(ii) 資金の地域配分と政治力、(iii) 不動産証券化、(iv) 金融政策の波及経路などであり、卒業論文の進捗に応じて発表を行い、コメントを得ながら、論文を書き進める。

研究会

教授 若杉 隆平

授業科目の内容：

本研究会は国際貿易とイノベーションをテーマとする。イノベーションが生み出す国際貿易パターンの変化やグローバルな企業活動ネットワークの展開を理論面・実証面から分析すること、企業のイノベーションと知的財産権制度、競争政策、産業政策を理論的・実証的に分析することなど、国際貿易、投資、研究開発、イノベーション、法制度と政策にかかわる課題の中から、現実の経済現象に目を向けつつテーマを選び、経済分析を重ねてゆく。

春学期には国際貿易・技術革新の分野における基本的な文献に取り組み、基礎力を養う。秋学期には、3年生は、グループ毎に研究テーマを選び、そのテーマに沿って論文・文献を講読し、研究成果を中間報告する。4年生は卒業論文の中間報告を行う。

研究会で用いるテキスト・文献は第1回研究会の時に紹介する。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）

研究会

教授 渡辺 幸男

授業科目の内容：

本研究会の中心テーマは、工業経済論、中小企業論、日本経済論の3者あるいはこれらが交錯する場にあるといえよう。現代資本主義論の理論の学習と現状の日本経済についての批判的理解のための学習とを、できうる限り同時並行的に行いたい。

そのためにも、夏休みを中心とした3年生ゼミ員による共同実態調査は不可欠であると考えている。

研究プロジェクト

(誘導展開型)

<日吉設置>

研究プロジェクト

助教授 エインジ、マイケル

授業科目の内容：

「Advanced Seminar in Film Theory and Criticism」

This course develops an advanced understanding of film as a complex cultural medium through the discussion of key theoretical and critical approaches. The course combines weekly intensive small-group discussions, individual presentations and written assignments. We will

perform close, detailed analyses of a selected body of films, rigorously applying major film theories and critical approaches. By the end of the first term, students, building on their knowledge from previous film-studies courses, will be able to:

- Read and critically analyze a variety of filmic texts, demonstrating an understanding of the codes and conventions of film language
- Identify, apply and evaluate theoretical approaches to filmic textual analysis
- Critically analyze and evaluate the role and purpose of critical analysis of filmic and other media texts

Alongside the coursework, students will be guided towards producing a detailed critical or historical essay, in which they will analyze and evaluate a theoretical approach to filmic textual analysis. After selecting a film or set of films by early July, students will spend part of the summer holiday and first half of the autumn semester researching the topic(s) of the paper, and producing a draft by December. Draft revisions and preparations for the final presentation/submission will constitute the remainder of the year's work.

Gerald Mast, M. Cohen, and Leo Braudy, *Film Theory and Criticism: Readings 6th ed*, Oxford University Press, 2004, a collection of primary readings, will serve as our main text. Individual students will be expected to read further in the areas directly related to their papers and presentations.

研究プロジェクト 教授 小 淵 昭 夫

授業科目の内容：

「映像制作研究 — 企画・制作・発表」

この研究プロジェクトは、映像制作を目指すプロジェクトで、本年度は映画作品を制作するプロセスのなかで〈映画の文法〉を考察します。撮影と編集がメインですが、その前に、短編映画をたくさん見たあとで、企画・プロデュース・目的を明確にし、脚本を作成し、それに沿って素材としての映像を撮り、そのためのキャスティング、ロケーションの許可を得る交渉を行い、撮影の際には照明器具や音響器具を使用し、音響、音楽を付け加え、場合によってはスタジオでアフレコを行い、そのあとでパソコンによる編集を行います。最初は、18分程度の作品を目指します。

1. 企画 a. コンセプト b. フィクション c. ドキュメンタリー d. プロデュース
2. 制作 a. 脚本 b. 絵コンテ c. キャスティング d. ロケーション e. 素材収集 (撮影) f. 照明 g. 音響 h. 編集 (モンタージュ) i. 音響とのシンクロニゼーション
3. 発表 a. DVD化 b. 上映会 c. ポートフォリオ作成 (報告書) 受講者の人数は、5名とします。

場所は日吉キャンパス、日時は土曜日2時限で行いますので、出席できない学生は遠慮されたいと存じます。機材等は、ほとんど無いに等しいですが、日吉キャンパス教養研究センター所属のカメラを使用します。なお、文化庁によるインターンシップの参加も考えています。

授業の計画：

- 4月9日(土) 日程の説明、短編映画の鑑賞、参加者の自己紹介、
 - 4月16日(土) ドキュメンタリー、参加者の役割分担、
 - 4月23日(土) フィクション(日本の作品)コンセプトの発表、物語の制作、
 - 4月30日(土) 脚本制作、話し合い
 - 5月7日(土) キャスティング、ロケーション、
 - 5月14日(土) 切り返しショット、オーバーラップ、撮影
 - 5月21日(土) 人物描写、撮影
 - 5月28日(土) 長まわしショット、撮影
 - 6月4日(土) カメラ万年筆論、シネマヴェリテ、撮影
 - 6月11日(土) 編集
 - 6月18日(土) 編集
 - 6月25日(土) 編集
 - 7月2日(土) 編集
 - 7月9日(土) 発表
- 夏休みに素材を収集することを課題とします。

秋学期は、春学期の反省のもとで、学生の自主的な活動展開(企画・日程・制作・発表)を期待します。

研究プロジェクト 教授 竹 内 良 雄

授業科目の内容：

「三国志、諸葛孔明を考える」

このセミナーでは、三国志の時代に活躍した諸葛孔明を中心にその時代と人物を考えていこうと思う。

まず、『蜀書』で「諸葛亮伝」を読み、史書に書かれた諸葛亮像に迫り、『三国志演義』に書かれた諸葛亮像と比較する。それと平行して、インターネットで資料を探すなど、三国志の時代および諸葛亮について書かれた資料、本などを集め、そのあとメンバーで輪読し、意見を交換して、それぞれ三国志の時代、諸葛亮に対する自分のイメージをもってもらい、自分なりの諸葛亮の人物論、あるいは当時の社会の問題などをまとめてもらう。

参加するメンバーは、中国語履修者であることが望ましいが、もしそうでない場合、できる範囲で考えていきたい。

なお時間が許せば、このセミナーと同時に、中国語を履修したメンバーと諸葛亮について書かれた中国の研究書を少しずつ翻訳していこうと思っている。最後は翻訳検討会になるかもしれないが、精読するには一番良い方法と思っている。

研究プロジェクト 教授 羽 田 功

授業科目の内容：

「ユダヤ人問題」

「ユダヤ人問題」は時間的には2千年近くにおよぶ歴史を持ち、空間的には全世界にまたがる問題としてきわめて特異な性格を有しています。しかし、それだけではなく、「民族」や「民族問題」を考える上でもさまざまな示唆を与えてくれる問題でもあります。さらには宗教、政治、経済、思想・芸術など、人間の多様な営為の場においてつねにユダヤ人は大きな足跡を残してきました。しかし、他方ではユダヤ人に対しては古くから誹謗や中傷が加えられ、また現実に迫害の標的とされてきています。

ところでわたしたちは「ユダヤ人問題」についてどこまで正確にその特徴や事実関係を知っているのでしょうか。あるいは上述したようなユダヤ人のあり方から私たちは何を学び取ることができるのでしょうか—こうした問題関心から始まって、この巨大な問題を全体として理解し、同時に全体的なパースペクティブのもとでユダヤ人問題やユダヤ人あるいはユダヤの歴史・文化などへの各人の個別的な関心を深めていくことがこのプロジェクトの目的です。

授業の計画：

・春学期は、問題理解のための基本文献を読みながら、基礎的な知識の習得と共に文献の読み方を身に付け、かつ論文作成につながる個別研究テーマの発見をめざします。また、これと並行して文献・資料検索やレポート作成や口頭発表の方法についても教示します。

・秋学期は、個別テーマにもとづく論文などの作成準備に入ります。テーマに即した文献・資料の読み方、資料の整理方法、論文へのまとめ方なども併せて勉強します。なお、秋学期の個別研究のための準備として夏休みの課題が課されます。

テキスト(春学期)、参考文献・資料、シラバス(春学期)については第一回目に指示または配布します。

研究プロジェクト 専任講師 山 本 賀 代

授業科目の内容：

「シュタイナーの思想を学ぶ」

本研究プロジェクトでは、「シュタイナー学校」や「人智学」で知られるルドルフ・シュタイナー(1861-1925)の思想を考察対象の中心に据え、①その理論成立の背後にある近代科学史・思想史の流れを確認し、シュタイナー思想の歴史的位置づけを試みる、②宗教、芸術、教育、医療、農法など現代社会の多様な分野で実践されている彼の思想受容の実像を把握する、という2つの作業を進めていきたいと思えます。

近代科学と神秘学を独自の哲学へと融合させたシュタイナー思想には、様々な研究アプローチの可能性があり、また彼の現代社会への影響も多岐にわたります。受講生にはあらかじめ高い関心と問題意識が要求されますが、研究スタイル・考察分野の絞り込み・テーマ設定などは、授業の過程で受講生と相談しながら柔軟に対応していきたいと思えます。

授業は、日吉キャンパスを利用した演習形式になる予定です。最終的には学術的レベルを備えた論文作成を目指しますので、文献収集の方法や論文の書き方などの個別指導も行います。また受講生には、中間報告をはじめ、文献紹介などの小さな発表を頻繁に担当していただきます。

研究プロジェクトC (秋学期)	助教授	秋山	裕
	助教授	石井	明
	助教授	エインジ	マイケル
	助教授	福山	欣司

授業科目の内容：

研究プロジェクトCは、誘導展開型および自発展型研究プロジェクトに参加する学生が履修する科目です。研究プロジェクトCのみで履修することはできません（研究プロジェクトCを履修しないで誘導展開型および自発展型研究プロジェクトに参加することもできません）。研究プロジェクトと研究プロジェクトCは、概念的には2つで1つの科目であると理解してください。研究プロジェクトCは、研究プロジェクトのコーディネーターが共同で担当します。成果発表の準備や成果報告会など、成果に関わることを扱います。時間割上では週1回（秋学期）開かれることになっていますが、授業時間の多くは数回にわたる研究成果報告会やその準備にあてられるため、融通性を持ったスケジュールとなります。詳細なスケジュールは研究プロジェクト開始後に研究プロジェクトのHP上 (<http://www.econ.keio.ac.jp/lecture/kpro/>) で発表します。秋学期開始前である春学期末に、秋学期分の授業時間を用いて中間報告会を行うことも視野に入れています。

<三田設置>

研究プロジェクト	教授	鈴木	晃仁
-----------------	----	----	----

授業科目の内容：

「疾病と医療と社会—20世紀から21世紀へ」

この授業の目的は2つある。1つは、疾病と医療を社会科学の視点で分析することができるようになること。もう一つは、データベースを利用し、自分で構築できるようになることである。履修を想定している学生は、習得した経済学の知識を用いて医療経済学の分析をしてみたい学生、疾病と医療の社会史を学びたい学生、病気と医療の現代史に興味がある学生、医療ジャーナリストへの途を考えている学生、医療系の官庁や企業、特に外資系の製薬・医療関係の企業に就職したい学生、国内・海外の「医療社会科学」の大学院コースなどに進学したい学生などである。それ以外の関心から履修する学生も歓迎する。具体的な素材は、統計資料や文献などが比較的簡単に手に入ることで、社会における関心を考慮して、20世紀から21世紀の日本の疾病と医療が中心となる。

前期は、既存のデータベースを用いて、さまざまな疾病・医療データの処理と、その解釈の仕方の基本を習得する。また、20世紀の医学を概観した基本テキストを読み、問題の所在を知ると同時に、自らが研究するトピックを各自で決定する。後期は、各自が選んだトピックについての報告と全員での検討が中心になる。

参考文献：

- 以下の書物を入手することが望ましい。
 - ・広井良典『医療の経済学』日本経済新聞社、1994年
 - ・笠原英彦『日本の医療行政』慶應義塾大学出版会、1999年
 - ・村上陽一郎『医療—高齢社会に向かって』読売新聞社、1996年
- 高価なので、必ずしも購入しなくてもよいが、常に参照する参考文献は
- ・『南山堂 医学大辞典』

と

・Roger Cooter and John Pickstone eds., *Companion to Medicine in the Twentieth Century*, Routledge, 2000

である。なお、授業には各自ノートパソコンを携行することが必要になる。（学生に貸与できるものも数台あるが、形式が古いので。）

研究プロジェクト	教授	中澤	敏明
-----------------	----	----	----

授業科目の内容：

「市場競争にかかわるエンピリカル・リサーチ」

担当の「研究プロジェクト科目」は、競争・市場をキーワードとする産業組織論を主とし、コーポレートガバナンスや法と経済を従とする関連分野についての研究を、担当が誘導しながら進めるものです。種となる構想は担当が提示し、必要な知識は、担当の講義・他の種々の科目履修等でまかない、1年間の努力の結果を定められた場所で発表します。履修者上限は5人と定められており、ミニ・プロジェクトです。共同研究タイプで進めたいと考えます。

既存の「研究会」と対照させて科目の性格を説明しておきますと、担当のミニ・プロジェクト科目に限ってのことですが、あくまで研究会活動に対しては補完的性格です。代替的ではありません。また、研究会が多くはオープン・エンド型で、基礎から応用へ進む手順を踏み、当該分野の諸々のジャンルの広範囲の知識を得た上で、学生は関心のあるテーマを模索し、培った力を部分的に活かして卒論をしあげます。正攻法を旨とします。これに対して、当ミニ・プロジェクトでは掘り手からの接近法になります。絞り込まれたターゲットが先にあり、必要な知識・能力の方は、必要な程度に応じて必要な時機に「俄か仕立て」で用意するという手順になります。「俄か仕立て」で用意するとはいえ、ミクロ経済学・統計学・計量経済学・英語の基礎学力がないと、間に合わないで、これらについての健全な基礎学力は前提条件です。

当プロジェクトは、4つのフェーズからなります。第1フェーズは、ヒグルディ・ピグルディ期間で、担当側からいくつかの学生が興味を持ってそうなアイデアの提案を行います。学生の方は、この中から参加するプロジェクトを決めます。第2フェーズでは、確定したプロジェクトの実施のために必要な知識・能力を、にわか仕立てに準備します。第3フェーズが、それまでのホップ・ステップを経て、プロジェクトの分析対象に力を注ぐジャンプの局面です。第4フェーズでは、研究成果をまとめ、最終報告の場で発表することになります。2～4の局面では、相当の時間を恒常的に割く必要が出てきます。時間・力量に十分な余裕のある人のコミットメントを期待します。

研究プロジェクト	助教授	バティ	ロジャー
-----------------	-----	-----	------

授業科目の内容：

「International Studies: Themes in International Relations」

This is a broad course in International Relations. It is designed to deepen and widen students' appreciation of various current issues in international relations. Amongst the issues we will consider are developments and problems in world trade, environmental questions, the proliferations of weaponry, from nuclear arsenals to small arms, and international crime, including terrorism and the control of the international drugs trades. The class is conducted entirely in English, and considerable amounts of English reading are required in order to fulfill grading requirements. Written tasks include the completion of lengthy, detailed reports, whose contents must be original. Classroom tasks include both formal and informal presentations; and in addition to all this, plenty of work outside the classroom may well be demanded.

Applicants need to be fluent in English; they need to produce evidence of an ability to conduct independent study; and they need to have enthusiasm and energy. Students who cannot fulfill these criteria are discouraged from applying for entry. As a semester of an English Seminar 3 class, and achieved a good grade. The two semesters of study will be conducted on several levels. Students will be required to show knowledge of both the issues and the institutions designed to regulate them; they will be also expected to have knowledge related to

specific countries as well as to regions; and they need to appreciate issues affecting developed countries as well as those of concern to developing countries. There will be considerable attention paid to the historical evolution of many current issues, as well as to emerging challenges.

研究プロジェクト

助教授 山田 篤裕

授業科目の内容：

「社会保障にかかわるエンピリカル・リサーチ」

社会保障（医療、介護、年金、生活保護等）給付費はGDP比で約2割に達し、すでに無視できないほどの大きさを経済に占めています。しかしながら、その財政面における大きさばかりが強調され、マイクロ・レベル（各個人や各企業のレベル）での社会保障の影響に関する研究や、日本を含んだ国際比較研究はそれほど進んでいるとはいえません。

本プロジェクトでは、日本の社会保障に関心のある学生を対象とし、この社会保障をマイクロ・レベルあるいは国際比較の視点から分析していきます。具体的な研究テーマは、プロジェクト参加者（5人前後）の希望を勘案しながら設定しますが、大まかな暫定的テーマとして「就業形態の多様化と社会保障」を挙げておきます。

プロジェクトの進め方としては、設定された研究テーマに沿って、まず関連する学術論文を読み込むことから始めます。授業時間以外にも、かなり多くの文献を読みこむことが要求されます。ただし、論文を読み込むために必要な基礎的な知識については、プロジェクト参加者のレベルに応じて、適宜、講義によって補うこととします。

次に、こうした文献渉猟を通じて得た知識に基づき、これまでの研究で何が分かっていて、何が分かっていないのかについて整理したレポートを提出してもらいます。さらに、このレポート執筆によって明確化された研究課題を分析するのに相応しい資料をデータ・アーカイブから探し出します。社会保障関連のデータは多岐にわたり、あまり知られていないものも多く、どのようなデータが入手可能であるかを知るこの探索作業は重要です。同時並行して、データの分析技術について、演習形式でマスターします。具体的には、エクセルや統計ソフトウェア（STATA）を用いた演習により、ある程度高度なテクニックを用いたデータ分析ができるレベルまで到達するようにします。

次に探索されたデータを用いて、どのように研究課題が解明されるかについて、詳細にデータに含まれている変数等を吟味して、実験計画（ここでは、具体的にどのようにデータを使用するのかについての計画を意味します）を立てます。春学期の終わりには、この実験計画を発表し、検討会を行います。

秋学期には、データ分析と論文執筆が中心となります。特にデータ分析には多大な時間を要するので適宜、授業時間以外にも作業することが要求されます。ある程度、論文がまとまってきた段階で中間報告会を行い、最終報告に備えます。この報告会では効果的なプレゼンの仕方についてもマスターします。

このプロジェクトに参加することにより、社会保障について深い洞察力を身につけるばかりでなく、問題を見つけ、関連する文献を調べ上げ、問題を明確化し論理を組み立て、必要なデータを収集・解析し、プレゼン・議論を行うという、リサーチに関する汎用性の高い技能を身につけることが可能です。

プロフェッショナル・キャリア・プログラム (PCP)

MICROECONOMICS (春学期) 助教授 グレーヴァ 香子

Aim and Content of this Course:

This course aims to (a) provide students with junior/senior level of microeconomics, and (b) enable students to follow it in English. Since the course has two purposes and the time is limited to half-year, the students are strongly encouraged to take other microeconomics courses in addition, if they want to specialize in microeconomics in their theses and/or their future studies. The outline of the lecture is as follows.

1. Consumer theory
2. Producer theory
3. Market equilibrium
4. Monopoly
5. Oligopoly
6. Externalities
7. Public goods
8. Moral hazard
9. Adverse selection

To supplement the lecture, problem sets are given. The answers must be written in English.

There will be a textbook that students must read to follow the lecture and solve problem sets. The title will be announced as soon as it is determined, in the lecturer's website: www.econ.keio.ac.jp/staff/takakofg/

Students are encouraged to take notes in English and read only materials written in English.

References:

David Kreps, *A Course in Microeconomic Theory*, Prentice Hall.

Hal Varian, *Intermediate Microeconomics*, Norton.

Grade:

The grade is based on the problem sets (20%) and the final written exam (80%). Grammatical mistakes do not count in the grades, but please use technical terms correctly. For the problem sets, you can study in groups but you must write answers individually. Copying will be detected and punished.

Course Pre-requisites:

Introductory microeconomics, introductory game theory, and some mathematics (mathematical logic, optimization, and probability). If you are in doubt whether you are prepared or not, please feel free to contact the lecturer.

MACROECONOMICS (春学期) 教授 前多 康男

Course Outline:

This course deals with a basic macroeconomic theory. By designing a macroeconomic model, we study how the economy determines the various quantities and prices and how government policies affect these variables. Since the main test of the model will be its ability to explain the behavior of macroeconomic variables in the real world, we also devote considerable time to comparisons of the theory with the real world. Since a model will be constructed based on microeconomic foundations, a basic knowledge of microeconomics is required.

Text:

Robert J. Barro, *Macroeconomics, Fifth Edition*, John Wiley & Sons.

Reading Assignments:

The following reading assignments are meant as a guide. We may go slightly faster or slightly slower depending on how well the instructor feels the class is doing, and how much time is left before the end of the quarter.

1. General Guidance
2. Ch. 2. Work Effort, Production, and Consumption –The Economics of Robinson Crusoe,
Ch. 3. The Behavior of Households with Markets for Commodities and Credit
3. Ch. 4. The Demand for Money,
Ch. 5. The Basic Market-Clearing Model
4. Ch. 6. The Labor Market,
Ch. 7. Inflation and Interest Rates
5. Mid-term Exam (Ch.1 – Ch.7)
6. Ch. 8. Money, Inflation, and Interest Rates in the Market Clearing Model,
Ch. 9. Investment,
Ch. 10. The Accumulation of Capital and Economic Growth,
Ch. 11. Unemployment

- 7. Ch. 12. Government Purchases and Public Services,
- Ch. 13. Taxes and Transfers,
- Ch. 14. The Public Debt
- 8. Final Exam (Ch. 1 – Ch. 14)

Homework:

There will be several homeworks. The due is a week from the date when each homework is assigned. No late homework will be accepted at any excuse. Homework must be typed except for graphical parts and equations.

Grade:

Mid-term: 20%, Homework: 20%, Final: 40%, Class participation 20%

ECONOMIC ANALYSIS OF LAW (秋学期)

教授 矢野 誠

Course Outline:

This course is designed to introduce as an application of microeconomics the economic approach to law and markets to those who wish to enter a law school and to engage in legal profession. A U.S. Supreme Court Justice in the early 20th century, Louise D. Brandeis, once wrote, "A lawyer who has not studied economics ... is very apt to become a public enemy" (Illinois Law Review, 1916). This statement is a good example to show how seriously the legal profession takes economics in day-to-day legal practices outside of this country, the tradition of which the Japanese society has badly been lacking. This course is designed to contribute to building such a tradition in our society.

Textbooks:

- ・ 矢野誠 『「質の時代」のシステム改革』岩波書店, 2005年
- ・ 矢野誠 『ミクロ経済学の応用』岩波書店, 2001年
- その他の詳しい参考文献・資料については、後日指示する。

Tentative Schedule:

The course is intended to explain the working of markets and the design of economic policy, institutions, and laws targeting to protect markets.

1. Introduction: Microeconomics Analysis of Markets
2. Function of Markets and Market Quality
3. Properties:
4. Intellectual Properties
5. Class Discussions
6. Competition and Anti-Trust Law, 1
7. Competition and Anti-Trust Law, 2
8. Anti-Trust Law Issues in Labor Markets
9. Capital Formation and Security Laws: Banks or Capital Markets
10. Venture Capital Market and Initial Public Offering Markets for Public Companies
11. Torts and Product Liability
12. Class Discussions

The lectures will be given in English; students' questions in Japanese are welcome.

宿題・成績:

学期中、数回の宿題を課す。また、期末試験も行う。成績に関する詳しい情報は後日伝える。

INTERNATIONAL LAW AND ECONOMY (秋学期)

教授 木村 福成

Course Outline:

All countries, particularly developing countries, are increasingly confronted with the need to address trade policy related issues in international agreements, most prominently the World Trade Organization (WTO). This course surveys key disciplines and the functioning of the WTO and discusses numerous issues and options that confront countries in trying to improve domestic policy and obtain access to the world market. Many of the issues discussed are also relevant in the context of regional integration agreements.

Text:

Hoekman, Bernard; Mattoo, Aaditya; and English, Philip., *Development, Trade, and WTO: A Handbook.*, Washington, DC: The World Bank., 2002

Other reading materials including a number of reports and documents by international organizations will be assigned in class.

Topics to be covered:

The class includes lectures, students' presentations, and discussions. The following topics and others are covered.

1. Economics and political economy for trade policy (review)
2. The major aspects of the WTO from a development perspective
3. Policy issues in the area of merchandise trade
4. Policy issues in the area of services trade
5. Protection of intellectual property rights
6. New regulatory subjects that are emerging in the agenda of trade talks
7. Multilateralism and regionalism

For 2005 F/Y, this course is jointly offered with INTERNATIONAL ECONOMIC POLICY (PCP).

Grade:

Homework: 20%, Final: 40%, Class participation: 40%

INTERNATIONAL TRADE (秋学期)

教授 木村 福成
特別招聘教授 リー ヒュンフン

Course Outline:

This course deals with international trade theory and its applications for students who seek a career path in international setting. The main objective of this course is to study a comprehensive, up to date, and clear exposition of the theory of international trade so as to understand the basis for and the gains from trade. In particular, we study the traditional models of Ricardo and Heckscher-Ohlin, and the new trade models based on imperfect competition with increasing returns to scale. Based on the sound understanding of the trade theory, we also explore the policy related issues such as effects of trade restrictions on a nations' welfare, economic integration, etc. Since the course is based on microeconomic foundations, the basic knowledge of microeconomics is required.

Text:

Salvatore, Dominick., *International Economics*, 8th edition, Hoboken: Wiley, 2004. Other reading materials will be assigned in the lecture.

Empirical project:

There will be one empirical project: The empirical project will have students find and analyze real world data to address issues raised in class and which are currently important issues in the field. It will be due three weeks before the final week of class and will be presented during the class.

Topics to Be Covered:

Week Contents

1. Chapter 1. Introduction
2. Chapter 2. The Law of Comparative Advantage
3. Chapter 3. The Standard Theory of International Trade
4. Chapter 4. Demand and Supply, Offer Curves, and the Terms of Trade
5. Chapter 5. Factor Endowments and the Heckscher-Ohlin Theory
6. Chapter 5. Factor Endowments and the Heckscher-Ohlin Theory
7. Chapter 6. Economies of Scale, Imperfect Competition, and International Trade
8. Review and Mid-term exam
9. Chapter 7. Economic Growth and International Trade
10. Chapter 8. Trade Restrictions: Tariff
11. Chapter 9. Nontariff Trade Barriers and the New Protectionism
12. Chapter 10. Economic Integration: Customs Unions and Free Trade Areas

13. Chapter 11. International Trade and Economic Development
14. Chapter 12. International Resource Movements and Multinational Corporations
15. Project presentation
16. Project presentation
17. Review and Final Exam

Grade:

Mid-term: 30%, Final: 40%, Homework (Empirical project): 20%, Class participation 10%

INTERNATIONAL ECONOMIC POLICY (秋学期)

教授 木村 福成

Course Outline:

All countries, particularly developing countries, are increasingly confronted with the need to address trade policy related issues in international agreements, most prominently the World Trade Organization (WTO). This course surveys key disciplines and the functioning of the WTO and discusses numerous issues and options that confront countries in trying to improve domestic policy and obtain access to the world market. Many of the issues discussed are also relevant in the context of regional integration agreements.

Text:

Hoekman, Bernard; Mattoo, Aaditya; and English, Philip., *Development, Trade, and WTO: A Handbook.*, Washington, DC: The World Bank., 2002

Other reading materials including a number of reports and documents by international organizations will be assigned in class.

Topics to be covered:

The class includes lectures, students' presentations, and discussions. The following topics and others are covered.

1. Economics and political economy for trade policy (review)
2. The major aspects of the WTO from a development perspective
3. Policy issues in the area of merchandise trade
4. Policy issues in the area of services trade
5. Protection of intellectual property rights
6. New regulatory subjects that are emerging in the agenda of trade talks
7. Multilateralism and regionalism

For 2005 F/Y, this course is jointly offered with INTERNATIONAL LAW AND ECONOMY (PCP).

Grade:

Homework: 20%, Final: 40%, Class participation: 40%

APPLIED ECONOMETRICS (春学期)

教授 マッケンジー, コリン

Course Status:

This course has been established as part of the Faculty of Economics' newly established PCP Program. In order to permit intensive instruction in the use of EViews 5 during the course, the number of students able to enroll in this course will be strictly limited. This course will be taught in English.

Aim and Content of this Course

This course aims to: (a) provide students with an introductory knowledge of applied econometrics; and (b) enable students to estimate and evaluate linear regression models using the econometrics software package called EViews 5. In the econometric analysis of any socio-economic phenomena, the creation of some sort of "model" is the usual starting point of any analysis. Econometric model building involves the following seven steps: (i) the specification of a theoretical model, (ii) data collection; (iii) the specification of a model for estimation; (iv) the estimation of unknown parameters; (v) hypothesis testing; (vi) model evaluation; and (vii) simulation and forecasting. This course focuses on estimation using ordinary least squares (step (iv)) and hypothesis test-

ing using the t and F tests (step (v)). Where possible, estimation and hypothesis testing techniques will be illustrated by empirical examples that use either cross-section or time series data. The emphasis in this course is not in proving propositions, but rather on the strong connection between the assumptions made about the components of the regression model and the results that can be obtained, and the various difficulties that arise when analyzing real data.

Text:

Carter Hill, R., W.E. Griffiths and G.G. Judge, *Undergraduate Econometrics*, John Wiley & Sons, New York., 2001

Japanese Language References:

- ・浅野 哲・中村二郎『計量経済学』有斐閣, 2000年
- ・松浦克己・マッケンジーコリン『EViewsによる計量経済分析』, 東洋経済新報社, 2001年
- ・松浦克己・マッケンジーコリン『EViews5による計量経済学』(仮称), 東洋経済新報社, 2005年

English Language References:

- ・Kennedy, P., *A Guide to Econometrics 5th Edition*, Blackwell Publishing, Malden, MA., 2003
- ・Quantitative Micro Software, *EViews 5 User's Guide*, Quantitative Micro Software, Irvine, CA., 2004
- ・Quantitative Micro Software, *EViews 5 Command and Programming Reference*, Quantitative Micro Software, Irvine, CA., 2004
- ・Wooldridge, J.M., *Introductory Econometrics: A Modern Approach*, South-Western College Publishing, USA., 2000

Course Outline:

1. What is Econometrics? What Does Econometric Model Building Involve?
2. Review of Important Economic and Statistical Concepts (Marginal Effects, Elasticity, Expectations, Variance, etc)
3. Ordinary Least Squares (OLS) for the Simple Linear Regression Model
4. The Statistical Properties of OLS for the Simple Linear Regression Model (including the Gauss-Markov Theorem)
5. Simple Hypothesis Testing Using the Student t-test
6. Using EViews 5 to Produce Descriptive Statistics, Graphs and Simple Regression Results
7. OLS for the Multiple Linear Regression Model
8. The Statistical Properties of OLS for the Multiple Linear Regression Model
9. Testing Hypotheses Relating to Several Parameters Using an F-test
10. Dummy Variables and Testing for Structural Change
11. Using EViews5 to Produce Multiple Linear Regression Results and to Conduct Hypothesis Testing
12. The Impact of Model Misspecification and Multicollinearity
13. Model Evaluation

Grade:

Grades in this course will be awarded on the basis of a student's performance in an end-of-semester written exam, and two pieces of homework to be handed in during the semester. Some of the problems on each piece of homework will involve the using EViews 5 for estimating some econometric models and interpreting the results. In determining a student's final grade, the results for the written exam and homework will be combined using the weights 80:20 or 100:0, whichever gives the more favorable result for the student concerned.

Course Pre-requisites:

In order to understand the material in this course, it is extremely desirable that students have some previous knowledge of linear algebra, differentiation (including partial differentiation), and probability. Instruction in the use of the econometrics software package, EViews 5, will be given as part of this course. This course will strictly avoid the use of matrix algebra.

READING AND COMPOSITION (春学期)

助教授 松岡和美

授業科目の内容：

The goal of this course will be to boost the reading and writing skills of students in the PCP program. Skills which will be emphasized in this class include: (1) skimming and scanning techniques (2) note-taking skills (3) writing skills for written exams and short papers (e.g. TOEFL writing section), and (4) oral skills to participate in class discussions, including question-and-answer sessions. All sessions will be conducted in English.

テキスト：

- (1) Frank, Steven., *The Everything Study Book.*, Adams Media Corporation., 1996
- (2) *Timed Readings: Third Edition.* Jamestown Publishers. (The 'Book Number' will be announced later.)

参考書：

Self-study material will be suggested in class.

授業の計画：

- Session 1: Orientation, Introduction to timed readings, scanning and skimming
- Session 2: Taking notes: strategies for effective listening
- Session 3: Reading texts: being a selective reader
- Session 4: Exam 1
- Session 5: Review of the basic paragraph writing and multi-paragraph essays
- Session 6: Five-paragraph essay: a workshop
- Session 7: Exam 2
- Session 8: Writing a term paper
- Session 9: Test-taking strategies: A step-by-step strategy
- Session 10: Generating questions in reading assignments
- Session 11: Leading discussions on the assigned readings
- Session 12: Book review presentations and discussions
- Session 13: Exam 3

成績評価方法：

- ・ Reading assignments 20%
- ・ Written assignments 30%
- ・ Classroom participation, attendance 20%
- ・ Exams 30%

レポートによる評価・授業内試験の結果による評価・平常点・課題による評価

質問・相談：

Students should read and use the information on the course homepage (<http://web.hc.keio.ac.jp/~matsuoka/>) before each class. A weekly office hour (at the Hiyoshi campus) is available for student consultation. Questions can also be asked through e-mail.

PRESENTATION AND DISCUSSION (秋学期)

助教授 松岡和美

授業科目の内容：

The goal of this course will be to improve oral/aural skills of students in the PCP program. Skills which will be emphasized in this class include: (1) giving formal presentations with question-and-answer sessions (2) participating in group discussions. Basic knowledge of interpersonal communication is provided in earlier part of the course. Essential expressions for professional presentations will be introduced as a warm-up, which is followed by reading/listening/discussing pros and cons of controversial issues. Completing the reading assignments is essential for this class, since the background material serves as a ground for group discussions. All sessions will be conducted in English.

テキスト：

- ・ Freitag-Lawrence, anne., *Business Presentations.* Longman., 2003

- ・ Numrich, Carol., *Raise the Issues: An Integrated Approach to Critical Thinking.* Longman., 2002

参考書：

- ・ Dale, Paulette and James C. Wolf., *Speech Communication Made Simple: Second Edition.* Longman., 2000

授業の計画：

1. Orientation: review of the basic presentation skills, question and answer sessions
2. Getting Started (BP Ch. 1): Participating in group discussions (SCMS Ch. 7): Understanding Interpersonal Communication (SCMS Ch. 8)
3. Moving on (BP Ch. 2): The Internet: A driving force for change? (RI Ch. 1)
4. Numbers (BP Ch. 3): Better Dead than Coed? (RI Ch. 2)
5. Visual Aids (BP Ch. 4): Economic vs. Ecologic Rights (RI Ch. 4)
6. Problems and Questions (BP Ch. 5): Beyond Darwin (RI Ch. 5)
7. Concluding (BP Ch. 6): To Know More About Less or Less About More (RI Ch. 6)
8. Midterm Presentations
9. "Just Say 'No' to Drugs?" (RI Ch. 7)
10. The Right to Dies vs. The Right to Live (RI Ch. 8)
11. The Global Village (RI Ch. 9)
12. "For Every Winner, There's a Loser" (RI Ch. 10)
13. Final Presentations

履修者へのコメント：

Students are expected to have the basic knowledge of using Microsoft Power Point.

成績評価方法：

- ・ Reading assignments 20%
 - ・ Classroom participation, attendance 40%
 - ・ Presentations 40%
- 授業内試験の結果による評価・平常点・課題による評価

質問・相談：

Students should read and use the information on the course homepage (<http://web.hc.keio.ac.jp/~matsuoka/>) before each class. A weekly office hour (at the Hiyoshi campus) is available for student consultation. Questions can also be asked through e-mail.

(3) 関連科目

民法 I

講師 花房博文

授業科目の内容：

本講義では、民法の総則、物権編について概説します。総則編では、「私権の開始・終了」、「当事者意思の尊重と取引の安全との調整」等の基本原則を中心にお話する予定です。物権編では、物を排他的に支配するための基本原則についてお話します。法律は、観念的で抽象的なものであると理解されがちですので、できる限り身近な実例を使って講義を進める予定です。詳細は初回の講義で説明します。

テキスト：

- ・ 『2005年版六法』（どんなものでも可）
- ・ 斎藤和夫編『レアブーフ民法I』中央経済社 必携
- ・ 物権法については講義中に指示

参考書：

- ・ 講義中に適宜指示

授業の計画：

[春学期：総則]

- 1 民法の位置づけ・私法の三原則と修正
- 2 一般条項の役割
- 3 権利能力・行為能力
- 4 成年後見制度の必要性和概要
- 5 住所と失踪宣告
- 6 法人の分類・活動・責任

- 7 物・財産権の拡大
- 8 意思表示
- 9 法律行為・法律行為の有効要件
- 10 代理・表見代理
- 11 無効と取消・条件と期限・期間の計算
- 12 時効制度 (1)
- 13 時効制度 (2)

[秋学期：物権法]

- 1 物権総説 (種類・効力)
- 2 不動産物権変動 (1)
- 3 不動産物権変動 (2)
- 4 動産物権変動と即時取得制度
- 5 占有権
- 6 所有権・共有
- 7 担保物権総説
- 8 留置権・先取特権
- 9 質権
- 10 抵当権 (1)
- 11 抵当権 (2)
- 12 非典型担保権
- 13 用益物権

履修者へのコメント：

民法を通じて、法的思考を習得してください。特に事物に対する経済学的思考と比較してみてください。

成績評価方法：

- ・学期末試験 (定期試験期間内の試験)
- ・平常点 (出席状況および授業態度)

民法Ⅱ 法務研究科教授 **鹿野 菜穂子**

授業科目の内容：

本講義では、民法の債権編について概説します。債権とは、民法の予定する重要な財産権の一つであり、人に対して一定の行為を請求する権利を指します。例えば、物を売ったときに売主が買主に対して代金を請求する権利、他人の不注意で負傷した場合に被害者が加害者に対して損害賠償を請求する権利などがその典型例です。

債権編は、債権に共通するルールを定めた総論部分と、売買・賃貸借等の各種の契約や、契約以外の具体的な債権発生原因に関するルールを定めた各論部分によって構成されていますが、この講義では、民法典の条文の順序に従い、前期に総論 (民法 399 条～ 520 条) を取り扱い、後期に各論 (521 ～ 724 条) を取り扱う予定です。

テキスト：

- ・前期：野村豊弘・池田正朗ほか『(有斐閣 S シリーズ) 民法Ⅲ 債権総論』有斐閣 [※ 4 月時点での最新版を用いる]
- ・後期：磯村保ほか『(有斐閣 S シリーズ) 民法Ⅳ 債権各論』有斐閣 [※ 9 月時点での最新版を用いる]

参考書：

- ・前期：川井健ほか編『新判例マニュアル民法Ⅲ (債権総論)』三省堂
- ・後期：同『新判例マニュアル民法Ⅳ (債権各論)』三省堂

授業の計画：

[前期]

1. 債権の意義と目的
2. 債権の効力 (1)：効力概説・履行の強制
3. 債権の効力 (2)：債務不履行
4. 債権の効力 (3)：債務不履行による損害賠償
5. 責任財産の保全 (1)：債権者代位権
6. 責任財産の保全 (2)：債権者取消権
7. 多数当事者の債権関係 (1)：分割債権債務と不可分債権債務
8. 多数当事者の債権関係 (2)：連帯債務
9. 多数当事者の債権関係 (3)：保証債務
10. 債権譲渡 (1)
11. 債権譲渡 (2)・債務引受けと契約上の地位の移転
12. 債権の消滅 (1)：弁財・供託
13. 債権の消滅 (2)：相殺・更改・免除・混同

[後期]

14. 契約の意義・契約の分類・契約自由の原則とその限界
15. 契約の成立と効力
16. 契約の解除
17. 贈与・交換
18. 売買
19. 消費貸借
20. 使用貸借と賃貸借
21. 雇用・請負
22. 委任・寄託・組合・終身定期金・和解
23. 契約以外の債権発生原因・事務管理・不当利得
24. 一般の不法行為
25. 特殊の不法行為
26. 不法行為をめぐる諸問題

履修者へのコメント：

六法を毎回必ず持参してください。

民法Ⅰを受講したことを前提に講義を進めますので、未だ「民法Ⅰ」を履修していない人には「民法Ⅰ」も併せて受講することを奨めます。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価 (定期試験期間内の試験)
- ・平常点 (出席状況および授業態度)

商法Ⅰ 講師 **久留島 隆**

授業科目の内容：

いわゆる「六法」の 1 つである『商法』は、第 1 編「総則」、第 2 編「会社」、第 3 編「商行為」および第 4 編「海商」の 4 つの編によって構成されている。

この授業科目「商法Ⅰ」のもとでは、そのうち第 2 編『会社』を中心に、最新の判例や事例に言及しつつ、講述する。講述の内容は、会社という企業の生活関係に関する諸制度のうち、「企業の組織に関する法律制度」である。したがって、この授業科目を具体的に表現するならば、『企業組織法』ということになる。一般には、「会社法」と称されている分野に相当する。

種々様々な企業のうち、特に、株式会社を中心とした講述を考えている。株式会社は、他の企業に比較して、我々の生活にとって、より一層深い関わりがあるからである。

なお、平成 17 年の改正商法にも言及する方針である。

テキスト：

指定しない。

参考書：

- ・倉沢康一郎『商法の基礎 [改定版]』税務経理協会
 - ・宮島 司『会社法概説 [補正版]』弘文堂
 - ・久留島隆『企業のトラブルと判例法』
- その他必要に応じて指示する。

授業の計画：

民法が基本であるから、民法が定める公益法人について講述する。これによって、会社である営利法人の理解度を高めることとする。

履修者へのコメント：

最新の六法全書類を毎時限携行すること。

成績評価方法：

- ・学期末試験 (定期試験期間中の試験)
- ・平常点 (出席状況および授業態度)

商法Ⅱ 講師 **久留島 隆**

授業科目の内容：

いわゆる「六法」の 1 つである『商法』は、第 1 編「総則」、第 2 編「会社」、第 3 編「商行為」および第 4 編「海商」の 4 つの編によって構成されている。

この授業科目「商法Ⅱ」のもとでは、そのうち第 1 編「総則」および第 3 編「商行為」を中心に、最新の判例や事例に言及しつつ、講述する。講述の内容は、会社という企業の生活関係に関する諸制度のうち、「企業の商取引に関する法律制度」である。したがって、この授業科目を具体的に表現するならば、『企業取引法』ということ

になる。一般には、「商法総則・商行為法」と称されている分野に相当する。この2つの編は、相互に密接な関係があり、「六法」の1つである『民法』との関連も深い。したがって、『企業取引法』に關係のある『民法』の諸制度についても言及せざるを得ない。また、「企業の商取引」の分野では、手形、小切手、株券等を始めとする有価証券が重要な役割を演じているということも見逃すことはできないので、いわゆる「有価証券」の領域にも、晩秋の頃から、踏み込んで講述するつもりである。

テキスト：
指定しない。

参考書：
・倉沢康一郎『商法の基礎 [改定版]』税務経理協会
・倉沢康一郎『手形判例の基礎』日本評論社
・奥島孝康編『争点ノート商法 II [商行為法・手形法・小切手法]』法学書院
・久留島隆『企業のトラブルと判例法』
その他必要に応じて指示する。

授業の計画：
民法が定める法律行為について講述する。これにより、企業が行う種々の法律行為に対する理解度を高めることとする。

履修者へのコメント：
最新の六法全書類を毎時限携行すること。

成績評価方法：
・学期末試験（定期試験期間内の試験）（春秋とも）
・平常点（出席状況および授業態度）

労働法	法学部助教授 内藤 恵
-----	-------------

授業科目の内容：
「企業と労働者（いわゆるサラリーマン）をめぐる法的問題を分析する」労働法とは、賃金を得て生活する者（これを労働者と称します。）と使用者との間に生起する様々な法的問題を学ぶ領域です。この領域は大別して、労働市場法、個別的労働関係法、そして集团的労使関係法に分類されます。

本講義はまず労働法の歴史的背景から説き起こし、春学期及び秋学期の初めを使って、特に労働者と使用者の間に締結された労働契約の始期からそれが終了する原因に至るまでを講義します。この二つの法主体間の関係を、個別的労働関係と呼びます。内容としては、下記授業計画の第二章から第十章がそれに当たります。

続いて、労働法と社会保障法の間に位置する労働災害補償の問題を講義（第十一章）し、更に労働者・使用者・労働組合の三者間の法的関係を解釈する、集团的労使関係の領域を講じます。内容としては、第十三章から第十八章がそれに当たります。

講義の進み方・あるいはソフトボール大会の影響などを見ながら、出来れば話題となった新しいテーマや法改正についても、随時織り込んでお話をしたいと考えます。

テキスト：
テキストは使用せず、毎回 Web に講義資料プリントをアップロードします。

但し法学部のホームページの特性からパスワードの設定が出来ないので、URL は初回講義の中でお話しします。講義には、六法と判例百選を必ず携行してください。

・『別冊ジュリスト・労働法判例百選 [第7版]』有斐閣、2002年
参考書：
初心者向けの参考書として、
・野川忍・野田進・和田肇『労働法の世界（第5版）』有斐閣、2003年
・西村健一郎・安枝英諤『労働法（第8版）』有斐閣プリマシリーズ、2004年
良く書き込まれた概説書に、菅野和夫『労働法（第6版）』弘文堂

授業の計画：
第一章、序論 — 労働法の体系 —
第二章、労働契約の始期 — 採用内定・試用期間 —
第三章、労働契約の主体 — 労働者の概念、派遣労働法 — (1.5回)
第四章、人事異動 — 配置転換・出向 —
第五章、賃金

第六章、労働時間法制（2回）
第七章、年次有給休暇
第八章、就業規則（2回）
第九章、懲戒
第十章、労働契約の終了（1.5回ほど）
（…このあたりで春学期講義終了）
第十一章、安全衛生・労働災害（2回）
第十二章、労働組合（憲法上の労働基本権を含む）（1.5回）
第十三章、団体交渉
第十四章、労働協約（2回）
第十五章、争議行為（2回）
第十六章、組合活動
第十七章、不当労働行為（1.5回）
第一八章、近時のトピックス（1.5回）

ソフトボール大会等の影響をはかりつつ、上記授業計画に加えて春学期・秋学期併せて5回ほどの授業時間中レポートを実施します。（持ち込み全て可）講義が順調に進む場合には、随時、成果主義賃金等の新しいテーマあるいは重要な法改正についての解説を入れます。

履修者へのコメント：
法律学は基本となる分野から順次積み重ねていく学問です。そのため労働法学の基本には、憲法・民法（総則・債権各論）の知識が必要です。特にこのクラスは法律学科以外の方々の為の講義ですので、これら法学・憲法・民法を履修済みかあるいはそれと同等の知識のある方のみ履修してください。初めて法律関係科目にふれるという学生さんには、特別法たる労働法ではなく、憲法や民法の講義を履修することをお勧めします。この講義は、必要があればそのような基本的な知識についてコメントを加えますが、原則としてそれらの知識があることを前提として講義を進めます。

毎年特に商学部に関しては、一度も講義に出席しないまま「取り捨てる」学生が多く問題です。よく考えて、ご自分の法的知識を勘案した上で履修していただきたいと思ます。

成績評価方法：
・レポートによる評価
・平常点（出席状況および授業態度による評価）
春学・秋学期を通じてあわせて5回ほど授業中レポートを書いて戴きます。概ね出席し続けている学生数が50～60名ならば、そのレポートの成績及びその他ランダムにとる出席点を加味して評価します。尚それを超える数の学生が出席し続ける場合には、期末試験の実施を検討します。

質問・相談：
講義に関するご質問・相談は随時受け付けます。講義終了後、担当者のごところまでお越しく下さい。

租税法	法務研究科助教授 吉村典久
-----	---------------

授業科目の内容：
「21世紀にふさわしい税制の構築に向けて」
租税法は総合科学です。したがって法学方法のみならず、経済学的アプローチも駆使します。今年度の授業の重心は、所得税・法人税・消費税です。日本の財政赤字が拡大し、歳入の柱であるこれらの租税の重要性は高まることがあっても、減じることはありません。21世紀の税制を皆さんとともに考えていきましょう。

テキスト：
・岸田貞夫・矢内一好・柳裕治・吉村典久『現代税法の基礎知識』ぎょうせい

参考書：
・金子宏『租税法』弘文堂
・『小六法』有斐閣

授業の計画：
オリエンテーション
1. 租税法の基本原則
租税法律主義と租税公平主義を解説する。
2. 所得税法
所得税の課税要件、改革の方向性を解説する。
3. 法人税法

法人税の課税要件・改革の方向性を解説する。

4. 消費税法

消費税の制度，課税要件，改革の方向性を解説する。

詳細は次のホームページを参照のこと

(<http://www.law.keio.ac.jp/~yoshi/>)

履修者へのコメント：

本講義は一方的講義ではなく，対話形式を多用した授業である。

成績評価方法：

・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価（秋学期末試験のみ実施する。）

・平常点（出席状況および授業態度による評価）

基本的には学年末試験の成績を重視するが，授業中の出席，レポート等による評点も加味し，できるだけ不合格とにならないよう配慮する。

質問・相談：

授業後，随時。

会 計 学

商学部教授 黒川 行 治

授業科目の内容：

財務会計の基本的枠組み，会計基準の設定過程の問題，会計代替案選択に関する企業の会計意思決定の問題，会計認識および測定に関する基本的論理，会計測定の拡大・変容をふまえた近年の会計諸基準の具体的内容について，理解を深めることを目標とする。

テキスト：

・武田隆二『会計学一般教程〔第六版〕』中央経済社

・黒川行治『連結会計』新世社

参考書：

・黒川行治『合併会計選択論』中央経済社

授業の計画：

[財務会計の基本的枠組みと会計規準設定過程の問題]

会計情報の供給と二つの選択レベル

会計基準設定過程の論点（規範的会計規準の存在可能性，政治的プロセス，政策技術としての会計基準，文化や社会システムのサブシステムとしての会計など）

[企業の会計選択行動の問題]

エージェンシー関係と経営者の行動，情報の非対称性と経営者の行動

経営者の恣意的行動を防止する制度，経営者の自己規制と情報の自発的報告など

[会計の認識対象と制度的基礎]

会計の定義，制度会計と情報会計，財務会計と管理会計，制度会計の諸規則

[会計公準と一般原則]

会計公準の体系，一般原則の内容

[会計情報基準の体系]

会計情報基準の内容，会計公準と会計情報基準

[商法計算規定の構造]

商法の経理体系，株式会社社会計法の基本構造

[損益計算論]

損益計算の構造，損益処理の原則，収益・費用の認識と測定

[貸借対照表の本質]

動的貸借対照表と静的貸借対照表，資産の本質，取得原価主義の論拠

[金銭債権と有価証券]

金銭債権の意義と債権評価の基礎，一般債権（貸倒れの評価，手形の割引，償却原価法）

有価証券（売買目的の有価証券の評価など）

[棚卸資産]

棚卸資産の意義と範囲，取得原価の意義，原価集合・原価配分・評価替え

[有形固定資産]

有形固定資産の意義と範囲，修繕費と改良費，減価償却方法

[無形固定資産，繰延資産と研究開発費]

無形固定資産の概要，繰延資産の概要，研究開発費，ソフトウェア

アの会計

[負債]

流動負債と固定負債，引当金の本質，引当金の設定要件

[退職給付会計]

退職給付の意義，将来キャッシュフローの割引現在価値，運用資産と退職給付債務

[資本]

資本の分類と利益処分，資本の払戻，自己株式の処理，転換予約権付株式と新株予約権

[企業組再編の会計]

会社合併と会社分割の概要，合併の会計，会社分割の会計，企業結合会計基準

[時価会計とデリバティブ]

金融資産の時価評価の意義，デリバティブ取引，金融負債の時価評価，時価会計と企業観，ローン・パーティシパーションの会計処理，ヘッジ会計

[キャッシュ・フロー計算書]

キャッシュ・フロー計算書の作成目的

資金の範囲，分類

直接法と間接法など

[連結会計 (1)]

連結財務諸表の目的と制度

連結の範囲（子会社，関連会社とは何か）

連結基礎概念（親会社概念とエンティティ概念）

全部連結と比例連結

[連結会計 (2)]

資本連結（全面時価法，部分時価法）

子会社株式の追加取得，一部売却，時価発行増資

債権・債務の相殺

未実現損益の相殺

履修者へのコメント：

簿記論，会計学の既習が望ましい。

成績評価方法：

・学期末試験（定期試験期間内の試験）（秋学期末試験のみ）

通常点は一切ない。持ち込み不可の期末試験による。会計学の性質から，理解をした上での暗記が必要になる。したがって，試験間際にあわてることのないよう，日頃から自主的に予習・復習をしておく必要がある。

質問・相談：

授業終了後に受け付けます。

経 営 学

商学部教授 神原 研 互

授業科目の内容：

国際化や情報化の進展とともに今日の企業経営を取り巻く状況は大きく変化している。またそれとともに「経営学」の名において扱われる問題領域もますます多岐にわたっている。本講義では，このような経営学の全体像を明らかにするために，経営学の主要なテーマについて論じ，企業行動の分析のための基本的な知識の理解と習得を目指す。

テキスト：

・初回の講義で指示する。

参考書：

・伊丹敬之／過誤野忠男『ゼミナール 経営学入門』日本経済新聞社，2003年

・今口忠政『事例で学ぶ経営学』白桃書房，2004年

授業の計画：

1. 経営学の学問的性格
2. 経営学成立と発展
3. 企業概念と会社形態
4. 企業のガバナンス構造
 - ・現代企業における所有と経営
 - ・ガバナンス構造とトップマネジメント
 - ・ガバナンスシステムの国際比較
5. 企業の社会的責任と企業倫理

6. 企業の環境適応行動
 - ・企業戦略と事業戦略（競争戦略）
 - ・経営多角化
 - ・国際化の戦略
 - ・M&A と戦略的提携
 - ・経営組織のデザイン
 - ・組織文化のマネジメント
7. 経営資源のマネジメント
 - ・生産管理
 - ・人事管理
 - ・財務管理
 - ・情報のマネジメント
8. 現代企業の課題
 - ・日本的経営の今後

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価

近代日本研究Ⅰ，近代日本研究Ⅱ，
近代日本研究演習Ⅰ，近代日本研究演習Ⅱ

福澤研究センターと併設する上記科目については、p. 145「福澤研究センター」を参照してください。

〔II. 総合教育科目〕

人類学 [I系]

講師 吉田 俊 爾

授業科目の内容：

「人類の過去・現在・未来」

今、人類を取り巻く問題をざっと挙げてみても、環境破壊・人口増加・食料不足・人種差別・民族紛争・テロリズムなど、枚挙にいとまがない。残念ながらいずれの問題もいわゆるヒトがつくり出している問題なのである。そして、各問題は有機的に関連し合っている。世界の政治・経済機構、研究・教育機関、宗教組織、そして個人までもがこれらの問題の解決を第一の課題のおかずして、その解決は遠くおよびないであろう。人類を取り巻く上記の諸問題を解決できなければ、人類は滅亡に至ることは今や明白である。今日、やっとな環境に関する世界会議が開催されるようになった。今後の課題としては、これからの諸問題に対して個人個人が何をしなければならぬか、何ができるかということである。そのためには、まず私達が自分自身を知ることである。そのために、生物としてのヒトを探求するのが形質人類学である。授業では、基本的な人体構造の理解を軸として、形質人類学の課題（ヒトの起源と進化、変異、日本人の起源など）、日常のトピックスについて解説します。

テキスト：

・馬場悠男・高山博編『人類の起源』集英社

参考書：

・中原泉『歯の人類学』医歯薬出版
・片山一道『古人骨は生きている』角川書店
・竹原直道編、坂下・藤田・松下・山下『むし歯の歴史』砂書房

授業の計画：

初回の授業（ガイダンス時）で提示し、資料を配付します。

履修者へのコメント：

ヒトに興味のある学生を歓迎します。

成績評価方法：

・レポートによる評価
・平常点（出席状況および授業態度による評価）

質問・相談：

質問は授業中、相談は授業終了後に受け付めます。

情報処理（経済学・社会学のためのデータ分析）[I系]（春学期）

講師 相 場 裕 子

授業科目の内容：

本授業は、経済学・社会学分野における実践的なデータ分析の方法の応用を紹介し、統計手法に対する理解を深め、計量経済学やマクロ分析、社会調査等に役立つ情報処理能力を養成することを目的とする。

講義では、実際に表計算ソフトウェアや統計パッケージを使ってデータ分析を行い、その画面を見ながらデータ分析の方法やデータの読み取り方を解説する。データ分析のノウハウを身につけるには講義の聴講だけでは不十分なので、授業時間以外にも積極的に実習に取り組んでいただきたい。

テキスト：

特に定めませんが、講義資料（レジュメ）を配布する。

参考書：

講義中に参考文献を適宜紹介する。

授業計画：

1. データ分析入門（4回）
 - 推定と仮説検定
 - 標本誤差と標本の大きさ
 - データの整理とグラフ表示
 - 分布の特性の把握

— 統計的検定

2. 統計調査と分析（2回）

— 主な経済統計の種類、使い方
— 地域統計の収集方法、分析方法

3. 回帰分析（2回）

— 線形回帰モデル
— マクロ経済モデル

4. 多変量解析（4回）

— 数量化理論
— 分散分析

4. 社会調査の進め方（1回）

— 調査計画
— まとめ

履修者へのコメント：

受講者は、PC (Windows)、および表計算ソフト (Excel) の基本操作と統計学の基礎的な知識を身につけていることを前提とする。

授業内容の理解を深めるため毎回小課題を課すので、積極的に取り組んでいただきたい。

成績評価方法：

平常点および期末レポートにより評価する。

質問・相談：

授業時間中の質問を歓迎する。授業時間以外は、e-mailにて対応する。

歴史 [II系]

講師 田 原 昇

授業科目の内容：

「江戸時代の社会と文化」

江戸時代の実像について、政治・経済・文化など、様々なテーマを設定して解説します。

授業では、基本的な史実を時代順に概説するだけでなく、「将軍の家族」「小伝馬町牢屋敷」「山村の暮らし」「江戸の火事」「御家人の生活」など、江戸時代に関する具体的なテーマを取りあげ、活字史料や図版をできるだけ多く提示して、生の江戸時代像を実感してもらるようにします。

本講義を通じて、江戸時代が約二六〇年間にわたって安定した社会を謳歌し、ついには近代社会の母胎となった理由とは何か、考えてみたいと思います。

参考書：

・尾藤正英『江戸時代とはなにか』岩波書店、1992年、2800円
・竹内誠編『徳川幕府事典』東京堂出版、2003年、5800円

成績評価方法：

・学期末試験（定期試験期間内の試験）（秋学期末試験のみ）
・レポートによる評価
・平常点（出席状況および授業態度による評価）

法 学（憲法を含む）[II系]

講師 松 浦 聖 子

授業科目の内容：

— 現代社会と法 —

社会構造の複雑化、財の流通の加速化により、我々を取り巻く法的环境は極めて多様化している。一人の人間は、国民として、家族として、個人として、または消費者として、あるいは専門家として様々な形で法と関わる。特に、個人が社会と関わる上で避けることのできない「契約」という法的人間関係は、現代社会が直面する諸問題と密接な関連がある。本講義は、法学入門としての基礎知識の理解を徹底するとともに、現代社会に特徴的な法的問題に対する理解を深めることを目標とする。

テキスト：

・伊藤正巳・加藤一郎編『現代法学入門』有斐閣双書
・コンパクトタイプの六法（2005年度版）

参考書：

・碧海純一『法と社会』中公新書
・田中成明『法的空間』東京大学出版会

授業の計画：

【前期】

1. 法とは何か
2. 法の適用 (1) 裁判の諸原則 (2) 民事訴訟 (3) 刑事訴訟 (4) 法源
3. 法の体系 (1) 法の分類 (2) 公法と私法 (3) 実定法の体系
4. 国家と法 (1) 国家と憲法 (2) 日本国憲法の基本原理
5. 犯罪と法 (1) 犯罪と刑法 (2) 刑法の機能 (3) 犯罪の成立要件
6. 家族生活と法 (1) 家族法 (2) 婚姻 (3) 離婚 (4) 親子 (5) 扶養 (6) 相続

【後期】

7. 財産関係と法 (1) 財産法 (2) 取引の主体 (3) 取引の客体
8. 契約 (1) 契約の機能 (2) 契約の成立とその効力 (3) 債務不履行 (4) 損害賠償
9. 労働と法 (1) 労働法の理念と体系 (2) 労働保護法 (3) 労働団体法
10. 国際社会と法 (1) 国際法 (2) 国家の不法行為 (3) 秩序回復
11. 民事訴訟手続 (1) 民事訴訟の基本原則 (2) 民事訴訟の流れ (3) 少額訴訟 (4) 民事執行
12. 刑事訴訟手続 (1) 刑事訴訟の基本原則 (2) 刑事訴訟の流れ (3) 刑事訴訟法と刑法

履修者へのコメント：

- ①法律学は暗記の学問ではなく、論理的体系を持った理解の学問なので、講義には必ず出席すること。
- ②ニュース報道などで取り上げられている事件や社会問題の法的な意味にできるだけ関心を持つこと。

成績評価方法：

試験の結果・レポート・出席状況等を総合して評価します。

近代思想史【Ⅱ系】

講師 針谷 寛

授業科目の内容：

「ドイツ近代社会思想における自由と共同」

ヨーロッパ社会思想史における「市民社会」概念の変遷を手がかりとしながら、西欧近代社会とその思想の諸問題を検討する。材料としてはカント、ヘーゲル、マルクスなどドイツ近代の思想家の社会理論を重点的に取り上げる予定。これらの理論を扱うに際しては歴史的なコンテクストの中で考察することに努める。

テキスト：

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：

講義の中で紹介する。

授業科目の内容：

初回の授業で提示する。

履修者へのコメント：

予備知識を前提しない形で話を進めますが、理論的内容が大きな比重を占めるので、頭の中で何度も理論的なつながりを手繰り直す根気が必要です。

成績評価方法：

・レポートによる評価

質問・相談：

随時

美術【Ⅱ系】

講師 金山 弘 昌

授業科目の内容：

「西洋建築様式史」

古代から近代にいたる西洋建築史の基礎を理解し、西欧文化についての教養を深めることを目的に、各時代や各地域の建築について、おもに様式の変遷という観点から概説します。また授業ではスライドを使用します。

テキスト：

特に使用しません。プリントを配布します。

参考書：

- ・熊倉洋介・末永航他『カラー版 西洋建築様式史』美術出版社、1995年
- ・西田雅嗣編『ヨーロッパ建築史』昭和堂、1998年

授業の計画：

1. 西洋建築史の基礎知識。もっとも基本的な概念や用語についての解説 (2回)
2. 古代ギリシアとヘレニズムの建築 (3回)
3. 古代ローマ建築 (3回)
4. 初期キリスト建築・ビザンチン建築・初期中世（プレ・ロマネスク）建築 (2回)
5. ロマネスク建築 (3回)
6. ゴシック建築 (3回)
7. ルネサンスとマニエリスムの建築 (4回)
8. バロックとロココの建築 (3回)
9. 18世紀後半から19世紀の建築 (4回)

成績評価方法：

- ・授業内試験の結果による評価
- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）

質問・相談：

授業終了後に受け付めます。

地域研究 — 中国事情Ⅲ【Ⅱ系】

講師 垂水 健一

授業科目の内容：

中国の経済発展はめざましく、経済を中心に日本との関係は深まっている。しかし中国事情は分かっているようで分りにくい。例えば共産党独裁の国なのだが、党の組織と行政機関の関係はどうなっているのか、改革・開放政策の下での経済はどのような形で進められているのか、外交政策はどのようにして決定してきたのか—こうした問題を具体的に示し、それを通じて、中国の未来像や日中関係の在り方を考えたい。

講義は政治、経済、社会、対外関係に分け、テーマとしては次のような項目を考えている。政治では共産党と国会に相当する全国人民代表大会の関係、中央と地方の関係など。経済では改革・開放の総設計師といわれた鄧小平氏の構想、西部大開発など。社会では一人っ子政策や、貧困地区の解消など。対外関係では日中、米中関係のほかに中ソ（ロ）関係、外交的な色彩の強い中台問題や香港返還交渉などである。

テキスト：

・垂水健一『現代中国を知る 100のキーワード』駿河台出版社

授業の計画：

春学期と秋学期の前半は政治、経済、社会などの国内事情を、秋学期の後半は対外関係を中心に進める。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）
- ・春、秋2回の授業内試験

人の尊厳（社会と人権）【Ⅲ系】（春学期）

教授 安藤 寿 康
兼担教授 関 場 武

授業科目の内容：

われわれを取り巻く国内外の情勢を眺めたとき、今日ほど人の尊厳の基盤が危機に瀕している時代はないのではないだろうか。国際情勢においては民族間の葛藤と危機が、国内には少年犯罪や同和問題、性差別や児童虐待、さまざまなハラスメント、いじめなどの諸問題が、また科学の領域では遺伝子情報や生命操作に絡む倫理的危機が、そしてわが心のうちには自分自身の尊厳を見いだすことができずにさまようわれわれ一人一人の精神的・思想的危機がある。これらは一見別々の問題のようでありながら、実は互いに連動しあっている。この講義は「知識を得る」ための授業ではない。これら多様な問題に自ら立ち向かっておられるさまざまな分野の専門家に毎回登場いただき、自らの経験や問題状況を語っていただく。学生諸君には、これらの問題について考え、さらにはみずからふり返って自分自身の考え方や生き方を問い直すきっかけをつかんでいただくことが、この講義の目的である。

授業の計画：

生命倫理、難民問題、犯罪被害者・加害者の人権、同和問題カウン

セリングなどのテーマが予定されている。より詳細は初回ガイダンスで明示する。

履修者へのコメント：

体系的な知識を学ぶための講義ではなく、様々な問題状況を講師とともに追体験し、人間の尊厳に関する自らの生き方や考え方をあらためて見つめ直す機会をもつための講義である。誠実で素直で、なおかつ批判的な態度で臨んでいただくことを希望する。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価
- ・レポートによる評価
- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）

毎回授業に出席し、それぞれ異なるテーマに直面してそれについて自ら「考える」ことが本講義の趣旨であることから、毎回、授業の最後に、授業を通じて考えたことや疑問点を記述する小レポートの提出を課す。この提出状況（8割以上の提出＝出席をもって単位が認可される）とその内容、ならびにこれらの講義をふまえて自分自身の「人の尊厳」に関わる問題を考察する最終テストの評価によって成績を評価する。

質問・相談：

授業の形式等、事務的な内容については安藤（コーディネータとして毎回参加する）に、講義の内容については各回の講師に対して直接たずねられたい。

自由研究セミナー【Ⅲ系】

専任講師 根岸 宗一郎

授業科目の内容：

中国語の新聞・雑誌の記事を読みながら、リアルタイムの中国の社会・政治・経済・文化を考えていく。また、記事の読解の中で中国語読解力のレベルアップも目指す。

テキスト：

授業の中でプリントを配布する。

参考書：

- ・『中日辞典』小学館
- ・『中日辞典』講談社

授業の計画：

第1回にガイダンスを行い、第2回以降は毎回、新聞・雑誌記事を一つまたは二つ取り上げて読解と討論を行う。

履修者へのコメント：

記事読解の予習は必ず行うこと。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点（出席状況および授業態度）

Ⅲ. 外国語科目

(1) 外国語 I

講義内容により以下のいずれかの分野 (Theme categories) に分類されています。

1. 文学・芸術・思想 (literature, art, philosophy),
2. 言語・文化 (language, culture)
3. 社会・経済・歴史 (society, economy, history),
4. その他 (others)

英語リーディング〔分野：3〕 コーポレート・ガバナンスについて学ぶ

①通年 火曜日 2 時限

②通年 火曜日 3 時限

教授 河地 和子

授業科目の内容：

エンロン、ワールドコムの不祥事をきっかけに、グローバル企業のみならず日本の企業もコーポレート・ガバナンスの重要性を認識し、さまざまな施策を実行している。この授業では、社外取締役制度、会計監査・情報開示の方法、取締役の報酬を決める委員会設置など、各企業がどのような施策を講じているか、さまざまな新聞・雑誌記事やインターネット情報を通して読んでゆく。コーポレート・ガバナンスの定義はさまざまであるが、この授業では広義にとらえ、CSR (Corporate Social Responsibility) なども含める。

テキスト：

プリント教材。メリスを使い、教員が送信・配布した教材を各自がプリントアウトする。

参考書：

必要に応じて紹介する。

授業の計画：

前期：

- 1) コーポレート・ガバナンスの定義
- 2) 「エンロン崩壊」はなぜ起きたのか… Bill Mann による有名な “Enron Testimony” などを読む
- 3) 「エンロン崩壊」以後の各企業の施策 — 日本企業を中心に
- 4) 以上の reading materials を読んだ上で、3～4人のグループを作り、日本企業の施策についてリサーチし、発表する

後期：

- 1) 「エンロン崩壊」以後、諸外国の企業がどのようにコーポレート・ガバナンスを推進してきたか、その施策を学ぶ — たとえば Hewlett-Packard の CEO である Carly Fiorina のスローンスクールでのスピーチや IBM の CSR 施策についての記事を読む。
- 2) 以上の reading materials を読んだ上で、3～4人のグループを作り、諸外国の企業施策についてリサーチし、発表する。

履修者へのコメント：

わかり易い教材を使用し、著者の言っていることを paraphrase したり、質疑応答によって内容理解を深め、英語運用能力を身につけてゆきます。授業内容に関心があれば、また積極的な授業参加をすれば誰でも参加できます。

成績評価方法：

- ・読解、内容把握のための小テスト (30%)
- ・学期末のレポート (20%)
- ・授業中のディスカッションやディベートへの参加 (20%)
- ・学期末に行われるプレゼンテーション (30%)

質問・相談：

面接やメールによって。河地のメアドは kawachi@econ.keio.ac.jp

英語リーディング〔分野：3〕 Current topics : Environment and Health Issues

①通年 土曜日 1 時限

②通年 土曜日 2 時限

講師 金澤 洋子

授業科目の内容：

The aim of this course is to provide opportunities to read, think and express opinions on various issues. There will be a lot of readings and occasional video viewing of CNN or BBC programs. Classroom activities will involve discussions, presentations and interpretation exercises, depending upon the size of the class. Evaluation will be based upon participation, quizzes or summary writing. Text materials will be provided by the instructor. English will be used most of the time.

Evaluation will be based upon participation/summary writing (25%), presentations (25%) and essay/end-term examinations (50%)

テキスト：

provided by the instructor.

参考書：

- ・磯貝友子『アカデミックライティング入門 英語論文作成法』慶應大学出版会

成績評価方法：

- ・レポート
- ・授業内試験の結果
- ・平常点 (出席状況および授業態度)

質問・相談：

Students can reach the instructor at e-mail anytime.

授業科目の内容：

This class will deal with topics that the students themselves will choose. Topics will include things related to the economy, politics and social problems. The students will bring to the class material that they have collected from newspapers, magazines and the internet; the class will read the material together and the English will be explained. After that we shall have a discussion of the problems that the material will present, as well as of problems that students will raise.

Students will also be asked to write short papers of up to one thousand words. These papers will also be read in class, other students will comment on these papers and mistakes in the English will be corrected. Everything that we do in class: presenting, reading, writing and active participation in classes are equally important in this class.

テキスト：

Students will bring their own material from newspapers, magazines, books and the Internet

参考書：

- ・ A good English-English dictionary.

授業の計画：

Students will take turns in presenting their material. A usual class will consist of one presentation of reading material and one presentation of a written paper. Each of these will be followed by a discussion.

履修者へのコメント：

To pass this class you need to attend regularly and to participate actively using English.

成績評価方法：

- ・ 平常点 (出席状況および授業態度による評価)

授業科目の内容

This class will deal mainly with topics relating to the developing world. Some of the material will be provided by the teacher, and the other part will be brought by the students. There will be regular assignments to investigate matters that come up in class, and students will have to bring as much information as they can find about these topics. The discussion will continue using this material and new material provided by the teacher.

テキスト：

The teacher will provide information and printed material on relevant topics.

Students will bring their own material from newspapers, magazines, books and Internet

参考書：

- ・ A good English-English Dictionary.

授業の計画：

Some of the topics that we shall study are: refugees; globalization; water and sanitation; micro credit; agroforestry; small-range projects; money issues; debt; health; education

履修者へのコメント：

To pass this class you need to attend regularly and participate actively using English.

成績評価方法：

- ・ 平常点 (出席状況および授業態度による評価)
- ・ regular contribution with proper reading material, written papers and discussion topics

授業科目の内容

The science of today affects more people than ever before and the possible choices and outcomes will affect yet more. What are the Big Questions we face, and what are the social and economic implications of the scientists' work and society's decisions on them? Management in — and of — the future will need to take account of the developments in science and technology. Though you may not have studied science at school, or since, you need to know something about science and technology to make informed choices and to get the best out of life. This course will help you do that.

テキスト：

There will be no text to buy. Students will download material and handouts will be provided.

参考書：

Students are expected to already have an English-English dictionary (electronics or paper) such as the *Oxford Advanced Learner's Dictionary* as well as a Japanese-English dictionary.

授業の計画：

In terms of English, this is an intermediate and above course the purpose of which is:

- a) to build confidence in reading science-related texts
- b) to improve English reading skills by using complete texts
- c) to develop English listening and speaking skills
- d) to enjoy learning about a subject (science) via the medium of English.

Each student will be assigned to a group and will download and read the text, or different parts of a text before the class. In the class, the group

will work together to identify main points and summaries the text in their own words. The group will then explain their text to others. Follow-up questions will be expected.

The general class pattern will be:

select → read → summarize → explain → questions → discuss

On-line materials will be used to explain and extend knowledge in several topic areas, other simple texts will be used to help increase students' general reading speed over the year and class members will keep a log of their reading speeds.

Students will give presentations (unlikely to be more than one per semester because of class size) on topics they find interesting.

履修者へのコメント：

The class will be conducted in English. Students are expected to ask, and answer questions. Prompt regular attendance is required.

N.B. Six absences in the year will result in a 'fail' grade.

成績評価方法

Grading will be by continuous assessment based on:

- a) preparation before class,
- b) class participation and
- c) improvement over the course.

There will be no written examination.

英語リーディング [分野：3] A short history of science and its social repercussions

通年 木曜日 5 時限

講師 プラット, イアン R.

授業科目の内容

Our culture and the world today are built on the science of the past. This class will help students understand how society has come to depend so much on science. We will read about several events, why and how decisions came to be made, and discuss alternative ideas. Students will make presentations on a variety of people and problems faced by scientists and the societies they operated in.

テキスト：

・ Hodgson, P., *Science, Technology and Society*, Pub: Kinseido ISBN4-7647-3707-8, ¥1850

Other material will be downloaded from the internet or given as handouts.

参考書：

Students are expected to already have an English-English dictionary (electronic or paper) such as the *Oxford Advanced Learner's Dictionary* as well as a Japanese-English dictionary.

授業の計画：

This is a course for intermediate level and above students. Each student will be assigned to a group and will read the text, or different parts of the text before the class. In the class, the group will work together to identify main points and summaries the text in their own words. The group will then explain their text to others. Follow-up questions will be expected.

The general class pattern will be:

select → read → summarize → explain → questions → discuss

On-line materials will be used to explain and extend knowledge in several topic areas, other simple texts will be used to help increase students' general reading speed over the year and class members will keep a log of their reading speeds.

Students will give presentations (unlikely to be more than one per semester because of class size) on topics they find interesting.

It will be necessary for students to do some work between classes.

履修者へのコメント：

The class will be conducted in English. Students are expected to ask, and answer questions. Prompt regular attendance is required.

N.B. Six absences in the year will result in a 'fail' grade.

成績評価方法

Grading will be by continuous assessment based on:

- a) preparation before class,
- b) class participation and
- c) improvement over the course.

There will be no written examination.

(2) 外国語Ⅱ (ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語)

ドイツ語第Ⅳ (セミナー)

通年 金曜日 4 時限

教授 鈴村直樹

授業科目の内容：

購読+中・上級レベルの文法

テキスト：

・ *Neuigkeiten aus Deutschland '04*, 朝日出版社 + 文法プリント

参考書：

・ なし。必要に応じて指示します。

授業の計画：

まず、2004年にドイツで起きた出来事をまとめた文章を読み、時事的・文化的な理解を深めます。次に、受動態・分詞構文・関連詞・語順・

接続法などに関して、初級段階で扱われることの少ない事情を講義と練習問題により学習します。

履修者へのコメント：

この授業には「必ずここまで進まなければならない」という範囲はありません。分からないことは、時間をかけても、分かるまで質問しましょう。授業への積極的な参加を大きく評価します。逆に、消極的な態度や不参加には負の評価をします。授業内試験があります。

成績評価方法：

授業内試験の結果に出席・授業への積極的な参加を加味して算出します。

質問・相談：

直接、あるいはメールにて、常時受け付けます。メールアドレスおよびその他の連絡形態は初回の授業で説明します。

ドイツ語第Ⅳ（セミナー）

通年 火曜日 5 時限

教授 八木 輝 明

授業科目の内容：

1990 年統一後の現代ドイツに注目し、EU や発足したユーロ通貨の動向を見ながら、その国内の動きを最新の記事を読みながら探っていく。時事ドイツ語を読解するためには、ふだんから新聞やインターネットで海外の記事に目を通しておくことが肝要。参加者は特にこのことを心がけてほしい。さらにこのクラスでは初級文法の知識を確認し、深化しつつ中級レベルの文構造を正確に把握する練習を行っていく。時事ドイツ語の場合、特に IT 関連の新語がふくまれているので他のヨーロッパ語を意識して、想像力をはたらかせて文章を読んでいく作業が必要。しかしこのテキストの文章は大変平易で、詳しい語注がついている。読みやすく書かれた時事ドイツ語を、まずは正確に読み取る練習を積み重ねていきたい。

また最新のドイツのニュースもインターネットから適宜選び出しテキストとして取り上げていきたい。

今年（2005 年）は日本でドイツ年が開催された文化・科学・経済の分野を中心に多彩な催し物がくりひろげられる。また来年は 4 年に一度のサッカーワールドカップがドイツで行われる。また慶應義塾大学でもドイツ（ドイツ語圏）の複数の大学と交流協定を結び、さまざまな学部学生がドイツ語圏へ留学している。こうした点も授業のなかで紹介、解説していきたい。

必ず予習してのぞむこと。

テキスト：

・『時事ドイツ語〈'04 年トピックス〉』朝日出版社

履修者へのコメント：

平常の出席状況と授業での積極的姿勢が重要な評価のポイントになる。

成績評価方法：

・平常点（出席状況、授業態度および筆記試験）

ドイツ語第Ⅳ（中級）

通年 水曜日 5 時限

教授 七 字 眞 明

授業科目の内容：

テーマ《2004 年のドイツを読む》

ユーロ通貨圏の拠点として 21 世紀へと歩み出したドイツ。欧州市場の中で重要な位置を占めるこの国で、今何が問題となり、どのようなことが日常の話題となっているのでしょうか。

この授業では、政治、経済、社会、文化等、幅広い分野から選ばれたテーマを集めたテキストを読みながら、現代ドイツの諸相に触れてみたいと思います。

ある程度のスピードをもってテキストを読み進めていくことを授業の目標としますが、ドイツ語の基本的文法事項に関しても必要に応じて復習を行います。また、単にドイツ語のテキストを読むだけでなく、日本における状況をも念頭におきながら、それぞれのテーマが提起する問題点について参加者の皆さんと議論する場を持ちたいと考えています。

テキスト：

・A. ラープ・石井寿子『時事ドイツ語〈04 年トピックス〉』朝日出版社、2005 年

参考書：

特に使用しません

授業の計画：

以下の諸テーマに関するテキストを読みます。

1. ドイツのスポーツ：サッカー W 杯／アテネオリンピック
2. ドイツの政治：ドイツ新大統領／高齢者所得法改正
3. ドイツの文化：『ルートヴィヒ 2 世』／『壁に向かって』
4. ドイツの社会：新正書法問題／TV 視聴率競争
5. ドイツの経済：ポストバンク株式上場／マンネスマン事件

履修者へのコメント：

現代のドイツ、およびこれを取りまくヨーロッパの社会と文化に興味を抱いている皆さんの参加を希望します。

成績評価方法：

春学期末（授業内）試験：30%、秋学期末（授業内）試験：30%、平常点（出席点）：40%、による総合評価とします。特に出席点を重視し、無断欠席・遅刻が合計 5 回を超えた者に関しては、上記の評価基準に関わらず単位が認定されませんので、履修にあたり十分注意してください。

フランス語第Ⅳ（セミナー上級）

通年 木曜日 2 時限

教授 ガボリオ, マリ

授業科目の内容：

このセミナーは、フランス語の「読む、書く、聴く、話す」という4つの運用能力を伸ばすことを目的とし、特に、フランス語による論理的・自発的な会話能力、批評力の向上、更にはフランスを総合的に理解して行くことを目指します。そのために「現代フランス社会を考える」をテーマに、フランス語によるグループでの議論、資料の解説、レジュメの作成、発表等を行います。教材として、フランスの新聞・雑誌記事、及びF2のニュース等を可能な限り多様な領域にわたって用いて、そこで使用される語彙、表現を学び、その内容を理解するようにします。時事フランス語を十分に身に付ける為に、語彙に関する特別な訓練をして行きたいと考えています。また同時にフランス文化や歴史、社会について様々な角度から触れ、豊かな感性と的確な判断力を育てて行きたいと思えます。

テキスト：

・モーリス・ジャケ／久松健一『仏検 準1級・2級必順単語集』白水社。

その他プリントも配布します。

参考書：

・東京都立大学フランス文学研究室編『フランスを知る』法政大学出版社、2003年

履修者へのコメント：

授業は、原則としてフランス語で行いますので、十分な読解、会話能力を必要とします。

成績評価方法：

評価方法は、授業への積極的な参加の有無、及び前期、後期各一回ずつの試験を総合して判断します。

フランス語第Ⅳ（セミナー上級）

通年 水曜日 2 時限

講師 日佐戸 ミッシェル

授業科目の内容：

Travail et discussion sur des articles de presse

テキスト：

photocopies d'articles de journaux et magazines

授業の計画：

Compréhension des textes avec explication des expressions en français. Echange d'idées et d'opinions sur les thèmes concernés.

フランス語第Ⅳ（セミナー中級）

通年 月曜日 3 時限

教授 田中 淳一

授業科目の内容：

1) 基本的には「訳読」演習の時間です。大学で初めてフランス語を学び、二年生までの単位を問題なく取得しているというレベルの受講者を想定しています。内容としては時事、歴史、文学などの組み合わせを考えていますが、その割合は受講者の関心に応じて変わります。一年間でさほど難解でない記事、論説、作品を確実に読める読解力をつけることを目標にします。手始めに、中学向けの「子供新聞」を予定しています。

2) 要望があれば文章表現（自由作文）の指導もしますが、こちらは宿題を添削する形になります。

テキスト：

プリントを使用する。

参考書：

授業中に適宜紹介する。

授業の計画：

時事的テキストでいえば、当初は子供新聞程度のやさしいものを使い、次第に時間あたりの分量を増やしていきます。途中から本格的な新聞記事のごく短い一節をとり入れ、その分量を徐々に増やす予定です。その他のテキストについても同じ方針です。いずれにせよ年間を通じて訳読の演習に終了します。

履修者へのコメント：

予習は「絶対不可欠」です。

成績評価方法：

・試験の結果による評価

・平常点（出席状況および授業態度）

質問・相談：

いつでも受け付けます。

フランス語第Ⅳ（セミナー中級）

通年 木曜日 2 時限

教授 前島 和也

授業科目の内容：

新聞や雑誌の時事的な記事やインタビューを中心にフランス語の読解力を養います。ジャンルの違う短い記事をできるだけ多く読む予定です。常識から内容が判断できるような比較的やさしい文章が中心ですが、予習は必ずしてください。

また読解と並行して簡単な仏作文の練習も随時行います。

テキスト：

テキストはなく、毎回プリントを配ります。

中国語第Ⅳ（セミナーⅠ）

通年 水曜日 2 時限

講師 垂水健一

授業科目の内容：

中国語の時事的な表現を理解しながら、語彙力を養い、読解力を高めることに留意したい。同時に文章が書かれた背景事情の説明に重点を置き、現代中国への理解を深めることにも心掛ける。

2004、05 年刊行の「人民日報・海外版」に掲載された記事、コラムを中心に読み、中国の改革・開放を推進した鄧小平氏の「南方講話」などにも教材の幅を広げたい。

中国は世界貿易機関 (WTO) に加盟し、外国資本の投資の企業も多くなっている。また、2008 年には北京での五輪開催も決まっている。世界に開かれてゆく中国では、新聞もこれまで以上に国際化し、多様になっている。政治、外交、経済といったものだけでなく、市民の生活、教育、文化、スポーツなど社会事情の理解にも配慮したい。

テキスト：

教科書は使用しない。テキストのプリントを配布する。

参考書：

・垂水健一『現代中国を知る 100 のキーワード』駿河台出版社

授業の計画：

1000 華字程度の記事、コラムなら 2 回程度の講義で読み進む。

成績評価方法：

・平常点と春、秋 2 回の授業内試験

中国語第Ⅳ（セミナーⅡ）

通年 金曜日 2 時限

専任講師 根岸宗一郎

授業科目の内容：

中級レベルを履修し終え、さらに中国語読解力をレベルアップさせたい学生を対象に、中国語の原書を用いて講義を行う。中国知識人の書く様々な評論・エッセイを読み、中国語の原書を読む力を養うとともに、中国知識人の考え方も考察していく。

テキスト：

授業の中でプリントを配布する。

参考書：

・『中日辞典』小学館

・『中日大辞典』大修館書店

授業の計画：

第 1 回にガイダンスを行い、第 2 回以降、発音・和訳・文法事項の解説という形でテキストを読み進めていく。

履修者へのコメント：

読解の予習は必ず行うこと。

成績評価方法：

・試験の結果による評価

・平常点（出席状況および授業態度）

中国語第Ⅳ（セミナーⅢ）

通年 水曜日 3 時限

講師 陳愛玲

授業科目の内容：

言葉の根底にある中国人の「こころ」を探る。

テキスト：

開講時に指示する。

参考書：

開講時に指示する。

履修者へのコメント：

授業内容を必ず事前に辞書などで調べ、予習してから授業に臨むこと。

積極的に授業に参加し、積極的に発言する受講者を歓迎する。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度による評価）

・口頭発表

・レポート

中国語第Ⅳ（中級）

通年 水曜日 2 時限

講師 陳愛玲

授業科目の内容：

初級で覚えた中国語をスムーズに口から出るよう、繰り返し練習を行い、さらに应用能力を身につける。授業は次のことをポイントに進めていく。

1) 聞いてすぐ理解できる

2) 正確な発音および自然なリズムで言える

3) 日常的な応答および発話ができる

テキスト：

プリントを配布する

参考書：

開講時に指示する。

履修者へのコメント：

授業中のペアワーク、グループワークに積極的に参加すること。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）
- ・口頭試験の結果

スペイン語第Ⅳ（セミナー）

通年 金曜日 4 時限

講師 井関 睦美

授業科目の内容：

この授業では、既習のスペイン語文法を復習しながら、さらに読解力と表現力を高めていくことを目標に、読解と作文練習をしていきます。

テキスト：

開講時に指示します。

参考書：

開講時に指示します。

授業の計画：

春学期は、基礎文法の復習と応用に重点を置きながら、簡単な講読と短い作文の練習をします。

秋学期は、スペイン語圏の文化や歴史をテーマにした講読をしながら、そこで学習した構文や表現を使用して同じようなテーマで起承転結のある作文をいくつか書いてもらいます。

履修者へのコメント：

スペイン語基礎文法をひとつと習得した学生を対象とします。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点（試験、出席、課題提出、授業への積極的な参加などを総合的に評価します）

スペイン語第Ⅳ（中級）

通年 金曜日 3 時限

講師 井関 睦美

授業科目の内容：

この授業では、既習のスペイン語文法を復習しながら、主に表現力を高めていくことを目標に実践的な会話や作文の練習をしていきます。

テキスト：

開講時に指示します。初日に過去に使用した教科書を持参すること。

参考書：

開講時に指示します。

授業の計画：

毎回、場面設定をしてそこで使える表現をペアワークやグループワークで練習していきます。文法の復習問題、作文、発表なども適宜課していきます。

履修者へのコメント：

過去形までのスペイン語基礎文法を習得した学生を対象とします。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点（年に2回の期末試験と小テスト、出席、課題提出、授業への積極的な参加などを総合的に評価します）

〔選択A〕

ドイツ語第Ⅴ（選択A）

通年 火曜日 2 時限

教授 中山 純

授業科目の内容：

2年以上のドイツ語学習歴がある学生を対象に、ドイツ語テキストへのアプローチの方法と読解技術、読後の情報整理を学んでいきます。取り上げるテキストはいずれも広い意味で「ドイツ人とはなにか」という問題を扱っています。1年間の授業を通して、単に読解スキルを習得するのではなく、ドイツ語学習の裏付けになるドイツ（人）情報も収集していきます。

テキスト：

使用するテキストは初回の授業で配布します。

参考書：

- ・中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧『必携ドイツ文法総まとめ』白水社
- ・新田春夫『ドイツ語 言葉の小径 ― 言語と文化の日独比較』大修館
- ・永井清彦『キーワードでよむ ドイツ統一』岩波ブックレット NO.170

・加藤雅彦他『事典 現代のドイツ』大修館

授業の計画：

授業の進行計画は、授業で配布します。

履修者へのコメント：

年間計画を含めて授業に関する諸注意事項は初回の授業で行います。履修希望者は必ず初回から出席してください。また教育実習や就職活動で長期に欠席する可能性がある人は、事前に相談をしてください。

成績評価方法：

成績は授業中の発表，出席状況，試験結果で総合的に判断します。

質問・相談：

授業に関する質問や相談については，初回の授業で連絡先メールアドレスを伝えます。

ロシア語（選択 A）

通年 水曜日 4 時限

講師 佐野 洋子

授業科目の内容：

このクラスは初めてロシア語を学ぶ人を対象とし，一年間で初級文法を習得します。最終的には，平易なロシア語のテキストを読む力をつけることを目的とします。

テキスト：

・佐藤純一『ロシア語初級クラス』白水社

授業中にプリントも配布します。

参考書：

秋学期から辞書が必要となります。

授業の計画：

春学期は，発音，文法にあて，秋頃から読みものに入ります。会話用のテキストも併用する予定です。

履修者へのコメント：

読みものに入るまでは，予習は必要がないよう心がけますので，授業には必ず出席するようにしてください。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度による評価）

教 職 課 程

中学あるいは高校の教員免許状を取得しようとする場合、教職課程を履修することになりますが、学生諸君は教職課程センターにおいて、教職課程登録の手続きをしなければなりません。教員免許状取得を志す学生は、学事日程表「教職課程ガイダンス」に必ず出席してください。その際教職課程の履修案内等を配布します。

※ 学事日程表の「教職課程ガイダンス」および「教育実習事前指導」以外に、教員免許状を取得するためには諸ガイダンスや説明があり本人が必ず出席しなければなりません。「教職課程履修案内」には、日程その他について詳しく記載されていますから必ず読んでください。

また、ガイダンス日程・場所・時間・教職諸行事等については、西校舎中央入口右側手前の「教職課程掲示板」の掲示にも常時注意してください。

言語文化研究所特殊講座

言語文化研究所特殊講座は三田に設置されています。

〔参考〕平成 17 年度言語文化研究所特殊講座

科目名	教員名	単位数
サンスクリットⅠ（初級）	土田龍太郎	通年 2単位
サンスクリットⅡ（中級）	土田龍太郎	
アラビア語Ⅰ（基礎）	尾崎貴久子	
アラビア語Ⅱ（現代文講読）	稲葉隆政	
アラビア語Ⅱ（古典）	岩見 隆	
アラビア語文献講読	岩見 隆	
ヴェトナム語Ⅰ（初級）	春日 淳	
ヴェトナム語Ⅱ（中級）	嶋尾 稔	
ヴェトナム語文献講読	嶋尾 稔	
ペルシア語Ⅰ（初級）	関 喜房	
ペルシア語Ⅱ（中級）	岩見 隆	
タイ語Ⅰ（初級）	三上直光	
タイ語Ⅱ（中級）	ポンシー, ライト	
トルコ語Ⅰ（初級）	ヤマンラール, アイドゥン	
トルコ語Ⅱ（中級）	ヤマンラール, アイドゥン	
朝鮮語文献講読	野村伸一（春学期） 李 泰文（秋学期）	
カンボジア語Ⅰ（初級）	三上直光	
ヘブライ語Ⅰ（初級）	笈川博一	
ヘブライ語Ⅱ（中級）	笈川博一	
古代エジプト語Ⅰ（初級）	笈川博一	
古代エジプト語Ⅱ（中級）	笈川博一	
アッカド語Ⅰ（初級）	高井啓介	
アッカド語Ⅱ（中級）	高井啓介	

サンスクリット I (初級)

言語文化研究所 講師 土田 龍太郎

授業科目の内容:

サンスクリット語入門の講義である。ほぼ一年かけて、サンスクリット語文法体系のあらましを修得することを目的とする。参加者は、練習問題の予習が必要となる。

テキスト:

- ・ヤン・ホンダ著・鎧淳訳『サンスクリット語初等文法』(春秋社)
- ・辻直四郎著『サンスクリット文法』(岩波書店)

参考書:

なし

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

サンスクリット II (中級)

言語文化研究所 講師 土田 龍太郎

授業科目の内容:

サンスクリット語の初歩をすでに一通り修得したもののための授業である。

テキスト:

参加者の希望で決める。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

アラビア語 I (基礎)

言語文化研究所 講師 尾崎 貴久子

授業科目の内容:

正則アラビア語(フスハー)のアラビア文字の読み方、綴り方からはじめ、一年間で基礎文法を習得することを目的とします。また正則アラビア語による簡単な日常会話フレーズも練習します。

テキスト:

- ・佐々木淑子著『アラビア語入門』(翔文社, 2004年, 1800円)
- ・必要に応じて説明補助プリント, 練習問題を配布します。

参考書:

David Cowan, An Introduction to Modern Literary Arabic (Cambridge University Press)

授業の計画:

1. アラビア語(文語と口語, 文字と発音)について
2. アルファベットのつづり方
3. 名詞の性・格・複数
4. 人称代名詞と前置詞
5. 日常会話練習と練習問題
6. 指示代名詞・形容詞・疑問詞(1)
7. 指示代名詞・形容詞・疑問詞(2)
8. 練習問題
9. 名詞文の構造(1)
10. 名詞文の構造(2)
11. 日常会話練習と練習問題(1)
12. 練習問題(2)
13. 動詞完了形
14. 動詞未完了形
15. 名詞文復習と練習問題
16. 動詞文復習と練習問題
17. 受動態・分詞・動名詞・場所名詞
18. 練習問題
19. 不規則動詞
20. 不規則動詞練習問題
21. 関係代名詞
22. 練習問題
23. 派生形(1)
24. 派生形(2)

25. 練習問題

26. 総復習

履修者へのコメント:

アラビア語の文法はテキストを読むだけでは理解できない部分が多々あります。一回でも授業を欠席すると継続が困難になります。毎回の出席を心がけてください。

成績評価方法:

試験の結果による評価(小テスト, 期末試験, 平常点で評価する。)

アラビア語 II (現代文講読)

言語文化研究所 講師 稲葉 隆政

授業科目の内容:

基礎文法を学んだ人を対象として現代文の講読を行う。講読を通じて文章の基本的構造に対する理解を深め、併せて読解力を養成することを目的とする。

授業は、極めて平易な文章から読み始め、既習の基礎的知識を再認識しながら順次程度の高い文章を講読し、文語学習の当面の目標の一つである、母音記号等補助記号がついていない文章に対処できる力をつけることを目指す。

テキスト:

プリントを配布します。

授業の計画:

- I. 講義 1 回目-3 回目 母音記号がついた極めて平易な短文の講読。
- II. 講義 4 回目-8 回目 母音記号がついた平易な文章の講読。
- III. 講義 9 回目-13 回目 母音記号がついたやや程度の高い文章の講読。
- IV. 講義 14 回目-18 回目 要所のみにも母音記号がついた文章の講読。
- V. 講義 19 回目-26 回目 母音記号がついていない文章の講読。

履修者へのコメント:

辞書は Hans Wehr: 「Arabic-English Dictionary」を使用して下さい。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

アラビア語 II (古典)

アラビア語講読 言語文化研究所 講師 岩見 隆

授業科目の内容:

母音符号のついていない普通のアラビア語テキストを読めるようになるための演習です。文法の知識をテキスト読みにどう生かすかを課題としてやります。

テキスト:

- ・Brünnow-Fischer: Arabische Chkestomathie
- ・プリントで配ります

参考書:

井筒俊彦: アラビア語入門, 慶應出版社 1950.

授業の計画:

最初の日、参考書や辞書の紹介などガイダンスをやります。春学期の間は母音符号が全部ついているテキストを読みます。秋学期から少しずつ白文に近いものを読み始め学年末には全くの白文を読むようにしようと思います。

なお、受講者は毎時必ず自分の勉強した文法書を持参して下さい。常に文法との対比でテキスト読みを進めてゆくつもりです。

履修者へのコメント:

少なくとも規則動詞原型の完了, 未完了の変化は完全に頭へたたきこんでくること。文字も満足に読めないなどは論外です。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価(出席者は毎回必ずあります。テストがわりです。)

アラビア語文献講読

アラビア語演習 言語文化研究所 講師 岩見 隆

授業科目の内容：

アラビア語の定評ある古典の中、平易な散文（叙事の文）をあたりまえに読めるようになることを目指します。

テキスト：

受講者と相談して決めます。

参考書：

Wright: Arabic grammar. Cambridge Univ. press, 1962

授業の計画：

第1回はガイダンスで、参考文献、辞書の使い分けのやり方などを話します。

2回目以降はもっぱらテキスト読みに専念します。

なお、対象が古典ですから、単に文法的に調べるだけでは問題が解決しない場合が多々あります。そういう時に何を調べるかというようなことも考えてゆきたいと思います。

履修者へのコメント：

初等文法の諸規則や用語に慣れておく必要があります。動詞変化の基本をマスターしていること。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席者は毎回必ずあてますから、そのつもりで来て下さい。）

ヴェトナム語 I（初級）

ヴェトナム語入門 言語文化研究所 講師 春日 淳

授業科目の内容：

ベトナム語を初歩から学び、初級文法を一通り終える。最初は発音と綴り字から始め、初歩的な会話が可能な程度を目指す。

テキスト：

『ベトナム語入門 I』（慶應義塾外国語学校）

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 概要：ベトナム語の類型の特徴、方言などについて概説する
3. 発音の解説、練習、あいさつの表現（計3回）
4. 動詞文(1)：動詞、形容詞を述語に持つ文
5. 繋詞のある文(1)
6. 名前を言う表現
7. 動詞文(2) 基本的な動詞で練習
8. 職業、場所をいう表現
9. 存在・所有を表す文
10. 類別詞、指示詞
11. 繋詞のある文(2)
12. 場所を表す句と存在を表す文
13. 数詞、時刻の言い方
14. これまでの復習
15. 方向動詞(1)
16. 方向動詞(2)
17. 年月日、年齢、序数、曜日
18. 数詞を用いた表現の練習
19. 動詞文(3) 基本的な動詞、形容詞で練習
20. 可能、受身の表現(1)
21. 可能、受身の表現(2)
22. これまでの復習 (計2回)
23. 試験

ヴェトナム語 II（中級）

言語文化研究所 助教授 嶋尾 稔

授業科目の内容：

初級ヴェトナム語を学び終えた人を対象に文献講読を行う。最初は簡単なものから始めるが、受講者のレベル・要望に応じて、雑誌・新聞の記事などを読んでいくことにしたい。

テキスト：

初回に受講者と相談して決める。

参考書：

初回に指示する。

授業の計画：

初回に指示する。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

ヴェトナム語文献講読

言語文化研究所 助教授 嶋尾 稔

授業科目の内容：

ヴェトナム語で書かれた歴史関係の論文あるいは研究書を講読する。

テキスト：

初回に受講者と相談して決める。

参考書：

初回に指示する。

授業の計画：

初回に指示する。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

ペルシア語 I（初級）

ペルシア語文法 言語文化研究所 講師 関 喜房

授業科目の内容：

現代ペルシア語文法を全くの初歩から講義します。教科書の文法が終わり次第、易しい文章を読むつもりです。その際、文法書には記されていない文法上の例外事項などについて詳しく説明するつもりです。

テキスト：

岡崎正孝著『基礎ペルシア語』（大学書林）

参考書：

黒柳恒男著『ペルシア語の話』大学書林

授業の計画：

講義計画は以下の通りです。

- 1- ガイダンス
- 2- 文字の習得
- 3- 教科書を用いた文法の学習（計16回）
- 4- 易しい現代文を読む練習（計7回）
- 5- テスト

履修者へのコメント：

教科書の練習問題を必ず予習すること。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

ペルシア語 II（中級）

ペルシア語講読 言語文化研究所 講師 岩見 隆

授業科目の内容：

ペルシア語の文の流れをつかみとれるように、平易なペルシア語散文をできるだけたくさん読みます。

テキスト：

受講する人と相談して決めます。

参考書：

Lambton: Persian grammar. Cambridge Univ.Press,1974

授業の計画：

最初の日にテキストを相談して決めるなどガイダンスをやります。

2回目以後はひたすらテキストを読みます。

履修者へのコメント：

文法は理解しているものと考えてやります。だから動詞の変化など慣れておいて下さい。発音にはとくに気をつけて下さい。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席者は毎回あてますから、毎回テストを受けているようなものだと思って来て下さい。）

タイ語 I（初級） 言語文化研究所 教授 三上直光

授業科目の内容：

タイ語入門講座。発音、文字の読み書き、初級文法、基本表現の修得を目標とします。

テキスト：

開講時に指示します。

授業の計画：

春学期の前半に発音と文字の読み書きを終え、後半から初級文法と基本表現の学習に移ります。

履修者へのコメント：

活気のある授業にしましょう。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

授業中・授業後に受け付けます。

タイ語 II（中級） 言語文化研究所 講師 ポンシー、ライト

授業科目の内容：

このクラスでは、主にタイの小学校二年生の教科書から短編ストーリーを抜粋し、読解力・ライティングの工場を目指します。

更に、スピーキング・リスニングによる理解にも、焦点をあてていきます。

テキスト：

特に指定しません。

講義資料プリント配布します。

授業の計画：

- ・テキストを使用するリーディング、リスニング、ライティング
- ・用意されたトピックスでのスピーチ練習

1. ガイダンス
2. レッスン 1 (計 2 回)
3. レッスン 2 (計 3 回)
4. レッスン 3 (計 3 回)
5. レッスン 4 (計 3 回)
6. テスト
7. レッスン 5 (計 3 回)
8. レッスン 6 (計 3 回)
9. レッスン 7 (計 3 回)
10. レッスン 8 (計 3 回)
11. 学期末テスト

履修者へのコメント：

- ・あらかじめ単語の意味を調べてきて下さい
- ・あらかじめスピーチでのアウトラインをタイ語で書いてきて下さい
- ・診断書なしでの 8 回以上の欠席は認めません

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

トルコ語 I（初級）

トルコ語初級

言語文化研究所 講師 ヤマンルール、アイドゥン

授業科目の内容：

トルコ共和国の現代トルコ語初級文法を講義します。基礎的な文法事項を学習しますが、簡単な講読も行います。

テキスト：

プリント使用

授業の計画：

第 1 - 2 回 トルコ語の特色、母音・子音の調和。

- 第 3 - 7 回 “～は～です” の構文、助詞（格）、副詞、形容詞
- 第 8 - 13 回 動詞（現在・単純過去・超越などの時制）
- 第 14 - 17 回 動詞（伝聞過去・未来などの時制と複合時制）
- 第 18 - 21 回 分詞
- 第 22 - 24 回 動名詞
- 第 25 - 26 回 条件文、仮定法など

以上は初級文法の主要な学習事項と予定です。授業の進行に応じて順番などが変わるので、一応の目安とと考えてください。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

トルコ語 II（中級）

トルコ語中級

言語文化研究所 講師 ヤマンルール、アイドゥン

授業科目の内容：

初級文法を学んだ人を対象に講読を行います。文法事項の復習にも重点を置くつもりです。

テキスト：

プリント使用

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

朝鮮語文献講読 文学部 教授 野村伸一（春学期）

言語文化研究所 講師 李泰文（秋学期）

授業科目の内容：

朝鮮民族、朝鮮社会、朝鮮の人びとを知るためのテキストを講読します。読む対象は言語で表現されたものを第一義としつつ、随時、画像、写真、映像などを解読します。対象とする時代は特に限定しませんが、現代の朝鮮民族を理解するためには、やはり近代を扱う必要があります。一冊の本を選択し講読するかたちになります。

テキスト：

開講時に指定します。

授業の計画：

後期は受講者の関心領域を反映するかたちにするつもりですが一点にしほれない場合はこちらから提案します。

履修者へのコメント：

受講者は朝鮮語を読む準備ができていないことが前提となります。口頭での会話能力は必要ありません。ひとまず日本語にした上で、なお、それをよく吟味してみてください。なかなか日本語にならないところ、明らかに違うとおもえる表現に出会うことがたいせつです。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

カンボジア語 I（初級）

言語文化研究所 教授 三上直光

授業科目の内容：

カンボジア語入門講座。発音、文字の読み書き、初級文法、基本表現の修得を目標とします。

テキスト：

開講時に指示します。

授業の計画：

春学期の前半に発音と文字の読み書きを終え、後半から初級文法と基本表現の学習に移ります。

履修者へのコメント：

活気のある授業にしましょう。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

授業中、授業後に受け付けます。

ヘブライ語 I (初級) 言語文化研究所 講師 笈川 博 一

授業科目の内容:

旧約聖書ヘブライ語の初歩。まったくの初心者想定している。

テキスト:

テキストは比較的繰り返しの多い創世記を用いるが、プリントを授業で配布する。

参考書:

英語ないしドイツ語による辞書(¥2500~¥10000)が必要となるが、それについては授業で案内する。

授業の計画:

まとめて文法をやることはしない。最初からテキストを読みつつ、出てくる文法的現象をそのたびに解説する。1年終了するころには、辞書の助けを借りて散文をある程度自由に読めるようになっているのが目標である。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

ヘブライ語 II (中級) 言語文化研究所 講師 笈川 博 一

授業科目の内容:

旧約聖書サムエル記の講読。

テキスト:

テキストはプリントを授業で配布する。

参考書:

英語ないしドイツ語による辞書(¥2500~¥10000)が必要となるが、それについては授業で案内する。

授業の計画:

初級でプラクティカルに習得した文法を体系的に復習する。さらにヘブライ語の理解を深め、散文は自由に読めるようにする。後期には詩文にも挑戦したい。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

古代エジプト語 I (初級)

言語文化研究所 講師 笈川 博 一

授業科目の内容:

文法体系が比較的よく分かっている後期エジプト語の初歩。まったくの初心者想定している。

テキスト:

テキストは「ヴェナモン」を用いるが、プリントを授業で配布する。

参考書:

5月ごろから辞書(約¥9000)が必要となるが、それについては授業で案内する。

授業の計画:

まとめて文法をやることはしない。最初からテキストを読みつつ、出てくる文法的現象をそのたびに解説する。1年終了するころには、後期エジプト語を辞書の助けを借りてある程度自由に読めるようになっているのが目標である。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

古代エジプト語 II (中級)

言語文化研究所 講師 笈川 博 一

授業科目の内容:

中期エジプト語の初歩。

テキスト:

テキストは「難破した水夫」であるが、プリントを授業で配布する。

参考書:

辞書は Raymond O. Faulkner "A Concise Dictionary of Middle Egyptian" Oxford (Amazon JP で ¥3542), あるいはその日本語訳が必要となる。

授業の計画:

初級でやった後期エジプト語と対比しつつ、より困難な中期エジプト語を学ぶ。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

アッカド語 I (初級) 言語文化研究所 講師 高井 啓 介

授業科目の内容:

アッカド語を学ぶ際の基礎となる古バビロニア方言 (Old Babylonian) の初級文法及び文字表記システムの修得を目的とします。下記に指定した教科書を使いますが、足りないところは適宜プリントによって補っていく予定です。文法事項を学び進めながら、アッカド語が記されるときに使われた楔形文字のうち主要なものを覚えていきます。秋学期以降には、ハンムラビ法典など著名な作品の雰囲気にも触れていきたいと考えています。

テキスト:

Richard Caplice, *Introduction to Akkadian* (Biblical Institute Press)

参考書:

開講時に指示します。

授業の計画:

以下のようなスケジュールを予定していますが、授業の進み具合に応じて変更することもあります

前後期を通じて

1. ガイダンス
2. アッカド語及びその文字表記システムの概観
3. 音韻論
4. 名詞 (計三回) — コンストラクト形を中心に
5. 動詞 G 語幹 (計四回, 語根の判別, 変化, 叙法など) とその派生形
6. 動詞 D 語幹とその派生形 (計二回)
7. 動詞 S 語幹とその派生形 (計二回)
8. 動詞 N 語幹とその派生形 (計二回)
9. アッカド文学の概観
10. ハンムラビ法典, イシュタルの冥界下りなど — テキストを読みつつ文法事項を確認します (計九回)

履修者へのコメント:

古代メソポタミアの文化, 歴史, 宗教についても適宜紹介していくつもりです。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

アッカド語 II (中級) 言語文化研究所 講師 高井 啓 介

授業科目の内容:

アッカド語の初級文法を一通り学んだ人を対象に文献講読を行います。文法事項を再度確認しながら、簡単なものからはじめていろいろなジャンルのテキストを読んでいくことにします。具体的なテキストは受講者と相談して選びます。

授業科目の内容：

アッカド語の初級文法を一通り学んだ人を対象に文献講読を行います。文法事項を再度確認しながら、簡単なものからはじめていろいろなジャンルのテキストを読んでいくことにします。具体的なテキストは受講者と相談して選びます。

テキスト：

テキストはプリントを準備します。

授業の計画：**講義計画**

読むテキストについては、初回に受講者と相談の上決定するつもりですが、以下のような内容のテキストを取り上げるようになるでしょう。

前期：王碑文，書簡，法律文書，契約文書など（計十三回）

後期：神話・叙事詩，祈り文学，占い文書など（計十三回）

履修者へのコメント：

楔形文字を読み解いて行く面白さを味わっていただきたいです。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

メディア・コミュニケーション研究所

【メディア・コミュニケーション研究所とは】

メディア・コミュニケーション研究所 (Institute for Media and Communications Research) は、昭和 21 年 (1946 年) に産声を上げた新聞研究室を母体とする歴史の長い研究所です。新聞研究室は、後に新聞研究所と名称を改め、平成 8 年 (1996 年) に 50 回目の誕生日を迎えました。まさに、研究所は日本の戦後とともに歩んできたこととなります。新聞研究所は、第二次世界大戦前と戦争中、新聞報道を中心とする日本のマスメディアが軍国主義に迎合した報道姿勢をとったことを憂いた連合国占領軍が、戦後の民主化に新聞を中心とする言論報道機関の果たす役割の大きさを考慮して、その役割の遂行に貢献しうる人材の育成とともに、マス・メディア研究を行いうる研究機関の設置を幾つかの日本の大学に求めました。選ばれた大学の一つが慶應義塾であり、後に法学部の学部長になった米山桂三教授に研究所の運営が任されることになったというのがその発端であると伝えられております。

既述の通り、当初、新聞研究所は新聞研究室として出発しましたが、後に研究機能の重視を目的に研究所に名称を改めました。かつては、新聞を実際に発行して実習授業を盛んに行っていました (当時発行された新聞はマイクロフィルム化されていますので読もうと思えば読めます)、今日では実習的な側面よりも研究生 (新聞研究所に入所した学生はこう呼ばれます) にはマス・メディアおよびマス・コミュニケーション研究の基礎的教育を行い、専任教員を中心として基礎的な研究に力を入れてきました。メディア業界からは、テクニカルな知識や技術を身に付けた人間よりは、基礎的な知識や思考能力そして人間関係能力に裏打ちされ、しっかりとした考えと独創的な発想力をもつ人材が求められており、そうした要求に沿った教育と、各種メディア・コミュニケーション産業にとり有益な研究成果を提供することに新聞研究所は力を入れてきました。

しかし、時代は急速に変わりつつあります。戦後 50 年の情報通信技術の革新の動きは目覚ましく、新聞研究所がスタートした頃の報道機関といえば活字メディアが中核で、ラジオがそれに多少付け加わっているだけでした。その後、テレビ放送が本格化しメディアの中核は電気通信・放送へと移行して行きました。近年では地上波だけではなく、衛星放送・衛星通信、ケーブルテレビなど多面的かつグローバルにコミュニケーションが展開する時代になってきました。また、スーパー情報ハイウェイとインターネットを中核とし、パソコン通信ネットワークを土台にマルチ・メディアの展開が叫ばれ、コンピュータ・メディアの時代へと大きく変化し、新聞、ラジオ・テレビの融合現象も注目されるようになりました。と同時に、かつては一方的な伝達が中心であったものが、コンピュータ・メディアの発達により双方向的なものとなると同時に、その情報通信範囲もパーソナルなレベルからグローバルなレベルへと拡大化し、コミュニケーション能力の著しい発展と質的な変化は驚くべきものとなりました。また、多チャンネル時代を迎え、放送内容も多様なものになり、アイデアや創造力がメディア業界に働く人々に要求される度合いも格段に高くなりました。

こうなってくると、新聞研究所という名称はさすがに古めかしさを感じさせるようになったため、平成 8 年 (1996 年) には、研究所 50 年の記念式典を行い翌平成 9 年度より名称を変更いたしました。それが、メディア・コミュニケーション研究所出発の経緯です。新しいメディアの発展による新しいコミュニケーションの時代に合致した名称に変更したというわけです。もっとも、メディア・コミュニケーションの形態・技術は変化しても、報道ジャーナリズムの健全な発達のため、つまり、民主主義的で自由で公正なる報道を行うための前途有為な人材育成の目的はそのままです。そして、そのための少人数精鋭教育のためのカリキュラム変更も行いました。研究生には、報道ジャーナリズムやマス・コミュニケーション研究の基本を学び、新しいメディア (とくにコンピュータ・メディア) をある程度理解した上に自由に使いこなせるだけの能力も身に付けて欲しいと思っています。そのために、平成 11 年 (1999 年) 10 月より、この方面のメディア・リテラシー向上を求めて、「メディア・ワークショップルーム (MWR)」を開設しました (本格的稼働は平成 12 年 4 月より)。今ではインターネット放送もはじめました。間もなくオンライン新聞の発行をはじめたいと思いますので、<http://www.> に慣れてください。学生との連絡に Eメールも利用しています。

1996 年秋に新聞研究所は記念式典を実施し、その際に新しい名称を与え新たなスタートを切りました。基本的な研究所の研究生教育とメディア・コミュニケーション研究は変わりませんが、新たなる名称のもとに生まれ変わった研究所の次の 50 年の発展が大変期待されます。現在のスタッフは所長、専任および兼任所員、事務職員総勢でも 10 名に満たない小さな研究所ですが、非常勤講師の諸先生のご協力を得て研究生 150 名 (2~4 年生) の教育を行いつつ、新たなる研究に邁進する決意をしております。本年入所される研究生を含め現在の研究生は、新たなる歴史を刻む当事者となります。再出発にふさわしい成果を生むために大いに頑張ってください。

なお、メディア・コミュニケーション研究所の名称は長いので、通常は「メディアコム」と呼ばれます。

◇カリキュラム

1. 設置科目について

研究所には、基礎科目、研究会、特殊研究、基礎演習の 4 つの講義群がある。

このうち、基礎科目は研究生以外 (2 年生以上) でも履修可能なオープン科目となっている。但し、2 年生以上で、三田設置科目を含めて履修可能であるが、学部によっては履修できない場合もあるので、学部履修要項等で確認すること。また、学部での単位の取扱いは、学部履修要項を熟読すること。

- ・基礎科目（オープン科目）
メディア・コミュニケーション研究に必要な基礎的知識を提供する講義群。
- ・研究会（研究生のみ対象）
研究所における学習の中心となる科目で、2年生より履修できる。
- ・特殊研究（研究生のみ対象）
少人数の講義で、実務家を中心とした特殊講義と大学教員による特殊研究がある。
- ・基礎演習（研究生のみ対象）
メディア・コミュニケーション関連分野の調査方法の学習を目的とした講義群。

2. 研究生制度

研究所には研究生制度がある。研究生制度は、メディア・コミュニケーションの研究、あるいは将来マス・メディアへの就職を希望するものに総合的な教育を行い、同時に研究の場を与えるために設けられている。

例年12月中旬に行われる入所選考に合格し、研究生となることを許可された者は、修了までに合計28単位以上取得しなければならない。所定の単位を取得した研究生には修了証書が与えられる。各学部の授業科目で研究所が認めたものは修了単位に含めることができるが、それでも一般の塾生より余分な科目を履修しなければならず、それだけ余力のあることが入所の条件といえる。

- (1) 入所説明会（入所申込書配布）11月中旬三田，日吉，藤沢の各キャンパスで行う。これについては掲示する。
- (2) 入所試験（選考）12月中旬三田で行う。

3. 修了単位について

研究生が研究所の課程を修了するためには、以下の各群から所定の単位を合計28単位以上取得しなければならない。

- ・基礎科目 10 単位以上
- ・研究会 8 単位以上※
- ・特殊研究 4 単位以上
- ・基礎演習 2 単位以上
- 合 計 28 単位以上

※ 2～4年春学期までに研究会Ⅰ～Ⅴを順番に履修し6単位以上取得する。4年秋学期には必ず研究会Ⅵ（論文指導）を履修すること。すなわち、研究会Ⅰ～Ⅲと研究会Ⅵは全員が履修するが、研究会ⅣとⅤは必修ではない。

3～4年では原則として同一研究会を履修すること。

平成17年度慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所科目一覧

*基礎科目（オープン科目）研究生以外も履修可能

設置場所	科目名	単位数	講師
三田設置科目	マス・コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2/秋2	大石 裕
三田設置科目	マス・コミュニケーション発達史Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2/秋2	大井 眞二
三田設置科目	国際コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2/秋2	伊藤 英一
三田設置科目	メディア社会論Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2/秋2	北田 暁大
三田設置科目	メディア法制Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	林 紘一郎
三田設置科目	ジャーナリズム論Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	伊藤 高史
三田設置科目	世論Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	小川 恒夫
三田設置科目	情報行動論Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	福田 充
三田設置科目	異文化間コミュニケーション	秋2	浅井亜紀子
三田設置科目	メディア文化論Ⅰ	春2	寫 信彦
三田設置科目	メディア文化論Ⅱ	秋2	白水 繁彦
三田設置科目	メディア産業と政策Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	菅谷 実
三田設置科目	情報産業論Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	宿南達志郎
三田設置科目	★ジャーナリズム総合講座Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	木下和寛・伊藤高史
日吉設置科目	マス・コミュニケーション論Ⅰ（法学部併設）	春2	川端 美樹
日吉設置科目	社会心理学Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2/秋2	萩原 滋

* 研究会（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	萩原 滋
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	菅谷 実
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	宿南達志郎
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	金山 智子
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	伊藤 高史
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	伊藤 陽一
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春2/秋2	大石 裕

* 特殊研究（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	放送特殊講義Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	安倍 宏行
三田設置科目	新聞特殊講義Ⅰ	春2	藤森 研
三田設置科目	新聞特殊講義Ⅱ	秋2	河原 理子
三田設置科目	広告特殊講義Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	吉田 望
三田設置科目	メディア特殊講義Ⅰ	春2	境 真良
三田設置科目	メディア特殊講義Ⅱ	秋2	寫 信彦
三田設置科目	特殊研究Ⅰ・Ⅱ（日本の近代化とマス・メディア）	春2/秋2	小川 浩一
三田設置科目	特殊研究Ⅲ・Ⅳ（メディアのグローバル化と文化市民権）	春2/秋2	岩渕 功一
三田設置科目	メディア産業実習Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	宿南達志郎・伊藤高史
三田設置科目	メディア産業実習Ⅲ・Ⅳ	春2/秋2	金山智子・菅谷実

* 基礎演習（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	時事英語Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	小林 雅一
三田設置科目	文章作法Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	升野 龍男
三田設置科目	メディア・コミュニケーション実習Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	金山 智子
日吉設置科目	電子ネットワーク調査法Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	金山 智子
日吉設置科目	映像コンテンツ制作Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	金山 勉
日吉設置科目	時事英語Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	小林 雅一
日吉設置科目	文章作法Ⅰ・Ⅱ	春2/秋2	栗田 亘

★印は朝日新聞寄付講座

【基礎科目】

マス・コミュニケーション論Ⅰ（春学期） 大石 裕

マス・コミュニケーションと政治

授業科目の内容：

本講義は、マス・コミュニケーションと政治をめぐる諸問題について講義する。基本的な概念や理論・モデルの説明が中心となるが、具体的事例に言及しながら講義を進めることにしたい。その際、ニュースの政治的機能が中心となる。

テキスト：

- ・大石裕『コミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会
- ・大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣

参考書：

- ・マッコームズほか『ニュース・メディアと世論』関西大学出版部
- ・ニューマン『マス・オーディエンスの将来像』学文社

授業の計画：

- | | |
|--------|--------------|
| 1回 | コミュニケーションとは |
| 2回 | コミュニケーションの種類 |
| 3-4回 | 大衆社会モデル |
| 5-6回 | 限定効果モデル |
| 7-8回 | 強力効果モデル |
| 9-10回 | 批判モデル |
| 11-12回 | ジャーナリズム論再考 |

履修者へのコメント：

時事問題、とくにジャーナリズムにかかわる問題に関して、随時解説を行うので、受講者は新聞・テレビにつねに問題意識をもって接していることが望ましい。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価。
- ・レポートによる評価。

マス・コミュニケーション論Ⅱ（秋学期） 大石 裕

ジャーナリズムとメディア言説

授業科目の内容：

①ジャーナリズムに関する理論的考察（ニュース論や客観報道論など）、②言説分析によるニュース分析、③メディア・イベントとメディア言説、に関して講義する。

テキスト：

- ・大石裕『ジャーナリズムとメディア言説』（勁草書房：近刊）

参考書：

- ・大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣
- ・鶴木真編『客観報道』成文堂
- ・小川浩一編『マス・コミュニケーションへの接近』八千代出版

授業の計画：

- | | |
|--------|--------------------------|
| 1-2回 | マス・コミュニケーション論の中のジャーナリズム論 |
| 3回 | アジェンダ設定とメディアとしての新聞 |
| 4回 | 日本のジャーナリズム論の理想的課題 |
| 5-6回 | ニュース分析の視点 |
| 7-8回 | 客観報道論再考 |
| 9-10回 | 集合的記憶とマス・メディア |
| 11-12回 | メディア・イベントの政治学 |

履修者へのコメント：

時事問題、とくにジャーナリズムにかかわる問題に関して、随時解説を行うので、受講者は新聞・テレビにつねに問題意識をもって接することが望ましい。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価。

マス・コミュニケーション発達史Ⅰ（春学期） 大井 眞 二

近代化の位相とマス・コミュニケーション

授業科目の内容：

- 日本の近代化を縦軸にし、マス・メディア空間を横軸にして、日本

の近代史をメディア史のパースペクティブから振り返ってみたい。

近代社会という固有の空間に誕生した最初のマス・メディアである新聞は、近代化の過程と密接に絡み合いながらその姿を変えてきた。本講では、幕末維新期から第一次世界大戦までを射程に置いて、日本の近代政治史に「変化のエージェントとしてのメディア」（エイゼンシュテイン）がどのように関わったのかを考察する。

テキスト：

- 特に指定しない。
- 適宜資料を配布する。

参考書：

- 大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』（近刊）、世界思想社、2004年

授業の計画：

- 以下の項目に関して、講義数にして2-3回を割いて講述する。（ ）内はキーワード。授業の展開上、多少の変更もありうる。

- 近代メディア空間
（瓦版、ニュースシート、福沢諭吉の新聞観など）
- 明治初期の言語政策：奨励策
（御用新聞、買い上げ政策、新聞縦覧所など）
- 民権運動と言語政策の転換
（新聞紙条例、讒謗律など）
- 独立紙の位相
（時事新報、国民、日本など）
- 大衆紙の成立と日本的ジャーナリズム
（報道新聞、万朝報、二六新報など）

履修者へのコメント：

- 日本の近代史のある程度の知識が必要となるので、留意されたい。

成績評価方法：

- 学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価。

質問・相談：

- 授業終了後に受け付ける。

マス・コミュニケーション発達史Ⅱ（秋学期） 大井 眞 二

デモクラシーとマス・メディア

授業科目の内容：

日本のマス・メディアに与えた大きな影響の視点から、米国のメディア史を取り上げたい。

これには日本のメディア史を相対化する意図が込められている。米国のメディアとりわけ新聞は、建国期からデモクラシーにおける役割が重視されてきた。あるいはデモクラシーの制度的前提であったといってもいい。この考え方は、基本的に今日においても変わることがない。このことの意味を考えてみたい。

テキスト：

- 講義の際に指示する。

参考書：

- 大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』（近刊）、世界思想社

授業の計画：

- 以下の項目に関して、講義数にして2-3回を割いて講述する。（ ）内はキーワード。授業の展開上、多少の変更もありうる。

- 帝国と植民地
（コミュニケーションの機能、言論空間など）
- 国家建設とメディア
（憲法修正第一条、建国の父たちのメディア論など）
- 政党紙と大衆紙
（フェデラリスツ、リパブリカンズ、ベニープレスなど）
- 公共圏とメディア
（ハーバーマス、市民社会、パブリックサービスなど）
- 革新主義のジャーナリズム論
（革新主義、マックレーキング、プロフェッショナルリズムなど）

履修者へのコメント：

- マス・コミュニケーション発達史Ⅰ（春学期）の履修。

成績評価方法：

- 学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価。

質問・相談：

授業終了後に受け付ける。

国際コミュニケーション論 I (春学期) 伊藤 英一

グローバル化とメディア

授業科目の内容：

自分自身との対話、友達や家族との会話、といったコミュニケーションでも、もどかしく感じることはありませんか？コミュニケーションの重要性を切実に感じているにしても、円滑なコミュニケーションは至難の業です。ましてや、「文化や言語の異なる人々とのコミュニケーションなんて」と、一歩後退したくなるかも知れません。

しかし、山頂から見晴るかす眺望が麓から見た景色とは違うように、視点をかえてこそ理解できることもあるのではないのでしょうか。

この講義では、あたかも、『星』になった諸君が、丸い地球から見下ろしながら、その地球を巡るコミュニケーションを考察できるような場を提供します。

テキスト：

必要な資料は、その都度、配布・案内します。

参考書：

- ・福沢諭吉；『西洋事情』（慶應義塾大学出版会）
- ・伊藤英一；『マルチメディアの新世紀』（丸善）

授業の計画：

- (1) 地球と世界地図
- (2) 国際コミュニケーション論の理論的傾向
- (3) グローバル化とメディア／コミュニケーション
- (4) フランス革命と情報インフラ
- (5) 大英帝国と情報通信
- (6) ロスチャイルドの築くネットワーク
- (7) ロイター通信の創業からサバイバルまで
- (8) 福沢諭吉の『伝信』事情から、日本海海戦まで（2005年5月27日海戦100周年）
- (9) アパ通信 vs. ロイター通信
- (10) ヴェネチア映画祭 vs. カンヌ映画祭
- (11) バルム・ドール vs. オスカー賞
- (12) CNN vs. Al Jazeera
- (13) コミュニケーションの本質

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価。

質問・相談：

講義中は、タイミングの如何にかかわらず、積極的な質問や意見を歓迎します。

また、講義時間外においては、メール等により、適宜、質問や相談を寄せて下さい。

国際コミュニケーション論 II (秋学期) 伊藤 英一

国境を越えるコミュニケーション

授業科目の内容：

21世紀はグローバル化、情報化の時代であるとも言われます。同時に、国境を越えた地球規模のコミュニケーションの重要性も指摘されています。

しかし、メディアの高度化・迅速化が、必ずしもコミュニケーションの精度や密度を高める方向に働いているとも言いきれません。

国際コミュニケーションの多様な担い手をケース・スタディの題材として取り上げながら、多彩に展開される情報戦略の妙を、諸君と共に、探ってみます。

テキスト：

その都度、配布します。

参考書：

福沢諭吉；『文明論之概略』（慶應義塾大学出版会）

授業の計画：

- (1) メディアとコミュニケーション
- (2) 国際コミュニケーション論と6つの潮流
- (3) 福沢諭吉の文明論とメディア・コミュニケーション

- (4) ルパート・マードックのメディア・ビジネス観
- (5) “Trust me, I’m British” — BBCの信頼性
- (6) カナダのバランス感覚
- (7) 米国とグローバル・×××××
- (8) フランスのコミュニケーション戦略
- (9) CNN vs. Fox
- (10) 米国と中近東のメディア地図
- (11) ハリウッド vs. アジア — 映画産業
- (12) 情報の流れに抗して — GPS vs. ガリレオ計画
- (13) 国際コミュニケーションを俯瞰する。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価。

質問・相談：

講義中は、タイミングの如何にかかわらず、積極的な質問や意見を歓迎します。

また、講義時間外においては、メール等により、適宜、質問や相談を寄せて下さい。

メディア社会論 I (春学期) 北田 暁大

授業科目の内容：

1970年代以降の若者文化・サブカルチャーとメディアとの関係史を考察する。

併せて社会システム理論、コミュニケーション理論についても概説する。

サブカルチャーとメディア文化の関わりに関係する限りで、20世紀初頭のメディア環境（映画、電話など）にも論及する予定。

テキスト：

・北田暁大『嗤う日本のナショナリズム』（仮題）NHK出版、近刊
・同『〈意味〉への抗い』せりか書房、2004年

授業の計画：

- (1) ガイダンス、序
- (2) メディア文化と若者文化の現在（3回）
- (3) 70年代と「メディアの思想」（3回）
- (4) メディアアイロニズムの生成 — 80年代とテレビ（3回）
- (5) 「メディア論」の視座 — マクルーハンからキットラーへ（3回）

成績評価方法：

試験の結果による評価。

質問・相談：

gyodaikitada@hotmail.com まで

メディア社会論 II (秋学期) 北田 暁大

授業科目の内容：

1980年代～現在に至る若者文化・サブカルチャーの変容とメディア文化変容の関係史を考察する。併せて社会システム理論、コミュニケーション理論についても概説する。

サブカルチャー／メディア文化の関わりに関係する限りで、20世紀初頭のメディア環境にも論及する予定。

テキスト：

・北田暁大『嗤う日本のナショナリズム』（仮題）NHK出版、近刊
・同『〈意味〉への抗い』せりか書房、2004年

授業の計画：

- (1) ガイダンス、序
- (2) アイロニズムの変容 80年代から90年代へ (3回)
- (3) インターネットの政治社会学 (3回)
- (4) メディアとしての都市空間 「渋谷」と「秋葉原」 (3回)
- (5) 「メディア論」の射程 (3回)

履修者へのコメント：

「メディア社会論 I」と併せて受講して欲しい。

成績評価方法：

試験の結果による評価。

質問・相談：

gyodaikitada@hotmail.com まで

情報の発信・受信の自由と規律

授業科目の内容:

本講義は、2001年度まで長期間にわたって「マス・コミュニケーション法制 I・II」として実施されてきた講義を基礎としつつ、2002年度からパーソナル・コミュニケーションも取り込んで、「メディア法制 I・II」として再出発したものであり、インターネットも視野に入れている。法学の講義であるが、全学オープン科目であり、必ずしも法律学の履修を前提にしない。ただし、IIを履修するためには、事前にIを履修することが望ましい。

テキスト:

林紘一郎『情報メディア法』(東大出版会、近刊)を予定

参考書:

松井茂記『マス・メディア法入門(第2版)』日本評論社、1998年

授業の計画:

- (1) イントロダクション (1回)
- (2) メディア関連法の体系と系譜 (計2回)
- (3) 言論の自由、思想の市場、二重の基準論など (計2回)
- (4) 名誉毀損、プライバシー侵害、著作権侵害、猥褻情報など (計4回)
- (5) 情報公開、アクセス権、マスメディアの特権など (計4回)

履修者へのコメント:

メディア・コミュニケーション研究所の研究生に限らず、テーマに関心のある諸君の受講を歓迎する。

成績評価方法:

レポート及び平常点

質問・相談:

hayashi@iisec.ac.jp まで

情報の発信・受信の自由と規律

授業科目の内容:

本講義は、2001年度まで長期間にわたって「マスコミュニケーション法制 I・II」として実施されてきた講義を基礎としつつ、2002年度からパーソナルコミュニケーションも取り込んで、「メディア法制 I・II」として再出発したものであり、インターネットも視野に入れている。法学の講義であるが、全学オープン科目であり、必ずしも法律学の履修を前提にしない。ただし、IIを履修するためには、事前にIを履修することが望ましい。

テキスト:

林紘一郎『情報メディア法』(東大出版会、近刊)を予定

参考書:

松井茂記『マス・メディア法入門(第2版)』日本評論社、1998年

授業の計画:

- (1) 情報メディア基本法 (1回)
- (2) 資源配分規律法 (2回)
- (3) 設備・サービス規律法 (計3回)
- (4) コンテンツ規律法 (1回)
- (5) 事業主体法・規制機関法・産業支援法 (合わせて1回)
- (6) デジタル環境整備法 (1回)
- (7) ケーススタディ (計3回)
- (8) 解釈論と立法論 (1回)

履修者へのコメント:

メディア・コミュニケーション研究所の研究生に限らず、テーマに関心のある諸君の受講を歓迎する。

成績評価方法:

レポート及び平常点

質問・相談:

hayashi@iisec.ac.jp まで

記事作成の論理と実習

授業科目の内容:

メディアリテラシーを高めるため、記事に求められる倫理や、新聞記事や雑誌記事の構造などについて、記事の模擬執筆の実習を行いつつ講義する。実習を授業に盛り込むため、遅刻は認めない。

なお、本授業は、昨年度に日吉で行ったメディア・コミュニケーション論(後期)と重複する部分があるので、履修の際は注意されたい。

テキスト:

花田達朗ニューズラボ研究会『実践ジャーナリスト養成講座』(平凡社、2004年、2,200円)

参考書:

澤田昭夫『論文の書き方』(講談社、1977年、480円)

授業の計画:

- (1) オリエンテーション
- (2) 記者の倫理 (計2回)
- (3) ストレートニュース記事の形式について (計4回)
- (4) 誤報とニュースソースの問題について (計3回)
- (5) 情報公開制度 (計2回)
- (6) まとめ

履修者へのコメント:

実習を授業に盛り込むため、遅刻は認めない。なお、本授業は、昨年度に日吉で行ったメディア・コミュニケーション論(後期)と重複する部分があるので、履修の際は注意されたい。

成績評価方法:

成績は平常点で評価し、期末試験は実施しない予定。

表現の自由と社会理論

授業科目の内容:

ジャーナリズム論 Iの内容をふまえて、ジャーナリズムを理論的、法律的に考える。講義形式での授業を考えているが、随時、作業をしてもらいながら理解を深めてもらうつもりである。そのため、遅刻は認めない。成績は平常点でつける予定だが、出席者の人数によって変更する可能性がある。

参考書:

山田健太『法とジャーナリズム』(学陽書房、2004年、3,000円)

授業の計画:

- (1) オリエンテーション
- (2) マスメディア産業概論 (計4回)
- (3) 社会理論とジャーナリズム (計2回)
- (4) ジャーナリズムの法律的問題 (計5回)
- (5) まとめ

履修者へのコメント:

実習を授業に盛り込むため、遅刻は認めない。

成績評価方法:

成績は平常点で評価し、期末試験は実施しない予定。

世論の機能と形成メカニズム

授業科目の内容:

現在民主主義社会において世論に期待される役割と阻害要因を考察しながら、マスコミ報道によって世論がどのように操作的に形成される可能性があるかをマスコミ効果論の立場から理論的に把握できるようにします。

テキスト:

小川浩一編著『マス・コミュニケーションへの接近』八千代出版/2005年/2,700円

参考書:

使用しません/随時授業内で資料を提示します。

授業の計画：

- (1) ガイダンス
- (2) 理念的世論と現実的世論
- (3) 歴史的事件において世論の果たした役割を概観する
- (4) 世論形成の垂直的影響（マスコミ）と水平的影響（口コミ）
- (5) 受け手は主体的に世論を形成するという見方
- (6) 受け手は常に操作的に世論を形成するという見方
- (7) 受け手は主体的にも操作的にも世論を形成するという見方
- (8) 受け手の置かれた社会状況と世論形成
- (9) 広告論からみた世論形成
- (10) 学習・教育論からみた世論形成
- (11) 情報処理過程モデルからみた世論形成
- (12) マスメディアの社会的責任と世論
- (13) 全体のまとめと残された課題

履修者へのコメント：

特に、政治学の視点からマスメディアの機能について関心がある学生の履修を希望します。授業には「教科書」を持参してください。

成績評価方法：

学期末試験の結果による。

質問・相談：

授業終了後に受け付けます。

世論Ⅱ（秋学期）	小川恒夫
----------	------

世論形成の現状と対策を具体的事例から考える

授業科目の内容：

20世紀後半から近年に至る具体的事例から、①どのような性格が争点か、②誰によって、③どのような統制メカニズムが利用されてマスメディアが操作され、④なぜ多くの有権者がそれを信じて世論を形成し、⑤どのような社会的問題が発生し、⑥それに対する対策の可能性、を順次一連の課題として見ていきます。この作業を通じて、理念的世論と現実的世論との間の距離を考えます。

テキスト：

使用しません。

参考書：

小川浩一編著『マス・コミュニケーションへの接近』八千代出版／2005年／2,700円

授業の計画：

- (14) ガイダンス
- (15) 戦争報道と世論
- (16) 犯罪報道と世論
- (17) 科学報道と世論
- (18) 経済報道と世論
- (19) 海外報道と世論
- (20) 民族間報道と世論
- (21) 政治報道と世論
- (22) 法的規制の危険性と可能性
- (23) ジャーナリスト教育と、メディアリテラシー教育の可能性
- (24) オンブズマン制度の可能性
- (25) 残された課題
- (26) 全体のまとめ（質問受付）

履修者へのコメント：

特に、政治学の視点からマスメディアの機能について関心がある学生の履修を希望します。

成績評価方法：

学期末試験の結果による評価。

質問・相談：

授業終了時に受け付けます。

情報行動論Ⅰ（春学期）	福田充
-------------	-----

情報行動の基礎理論とメディア利用の諸問題

授業科目の内容：

高度情報化社会に生きる現代人は、情報とメディアに囲まれた日常に生きている。現代社会における情報環境のあり方、情報行動の変容

に関して、具体的なメディア利用の現象を社会的、社会心理学的なアプローチから理論的に考察する。情報行動論の基礎論である。

テキスト：

特に指定なし。講義資料プリントを配布する。

参考書：

- ・東京大学社会情報研究所編『日本人の情報行動2000』東京大学出版会
- ・萩原滋編『変容するメディアとニュース報道』丸善株式会社

授業の計画：

以下のような計画に沿って講義を進める。

- (1) ガイダンス：情報行動とは何か
- (2) 情報行動論の理論と思想
- (3) 社会調査から見える情報行動
- (4) 情報リテラシーとメディアリテラシー
- (5) 現代の情報環境・環境化する情報
- (6) 職場の情報行動と家庭の情報行動
- (7) メディアと情報行動：①映像メディア
- (8) メディアと情報行動：②音声メディア
- (9) メディアと情報行動：③活字メディア
- (10) メディアと情報行動：④通信メディア
- (11) メディアと情報行動：⑤ゲームメディア
- (12) 情報行動の変容と人間心理
- (13) 情報行動の理論的総括

履修者へのコメント：

自分自身の日常生活を対象化しながら情報行動の問題を理論的、思想的にとらえ直そう。現代的な情報行動の問題に意識的である学生の参加を期待する。「情報行動Ⅰ」と「Ⅱ」の両方を履修することが望ましいが、どちらか一方のみの履修でも可である。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）。
- ・学期末レポートによる評価。

質問・相談：

講義前後の教室・職員室で質問・相談を受け付けます。メールでも可。

情報行動論Ⅱ（秋学期）	福田充
-------------	-----

ユビキタス社会における情報行動の変容

授業科目の内容：

現代のメディア環境、情報環境の変容は、私たちの日常生活における情報行動に対してどのような影響を与えているのだろうか。情報行動に関する最新の問題群をトピックごとに考察しながら、変容する現代の情報行動の特質を解明する。情報行動論の応用編である。

テキスト：

特に指定なし。講義資料プリントを配布する。

参考書：

- ・東京大学社会情報研究所編『日本人の情報行動2000』東京大学出版会
- ・萩原滋編『変容するメディアとニュース報道』丸善株式会社

授業の計画：

以下のような計画に沿って講義を進める。

- (1) ガイダンス：現代の情報行動の特性とは
- (2) デジタル化がもたらす情報行動の変容
- (3) 多チャンネル化とチャンネルレポートリー
- (4) ネットワーク・コミュニティにおける情報行動
- (5) CMCの諸問題
- (6) バーチャル・リアリティと情報行動
- (7) モバイルコミュニケーション
- (8) 同時並行的情報行動（ながら利用とダブルスクリーン）
- (9) ユビキタス社会と情報行動
- (10) GISとハイパー監視社会
- (11) デジタル・ディバイドがもたらす諸問題
- (12) ロボティクスと情報行動
- (13) 情報行動とは何か

履修者へのコメント：

自分自身の日常生活を対象化しながら情報行動の問題を理論的、思

想的にとらえ直そう。現代的な情報行動の問題に意識的である学生の参加を期待する。「情報行動論Ⅰ」と「Ⅱ」の両方を履修することが望ましいが、どちらか一方のみの履修でも可である。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）。
- ・学期末レポートによる評価。

質問・相談：

講義前後の教室・職員室で質問・相談を受け付けます。メールでも可。

異文化間コミュニケーション（秋学期） 浅井 亜紀子

授業科目の内容：

異文化との出会いにより、個人は異なる文化的様式（価値観や行動パターン）に接し、それを取り込んだり抵抗しながら自分を新しく作っていく。本授業では、異なる文化における様々なコミュニケーションスタイルの違いに目を向け、そのような異文化に接した時に、どのように心理や行動が変化していくか、異文化接触の具体事例を通して学ぶ。

参考書：

- 箕裏康子『子供の異文化体験』思索社
- その他 授業中に指示。

授業の計画：

- (1) 授業内容説明、異文化間コミュニケーションの背景、文化の定義
- (2) コミュニケーションの定義
- (3) 認知と文化（計2回）
- (4) イメージとステレオタイプ（計2回）
- (5) 言語コミュニケーション（計2回）
- (6) 非言語コミュニケーション（計2回）
- (7) 異文化適応（計3回）

履修者へのコメント：

海外経験に関心のある学生、異文化における人間関係に関心のある学生を歓迎します。

15分以上の遅刻は欠席とします。

成績評価方法：

- 授業出席・参加度 30%（3分の1以上の欠席者には単位を出さない）
- 小レポート類 30%
- 期末テスト 40%

メディア文化論Ⅰ（春学期） 高 信彦

授業科目の内容：

テレビ、新聞、ラジオなど各種メディアの相違と影響力を具体的事例で検証し、毎週発生するニュースについて情報の読み解き方を講義。ジャーナリズム40年の体験に基づき、学生たちに構想力、考える力をつけてもらう。

テキスト：

講義資料プリントを配布。

参考書：

- 高信彦『ニュースキャスターたちの24時間』（講談社α文庫）ほか

授業の計画：

- 各種メディアの特質とその影響（テレビ、新聞等）を直近の事例から具体的に検証
- メディア報道の変質と政治的社会的影響
- テレビ、新聞、ラジオ制作等の舞台裏とその体験論
- メディア・リテラシーの重要性
- 情報の読み方と自らの構想力、表現力の向上訓練
- 海外メディアの情報戦略競争
- <http://www.mainichi.co.jp/eye/shima/> を参照
- 主な講義内容
テレビ報道史、メディアの表現法、21Cのメディア、鳥の目と虫の目、情報の分析法、情報収集法、現場主義の意味、世論の作られ方、歴史の定点観測と時代の読み方、文化的視点、自分軸の持ち方、権力・人権問題との距離のとり方—ほか

履修者へのコメント：

情報の読み解き方を通じて「考える力」をもちたい学生を期待。自己表現力を高めるための意見表明や小感想文を提出。遅刻、授業中の私語、携帯電話の使用を認めず。

成績評価方法：

毎回の授業課題について提出する小感想文（200～400字程度）と授業内試験により評価。

質問・相談：

メディアの制作現場の視察などに応ずる。

メディア文化論Ⅱ（秋学期） 白水 繁彦

メディアのイメージ形成力：モノ、観光地、集団のイメージ形成

授業科目の内容：

この授業では実際の映画や番組、広告、広報ビデオを分析しながら送り手の意図を読み解き、送り手にとっても受け手にとっても重要なメディアリテラシーの能力を高めます。

テキスト：

なし（パワーポイントなどで画像、テキストなどを提示します。）

参考書：

授業中に指示します。

授業の計画：

- 第1回 メディアの機能、擬似環境についての理論
- 第2回 同上
- 第3回 ハワイの観光地イメージの形成とメディア、観光産業（～第4回）
- 第5回 広告とイメージ形成 広告の理論
- 第6回 広告とイメージ形成 説得的コミュニケーションの理論
- 第7回 感性に訴える広告の手法とその分析法
- 第8回 ワークショップ（実際の広告を見ながら分析してみる）
- 第9回 各自の分析の報告
- 第10回 受け手の分析 マーケットのとりえ方
- 第11回 広報の手法
- 第12回 広報の分析
- 第13回 まとめ

履修者へのコメント：

画像を用いたり、実例を提示するわかりやすい授業を心がけますが、毎回出席しないとわからなくなります。学生と質疑のできる双方向の授業にしたいと思います。ですから参加意識の高いかたに受講して頂きたいと思います。

成績評価方法：

基本的に、何回か書いてもらうレポートや授業中の小作文をもとに評価します。

質問・相談：

授業の後や e-mail で受け付けます。

メディア産業と政策Ⅰ（春学期） 菅谷 実

映像コンテンツ産業論

授業科目の内容：

前半は映像コンテンツ産業を理解するために必要な基礎理論。後半は同産業の歴史および各国の映画産業構造、振興策などの比較検討をおこなう。

テキスト：

菅谷実・中村清編『映像コンテンツ産業論』丸善、2002年

授業の計画：

- オリエンテーション (1)
- I 基礎理論 (5)
 - (1) ネットワーク理論
 - (2) ウィンドウ戦略
 - (3) メディア融合
- II 映像コンテンツ産業 (6)
 - (4) 映像コンテンツと映画
 - (5) 映画産業の発展
 - (6) 映像振興政策（欧州、米国、日本）

Ⅲ まとめ (1)

(7) メディア融合とコンテンツ

履修者へのコメント：

コンテンツ産業に興味のある学生の履修を歓迎します。

成績評価方法：

基礎理論部分の小テストと期末試験で評価する。

メディア産業と政策Ⅱ (秋学期)

菅谷 実

メディアの融合と制度変容

授業科目の内容：

前半は、ネットワーク産業の基礎理論と電子メディア産業の生成を紹介する。後半は、ネットワーク技術の変容が制度と産業構造に与えてきた影響を米国、日本などの具体的事例から学ぶ。

参考書：

菅谷実『アメリカのメディア産業政策』中央経済社、1997年

授業の計画：

オリエンテーション (1)

I 総論 (4)

- (1) ネットワーク理論
- (2) 電子メディア産業の生成

II 各論 (7)

- (3) 放送政策理念、ローカリズム原則とあまねく原則
- (4) 通信政策におけるユニバーサル・サービス
- (5) 放送内容規制
- (6) ケーブル・テレビ産業の発展と社会的ステータス
- (7) インターネット・ガバナンス
- (8) メディア融合
- (9) デジタル・コンテンツ

Ⅲ まとめ (1)

履修者へのコメント：

メディアの産業構造、制度に興味ある学生の履修を歓迎します。

成績評価方法：

期末テスト。

情報産業論Ⅰ (春学期)

宿南 達志郎

メディア産業概論

授業科目の内容：

メディア産業について、産業、企業、利用者などの観点から、これまでの発展の経緯と今後の課題などについて概要を学びます。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

・電通総研編『情報メディア白書2004』ダイヤモンド社、2004年
・総務省編『情報通信白書 平成16年度』ぎょうせい、2004年

授業の計画：

- (1) オリエンテーション (1回)
- (2) メディア産業の歴史 (2回)
- (3) 各産業分野の現状と将来
 - コンピュータ業界 (2回)
 - 通信業界 (2回)
 - 放送業界 (2回)
 - 新聞業界 (1回)
 - 出版業界 (1回)
 - 音楽業界 (1回)
- (4) まとめ (1回)

履修者へのコメント：

メディア産業に関心のある学生を歓迎します。

成績評価方法：

出席とレポートにより評価します。

質問・相談：

いつでも研究室にお越し下さい。

情報産業論Ⅱ (秋学期)

宿南 達志郎

インターネットビジネス論

授業科目の内容：

インターネットが伝統的ビジネスにどのような影響を与えてきたか、インターネットによる新たなビジネスモデルはどのように発展しているかを学びます。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

- ・(財)インターネット協会(編著)『インターネット白書2004』インプレス、2004年
- ・加藤秀雄『ネットワーク経営情報システム—インターネット・ビジネスモデル』共立出版、2004年
- ・宿南達志郎『eエコノミー入門』PHP研究所、2000年

授業の計画：

- (1) オリエンテーション (1回)
- (2) インターネットの歴史 (2回)
- (3) インターネットによるビジネスモデルの変化 (3回)
 - 金融業界
 - 流通業界
 - 旅行業界
- (4) インターネットビジネスの企業研究 (7回)
 - Amazon
 - Yahoo
 - eBay
 - Dell
 - 楽天
 - 松井証券
 - アスクル
- (5) まとめ (1回)

履修者へのコメント：

インターネットビジネスによる起業あるいは就職を考えている人を歓迎します。

成績評価方法：

出席とレポートにより評価します。

質問・相談：

いつでも研究室にお越し下さい。

ジャーナリズム総合講座Ⅰ (春学期)

木下 和寛

伊藤 高史

朝日新聞寄付講座

授業科目の内容：

本講座は、朝日新聞の様々な部署で活躍されている方々をお招きし、ジャーナリズムと新聞産業に関わる諸問題、およびその時々の政治・社会・経済問題などについて講義していただく。

授業の計画：

朝日新聞の記者をはじめとした様々な分野の方々が、約1時間程度講義し、その後質疑応答を行う。そのうち数回は伊藤が担当する。講師やテーマなど授業計画の詳細は、第1回目の授業の際に発表する。

なお、平成16年度前期の授業概要は以下のとおり。

- (1) オリエンテーション
- (2) 新聞業界とは何か
- (3) 必要とされる人材と育成について
- (4) 文章作法
- (5) 社論の形成
- (6) 現場からの報告
- (7) 政治記者の仕事
- (8) テーマ解説「私の外務省論」
- (9) 社会部記者の仕事
- (10) テーマ解説「報道と人権」
- (11) 国際報道の仕事
- (12) テーマ解説「私のアメリカ論」

(13) 調査報道の原点

履修者へのコメント：

出席者は、よく新聞を読み、積極的に質問することのほか、頻繁にレポート等の課題が課されることを覚悟すること。また当然であるが、外部から招いた講師に講義をしていただくため、私語や遅刻など、講師の方々に対して失礼な行為は一切認めない。

成績評価方法：

平常点とレポート。

ジャーナリズム総合講座 II (秋学期)

木下和寛
伊藤高史

朝日新聞寄付講座

授業科目の内容：

本講座は、朝日新聞の様々な部署で活躍されているの方々をお招きし、ジャーナリズムと新聞産業に関わる諸問題、およびその時々の政治・社会・経済問題などについて講義していただく。

授業の計画：

朝日新聞の記者をはじめとした様々な分野の方々が、約1時間程度講義し、その後質疑応答を行う。そのうち数回は伊藤が担当する。講師やテーマなど授業計画の詳細は、第1回目の授業の際に発表する。なお、平成16年度後期の授業概要は以下のとおり。

- (1) リポート講評
- (2) 経済部記者の仕事
- (3) テーマ解説「私の日本経済論」
- (4) 科学記者の仕事
- (5) 新しいメディアの開発
- (6) 新聞とテレビ
- (7) スポーツ記者の仕事
- (8) 整理部記者の仕事
- (9) 雑誌作りの仕事・知識人論
- (10) 校閲記者の仕事
- (11) 映像部記者の仕事
- (12) 自由討論・レポート提出

履修者へのコメント：

出席者は、よく新聞を読み積極的に質問することのほか、頻繁にレポート等の課題が課されることを覚悟すること。また当然であるが、外部から招いた講師に講義をしていただくため、私語や遅刻など、講師の方々に対して失礼な行為は一切認めない。

成績評価方法：

平常点とレポート。

マス・コミュニケーション論 I (春学期) (日吉)

川端美樹

マス・コミュニケーションと社会

授業科目の内容：

現在われわれの日常生活に深く関わっているマスメディアがどのようにして誕生し、発達してきたのか。また、社会にどのような影響を与え、その中でどのように機能してきたのか。さらに、マス・コミュニケーションは人間の社会的行動や心理にどのような影響を与えているのか。

本講義の目的は、以上のようなトピックについて学び、理解した上で現在の自分を取り巻く現状を見直し、マス・コミュニケーションをめぐる状況について客観的・批判的に考え、分析することである。

テキスト：

大石裕『コミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会

参考書：

授業時に必要に応じて指示する。

授業の計画：

以下のような内容で授業を進めていく予定である。

- (1) マス・コミュニケーションの基礎的諸概念
- (2) マス・コミュニケーションの発達と社会
- (3) マス・コミュニケーションとその影響

履修者へのコメント：

講義で取り上げる内容について興味を持ち、批判的に考える意欲のある学生の受講を期待する。

成績評価方法：

期末試験の結果を総合点の70%とし、授業中の提出物や参加度に対する評価を30%として、全体の成績評価とする。

社会心理学 I (春学期) (日吉)

萩原 滋

社会的認知と対人行動

授業科目の内容：

春学期は、自分たちの社会的環境をいかにして把握するかという問題を取り上げる。すなわち「社会的認知」と呼ばれる研究領域を中心に、均衡理論、認知的不協和理論、帰属理論など社会心理学の代表的な理論枠組について概説し、それに依拠して行われた実験など具体的な研究事例を詳しく紹介する。また対人魅力など、対人行動の基礎となる問題も取り上げることにする。

テキスト：

使用しない。

参考書：

適宜、指示する。

授業の計画：

- ガイダンス (1回)
- 社会心理学の研究方法 (1回)
- 社会的認知の研究領域概観 (1回)
- 印象形成の古典の実験 (1回)
- 帰属理論と実証的研究 (3回)
- 認知的一貫性の諸理論 (1回)
- 認知的不協和理論と実証的研究 (3回)
- 対人行動の基礎 (2回)

履修者へのコメント：

特になし。

成績評価方法：

学期末に筆記試験を行う。

質問・相談：

最初のガイダンスの時にお尋ねください。

社会心理学 II (秋学期) (日吉)

萩原 滋

メディアとコミュニケーション

授業科目の内容：

秋学期は、対人コミュニケーションからマス・コミュニケーションまで幅広く「コミュニケーション」過程に関わる諸問題を取り上げる。対人コミュニケーションに関しては「説得効果」、マス・コミュニケーションに関しては「テレビの社会的機能、対人的影響」に焦点を当てて、新旧取り混ぜて社会心理学的研究の成果を紹介する。

テキスト：

使用しない。

参考書：

適宜、指示する。

授業の計画：

- 対人コミュニケーションとマス・コミュニケーション (1回)
- 説得的コミュニケーションと態度変容 (2回)
- 説得の技法 (1回)
- テレビのメディア特性 (1回)
- 日本におけるテレビ放送小史 (1回)
- テレビの社会的影響概観 (1回)
- テレビの視聴効果 (1)：暴力や反社会的行動への影響 (3回)
- テレビの視聴効果 (2)：現実の社会認識への影響 (3回)

履修者へのコメント：

特になし。

成績評価方法：

学期末に筆記試験を行う。

質問・相談：

授業時間中、あるいは授業後にお尋ねください。

【研究会】

研究会 (I~VI) (春学期・秋学期) 萩原 滋

メディアと社会行動

授業科目の内容：

本研究会は、2年ないし3年の在籍期間を通じて、各自の関心に基づいて研究活動を積極的に行い、その成果を研究会の場で逐次報告し、最終的には修了論文に結実させることを目的としている。研究テーマは、メディアやコミュニケーションに関連性のあるものであれば、ある程度各自の自由裁量に任されることになるが、単なる感想や思い付きではなく、それを何らかのデータによって裏づける努力をして欲しい。つまり研究方法としては、理論研究や主観的解釈を排除するわけではないが、できるだけ実証的手法を重視するということである。

テキスト：

萩原滋・国広陽子編著(2004)『テレビと外国イメージメディア・ステレオタイプ研究』, 勁草書房

(もう1冊, 概論書のようなものを追加する予定)

参考書：

特になし

授業の計画：

(1) 春学期

まず昨年度からの在籍者(2, 3年生)を中心に、昨年度の研究結果の発表を行う。(計3回)

その後はテキストを全員で輪読する。(計10回)

夏休み中の合宿で新入生の研究テーマ、関連論文の発表を行う。

(2) 秋学期

2, 3年生を中心に毎回数名ずつ研究発表を行う。(10回)

4年生の修了論文の中間報告を行う。(3回)

履修者へのコメント：

研究会の運営の仕方は、履修者数によって変わらざるを得ないが、各自が自由にテーマを選んで発表する自由研究、個人研究のスタイルが定着してきている。履修者の希望があれば何らかの形で共同研究を行うこともありうるが、本研究会では個人研究を基本とすることにした。

成績評価方法：

研究会の場での発表や積極性などの平常点、出席率に基づく。ただし三田祭や年度末にレポートの提出を求めることになるので、その評価も加味される。

質問・相談：

適宜、研究室に来てくだされば、お答えするつもりです。

研究会 (I~VI) (春学期・秋学期) 菅谷 実

メディア産業論

授業科目の内容：

放送、新聞に代表されるマスメディアからインターネットに代表されるマルチメディアまで、メディアの産業構造、ビジネス戦略、メディア規制をテーマとして研究をすすめる。

春学期は、個人研究の発表、秋学期は三田祭での共同研究(2004年度は、「メディアとスポーツ」)、4年生の修了論文発表を中心に進める。また、夏合宿、企業訪問等も計画している。

なお、ゼミ活動の詳細は、メディアコムホームページ

(www.mediacom.keio.ac.jp)を参照のこと。

授業の計画：

(1) 春学期

2・3年：ゼミ員の発表形式により、共同研究に必要な基礎知識を学習する

4年：夏合宿での中間発表に向けた修了論文の準備

(2) 秋学期

2・3年：三田祭共同研究発表にむけて、グループ単位の調査・研究活動

4年：終了論文の作成

なお、授業計画の詳細については、春学期の第1回目の授業時に紹

介するので、受講希望者は1回目の授業に出席すること

成績評価方法：

平常点による採点

研究会 (I~VI) (春学期・秋学期) 宿南 達志郎

情報メディアの発展に関する研究

授業科目の内容：

メディアの進化について研究します。インターネット、ケータイ、デジタル放送などにより、メディアがどのように変容し、メディア産業がどのように発展しているのかを実証的に研究します。

テキスト：

・情報通信総合研究所(編著)『情報通信アウトック2005』NTT出版, 2005年

・塚本潔『ドコモとau』光文社新書, 2004年

参考書：

・総務省(編)『情報通信白書 平成16年版』ぎょうせい, 2004年

・林紘一郎『電子情報通信産業』コロナ社, 2002年

授業の計画：

「メディアの連携・融合に関する研究」をテーマとする。ブロードバンドサービス、とりわけ光サービスによる映像配信、携帯における音楽配信、デジタル放送における双方向サービスなどについて、産業政策、経営学、社会学の観点から研究を行う。

春学期は、メディア産業の動向についての概要を研究し、秋学期は、個別企業の経営戦略(NHK, NTT, KDDIなど)を詳細に研究する。

履修者へのコメント：

マスメディア、携帯電話、ブロードバンドなどメディアの電子化に関心のある学生を歓迎します。

成績評価方法：

・授業出席、研究会活動への貢献度で評価します。

・研究会IVは修了論文で評価します。

質問・相談：

いつでも研究室にお越しください。

研究会 (I~VI) (春学期・秋学期) 金山 智子

身近なメディア・コミュニケーションの現象を研究する。

授業科目の内容：

今日、私達を取り巻くメディア・コミュニケーション環境は情報・通信技術の発達により、ますます多様化、複雑化しながら拡張を続けています。印刷技術、無線技術、ラジオ、テレビ、コンピュータ、インターネット、そして携帯電話など、メディア・コミュニケーション技術の普及と社会との関係はますます強まり、これらの技術が私達の生活にとって不可欠なものになっているのが現実です。このような中、日常生活、社会活動、そして国際関係の場面などで、メディア・コミュニケーションに関わる学術的な考察が求められていると言えるでしょう。メディア・コミュニケーションが社会や文化にどのような影響を及ぼしているのかについて、本研究会では、グループや個人レベルでの興味関心をもとに研究テーマを設定し、実際に調査研究することを目的としています。また、研究会では、理論的な考察だけでなく、社会の一線でメディア・コミュニケーションの活動やイベントに関わる人々の実践を積極的に取り込むことを奨励しています。これに関連して、メディア業界で活躍している方々をゲストに迎え、メディアと社会・文化について、現場の生の声を聞き、また意見交換会を開催します。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

適宜関連文献資料やウェブサイトを指示します。

授業の計画：

春学期は、個人またはグループでメディア・コミュニケーションに関連する研究を実施してもらいます。テーマ設定、文献調査、仮説設定、調査法選定、調査実施、データ分析、報告、そして発表といった一連の研究プロセスを、担当教員との個別コンサルティングなども交え

ながら、ステップ・バイ・ステップで身につけられるよう指導します。夏から秋学期に調査を実施し、研究成果を三田祭で発表してもらいます。4年生に関しては、修了論文を中心に個別で指導する予定です。

《春学期》

研究するということ

研究ステップ1：研究テーマ

研究ステップ2：文献調査

研究ステップ3：研究課題または仮定の設定

研究ステップ4：調査方法

研究ステップ5：研究計画書

《秋学期予定》

研究ステップ6：調査の実施

研究ステップ7：調査結果の分析

研究ステップ8：調査報告書の作成

研究ステップ9：研究発表（三田祭）4年生修了論文発表

成績評価方法：

出席、レポート、研究論文を総合して評価します。

研究会（Ⅰ～Ⅵ）（春学期・秋学期） 伊藤高史

ジャーナリズムと「表現の自由」

授業科目の内容：

ジャーナリズムと「表現の自由」をテーマにしたゼミナール形式の授業です。まずは、ジャーナリズム関連の書籍を輪読し、ある程度、理解の共通化を図ります。夏前からは、学生自身にテーマを設定してもらい、三田祭への発表を目指して、研究発表などを行っていきます。秋は、三田祭発表に向けて学習を進めてもらい、その後は、修了論文にむけた研究発表をしてもらいます。なお、昨年は三田祭発表に取材を取り入れました。今年も同様のスタイルにしたいと考えています。

テキスト：

なし（授業中に指定します）

参考書：

なし（授業中に指定します）

授業の計画：

- （1） オリエンテーション
- （2）～（8） 指定したテキストの輪読
- （9）～（17） 三田祭に向けた研究発表
- （18）～（26） 修了論文に向けた研究発表

履修者へのコメント：

履修を考えている学生は、平成16年度に履修した学生からよく話を聞いておくとよいでしょう。

成績評価方法：

平常点

研究会（Ⅰ～Ⅵ）（春学期・秋学期） 伊藤陽一

情報化と近代化

授業科目の内容：

「情報化」（情報技術が発達し、マス・メディアと教育が一般庶民レベルにまで普及し、情報流通量が増大する現象として定義される）が「近代化」に及ぼした影響とそのメカニズムについて研究する。具体的には、「近代」の特質である民主主義、合理主義、個人主義、資本主義が、「情報化」を通じてどのようにしてもたらされたか、あるいはもたらされつつあるかについて考察・議論する。

テキスト：

伊藤陽一「メディアの歴史と社会変動」関口一郎（編）『コミュニケーションのしくみと作用』大修館、1999年

参考書：

- ・秋山哲『本と新聞の情報革命』ミネルヴァ書房、2003年
- ・金原左門『近代化』論の転回と歴史叙述』中央大学出版部、1999年

授業の計画：

- 第1回 オリエンテーション：研究会の目的、求められる心構え等
- 第2回 先学期の学生の期末レポート内容の報告①
- 第3回 先学期の学生の期末レポート内容の報告②
- 第4回 以降については未定部分が多いが、特に何も無い時は指

定された本の輪読・講読を行う。

履修者へのコメント：

研究会では積極的に発言することが大切です。普段からの勉強と準備が教室での適切な発言を可能にします。

成績評価方法：

- ・三田祭参加論文
- ・学期末レポート
- ・平常点（出席、授業における発言の頻度と質）

質問・相談：

随時受け付けます。

研究会（Ⅰ～Ⅵ）（春学期・秋学期） 大石裕

ジャーナリズムを考える

授業科目の内容：

最初の数回は、ジャーナリズムやマス・コミュニケーションに関する基本的な文献を読み、それ以降は班分けし、新聞の分析などを行う。研究成果は三田祭などで発表する。

テキスト：

大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣

参考書：

田村紀雄ほか編『ジャーナリズムを学ぶ人のために』世界思想社

授業の計画：

〔前期〕

- 1～2回 基本的な文献の講読。
- 3～13回 2, 3年生を中心とした研究発表と討議

〔後期〕

- 1～10回 2, 3年生を中心とした研究発表と討議
- 11～13回 4年生の修了論文発表

履修者へのコメント：

新聞のみならず、ニュース全般に関して積極的に接するように心がけてください。この研究会から「優れた」ジャーナリストが数多く生まれることを目標にしています。

成績評価方法：

平常点による。

【特殊研究】

放送特殊講義Ⅰ・Ⅱ（春学期・秋学期） 安倍宏行

テレビニュースは何が出来るか？

授業科目の内容：

テレビニュースはどう制作されているのか。テレビ報道記者はどう取材しているのか。記者、特派員、キャスターの経験から、テレビニュースの問題点とその在り方を考察する。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

特に指定しません。

授業の計画：

- | | | |
|----|--------|------------------------------|
| 前期 | 1～2回 | ガイダンス・テレビニュースと新聞の違い |
| | 3～4回 | ニュース番組はどうオンエアされているのか（テレビ局見学） |
| | 5～6回 | テレビ記者の仕事—取材の実態 |
| | 7回 | 特派員の仕事 |
| | 8回 | キャスターの仕事 |
| | 9回 | プロデューサー、PD、ディレクターの仕事 |
| | 10～11回 | ニュース原稿の書き方・実践 |
| | 12～13回 | ニュース制作・実践—リポート制作・発表 |
| 後期 | 1～2回 | 視聴率とやらせ |
| | 3～4回 | 政治報道・選挙報道の問題点 |
| | 5～6回 | 戦取材の問題点 |
| | 7～8回 | 人権侵害と報道倫理 |
| | 9回 | テレビ報道の危機管理 |
| | 10回 | 検証報道の実態 |

11回 テレビジャーナリズムの今後

12～13回 企画制作実践・発表

履修者へのコメント：

将来、テレビ報道記者になりたい人、ニュース番組制作に関わりたい人を歓迎します。

成績評価方法：

平常点（出席状況、授業参加状況による評価）

新聞特殊講義 I（春学期） 藤 森 研

「ニュース」はどうつくられるのか

授業科目の内容：

新聞は日々、どのようにつくられているのかを実践的に解説し、その限界や意義、ジャーナリズムとは何かを学びます。

テキスト：

資料を配布

参考書：

- ・『市民社会とメディア』（リベルタ出版、2000年、原寿雄編）
- ・『報道の自由と人権救済』（明石書店、2001年、原寿雄・田島泰彦編）

授業の計画：

その時々のニュースや、戦前からの新聞記事を題材に、下記のようなテーマを考えます。

- ・新聞は、なぜ必要なのか
- ・記者の失敗とスクープ
- ・社説の生理
- ・戦争と新聞
- ・プライバシー、個人情報と新聞・メディア
- ・人権と新聞（たとえばハンセン病報道の影と光と、空白）
- ・天皇報道と戦後社会
- ・憲法と新聞と社会

履修者へのコメント：

メディアだけでなく、戦後社会に関心のある学生の参加を期待します。

成績評価方法：

平常点とレポート

新聞特殊講義 II（秋学期） 河 原 理 子

取材する側と、取材される側

授業科目の内容：

現在と過去の、主な記事の各紙比較に触れながら、記者の仕事、新聞をどう作るかを解説します。取材する側と取材される側の関係、取材して正確に書く上で大切なこと、新聞の限界と社会的意義について学びます。

テキスト：

資料を配布。

参考書：

- ・『新聞力』（東京新聞出版局、青木彰）
- ・『「犯罪被害者」が変える報道』（岩波書店、高橋シズエ・河原理子）

授業の計画：

松本サリン事件やその時々のニュースを題材に、下記のようなテーマを考えます。取材される側の視点、情報を得る側の視点からも、より良い報道を探ることを目標にします。

また、記者は生身の人間に接する職業であり、信頼関係が基本です。人の話を聞く基本を学んだら、できればゲストを招いて話を聞きます。何を準備して、どう聞くのか、自ら考えてください。

- ・「事実」と「真実」
- ・取材相手との距離～「権力」の監視
- ・速報と長期的な報道
- ・過去の新聞を読む（だれの視点から書いているか）記者の視点と差別
- ・意味ある「スクープ」とは？
- ・プライバシーと公益
- ・報道被害とその対応
- ・声なき者に声を～被害者の取材と報道

・「広場」としての新聞

履修者へのコメント：

日々の新聞を、ざっとでも読んでいることを、授業の前提にします。

成績評価方法：

平常点とレポート

広告特殊講義 I・II（春学期・秋学期） 吉 田 望

広告とブランドづくり

授業科目の内容：

ブランドについて語ります。日本型ブランド。ブランドと広告。広告産業の成り立ち。

参考書：

- ・「ブランドI」宣伝会議社
- ・「ブランドII」宣伝会議社

授業の計画：

ガイダンス（自己紹介・自分のあだ名を考える）

ブランド概論

- 好きな雑誌の商品広告を持ってくる。

広告概論

- 新しい商品ブランドを考えてみる（グループ別・ケーススタディ実習）

広告産業概論

- 付録 秘録元電通調査部長

様子を見て一～二回宴会をやりたいと思っています。

履修者へのコメント：

ブランド＝（計算＋志）×驚きです。計算か志か驚きのある人を期待します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・（出席状況および授業態度による評価）

メディア特殊講義 I（春学期） 境 真 良

デジタルコンテンツの経済学へ～技術、制度、社会心理～

授業科目の内容：

コンテンツの産業現象を、消費心理学、産業心理学を踏まえつつ、経済学的視点から考察していきます。最終的にiTMSや2ちゃんFLASH祭りを始めとしたデジタルコンテンツを巡る様々な活動が今後果たすべき役割を考えていきます。

テキスト：

初回講義時に資料集を配布する他、各回講義時に適宜資料を配布します。

参考書：

- ・『図解でわかるコンテンツビジネス』（2002、日本能率協会マネジメントセンター）
- ・『映像コンテンツ産業論』（2002、丸善）
- ・『動物化するポストモダン』（2001、講談社）

授業の計画：

- (1) 商品としてのデジタルのコンテンツ
～コンテンツ産業史の視点から～
- (2) 文化的価値と経済的価値
～コンテンツと政策を翻弄する二元論～
- (3) デジタルコンテンツの産業と政策
～基礎知識として、映画を例にして～
- (4) 再生産を支える産業基盤
～知的財産制度の矛盾と補完の方向性～
- (5) コンテンツ産業のビジネスモデル
～メジャーとインディーズ～
- (6) デジタルネットワーク流通を巡る力学を解析する
～音楽、映像、ゲーム～
- (7) デジタル環境のコンテンツ産業はどこへ行く

履修者へのコメント：

授業では、アイドルビジネス、キャラクタービジネスについて多くふれます。アイドルやキャラクター、音楽、映画、漫画などに造

詣の深い諸君と一緒に現在進行形の産業現象を議論していきたいと思ひます。

成績評価方法：

レポートによる評価を中心とします。

メディア特殊講義 II (秋学期)

畠 信 彦

テレビ・新聞などメディアの現場の現実と問題点を検証

授業科目の内容：

毎週発生しているニュースのTV、新聞報道の裏側と本質を見抜く力をつけるよう講義したい。学生同士のディベート、グループ研究及び実地体験なども踏まえて学び、情報の解明力をつける。

テキスト：

プリント、毎日の新聞、TV報道。

参考書：

畠信彦『ニュースキャスターたちの24時間』（講談社α文庫）ほか、畠のH.P.

授業の計画：

- 前期のメディア文化論をある程度前提にしたうえで、毎週発生する政治、経済、国際情勢、社会事件などについて、各メディアの報じ方と読み解き方を学生と一緒に論じあう。
- この過程で、人権、差別、送り手側のメディア戦略、テレビや新聞などの制作現場の実情、やらせ、権力の介入、視聴率主義、報道・論説姿勢の形成のあり方、経営・広告と報道の相克、メディアの歴史と闘い、表現の自由、取材のあり方、など一諸問題を考える。現場で仕事をしているキャスター、記者などもきてもらおう予定。
- 実際の取材、制作なども考慮。

履修者へのコメント：

- ・毎回、小感想文（200～400字程度）を提出。
- ・意見表明、グループ討議などを随時行なう。
- ・受講の際には基本的なマナー、品性を大事にすること。

成績評価方法：

小感想文を主とし、授業内試験も期末に実施

質問・相談：

- ・現場視察、ジャーナリズム研究などの相談に応ずる。
- ・<http://www.mainichi.co.jp/eye/shima/>

特殊研究 I・II (春学期・秋学期)

小 川 浩 一

日本の近代化とマス・メディア

授業科目の内容：

明治維新後の日本が近代化を目標とした中で、その一翼を担ったマス・メディアのあり方と、戦後の近代化を担ったマス・メディアがいずれも、大政翼賛的存在となり、体制側となっていた事情を批判的に考察したい。

授業の計画：

- 1 ガイダンス
- 2～4 明治維新と近代社会
- 5～8 明治期新聞と言論人の背景
- 9～12 国民社会とマス・メディア
- 13～16 戦後日本社会と民主化
- 17～20 近代化としての民主化とマス・メディア
- 21～24 大衆社会とメディアのポピュリズム
- 25～26 まとめ

履修者へのコメント：

基本的に演習形式で行います。日常的に乱読の姿勢を保持することを期待します。

成績評価方法：

平常点及びレポート

特殊研究 III (春学期)

岩 淵 功 一

メディアのグローバル化と文化市民権

授業科目の内容：

グローバル化が進展するなかでのメディアの公共性と文化市民権の問題を多角的に考察して、今後の可能性を模索する。

テキスト：

- 毎週の文献の詳細についてはクラスで指示する。
- ・伊藤守（編）『メディア文化の権力作用』（セリカ書房）
- ・岩淵功一・多田治・田仲康博（編）『沖縄に立ちすくむ』（セリカ書房）

参考書：

クラスにて指示する。

授業の計画：

前期は主に、日本における多様な社会的・文化的背景を持つ集団・人々の存在と関心がメディアをとおしてどのように表現されているのか（あるいは、いないのか）を具体的に検証する。授業内容の詳細は最初のクラスで提示するが、学生のプレゼンテーション・討論・研究プロジェクトが中心となる。

履修者へのコメント：

セミナー形式であるため、学生諸君の積極的参加を期待する。

成績評価方法：

出席、授業参加度、レポートなどによる総合評価。

特殊研究 IV (秋学期)

岩 淵 功 一

メディアのグローバル化と文化市民権

授業科目の内容：

グローバル化が進展するなかでのメディアの公共性と文化市民権の問題を多角的に考察して、今後の可能性を模索する。

テキスト：

- 毎週の文献の詳細についてはクラスで指示する。
- ・岩淵功一『トランスナショナル・ジャパン』（岩波書店）
- ・毛利嘉孝（編）『日式韓流』（セリカ書房）

参考書：

クラスにて指示する。

授業の計画：

後期は主に、メディア文化をとおして、どのような国境を越えるつながりや対話が生まれているのかについて、東アジア地域を中心に具体的に検証する。授業内容の詳細は、最初のクラスで提示するが、学生のプレゼンテーション・討論・研究プロジェクトが中心となる。

履修者へのコメント：

セミナー形式であるため、学生諸君の積極的参加を期待する。

成績評価方法：

出席、授業参加度、レポートなどによる総合評価。

メディア産業実習 I・II (春学期・秋学期)

宿 南 達志郎
伊 藤 高 史

インターンシップ

授業科目の内容：

本講義は、研究所主催のインターンシップである。春学期は、講義と討論形式により各産業の歴史、構造、動向およびインターンシップの意義等を学ぶ。

夏休み期間の2週間以上、各企業のインターンシップに参加する。秋学期には、インターンシップ参加の口頭報告およびレポートを提出する。なお、秋学期については夏休みにおける企業研修参加が単位取得の条件となる。本年度、インターンシップに参加できなかった学生は次年度にメディア産業実習IIに登録し、インターンシップに参加することができる。

授業の計画：

- (1) 春学期
オリエンテーション
産業別のレポートと討論（新聞、放送、通信、移動通信、出版、広告、インターネット、通信販売等）

まとめ

(なお、研修先は、7月上旬に決定されるが、研修受け入れ企業数は限られているため履修者全員が研修に参加できるわけではない)

(2) 秋学期

夏休み研修期間の実習を10回分の講義と認定し、残りの時間で研修成果の報告と討論を行い秋学期の平常点評価とする。

履修者へのコメント：

履修希望者（前年度にメディア産業実習Ⅰを履修し本年度Ⅱを履修する者を含む）は、4月上旬に実施されるオリエンテーションに必ず参加すること。

履修者は夏休みの研修参加のための日程をあらかじめ確保しておくこと。

成績評価方法：

- ・春学期：クラスにおけるレポート発表および討論への参加度を含めた平常点による評価。
- ・秋学期：夏休み期間中の企業研修と研修成果の口頭発表およびレポートによる評価。

メディア産業実習Ⅲ・Ⅳ（春学期・秋学期） 金山智子 菅谷実

インターンシップ

授業科目の内容：

本講義は、研究所主催のインターンシップである。春学期は、講義と討論形式により各産業の歴史、構造、動向およびインターンシップの意義等を学ぶ。

夏休み期間の2週間以上、各企業のインターンシップに参加する。

秋学期には、インターンシップ参加の口頭報告およびレポートを提出する。なお、秋学期については夏休みにおける企業研修参加が単位取得の条件となる。本年度、インターンシップに参加できなかった学生は次年度にメディア産業実習Ⅳを登録し、インターンシップに参加することができる。

授業の計画：

(1) 春学期

オリエンテーション

産業別のレポートと討論（新聞、放送、通信、移動通信、出版、広告、インターネット、通信販売等）

まとめ

(なお、研修先は、7月上旬に決定されるが、研修受け入れ企業数は限られているため履修者全員が研修に参加できるわけではない)

(2) 秋学期

夏休み研修期間の実習を10回分の講義と認定し、残りの時間で研修成果の報告と討論を行い秋学期の平常点評価とする。

履修者へのコメント：

履修希望者（前年度にメディア産業実習Ⅲを履修し本年度Ⅳを履修する者を含む）は、4月上旬に実施されるオリエンテーションに必ず参加すること。

履修者は夏休みの研修参加のための日程をあらかじめ確保しておくこと。

成績評価方法：

- ・春学期：クラスにおけるレポート発表および討論への参加度を含めた平常点による評価。
- ・秋学期：夏休み期間中の企業研修と研修成果の口頭発表およびレポートによる評価。

【基礎演習】

時事英語Ⅰ・Ⅱ（春学期・秋学期）

小林雅一

英語で学ぶ世界情勢

授業科目の内容：

New York Times など米主要紙の記事を教材にして、時事英語の読解力を養い、併せて現在の世界情勢を学ぶ。

テキスト：

特に指定しません。講義資料を配布します。

参考書：

特に指定しません。

授業の計画：

- (1) ガイダンス、序
 - (2) 国際報道を読む
 - (3) 経済報道を読む
 - (4) 政治報道を読む
 - (5) 社会報道を読む
 - (6) 文化・芸能報道を読む
- 以下、2～6の繰り返し

成績評価方法：

平常点（出席状況および授業態度による評価）

文章作法Ⅰ・Ⅱ（春学期・秋学期）

升野龍男

目から鱗（ウロコ）が落ちる授業です。

授業科目の内容：

文章作りは、文章を書くことだけで身に付くものではありません。常日頃の日撃・観察によって情報をとらえる。そこから何故を發し、取材する。そして、その何故に対する仮説（ひょっとしたら、こうではないかな？）を提示する。それを検証し、仮説を実証する。実証できねば新たな仮説を提示し、新発見に挑む。目撃・観察・洞察・発見による情報作りとプレゼンテーション。問うて、学ぶ。文字通り「学問」。これが、情報に関する升野流ティーチング・メソッド。この基本が身につけば、その情報を文章化、映像化、音楽化できるわけです。

不器用な人でもこの動作を日常化すれば、文章のうまい器用な人であつという間に凌駕できるようになります。「面白くなければ授業じゃない」。最高水準の授業を、面白く、分かりやすく展開します。

テキスト：

私の執筆文章を中心に、適切な文章や、文章作法本を適宜使用いたします。毎回、講義資料プリントを配布します。これらを束ねたものが、私のテキストです。

参考書：

- ・野口悠紀雄著『超文章法（中公新書）』780円
 - ・鹿島茂著『勝つための論文の書き方（文春新書）』700円
- また授業中にも、講義内容をより深く理解できる参考文献を適宜紹介します。

授業の計画：

〈春学期〉

- (1) 「ワクワク、どきどき授業」のガイダンス
- (2) 情報を採るために「飢えた情報ハンター化」する段階＝目撃・観察法の体得。
 - ① 目撃・観察ノートの作成と記述の日常化。
 - ② 目撃・観察のための方法論＝オリジナル情報作りのため、目撃・観察対象に関する自分なりのベストポイントとベストタイムを持つ。
- (3) 情報組み立て、表現方法の体得
 - ① VTR、DVD、印刷物、ネットなど、私秘蔵の優良コンテンツを使用した、情報組み立て、表現方法の体得。
 - ② アウトプットした作品の評価方法の取得
- (4) 以上を通じて評論、エッセイ作法の体得

〈秋学期〉

- (1) 「自己アピール、謎解き授業」のガイダンス
- (2) 最もタフで繊細な情報作りである広告情報の演習＝利益社会へのデビューにこれは必要不可欠
- (3) 自己プロデュース方法＝自分の目標宣言と、そのアピール方法の体得
- (4) 洞察力の保有
 - ① 目撃・観察から「何故」を發する行為の体得＝取材、一步踏みこむ
 - ② 「何故」を解く仮説設定方法の体得＝「ひょっとすると、こうではないか」という洞察力保有
- (5) 論文の作り方＝目撃・観察・洞察・発見の重要性と、「謎解き情報設計」の体得

論文作りが難しくなく、この作法を身に付けることが如何に人生に役立つかを具体的に指導します。

したがって最後は論文提出です。

履修者へのコメント：

文章を書くのが苦手な人、大歓迎。もちろん書くのが大好きな人も歓迎します。学期終了時に、驚くほど情報作りが好きになり、上手くなった自分を発見できるでしょう。講義は一方通行ですが、毎回演習課題を出します。その指導は個別添削。メールでの質問・相談にも応じます。指導コンセプトは「発育」。ひとりひとりに潜んでいる可能性を発見し、その可能性を育む。教育指導は、その手段であると考えます。

成績評価方法：

出席 40%、演習課題 40%、テスト 20%。

質問・相談：

メールで受け付けますが、ウイルス感染防止のため必ず大学から送信してください。それ以外は開封いたしません。

e-mail: tatsuom@mbk.nifty.com

メディア・コミュニケーション実習 I (春学期)

金山 智子

映像を通して伝える。

授業科目の内容：

コミュニケーション技術の発展により、誰でも気軽に映像を撮って表現したり、メッセージを発信したりできるようになってきました。また、メディア・メッセージを積極的に読み解くだけでなく、自らがメッセージや情報発信をする力としての「メディア・リテラシー」がますます重要と考えられるようになってきました。本講義では、(1) 映像メディアコンテンツの批評と (2) 制作実践を通じて、よりよいメディア・シチズン (Media Citizen) としての基礎的な発想、表現、そして実技能力を身に付けることを目標としています。

テキスト：

特に使いません。

参考書：

関連資料を配布します。

授業の計画：

講義は大きく 3 つの部分から構成されています。

- (1) 映像撮影や編集機材の使用方法を学ぶ。
主に基本的な機材の使い方や映像制作に必要なテクニックを学びます。
- (2) 映像作品を読み解く。
普通の市民やアマチュアが制作した“すぐれた映像作品”を分析し、「誰に何をどのように伝えるか」という意味での、メッセージ伝達について考えます。
- (3) 映像コンテンツを制作する。
個人（または少人数グループ）で、企画、構成、取材、撮影、さらに編集加工といった一連の映像制作過程を体験してもらい、映像によるコミュニケーションを身につけてもらいます。

履修者へのコメント：

単なる映像制作の技術習得ではなく、あくまでも映像を通してのコミュニケーションのあり方を体験的に学習することに主眼を置いています。また、映像コンテンツの制作は、クラス授業時間外での作業が必要になります。

成績評価方法：

授業参加 (40%) 課題作品 (40%) レポート (20%)

メディア・コミュニケーション実習 II (秋学期)

金山 智子

映像制作を通して理解する。

授業科目の内容：

マスメディアが伝えられないような、身近な世の中の出来事、キャンパス周辺で生活する人々、或いは社会的な問題などを、自分達の疑問意識をもとに独自の視点でとらえ、これを映像コンテンツとして加工して、地域社会に還元してゆくことは、大変意義のあることです。出来

上がった作品についての最終評価はもちろんですが、映像コンテンツの制作過程において、さまざまな人たちと関り、その中で社会や他者に対する理解を深めていくプロセスはもっと大切です。授業では、自分たちに身近な話題をテーマに、10 分間のミニ・ドキュメンタリー作品を制作することにより、映像制作におけるコミュニケーションのあり方についての実践を集中的に学びます。また、「撮るもの」と「撮られるもの」といった二分法感覚ではなく、受講生とともに、撮る人と撮られる人が一つになったオムニバス映像コンテンツの制作を実現したいと思います。

テキスト：

特に使いません。

参考書：

関連資料を配布します。

授業の計画：

講義は大きく 2 つの部分から構成されます。

- (1) 映像コンテンツの撮影や編集機材の使用方法を学ぶ。
主に基本的な機材の使い方や映像制作に必要なテクニックを学びます。
- (2) ドキュメンタリー作品を制作する。
個人（または少人数グループ）で、企画、構成、取材、撮影、編集といった一連の映像制作過程を通して、映像によるコミュニケーションを学びます。また、テーマによっては、制作過程にその問題に関わる人の参加や協力をしてもらいます。

履修者へのコメント：

メディア・コミュニケーション実習 I の事前履修が望ましい。また、映像の制作は時間と労力を要するので、授業時間外に自主的な作業が必要となります。

成績評価方法：

授業参加 (40%) 課題作品 (50%) レポート (10%)

電子ネットワーク調査法 I・II (春学期・秋学期) (日吉)

金山 智子

ネットの世界を探究する。

授業科目の内容：

インターネット（ネット）の普及は、人々のコミュニケーションや情報行動に大きな影響を及ぼしており、また電子ネットワーク上では新しいメディア空間が展開されています。多種多様な情報をスピーディに検索・収集する上で、ネットはもはや不可欠なツールと言えるでしょう。また、ネットを活用した調査やマーケティングもますます重要になっています。人々がネット上で繰り広げるコミュニケーション行動や情報行動、ヴァーチャル・コミュニティのありよう、さらに電子ネットワーク空間で伝達されるさまざまなメディア・メッセージなどを対象とした研究も今後増えていくでしょう。本講義では、主に下記の 4 点を学びます。

- (1) ネットを活用した情報検索・収集方法
- (2) ネットを活用した調査方法
- (3) ネット上のコミュニケーションやメディア内容を対象とした調査
- (4) ウェブを活用した成果発表

テキスト：

講義資料プリントを配布します。

参考書：

電子ネットワークに関する調査事例及び関連ウェブサイトを指示します。

授業の計画：

春学期では、(1) と (2) に重点をおき、電子ネットワーク調査研究の基礎を身に付けます。個人（またはグループ）で研究計画書を作成します。

- ・研究テーマの決定
- ・ネットの活用した文献資料の検索・収集
- ・電子ネットワーク調査方法について（優位性や問題点、質問調査、内容分析、参与観察など）

秋学期では、(3) と (4) に焦点をあて、春学期で作成した研究計画書をもとに調査を実施し、ウェブを活用して成果報告を行ってもらいます。

- ・調査の実施
- ・ネットを使って研究成果を報告
- ・ネットの新しい現象や問題についてディスカッション

成績評価方法：

平常点 (20%), レポート (30%), および研究報告 (50%) を総合して評価します。

**映像コンテンツ制作 I (春学期) (日吉),
映像コンテンツ制作 II (秋学期) (日吉) 金 山 勉**

映像メディア・コミュニケーションの実践

授業科目の内容：

本講座では、映像コンテンツ制作への取り組みを通じて、映像コンテンツの中に含まれる独特の映像作法、メディア環境、さらに映像文化について考えてもらいます。クラスでは番組制作を編成し、企画提案から番組制作まで、実践について個別に指導します。

テキスト：

金山勉・金山智子『やさしいマスコミ入門』勁草書房 (2005 年)

参考書：

授業時に紹介する。

授業の計画：

映像コンテンツ制作実習は基本的に I と II が連動するように計画されています。まず映像コンテンツ制作 I では、映像コンテンツ制作のための基礎能力習得と初歩的な番組制作実践について取り組み、さらに映像コンテンツ制作 II では編集加工された取材コンテンツ映像 (編集 VTR) を活用して、社会情報番組の企画と収録に取り組みます。

全体の流れは以下の通りです。

映像コンテンツ制作 I (前期)

- 映像メディア・コミュニケーションへの招待 (2 回)
- 映像コンテンツ加工のための基礎能力習得 (5 回)
- 番組制作の企画と実践 (6 回)

映像コンテンツ制作 II (後期)

- 映像メディア・コミュニケーション力のアップに向けて (2 回)
- フィールドプロダクションとスタジオプロダクション入門 (5 回)
- 番組制作の企画と実践 (6 回)

履修者へのコメント：

映像コンテンツ制作 I、および II では、受講生の発想や自主性を最大限尊重します。同時に、制作プロジェクトは受講生間の連携が重要になるため、無断欠席しないよう心がけてください。

成績評価方法：

映像コンテンツ制作のプロセスと番組完成度に対する評価 (60 パーセント)、出席と平常制作準備活動の評価 (40 パーセント)

質問・相談：

授業終了時、および電子メールで受け付けます。

時事英語 I・II (春学期・秋学期) (日吉) 小 林 雅 一

英語で学ぶ世界情勢

授業科目の内容：

New York Times など米主要紙の記事を教材にして、時事英語の読解力を養い、併せて現在の世界情勢を学ぶ。

テキスト：

特に指定しません。講義資料を配布します。

参考書：

特に指定しません。

授業の計画：

- (1) ガイダンス、序
 - (2) 国際報道を読む
 - (3) 経済報道を読む
 - (4) 政治報道を読む
 - (5) 社会報道を読む
 - (6) 文化・芸能報道を読む
- 以下、2~6 の繰り返し

成績評価方法：

平常点 (出席状況および授業態度による評価)

文章作法 I・II (春学期・秋学期) (日吉) 栗 田 亘

授業科目の内容：

文章を磨き、企業などの競争試験に備える。

参考書：

『書き上手』(栗田亘/五月書房)

授業の計画：

毎週、課題を示し、次週までに 800 字 (400 字詰原稿用紙 2 枚, B5) 以内で文章を書かせる。提出された文章を添削し、受講者の合評のあと、講師が講評する。

秋学期は、授業時間中に、その場で書くトレーニングもおこなう。すべて、社会に出て役に立つ実践的な文章の書き方の練習だ。

履修者へのコメント：

休まずに繰り返し書くことが上達への道。春学期最初の時間に 400 字詰め原稿用紙 (B5 判) を持参すること。

成績評価方法：

毎時間提出する文章の評価

質問・相談：

授業時間内に。

体 育 科 目 〔三田設置〕

(体育研究所)

実施場所・教室変更、休講、授業時間割変更等の連絡事項は、三田設置科目については共通掲示板（西校舎）に、日吉設置科目については、体育科目掲示板（日吉 J11 番教室前）にすべて掲示します。履修者は常に掲示に注意してください。

体育科目（日吉）の時間割、講義要綱・シラバス等は、学事センターで閲覧できます。

体育科目の履修に関して質問のある場合は、学事センターで相談してください。

三田地区の学生は、日吉設置の体育科目を履修することができますが、三田でも、体育実技 A（ウィークリー・スポーツ）が、8 科目（テニス、バレーボール、フットサル、合気道、弓術、剣道、柔道、ダンス）開講されています。

履修の方法等については以下のとおりですが、学部により単位の取り扱いが異なります。各自、学部学則をよく読んで履修するようにしてください。

1 体育科目のねらい

体育科目は、「身体」に関わる様々な事象を体験・理解し、社会における自己の存在を見つめ、人間を理解していくことに大きなねらいがあります。特に、言語化された知識を越えて、自己の身体が体现する「身体知」を理解・獲得することで豊かな人間の形成をめざすものです。各開講科目には、このねらいに通ずる様々なアプローチがあり、それぞれに細分化された目標が立てられています。

2 体育科目の構成

体育科目には、「体育学講義」、「体育学演習」、「体育実技 A」、「体育実技 B」の 4 科目があります。学部、学科によって科目の取扱いや単位認定の上限が異なりますので、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。各科目の概略は以下のとおりですが、詳しくは、本書とともに日吉の講義要綱・シラバスを参照してください（学事センターで閲覧できます）。

- (1) 体育学講義 (2 単位) …… 「身体」「健康」「運動」等に関する講義。
- (2) 体育学演習 (1 単位) …… 講義 + 実習による演習形式の授業。
- (3) 体育実技 A (1 単位) …… 「身体活動」実技 A～D の 4 段階評価。
ウィークリー・スポーツ
シーズン・スポーツ
- (4) 体育実技 B (1 単位) …… 「身体活動」実技 P (合)・F (否) (Pass/Fail) の 2 段階評価。
ウィークリー・スポーツ
シーズン・スポーツ

体育実技には「体育実技 A」と「体育実技 B」がありますが、特に成績評価の方法が異なることに注意してください。なお、「体育実技 A」と「体育実技 B」、ともにウィークリー・スポーツとシーズン・スポーツがあります。その概要は以下のとおりです。

ウィークリー・スポーツ …… 週 1 回半年（春学期または秋学期）の授業。

シーズン・スポーツ …… 夏季休業中（7 月～9 月）または春季休業中（2 月）の 7 日間の授業。ただし、合宿科目は原則として 3 泊 4 日。

3 2003 年度以前に入学した諸君へ

2004 年度より、保健体育科目から体育科目へと名称変更になり、個々の科目名や内容も変更されています。すでに保健体育科目を履修していて、さらに体育科目を履修しようとする場合は、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。

4 履修方法について

体育実技を履修する場合は、以下の事項に留意して履修申告してください。

(1) 体育科目ガイダンス

体育科目を履修する場合は、体育科目ガイダンスに出席し、履修方法の説明を聞いてください。

日時・場所 4 月 7 日（木）1 限および 2 限 522 番教室（西校舎、いずれの時限も同じ内容です。）

(2) 定期健康診断

体育実技を履修する場合、保健管理センターが行う定期健康診断を受診していることが前提条件となります。現在、運動に制限のある治療中の病気・ケガがある場合は、必ず健康診断時に診断書を持参してください（制限内容の記載のあるもの）。診断書がない場合、体育実技履修の可否判定ができないことがありますので注意してください。健康診断受診後、学生証裏面に健康診断済証明印を押します。この証明印がないと体育実技の履修はできません。

体育実技を履修する学生は必ず日吉で健康診断を受けてください。その際、日吉の健康診断受付窓口で三田在籍の学生であることを申し出て、以下の健康診断項目をすべて受診してください。

【健康診断項目】

計測（身長・体重） 視力 検尿 血圧
 胸部X線 ヘルスチェック 内科（指示された者） 心電図（同左）

【実施場所】

日吉記念館

日吉の定期健康診断日程は以下のとおりです。

受付時間		9：00～11：00	13：00～15：30	受付時間		9：00～11：00	13：00～15：30
4月8日	金	女子（10時開始）	男子	4月14日	木	女子	男子
9日	土	男子	男子	15日	金	男子	男子
11日	月	男子	女子	16日	土	女子	女子
12日	火	男子	男子	18日	月	男子	女子
13日	水	男子	女子	19日	火	男子	男子

- * この期間に受診できない場合は、5月に三田で実施する健康診断を受けることになります。その場合は、該当学年の健康診断項目を受診してください。
- * 健康診断の結果、「体育2」または「体育3」と判定された場合は、日吉学事センター7番窓口に出してください。
- * 授業開始時までに健康診断を受けていない場合は、必ず授業担当者に申し出てください。

(3) 履修申告

体育科目の履修申告は、体育研究所三田設置科目（体育実技A）と日吉設置科目（体育実技A、体育実技B、体育学演習、体育学講義）で申告方法が異なるので注意してください。

ア 三田設置科目

- (ア) 履修者数の調整は第1週目の授業時に行います。体育研究所時間割（三田諸研究所時間割に掲載）を参照の上、第1週目の授業で、体育研究所許可証を受け取ってください。秋学期についても同時に行います。
- (イ) 第1週目の授業に出席できない者は、4月8日（金）から14日（木）の12：30から14：00まで（日曜を除く）、三田綱町グラウンド武道館玄関にて体育研究所許可証を発行します。そこで許可証取得の手続きをしてください。
- (ウ) 履修申告期間に学事Webシステムによる履修申告を行ってください。

イ 日吉設置科目

- 体育科目時間割（日吉）を参照の上、希望する体育科目を選択し、指定期日に履修申告してください。
- (ア) 学事Webシステムによる履修申告が必要です。履修申告用紙の場合は、必ずコピーしておいてください。
- (イ) 各学部履修案内をよく読んで、正確に履修申告してください。
- (ウ) 秋学期科目を履修する場合も必ず履修申告しておいてください。

(4) 履修者数の調整

体育実技A、体育実技Bおよび体育学演習については、定員を上回る履修希望者がいた場合、抽選による履修者数の調整を行います。調整結果は以下のとおり掲示しますので、履修申告した者は、履修の可否を必ず確認してください。

ただし、体育学講義は、抽選による履修者数の調整は行いません。

調整結果発表 4月22日（金）

9：00 日吉 体育科目掲示板（第4校舎B棟1階J11番教室前）

10：30 三田 共通掲示板（西校舎）

なお、三田、日吉の追加履修できる体育実技および体育学演習についても、同時に発表します。

(5) 追加履修

履修調整の結果、落選した科目については定員に余裕のある体育実技および体育学演習を追加履修することができます。追加履修のためには、①体育研究所許可証の取得と、②修正申告の2つの手続きが必要です。

ただし、追加履修の扱いは学部により異なります。所属学部の履修要項を確認してください。

- * 履修者数調整結果を再確認し、誤りのないようにしてください。

○ ウィークリー・スポーツ、シーズン・スポーツ（共に、体育実技A、体育実技B）と体育学演習の追加履修手続き

① 体育研究所許可証の取得手続き

定員に余裕のある科目について、以下のとおり申込み順に受け付けます。定員に達した科目は締め切ります。

日吉設置科目

受付日時	受付場所
4月25日(月) 9:15~11:30, 12:30~16:00 26日(火) 9:15~11:30, 12:30~15:00	体育研究所(陸上競技場側)
4月27日(水) から5月修正申告期間終了まで (平日) 8:45~17:00(最終日16:00終了)	日吉学事センター 7番窓口

春学期ウィークリースポーツの追加履修を希望する場合は、必ず25・26両日中に体育研究所許可証を取得してください。
27日以降は取得できません。

三田設置科目

各授業で行います。

② 修正申告(学事センター)

体育研究所許可証にもとづき、学事センターで修正申告期間終了までに修正申告をしてください。

◎ 以上①, ②いずれの手続きが不足しても追加履修はできません。

(6) シーズン・スポーツ(合宿科目)の実技費用納入について

シーズン・スポーツのうち、以下の合宿形式6科目については、指定期間内に実技費用を納入してください。

実技費用納入科目
アウトドアレクリエーション, 山岳, スキー, スケート, 馬術, ヨット

① 実技費用納入日時

4月25日(月)~28日(木) 8:45~17:00

② 実技費用納入場所(証紙貼付)

日吉学事センター7番窓口(納入用紙交付)

※ 上記の科目は、履修申告しても費用を納入しなければ参加できません。

※ 費用が納入期間に間に合わない場合は、窓口で相談してください。

※ 実技費用納入締め切り後、なお人員に余裕のある科目については追加履修を受け付けます(実技費用納入順, 前(5)項参照)。

体育実技実施要項〔三田設置科目〕

体育実技 A

(ウィークリー・スポーツ)

〈球技〉

体育実技 A (テニス)

(上級)

堀場 雅彦

〔授業の目的〕

テニスの技術習得と体力の向上。

〔実施場所〕

綱町グラウンド テニスコート (屋外)

〔服装・携行品・その他〕

硬式テニスラケット, シューズ (ハードまたはオールコート用)

〔授業の計画〕

1 限 (90 分) の計画

05 準備体操

10 球出しによるウォーミングアップ, フォア・バックハンドストローク

30 サービス, シングルス・ダブルスポジションにて

40 ペアーボレーボレー

50 ダブルスゲーム, MIX・男子・女子

85 総括

半期 13 回の計画

毎週, 毎回上記 1 限計画の流れで基本的に授業を進めるが, 参加者数により, ラリー (クロス・ストレート), シングルスゲームをカリキュラムに採用する場合あり。

ストローク・サービス・ボレーの各ショット別練習中に, 以下ポイントに沿ったアドバイスを個別または全体に与える。

1～3 週: 腕の振り

4～6 週: 身体のバランス

7～10 週: 足捌き (フットワーク)

11～13 週: 総括および戦術

〔雨天時の対応〕

室内講義の場合あり。

〔履修者へのコメント〕

テニスはサッカーについて, 全世界 120 か国以上に普及した国際的スポーツです。また, 国内でも全国市町村に必ずと言っていいほど公営コートが完備されています。全日本大会も, 5 歳刻みで 85 歳までのカテゴリーに分けられ, 腕を競い合っています。正にグローバルゼーション・高齢化に最も適したスポーツと言えましょう。社会に出る前に, 是非手習いをしておきたいスポーツです。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の 4 項目を点数化し, その合計点で評価します。4 項目の配点等については科目ガイダンス時に説明します。

体育実技 A (テニス)

(初級)

村松 憲

〔授業の目的〕

テニスを楽しむために必要な技術, エチケット, ルールを身につけます。

〔実施場所〕

綱町グラウンド テニスコート (屋外ハードコート)

※西門から徒歩 3 分程度のところにあります。

〔服装・携行品・その他〕

テニスシューズ・テニスラケット

(注意) シューズ・ラケットの貸し出しはありません。

〔授業の計画〕

以下のような予定ですが, 履修者の技術水準等を考慮して若干変更する場合があります。

1～2 回目 ボールとラケットに親しむための基礎練習

3～6 回目 ボレー, サービス, グラウンドストローク, スマッシュの基礎練習

7 回目以降 クロスコートでのポイント形式練習, ダブルスの試合形式練習

〔雨天時の対応〕

室内でボレーの練習等の実技を行います。

〔履修者へのコメント〕

テニスが全く初めての方でも大丈夫です。また, 少し経験はあるけど基礎を確認したい, という方も歓迎します。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の 4 項目を点数化し, その合計点で評価します。4 項目の配点等については科目ガイダンス時に説明します。

〔質問・相談〕

村松までメールでご連絡下さい → mura@hc.cc.keio.ac.jp

体育実技 A (テニス)

(中級)

村松 憲

〔授業の目的〕

試合を楽しむために役立つ技術・戦術を身につけます。また, エチケット, ルールを再確認します。

〔実施場所〕

綱町グラウンド テニスコート (屋外ハードコート)

※西門から徒歩 3 分程度のところにあります。

〔服装・携行品・その他〕

テニスシューズ・テニスラケット

(注意) シューズ・ラケットの貸し出しはありません。

〔授業の計画〕

以下のような予定ですが, 履修者の技術水準等を考慮して若干変更する場合があります。

1～3 回目 サービス, ボレー, グラウンドストローク, スマッシュ, リターン等の基礎的技術の確認と練習

4～6 回目 回転をかけるサービス, 大きく踏み込んで打つボレー, ジャンピングスマッシュなど, 試合を有利にする上で役立つ応用技術の確認と練習

7 回目以降 クロスコートでサービスからのポイント形式練習, ダブルスの試合形式練習

〔雨天時の対応〕

室内でボレーの練習等の実技を行います。

〔履修者へのコメント〕

このクラスでは, 「技術レベルがどこまで到達したか」(どの程度向上したか, だけでなく) という点も成績評価の対象とします。「打ち合いで安定して 10 往復以上続けることができる (相手が打ちやすいボールをだしてくれた場合)」ことが難しい方には初級クラスをおすすめします。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の 4 項目を点数化し, その合計点で評価します。4 項目の配点等については科目ガイダンス時に説明します。

〔質問・相談〕

村松までメールでご連絡下さい → mura@hc.cc.keio.ac.jp

体育実技 A (テニス)

(初中級)

加藤 大雄

〔授業の目的〕

生涯スポーツとしてのテニスの基本的技術と、ルールの習得

【実施場所】

綱町グラウンド テニスコート

【服装・携行品・その他】

テニスラケット，テニスシューズ，運動ができるウェア

【授業の計画】

2回をセットとして，フォアハンドストローク，バックハンドストローク，サーブ，を技術指導していく。その後は技術の習熟度によって内容を決めていく。比較的自由な雰囲気です。授業を進める予定。

3回の技術力テストを行う。

【雨天時の対応】

当日の朝，掲示する。

【履修者へのコメント】

テニスに意欲のある生徒を望む。

【成績評価方法】

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し，その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。

体育実技A（テニス）

（中上級）

加藤 大雄

【授業の目的】

生涯スポーツとしてのテニスの基本的技術と、ルールの習得ならびに、テニスにおける戦術の指導。

【実施場所】

綱町グラウンド テニスコート

【服装・携行品・その他】

テニスラケット，テニスシューズ，運動ができるウェア

【授業の計画】

戦術的な説明をしつつ，フォアハンドストローク，バックハンドストローク，サーブ，ボレー，スマッシュを技術指導していく。その後は技術の習熟度によって内容を決めていく。比較的自由な雰囲気です。授業を進める予定。実践的な練習が多い予定。

【雨天時の対応】

当日の朝，掲示する。

【履修者へのコメント】

テニスに意欲のある生徒を望む。

【成績評価方法】

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し，その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。

体育実技A（バレーボール）

野口 和行

【授業の目的】

チームスポーツであるバレーボールの実践を通して、個々の技術レベルに応じた役割分担をしながら、相互のコミュニケーションを促進する。

【実施場所】

綱町グラウンド バレーボールコート

【服装・携行品・その他】

運動できる服装，屋外シューズ

【授業の計画】

1. 個人の技術レベルの向上（4回）

パス，スパイク，ブロック，サーブ等の個人技能のレベル向上を図る。ラリーを楽しむことを主眼としたゲームの実施。

2. 集団技能の学習とフォーメーションの理解（4回）

サーブレシーブフォーメーション等のフォーメーションの理解。フォーメーションを利用したゲームの実施。

3. リーグ戦形式のゲームの実践

個々の技術レベルに応じてチーム内での役割分担を決め，ゲームを楽しむ。

ゲームで利用できるような個人技能のレベルアップ。

〔雨天時の対応〕

室内でのパス練習等、個人のレベルアップ。ビデオを用いてフォーメーション等の理解を図る。

〔履修者へのコメント〕

積極的にチームのメンバーとコミュニケーションをとり、技術レベルを問わずバレーボールのゲームを楽しめるような授業にしたいと思っています。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。

体育実技 A (フットサル)

(初心者、経験者問わず)

須田 芳正

〔授業の目的〕

フットサルの技術、戦術を習得し、ゲームの中でフットサルの魅力、楽しさを体験することを目的とする。

〔実施場所〕

銀座 de フットサル 田町スタジアム

所在地：港区芝5-36-7 札の辻パーキング 2F

JR「田町駅」三田口（西口）、都営地下鉄「三田駅」より徒歩3分

〔服装・携行品・その他〕

運動できる服装とシューズ

〔授業の計画〕

1回 ガイダンス

(場所は、銀座 de フットサル 田町スタジアム)

2~4回 技術練習とゲーム形式

テーマ：ボールフィーリング・パス&コントロール、シュート。

5~8回 戦術練習とゲーム形式

テーマ：3対1, 4対1。

9回以後 ゲーム形式

テーマ：チームを固定してのリーグ戦。

〔雨天時の対応〕

ビデオ鑑賞。

〔履修者へのコメント〕

積極的に授業へ参加する学生を歓迎します。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。

〈武道〉

体育実技 A (合気道)

藤平 信一

〔授業の目的〕

合気道の実技を通じて、心と身体の正しい使い方を学ぶ。心身統一を、日常の一挙手一投足で活用できるように修得する。

〔実施場所〕

綱町グランド 武道館

〔服装・携行品・その他〕

- ・道着は貸与
- ・タオル（汗をふくため）
- ・Tシャツ（女子のみ）
- ・道着を持ち運ぶバッグ等

〔授業の計画〕

半期前半

- ・合気道基本技
- ・心が身体を動かす（心身一如）
- ・正しい姿勢（自然に安定した姿勢）
- ・安全な受身と間合い
- ・日常のコミュニケーションに活かす

半期後半

- ・合気道応用技
- ・正しいリラックス（虚脱状態の違い）
- ・大事な場面での心の落ち着き
- ・危険に対する察知と対応

※春学期と秋学期ではテーマは同じですが内容は異なります。

〔履修者へのコメント〕

基礎から一歩ずつ進むので、初めての方も安心して学べます。半期で一通り学ぶことも出来ますが、修得には通年の履修をお奨めします。

合気道（日吉）を履修した方も歓迎します。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。

体育実技 A (弓術)

小笠原 清忠

〔授業の目的〕

弓術ウィークリースポーツの授業は、和弓に親しみながら、射法、射術の習得を目標とします。一般にスポーツは動的なものです。弓術は静的なもので、相対する対して己の心のあり方が求められます。練習では常に正しい心のあり方、至誠と礼節を重んじることにあります。

〔実施場所〕

綱町グランド 武道館（正己弓道場）

〔服装・携行品・その他〕

服装は運動の出来る服装（ボタンや胸ポケットのないもの）。靴下または足袋を必ず持参すること。

〔授業の計画〕

和弓に対する理解をする。

基本の技の習得。

立居振舞いや武道としての礼法、心構えを学びます。

的前で実際に矢を射る行射を通して心のあり方を学びます。

諸道具についての知識を習得します。

経験者については、的前練習を中心に、技術、知識の向上を目指します。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。

体育実技 A (剣道)

(初心者から有段者まで)

吉田 泰将

〔授業の目的〕

剣道をはじめて行うものから、有段者まですべてのレベルを対象に、初心者は一級に、有段者はさらにひとつ上の段に挑戦するために、基本的な技術、知識、日本剣道形を学習します。それぞれのレベルの人が協力して、クラス全体の実力アップを図りましょう。そして、生涯を通じて実践できる剣道をしっかりと身につけましょう。

〔実施場所〕

綱町グランド 武道館（剣道場）

〔服装・携行品・その他〕

剣道着・袴（運動に相応しい服装も可）手ぬぐい

※剣道具（防具）・竹刀は準備しています。

〔授業の計画〕

- | | |
|---------------|----------------------------|
| 1 ガイダンス | 剣道の歴史 礼儀作法 構え方 足さばき 素振りの基礎 |
| 2 素振りのバリエーション | 五行の構え 対人的足さばき |
| 3 基本の復習 | 日本剣道形の導入・1本目 |
| 4 日本剣道形1~2本目 | 有効打突の理解 打突部位 基本的な技の打ち方 |
| 5 日本剣道形1~3本目 | 基本的な技の打ち方 防具の着け方 |

- 6 日本剣道形 1~4 本目 手の内の刃えについて 正中線の意味
切り返し
- 7 日本剣道形 1~5 本目 一本打ちの技
- 8 日本剣道形 1~6 本目 連続技 (二・三段打ちの技) 払い技
巻き技
- 9 日本剣道形 1~7 本目 応じ技 (すり上げ技・返し技)
- 10 日本剣道形 1~7 本目 応じ技 (抜き技・打ち落とし技)
- 11 日本剣道形小太刀 1~3 本目 出頭技
- 12 日本剣道形復習 試合規則の確認 試合形式の実践
- 13 紅白試合 まとめ

〔履修者へのコメント〕

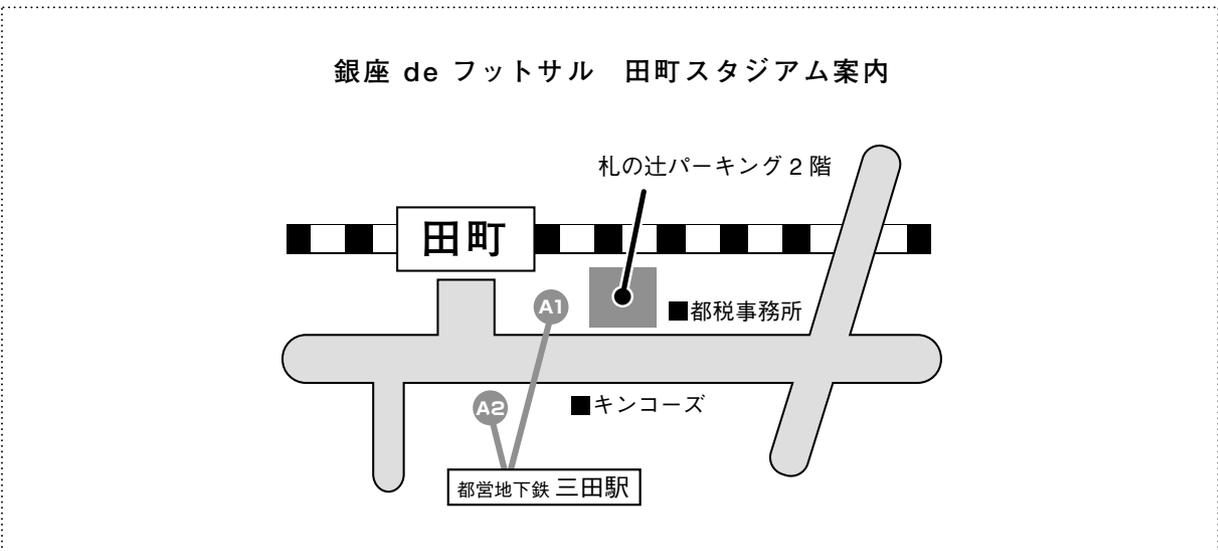
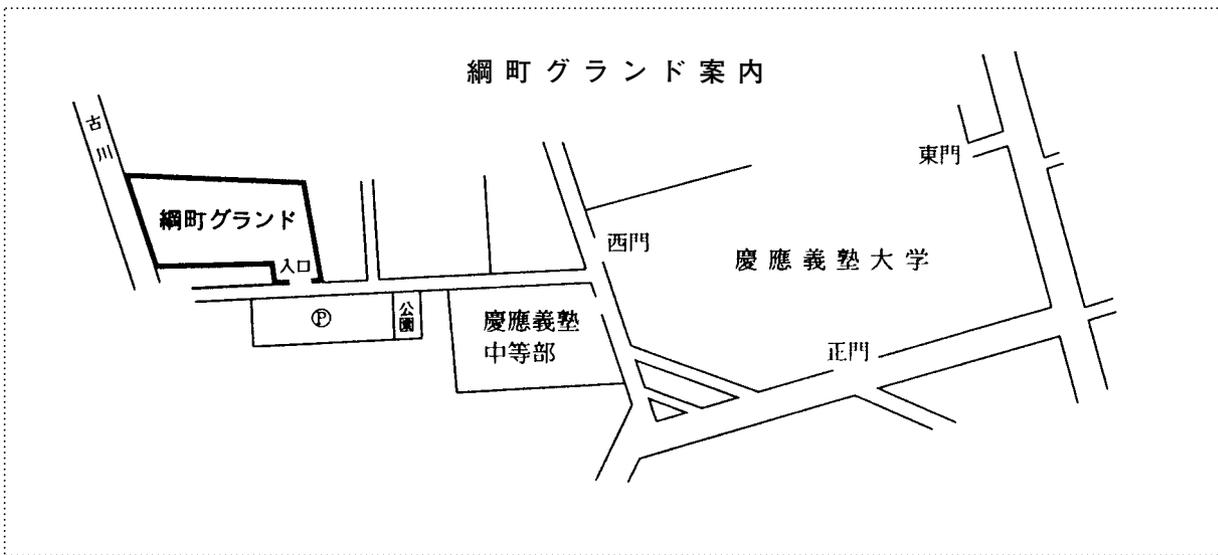
剣道を通して、戦う技術はもちろん、対人的な行動のしかたや自分自身の心のコントロールなどを身につけてください。また、日本の伝統文化としての剣道を肌で感じ、国際感覚の向上や異文化コミュニケーションの題材としても活用してほしいものです。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。

〔質問・相談〕

E-mail: yytaisho@hc.cc.keio.ac.jp まで



福澤研究センター設置講座

慶應義塾福澤研究センターは、1983年に義塾創立125年を記念して、旧図書館内に設立された研究所です。この研究所の目的は、一つは福澤諭吉および慶應義塾に関する資料の収集・整理・保管ですが、単にそこにとどまるものではありません。同時に、福澤諭吉と慶應義塾を視野においた近代日本の研究も本研究所の重要な役割です。このような研究を目的としているのは、一面では、福澤諭吉や各界で活躍した慶應義塾出身者について研究することが、そのまま日本の近代化について考える大きな鍵となるからです。また他面では近代日本に広く目を配ることなしには、福澤諭吉と慶應義塾の歴史的意義も本当には理解できないからでもあります。

しかも、福澤諭吉に関する研究は、狭く日本の内部にとどまるものではありません。福澤が投げかけた近代化の課題は、19世紀以降の日本を含む世界中の後発国が直面した問題でした。このため、福澤諭吉に取り組むことは、例えばアジアの近代化を考えることに直接的にも間接的にもつながってゆきます。このように、各国にまたがる広い関連性を持った研究に本センターは関わっており、文字通り世界における福澤研究の中心として機能しています。

このような目的をかかげて、これまで福澤研究センターは、学術誌『近代日本研究』・資料集・叢書の刊行や、講演会、セミナー、展覧会などを開催してきました。また、これらの資料整理・研究活動は、25名の所員（全員塾内研究教育部署との兼任）、10名の顧問、27名の客員所員、6名の事務スタッフ等により支えられています。

本設置講座は、このような活動を続けている福澤研究センターが、提供する大学講座です。講座の目的は、第1には、福澤研究センターを中心として、塾内外の研究者により行われてきた研究の学術的な成果を、講義・演習を通して学生諸君に受け止めてもらうことです。また、第2には、福澤諭吉や慶應義塾を視野においた近代日本史への関心を喚起することです。さらに、第3には、将来福澤諭吉研究者や大学・学校史の研究者に育ちうる人材を教育することがあります。そして、第4には、この講座を通して、21世紀の世界にとって、福澤諭吉の思想と慶應義塾の歴史が、いかなる意味を持っているかを考える機会をつくることを目指しています。

近年、慶應義塾で学びながら、義塾がいかなる歴史を持っていたのかを知らず、また福澤諭吉の著作を読むこともなく卒業する塾生が増えています。多くの学ぶべきことが他にもある現在、それはそれで一つの学生時代の過ごし方であることは確かです。しかし、福澤の著作は、その主張に賛成するものにとっても反発するものにとっても、面白く刺激的です。そのような福澤の著作に触れる機会もなく卒業することは、我々福澤研究センターのスタッフは惜しいことだと考えています。しかも、本設置講座は、文系の多くの学部では卒業単位や進級単位として認められています。

本年度は以下の4講義・演習を開講しますので、諸君の活発な履修を期待しております。

(慶應義塾福澤研究センターのホームページ <http://www.fmc.keio.ac.jp/>)

近代日本研究 I (春学期) 2単位

—『学問のすゝめ』とその時代—

コーディネーター：(教 授) 小室 正紀

担当者：(教 授) 岩谷 十郎

(名誉教授) 坂井 達朗

(教 授) 米山 光儀

授業科目の内容：

福澤諭吉の初期の代表作『学問のすゝめ』は、明治5年2月から明治9年11月までの5年間にわたって、17編に分けて逐次刊行された。それは、福澤の生涯の中では、『文明論之概略』に結実する思想の形成期であった。また、この時期は、学制発布、鉄道初開通、徴兵令布告、征韓論、明六社結成、地租改正、民選議院設立建白書、佐賀の乱、征台の役、立志社設立、江華島事件、萩の乱など、制度改革や事件が陸続する時であり、まさに揺籃期の明治社会にとっては、改革と模索の時期であった。

この講義では、『学問のすゝめ』各編を取り上げて、4人の担当者が分担して講義を行うが、単にその文面から福澤の思想を考えるだけでなく、同書の各編を、福澤の人生と初期明治社会の変動の中に位置づけることを目指したい。またその過程を通して、福澤の思想と近代日本社会形成の間にある緊張関係を考えてみたい。

テキスト：

福澤諭吉『学問のすゝめ』(各種の版がある。どの版でもよい。)

参考書：

・福澤諭吉『福翁自伝』(各種の版がある。どの版でもよい。)

・慶應義塾編『福澤諭吉書簡集』第1巻、岩波書店、平成13年。

授業の計画：

第1回の講義の時にシラバスを配布するが、以下のように進める予定。

第1回 はじめに

第2～4回 初編～4編(明治5年2月～7年1月)

第5～7回 5編～8編(明治7年1月～7年4月)

第8～10回 9編～12編(明治7年5月～7年12月)

第11～13回 13編～17編(明治7年12月～9年11月)

履修者へのコメント：

講義当日に取り上げる編を事前に読んでくること。

成績評価方法：

試験と平常点。

試験方法については、第1回の講義で説明する。

質問・相談：

講義中ないしは講義後に質問・相談に応じる。

近代日本研究Ⅱ（秋学期）2単位

（助教授）西澤 直子

授業科目の内容：

福澤の論説には100年を経た今もなお、今日的な命題が含まれている。福澤論吉が近代社会に求めた「独立自尊」とは何か、それは日本社会にいかにか根付いたのか、根付かなかったのか。この課題について1) 福澤と中津士族社会との関わり 2) 慶應義塾の教育 3) 福澤の男性論女性論および家族論の3つの視点から考える。

テキスト：

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：

- ・『福澤論吉書簡集』（岩波書店、2001～2003年）
 - ・『福澤論吉著作集』（慶應義塾大学出版会、2002～2003年）
- 他は適宜授業中に紹介する。

授業の計画：

- 1 序論：①授業テーマの説明 ②福澤論吉の略歴
- 2 中津士族社会との関わり：①中津市学校の役割 ②旧中津藩主奥平家資産運用と士族授産 ③「中津留別之書」「旧藩情」「福翁自伝」
- 3 慶應義塾の教育：①「慶應義塾社中之約束」の成立 ②実学重視と実業者の育成 ③モラルサイエンスと教育
- 4 男性論・女性論・家族論
- 5 まとめ：それまでの授業を通して考えてきたことに基づく討論

履修者へのコメント：

知識の授受ではなく、授業を通じて共に考えることを目的とする。

成績評価方法：

学期末試験（論述形式）

質問・相談：

授業後に受け付ける。また進度に余裕があれば、授業時間内に質問の時間を設ける

近代日本研究演習Ⅰ（春学期）2単位

（教授）寺崎 修

授業科目の内容：

この演習では、福澤論吉の政治思想を学ぶため、明治11年に刊行された『通俗民権論』と『通俗国権論』を併せて読むことにしたい。授業の進め方は、輪読を基本とするが、必要に応じて時代背景、関連事項の解説をする。

テキスト：

『福澤論吉著作集』第7巻（慶應義塾大学出版会、2600円＋税）

参考書：

授業中に適宜紹介する。

授業の計画：

以下の各章をとくに注目しながら、順次検討をすすめる。

1. 官民職分之事（通俗民権論）
2. 知識見聞を博くする事（通俗民権論）
3. 品行を脩る事（通俗民権論）
4. 諸力平均之事（通俗民権論）
5. 国権を重んずる事（通俗国権論）
6. 約束を大切にすること（通俗国権論）
7. 内外の事情を詳にする事（通俗国権論）
8. 外戦止むを得ざる事（通俗国権論）

履修者へのコメント：

履修条件は、毎時間出席できる者。質疑応答や討議の時間をとるつもりなので、積極的な学生諸君の受講を希望する。

成績評価方法：

平常点と課題レポートによる。

質問・相談：

随時

近代日本研究演習Ⅱ（秋学期）2単位

福澤書簡の研究

（名誉教諭）松崎 欣一

授業科目の内容：

福澤および近代日本研究の基礎史料としての福澤書簡について、「授業の計画」に示す視点からの検討を行う。あわせて、写真版等により原書簡の読解演習を実施したい。

テキスト：

『福澤論吉の手紙』（岩波文庫）

参考書：

- ・『福澤論吉書簡集』全9巻（岩波書店刊）
- ・『福澤論吉著作集 第12巻（福翁自伝・福澤全集緒言）』（慶應義塾大学出版会刊）
- ・富田正文『考証福澤論吉』上・下（岩波書店刊）

授業の計画：

- 1) 福澤書簡概観…『書簡集』編纂の経緯、名宛人、年次別発信数等について。
- 2) 古文書学的視点からの検討…福澤書簡の形状、文体、用字、用語、筆跡等。
- 3) 福澤の伝記史料としての検討…『福澤論吉全集』と『福澤書簡集』における書簡発信年月日の異同は300通をこえる。『書簡集』新収書簡が約450通あることもあわせて、『全集』第21巻所収の「福澤論吉年譜」は見直しを迫られている。新たな「福澤年譜」編成の基礎作業としての検討を行う。
- 4) 近代日本の同時代史的史料としての検討
福澤書簡の名宛人は約600人に及ぶ。その多くは、福澤と名宛人相互の私的な通信にとどまらず、周辺の人事やその時々、社会的諸事象に話題が及んでいる。いくつかのテーマを設定して検討する。
- 5) 書簡の読解演習

『福澤論吉の手紙』（岩波文庫）をテキストとし、また原書簡の写真版等により読解の実習を行う。福澤研究センター所蔵の原書簡に触れる機会も作りたい。

履修者へのコメント：

「授業の計画」の具体的な展開は、受講者の所属、専攻、研究課題等を確認してあらためて考慮したい。

成績評価方法：

レポート（予定）

質問・相談：

随時。

外国語教育研究センターでは、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、インドネシア語およびアラビア語の8外国語について、「表現技法」をキーワードとし、「聴く」「話す」ことから出発し、「読み」「書き」さらに「発想・思考」にいたる外国語学習本来のプロセスを尊重し、各要素のバランスのとれた外国語コミュニケーション能力が確実に身につくよう、少人数編成のクラスで授業を行います。また、超上級クラス、基礎固めのクラス、各種の検定試験に特化したクラスも用意されています。さらに、これらの設置科目のほかに、学部で開講されている外国語科目の一部が外国語教育研究センターに併設されています。

外国語教育研究センターでは、夏休みに慶應立科山荘で行う外国語集中セミナーや春休みに行く海外短期語学研修および高校生

から大学院生を対象としたアカデミック論文コンテストなどを企画しています。詳細が決定し次第、外国語教育研究センターのホームページや掲示で広報し、参加者を募集する予定です。

以下に本年度開講される外国語教育研究センター設置科目の一覧を掲載します。ガイダンス、履修の手続き、および各科目の詳細な講義内容ならびに併設科目については、別途配布の『外国語教育研究センター 履修案内・講義要綱』を参照してください。

なお、『外国語教育研究センター 履修案内・講義要綱』は外国語教育研究センター事務室でも配布します。

ガイダンス日程：4月6日（水）16：30～ 531 番教室
定員を超えた場合は抽選あるいは選考となります。

外国語教育研究センター設置科目一覧（三田・日吉）

経済学部では、以下の①・②のとおり外国語教育研究センター設置科目の履修を認めています。

全ての科目について外国語教育研究センターにて実施する事前登録が必要です。詳細は「外国語教育研究センター設置科目履修案内・講義要綱」（別冊）にて確認してください。事前登録をしない場合には履修できません。

ただし、履修申告は、経済学部時間割に掲載の登録番号を申告してください。（99～学則者）

- * 科目名に（Ⅰ）（Ⅱ）と表記されている科目は春（Ⅰ）と秋（Ⅱ）のどちらかひとつを履修してもあるいは両方履修することも可能です。
- * 英語アカデミックライティング [三田] は「半期終了科目」です。春または秋のどちらかの履修しかできません。

① 経済学部 外国語科目（選択A）として履修できる科目

語 種	科 目 名	レベル目安	授業形態	開講地区
英語	英語最上級 アドバンスト英語	超上級	通年	三田・日吉
	英語異文化トレーニング	上級	通年	日吉
	英語ドラマ	中級	通年	日吉
	英語翻訳	中級	通年	三田・日吉
	英語アカデミック・ライティング	中級	通年	日吉
	英語テスト対策 TOEFL (Ⅰ)(Ⅱ)	中級	半期	三田・日吉
	英語テスト対策 TOEIC (Ⅰ)(Ⅱ)	中級	半期	三田・日吉
	英語テスト対策 TOEIC (Ⅰ)(Ⅱ) (上級)	上級	半期	日吉
	英語テスト対策 IELTS (Ⅰ)(Ⅱ)	中級	半期	日吉
	英語経済・金融 (Ⅰ)(Ⅱ)	中級	半期	三田
	英語法律・法務 (Ⅰ)(Ⅱ)	中級	半期	三田
	英語アカデミックライティング	中級	半期	三田
ドイツ語	ドイツ語表現技法 1 (初級発音・聴解練習)	中級	通年	日吉
	ドイツ語表現技法 2 (ボキャブラリー・トレーニング)	中級	通年	日吉
	ドイツ語表現技法 3 (初級文章表現法)	中級	通年	日吉
	ドイツ語表現技法 4 (中・上級聴解・口頭表現)	上級	通年	三田
	ドイツ語表現技法 5 (中・上級文章表現法)	上級	通年	三田

語 種	科 目 名	レベル目安	授業形態	開講地区
フランス語	フランス語表現技法 1 (I)(II) (課題作文)	中級	半期	日吉
	フランス語表現技法 2 (I)(II) DELF 第 1 段階対応クラス	中級	半期	三田
	フランス語表現技法 3 (I)(II) DELF 第 2 段階対応クラス	上級	半期	三田
	フランス語表現技法 4 (I)(II) DALF 対応クラス	超上級	半期	三田
ロシア語	ロシア語聴解 (ロシア語の音のシャワーを浴びよう)	初・中級	通年	日吉
	ロシア語表現技法 1 (I)(II) (映画とドラマでロシア語を学ぼう)	中・上級	半期	三田
	ロシア語表現技法 2 (I)(II) (ロシア語で発信しよう)	中・上級	半期	三田
中国語	中国語聴解 1 (I)(II) (上級)	上級	半期	日吉
	中国語表現技法 1 (I)(II) (上級)	上級	半期	日吉
	中国語聴解 2 (I)(II) (最上級)	超上級	半期	三田
	中国語表現技法 2 (I)(II) (最上級)	超上級	半期	三田
スペイン語	スペイン語表現技法 1 (初級)	初級	通年	日吉
	スペイン語表現技法 2 (中級)	中級	通年	日吉
	スペイン語表現技法 3 (I)(II) (上級)	上級	半期	三田
インドネシア語	インドネシア語ベーシック	初級	通年	日吉
アラビア語	アラビア語	初級	通年	日吉

② 経済学部 自由科目として履修できる科目

① 以外の外国語教育研究センター設置科目は自由科目として履修できます。

慶應義塾大学 在外研修プログラム

慶應義塾大学では、全学部および研究科に在籍している学生を対象に、夏季休業中に海外で在外研修プログラム「慶應義塾大学—ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座」「慶應義塾大学—ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座」を開講します。

これは、外国語による講義およびディスカッションのほか、大学内の寮生活などを初めとする多彩な諸活動を通して、さまざまな異文化交流を体験することで、国際性豊かな学生を育成することを目的としています。

短期間に質の高い充実した内容が盛り込まれていますので、海外生活体験をしたい方、外国語によるコミュニケーション能力向上を期待する方、将来長期の留学を考えている方などにとって、ふさわしい講座といえるでしょう。

形態は原則として、往復とも大学手配の航空便による団体旅行形式で、現地研修には本学の教職員が同行します。

また、現地への出発前には事前研修を数回実施します。(事後研修を実施する場合があります。)

なお、環境をめぐるテーマを扱い、講義やディスカッションだけでなく豊かな自然環境を活かした体験学習旅行を含むワシントン大学でのプログラムを今年度から開設します。

このほか、春季休業期間中には、パリ政治学院の講師陣による EU に関する講義のほか、フランス語会話のクラスや EU の諸機関の訪問も含む「パリ政治学院春季講座」についても引き続き実施することを計画しています。

これら 2 つのプログラムについては国際センターのホームページを参照してください。

なお、プログラムは、自然災害、戦争、航空機等交通機関にかかわる事故並びに前記以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する可能性があることをあらかじめご了承ください。

問合せ先 三田国際センター

URL: <http://www.ic.keio.ac.jp/j-index.html> 詳細や変更は、随時ホームページ等で発表します。

ガイダンス 4月4日(月) 三田 528 教室 13:00~14:30

4月5日(火) 藤沢 Ω12 教室 15:45~17:15

4月6日(水) 矢上 14-201 教室 13:00~14:30

4月6日(水) 日吉 J11 教室 17:00~18:30

①慶應義塾大学—ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

The Keio University College of William & Mary Cross-Cultural Collaboration

原 田 隆 史 文学部助教授

柏 崎 千佳子 経済学部助教授

授業科目の内容:

ウィリアム・アンド・メアリー大学は、米国東海岸ヴァージニア州ウィリアムズバーグにあり、教育・研究で高い評価を得ている州立大学です。創立は 1693 年で、アメリカではハーバード大学について古い歴史を誇っています。

本講座は、毎年定められるテーマに沿った英語による講義、グループワーク、フィールドワーク、インタビュー、プレゼンテーション等で構成されています。また、大学内での寮生活や、ボランティアワーク、住民との交流、講演会、ワシントン DC 近郊の家庭でのホームステイ等を通じ、さまざまな異文化交流を体験することができます。

単位数:

4 単位

※ 本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

教科書:

特にありませんが、研修に参加するにあたり必要と思われる文献・資料は事前研修の際にお知らせします。

授業の計画:

現地研修期間: 2005 年 7 月 29 日(金)~8 月 16 日(火)(予定)

4 月下旬より事前研修(6 回程度)、また、帰国後には事後研修(2 回程度)を行います。

研修内容: ウィリアム・アンド・メアリー大学教員による講義および質疑応答、ダイアログクラス、ウィリアム・アンド・メアリー大生をまじえてのグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション、ワシントン DC 近郊の家庭でのホームステイなど。

参加申し込みについて:

(1) 募集人数: 40 名(提出書類により選考を行います。)

(2) 募集対象: 全学部・研究科正規生(ただし通信教育部をのぞく)

(3) 提出書類: ①参加申込書(所定用紙)、②学習計画書(日本語及び英語。各 A4 一枚程度)、③最新の学業成績表のコピー(3 月中旬に保証人宛に送付されるもの)、④英語能力証明書のコピー(TOEFL, TOEIC, 各種英語検定など)、⑤RESEARCH PROPOSAL(所定用紙)書類選考後、グループ分けの時に利用します。

(4) 募集期間: 4 月 7 日(木)~4 月 14 日(木) 各地区国際センター(※窓口時間終了後の提出は一切受け付けません。)

(5) 選考結果発表： 4月28日(木) 13:00(予定)

成績評価方法：

事前・事後研修の出席，中間発表，現地研修期間中の活動，Final Presentation，日本帰国後のFinal Reportにより採点します。

②慶應義塾大学—ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座

中野 誠彦 理工学部助教授
スネル，ウィリアム 文学部助教授

授業科目の内容：

ケンブリッジ大学は，オックスフォード大学と並ぶ英国の名門校で，美しいキャンパスは勉学に最適な環境にあります。

授業は英語による講義，ケンブリッジ大学在籍生を交えてのディスカッション，エッセイの作成・提出を中心としており，ケンブリッジ大学の教員が指導に当たります。講座期間中は，専門分野の知識を深めるだけでなく，ダウニングコレッジ内での寮生活や，ケンブリッジ大生が企画する諸活動に積極的に参加することで，幅広い異文化交流を体験することができます。

単位数：

4単位

※ 本講座の科目は，卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

教科書：

現地での開講科目の参考文献を，国際センター作成の募集要項に記載しています。また，事前研修時にリストにして配布します。

授業の計画：

現地研修期間： 2005年8月8日(月)～9月7日(水)

5月～7月に三田キャンパスにて事前研修を3回程度行います。

講義日程： 第1週：

Placement Interviews, English & writing preparation classes

第2週：

Acient Greece and Western Civilization, Genethics: ethical issues arising from developments in genetics

第3週：

English Literature, The Science of Chaos

第4週：

Society and Politics in Contemporary Britain, Astronomy: Unveiling the Universe

9月6日(火) Closing ceremony

第2週から第4週までは，各週2科目ずつ用意された授業の内1科目を選択，合計3科目を選択履修。

※ 各科目とも定員が30名のため，事前に参加者の希望をもとに履修調整を行います。

※ 開講科目は事情により変更されることがあります。

研修内容： ケンブリッジ大学の教員による講義及び質疑応答(午前)

ケンブリッジ大生(TA: Teaching Assistant)を交えてのディスカッション(午後)。エッセイ作成・提出。

参加申し込みについて：

(1) 募集人数：60名(提出書類により選考を行います。)

(2) 募集対象：全学部・研究科正規生(ただし通信教育部をのぞく)

(3) 提出書類：①参加申込書(所定用紙)，②学習計画書(日本語及び英語。各A4一枚程度)，③最新の学業成績表のコピー(3月中旬に保証人宛に送付されるもの)，④英語能力証明書のコピー(TOEFL, TOEIC, 各種英語検定など)，⑤履修希望科目申告表(所定用紙)

(4) 募集期間：4月7日(木)～4月14日(木) 各地区国際センター(※窓口時間終了後の提出は一切受け付けません。)

(5) 選考結果発表： 4月28日(木) 13:00(予定)

成績評価方法：

現地でのエッセイの評価をもとに行います。

国際センター設置講座

国際研究講座ならびに日本研究講座受講希望者へ

国際センターでは、外国および日本の文化や社会、国際関係を理解するための英語による講座を開講しています。本年度国際研究講座で取り扱う国／地域は、米国、カナダ、オーストラリア、アジア、ラテンアメリカにおよび、EU関係の講座も開講します。一方日本研究講座では、政治、経済、産業、文学、芸術、思想など幅広い側面から日本を探究します。

海外からの外国人留学生と共に英語で学ぶ授業としてユニークなものであり、学問を通しての国際交流の場として日本人学生の積極的な参加を歓迎します。

なお、本講座の履修単位の取り扱いは各学部・研究科により異なりますので、所属する学部・研究科の履修案内に従ってください。

1. 対象 大学学部生，大学院生，ならびに別科生

2. 単位 各科目2単位

(なお、医学部・医学研究科および法務研究科ではすべての授業科目が履修の対象となりません)

3. 手続方法

学事センターで所定の履修申告をしてください。国際センターに出向く必要はありません。

学部・大学院が設置主体の科目については、学部・大学院の登録番号を使用して登録手続きをしてください。

所属する学部・研究科で履修対象とならない場合は、三田、日吉の国際センターで相談してください。

4. 受講料 無料

5. 掲示 休講などの連絡事項は、三田の国際センター掲示板に掲示されます。

【国際研究講座】自由科目として履修ができます。ただし、経済学部および他学部と併設している場合があります。

科目名	担当者	開講 学期	単位	併設学部	備考
EU・ジャパン・エコノミック・リレーションズ	林 秀毅	秋	2	経済学部 (特殊科目)	経済学部設置科目を特殊科目として履修できます。
産業史各論 (科学技術政策史)	ルイス, ジョナサン	春	2	商学部 (専門教育科目)	商学部設置科目を関連科目として履修できます。
オーストラリアの ビジュアルアート	ニコルズ, クリスティーン J.	春	2		
異文化と自己理解	ショールズ, ジョセフ	春	2		
東南アジア世界の諸相	野村 亨	春	2		
現代中国の国家と社会	ワンク, デイビッド L.	春	2		
グローバルヴィレッジ構築に 向けて	高橋 良子 フリードマン, デビッド J.	春	2		
国際人権法	細谷 明子	春	2		
世界政治における ラテンアメリカ	アントリネス, マリオ E.	春	2		
グローバルビジネスにおける 革新と戦略	トビン, ロバート I.	春	2		
現代ロシア研究	ナコルチェフスキー, アンドロイ	春	2		
アメリカ研究	ウィリアムス, ムケシュ K.	春	2		
アフリカン イシューズ :アフリカに おける近代と危機の意味	近藤 英俊	春	2		
国際開発協力論	長谷川 純一	秋	2		
異文化研究 : 国際化と異文化理解 プロセス	ショールズ, ジョセフ	秋	2		
カナダという国とカナダの 国際的な役割	イエローリーズ, ジェームズ	秋	2		
国際関係	セツト, アフターブ	秋	2		
比較映画論 : 映画における 過去観の諸文化比較	エインジ, マイケル W.	秋	2		
開発と社会変容	倉沢 愛子	秋	2		
アジア諸国における ビジネスマネジメント	トビン, ロバート I.	秋	2		

【日本研究講座】自由科目として履修ができます。ただし、経済学部および他学部と併設している場合があります。

科目名	担当者	開講 学期	単位	併設学部	備考
ジャパニーズ・エコノミー	小島 明	春	2	商学部 (専門教育科目)	商学部設置科目を関連科目として履修できます。
日本の金融ビッグバン	ハリス, グレアム	春	2	商学部 (総合教育科目)	
異文化コミュニケーション1	手塚 千鶴子	春	2		
英国と米国のマスコミに描かれた日本	キンモンス, アール H.	春	2		
日本企業の経営戦略と管理手法	稲葉 エツ	春	2		
目覚め	アーマー, アンドルー J.	春	2		
日本の経営	梅津 光弘	春	2		
美術を「よむ」—日本美術史入門	河合 正朝 村井 則子	春	2		
日本の近代思想	坂本 達哉	春	2		
日本人の心理学(1)	手塚 千鶴子	春	2		
近代日本の対外交流史	太田 昭子	秋	2		
異文化コミュニケーション2	手塚 千鶴子	秋	2		
日本キリスト教史	ポールハチェット, ヘレン J.	秋	2		
多民族社会としての日本	柏崎 千佳子	秋	2		
政策決定, 歴史的記憶, 人種から見る明治期日本外交	飯倉 章	秋	2		
日本の文学	アーマー, アンドルー J.	秋	2		
20世紀日本文学に与えたヨーロッパ文学の影響	レイサイド, ジェイムス M.	秋	2		
日本の経済システムとその特殊性	伊藤 規子	秋	2		
日本人の心理学(2)	手塚 千鶴子	秋	2		
日本の宗教: 救済の探求	ナコルチェフスキー, アンドロイ	秋	2		
日本経済の展望	市川 博也	秋	2		
家族の近代	ノッター, デビッド M.	秋	2		

国際研究講座 (INTERNATIONAL STUDIES)

オーストラリアのビジュアルアート

(春学期) (Spring)

AUSTRALIAN VISUAL ARTISTS: AN INTRODUCTORY COURSE

ニコルズ, クリステーン 国際センター講師 (東京大学客員教授)

Christine Nicholls

Lecturer, International Center (Visiting Professor, University of Tokyo)

Course Description:

In this topic Dr Nicholls will introduce students to a selection of (mainly) contemporary Australian visual artists, and their work. Approximately half of the artists whose work will be discussed in the course will be Aboriginal. This will necessitate an introduction to the religious basis and underlying philosophy of Indigenous artistic production. In addition to powerpoint presentations introducing the class to the work of individual artists, the class will view and then discuss a number of films showing the artists' approach to their work. The course will also introduce cultural theory required for understanding contemporary art: postmodernism; cultural hybridity; simulacra; theories of "the gaze"; "the spectacle" and Judith Butler's ideas about gender and performativity

Text Books:

Nicholls, Christine, 2003, Art, Land, Story, Working Title Press, Adelaide, Australia, ISBN 1 876288 41 8 , price \$13.00 Australian (about 1200 yen) and Nicholls, Christine, 2003, Art, History, Place, Working Title Press, Adelaide, ISBN 1876288434 Australian price \$13.00 Australian (about 1200 yen)

Note that I will also be using handouts, so that students can avoid buying more expensive books. Text materials can be downloaded from the following Website <http://seekbooks.com.au>

Reference Books:

Andrew Sayers, Publisher: Oxford University Press, ISBN: 0192842145

Format: Paperback AUD\$39.95

Grading Methods:

Reports, and some oral presentation in class. Attendance, Participation will also be taken into consideration.

Questions, Requests:

The two text books can be purchased on <http://www.seekbooks.com.au> at a very reasonable rate (less than \$12.00 Australian dollars)

異文化と自己理解

(春学期) (Spring)

CULTURE AND THE UNCONSCIOUS

ショールズ, ジョセフ 国際センター講師 (立教大学助教授)

Joseph Shaules

Lecturer, International Center (Associate Professor, Rikkyo University)

Sub Title:

Looking for the hidden roots of cultural difference

Course Description:

Culture has two sides, a visible side — food, clothing, architecture — and a hidden side of unconscious beliefs, values and assumptions. In this course we will learn the story of the discovery of hidden culture. We will explore culture's unconscious influence over us, and see how hidden cultural difference creates conflict in relationships and communication. This will involve learning hidden patterns of cultural difference related to things like: time, personal space, cooperation, independence, fairness, equality, emotion. Students will discuss their intercultural experiences, share their opinions and give presentations. The ultimate goal of this course is a deeper self-understanding.

Text Books:

Handouts to be supplied by the teacher.

Reference Books:

- 1) Different Realities — Adventures in intercultural communication, by Shaules & Abe, published by Nan'un-do.
- 2) Riding the Waves of Culture, by Trompenaars and Hampden-Turner, published by McGraw Hill

Class Schedule per week:

1. Class introduction
2. The discovery of hidden culture — Mead, Sapir & Whorf, Hall
3. A model of hidden culture — The onion model.
4. Student presentations
5. Cultural in human relations — independence and cooperation
6. Culture, emotion and self-expression — How we show feelings
7. Culture and status — Who is important and why?
8. Student presentations
9. Culture and gender — Gender separate vs. gender similar
10. Different modes of time — polychronic and monochronic
11. Student presentations
12. Final class

Message to those taking this Course:

This course is designed for students who have an interest in understanding people. An important part of our identity and values comes from how we were raised — in particular, the hidden values and assumptions of our culture. To understand this hidden side of ourselves, we must examine not only cultural difference, but our own personality. There will be lectures, discussion, and students presentations.

Grading:

Grades will be based on attendance, in-class presentations and a short final exam.

東南アジア世界の諸相

(春学期) (Spring)

WORLD OF SOUTHEAST ASIA

野村 亨

総合政策学部教授

Toru Nomura

Professor, Faculty of Policy Management

Sub Title:

Understanding Contemporary & Historical Aspects

Course Description:

In this class, students are exposed to contemporary as well as historical aspect of Southeast Asia. The information acquired in this lecture will surely be quite useful for those who want to be engaged in business in this fast-developing region.

Text Books:

None. Handouts will be given from time to time.

Reference Books:

Several books will be suggested during the class.

Class Schedule per week:

1. Orientation
2. What is SEA ?
3. SEA & Japan
4. SEA & European Power
5. Nature and Climate of SEA
6. Languages of SEA
7. Music of SEA
8. Politics of SEA
9. Other aspects of SEA

Please note that above order may change with short notice. For further information, please ask the professor directly.

Message to those taking this Course:

Students are recommended to bring along a map of Asia and / or Southeast Asia in every session.

Classroom rules will be indicated at the first session.

Grading Methods:

In class Exams, Attendance, Participation

Questions, Requests:

Should be forwarded to : nomura@sfc.keio.ac.jp

No petition on scores will be acceptable.

現代中国の国家と社会

(春学期) (Spring)

STATE AND SOCIETY IN CONTEMPORARY CHINA

ワンク, デイビッド 国際センター講師 (上智大学教授)

David L. Wank Lecturer, International Center (Professor, Sophia University)

Course Description:

Overview

This course assumes no prior knowledge about contemporary China, or about communist social and political organization. It is designed to provide a historical and thematic overview of post-1949 authority relations and patterns of politics in China. The first half of the course looks at the distinguishing features of state and society, such as central economic planning and one-party rule, that took shape during the first decade of the People's Republic in the 1950s. The second half of the course looks at the ensuing patterns of politics and conflict and how they have evolved over time. The course readings include original documents, autobiographies, and writings by sociologists, as well as political scientists and anthropologists.

Organization

Each class meeting will consist of a lecture. The lectures are a historical narrative of economy, society, and politics from 1949 to present. They are coordinated with the readings, which illustrate specific themes mentioned in the lectures. In addition we will see one Chinese movie.

Text Books:

Readings

All readings listed in the course outline are required of all students. All readings are available online except for the following three books which are available for purchase.

GAO Yuan. *Born Red: A Chronicle of the Cultural Revolution*. Stanford University Press, 1987.

Shu-min HUANG. *The Spiral Road: Change in a Chinese Village Through the Eyes of a Communist Party Leader*. Westview Press, 1998 (second edition),

Andrew G. WALDER. *Communist Neo-Traditionalism: Work and Authority in Chinese Industry*. University of California Press, 1986,

Class Schedule per week:

INTRODUCTION

Unit 1

Lecture on the "state and society" concept in political sociology

Reading on models of state and society for China

Wank, "State and Society in American Studies of Contemporary China"

HISTORICAL BACKGROUND

Unit 2

Lecture on historical background

Reading on the origins of the party-state

Mao, "The Role of the Chinese Communist Party in the National War"

Unit 3

Lecture on communism in China and the Chinese Communist Party, 1917-1949

Reading on defining features of the party-state

Huang, *The Spiral Road*, chps. 1-5

Movie: To Live (directed by Zhang Yimou)

THE NEW ORDER, 1949-1957

Unit 4:

Lecture on stabilization immediately after the revolution, 1949–1953,

Readings on the party as an organization and status group

Vogel. “From Revolutionary to Semi-bureaucrat”

P. Link (ed.). “What if I Really Where?”, “A Bundle of Letters”, and “The Tyrant Bids Farewell to His Mistress”

Liu, “People or Monsters”

Unit 5

Lecture on building a centrally planned economy

Readings on the “corporateness” of social institutions

Whyte and Parish. *Urban Life in Contemporary China*, chps. 2,4,8,9,12.

Walder. *Communist Neo-Traditionalism*, chps 1-3.

Unit 6

Lecture on the bureaucratic administration of state and society

Readings on social inequality

Whyte and Parish. *Urban Life in Contemporary China*, ch. 3

Unger. “The Class System in Rural China”

DEEPENING THE REVOLUTION, 1958–1976

Unit 7

Lecture on the Great Leap Forward, 1958–1960

Readings on careers and social mobility;

Walder. *Communist Neo-Traditionalism*, ch. 4

Shirk. *Competitive Comrades*, pp. 63-178.

Unit 8

Lecture on economic retrenchment and competition within the elite, 1961–1965

Readings on the personalization of authority

Walder. *Communist Neo-Traditionalism*, chps. 5, 8

Oi. “Comunism and Clientelism: Rural Politics in China”

Unit 9:

Lecture on the Cultural Revolution

Readings on the conflict and instability in the polity

Gao. *Born Red*, entire

CHINESE SOCIALIST MODERNIZATION, 1979–

Unit 10

Lecture on the interregnum and further elite conflict, 1974–1979

Readings on the commercialization of power

Huang. *The Spiral Road*, chps. 6-12

Oi. “Market Reform and Corruption in Rural China”

Walder. *Communist Neo-Traditionalism*, chps. 6-7

Shirk. “The Decline of Virtuocracy in China”

Unit 11

Lecture on marketization and new patterns of conflict, 1979–1989

Readings on the Democracy Movement

Han. *Cries for Democracy: Writings and Speeches from the 1989 Chinese Democracy Movement*. pp. 5-16, 28-33, 36-44, 50-57, 59-62, 72-81, 83-91, 97-111, 118-126, 134-187, 197-208, 217, 221, 231-241, 246-251, 255-280, 285-295, 299-318, 335-349, 355-367

Saich. *The Chinese People's Movement: Perspective on Spring*, 1989, pp. 25-49, 83-163.

Unit 12

Lecture on the deepening of marketization and new conflicts

Readings on new social movement

Mallee, "Migration, Hukou, and Resistance in Reform China"

Zweig. The Externalities of Development"

Grading Methods:

A. Short writing assignment (15 percent of final grade)

There will be a short writing assignment based on the movie. It will be graded Excellent, Satisfactory, Poor. If you miss the movie you will be asked to finish readings the Spiral Road and write a 1,000 word review of by the following class.

B. In-class exams (45 percent of final grade)

There will be two in-class exams of short identification and/or multiple choice answers based on the lectures. They will be graded on the regular A-F scale.

C. Final writing assignment (40 percent of final grade).

This will be graded on an A-F scale. As this assignment is considered a take-home final, failure to hand it results in an "F" grade for the entire course regardless of your grades on the other course assignments).

D. Attendance is expected of all students enrolled in course. Attendance will be taken.

グローバルヴィレッジ構築に向けて：日本とサブ・サハラ アフリカ地域

(春学期) (Spring)

BUILDING THE GLOBAL VILLAGE

高橋良子

環境情報学部教授

Yoshiko Takahashi

Professor, Faculty of Environmental Information

フリードマン デビッド

環境情報学部教授

David Freedman

Professor, Faculty of Environmental Information

Sub Title:

Perspectives on Japanese Policy in Sub-Saharan Africa

Syllabus:

In an increasingly connected world, there are no specialty areas. Integration into a growing global economy encompasses both economic and trans-economic issues. At the Davos World Economic Forum 2001, the term "culturomics" was coined to define how various intellectual disciplines need to be combined in order to offer a fuller world view.

This course will focus on geo-political areas that stand outside the "global economy" (at this point) and issues that such areas face as they plan to integrate their economies and cultures into the "global village."

As the countries of Sub-Saharan Africa attempt to formulate policies in areas such as HIV care and education, sustainable development, conflict management and the growth of open societies, these policies connect with similar policies and issues around the world. Japan has made aid for African nations and support for the NEPAD (New Partnership for Africa's Development) a major part of its international policy. Last year, for example, at the third TICAD (Tokyo International Conference on African Development), Japanese Prime Minister Junichiro Koizumi pledged US\$1 billion for education and health care in Africa, which made Japan as one of the largest aid donors to Africa. Yet despite these official policies, Japanese trade with some Sub-Saharan countries has actually dropped, and the Japanese public remains distantly aware of Sub-Saharan Africa and the forces that have shaped its present situation and the role of the Japanese government in Sub-Saharan countries.

This course will help deepen students' understanding of the contemporary Sub-Saharan African nations and their socio-political and cultural issues which affect global governance and Africa. Through a series of lectures offered by ambassadors and embassy officials from the African Union (<http://www.mbendi.co.za/orsadc.htm>) students will explore the variety of links diplomatic, educational, economic and cultural that tie Japan to contemporary Africa.

Texts (tentative recommendations):

- 1) <http://web.africa.ufl.edu/asq/v5/v5i2a4.htm> (African Studies Quarterly Japan-Emerging Trends in Japan-Africa Relations: An African Perspective)
- 2) Dynamics of Japan's Relations with Africa: South Africa, Tanzania and Nigeria By: Ampiah, Kweku Published By: Routledge

Tentative Course Schedule (this schedule is subject to change due to the availability of various Ambassadors and embassy officials.):

Class 1 Introduction and Organization: A short discussion of Japan's involvement in Sub-Saharan Africa and the organization of student research group based on country.

Class 2	A Short History of Africa: Overview lecture on African histories
Class 3	Sub-Saharan Africa and Japan: Overview lecture by an official of the Ministry of Foreign Affairs of Japan
Class 4	Sub-Saharan African Aid and the Bretton Woods System: An examination of early aid projects to the newly independent African states and constraints by the prevailing economic theories of the Bretton Woods system; NEPAD's responses to some of the issues arisen from this system
Class 5	"Mediated" Africa: The effect of the "classic" media images of African societies on policy, perceptions and tourism *Ambassador of Kenya *Ambassador of Tanzania
Class 6	The African Response to AIDS: An examination of policies adopted to address the social and economic issues of AIDS pandemic. *Ambassador of Uganda *Ambassador of Zambia
Class 7	Mid-term Review: Discussion of the students' ideas for their individual final papers, and work with their research group on their presentation.
Class 8	African Issues and Solutions: An examination of the some of the issues of the post-colonial legacy *H.E. Dr. B. Nugbane, Ambassador of the Republic of South Africa *Ambassador of the Republic of Zimbabwe
Class 9	Models of Development for Micro-Economies: Policy options pursued by smaller African nations with non-integrated economies *Ambassador of Botsawana *Ambassador of Malawi
Class 10	African Policy and Japanese Scholarship : An intermediary role played by academic research and exchange between policy development and application. *Ambassador of Angola
Class 11	Symposium (tentative) In case of scheduling problems with the symposium this class will be a concluding lecture covering such topics as African Resources: Eco-tourism, spiritualities and communitas-the possibilities of non-material resources in development.
Classes 12 & 13	Final group project presentations and class summary

Evaluation:

As this class is based on the talks given by the guest speakers and the students response attendance is of the UTMOST importance. Daily participation will account for 45% of the final grade. Group work both in hosting the guest speaker from the group's chosen country and the final oral group presentation will account for a further 20% of the evaluation. A final individual research paper of 5 page minimum (single space, 12 pt font) with a separate bibliography will account for the final 35% of the grade.

Note to Interested Students:

- Students interested in this course, please be present at the first meeting and have researched the following sites:
①<http://www.mofa.go.jp/region/Africa/> 2) and ② <http://www.jica.go.jp/English/activities/regions/09afr.html>
- Although the class will take place in 4th period, there will sometimes be an opportunity for interested students to spend sometime after the class period with the visiting Ambassadors of that day. Please consider this when planning your schedule

国際人権法

(春学期) (Spring)

INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW

細谷明子

国際センター講師

Akiko Hosotani

Lecturer, International Center

Sub Title:

Issues, procedures, and advocacy strategies regarding the promotion and protection of human rights worldwide

Subject of the class:

Students will study five different aspects of international human rights including:

- Procedures for implementing international human rights involving state reporting to treaty bodies; individual complaints; thematic, country rapporteurs, and other U.N. emergency procedures for dealing with gross violations; humanitarian intervention; criminal prosecution and procedures for compensating victims; diplomatic intervention; state v. state complaints; litigation in domestic courts; the work of nongovernmental organizations; etc.

- (2) Major international institutions including the human rights treaty bodies; the U.N. Commission on Human Rights and its Sub-Commission on the Promotion and Protection of Human Rights; the U.N. Security Council; international criminal tribunals; the International Criminal Court; U.N. field operations authorized by the U.N. Security Council or under the authority of the U.N. High Commissioner for Human Rights; the Inter-American Commission on and Court of Human Rights; the European Court of Human Rights and other parts of the European human rights system; the U.N. High Commissioner for Refugees; and the International Labor Organization
- (3) Human rights situations in various countries such as South Africa, Iran, Myanmar, East Timor, Kosovo, Cambodia, former Yugoslavia, the Democratic Republic of Congo, Japan, the United States, Europe, Sudan, Ghana, and India
- (4) Substantive human rights problems related to the rights of the child, economic rights, the right to development, torture and other ill-treatment, minority rights, the right to a free and fair election, human rights in armed conflict, crimes against humanity, arbitrary killing, indigenous rights, self-determination, discrimination against women, the rights of refugees, etc.
- (5) Learning methods such as advising a client, role-playing, the dialogue methods, drafting, and advocacy in litigation

The principal book:

David Weissbrodt, Joan Fitzpatrick, and Frank Newman, International Human Rights: Law, Policy and Process (3rd ed. 2001) and supplement Selected International Human Rights Instruments and Bibliography for Research on International Human Rights Law

Assignments:

Assignments are listed below as to each class session:

- Apr. 12: Preface and Chapter 1: Introduction to International Human Rights Law and Drafting Human Rights Treaties
- Apr. 19: Chapter 4: Ratification and Implementation of Treaties; the Covenant on Economic, Social, and Cultural Rights
- Apr. 26: Chapter 5: State Reporting under International Human Rights Treaties; Cultural Relativism
- May 10: Chapter 6: What U.N. Charter-Based Procedures are Available for Violation of Human Rights?
- May 17: Chapter 7: Humanitarian Intervention
- May 24: Chapter 8: Can Human Rights Violation Be Held Accountable?; ad hoc Tribunal for the former Yugoslavia, or; Documentary, Long Night's Journey into Day (South African Truth Commission)
- May 31: Chapter 9: International Human Rights Fact-Finding
Lecture: Professor David Weissbrodt, the Rights of Non-Citizens (tentative)
- Jun. 7: Chapter 10: How Can the Government Influence Respect for Human Rights in Other Countries?
- Jun. 14: Chapter 11: Inter-American Human Rights System; the Organization of African Unity
- Jun. 21: Chapter 12: European Human Rights System
- Jun. 28: Chapter 13: Domestic Remedies for Human Rights Violations; Enforcing International Human Rights in Japan's Courts, Legislature and Administration
- Jul. 5: Chapter 15: Refugee and Asylum Law; Jurisprudence of Human Rights; Cultural Relativism
- Jul.12: Questions & Answers for reviewing the exam

Comment on the Class:

The class encourages students to analyze case situation and to evaluate the most effective methods to prevent human rights violations. Because of the evolving nature of the laws and issues in this field, students can participate as strategists and investigators.

Grading Policy:

Students will receive their grade for the course based on (1) class attendance (10%), (2) significant contribution to class discussion (10%), (3) an essay (30%), and (4) a final Exam (50%).

Office Hours:

Wednesday, 1-3 p.m. or by appointment

世界政治におけるラテンアメリカ

(春学期) (Spring)

LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS

アントリネス, マリオ 国際センター講師

Mario Antolinez Lecturer, International Center

Course Description:

The countries of Latin America and the Caribbean form a vast and complex part of the Western Hemisphere. Although the strategic geopolitical relevance of the region has been recognized, Latin American values and attitudes regarding politics, business and life in general

remain profoundly misunderstood, if not totally unknown by many. Not surprisingly, what people think they know about the region is based on unfair stereotypes and generalizations generated by some dramatic event covered by the world media.

Thus, the main objective of this course is to foster a greater understanding of the region's realities. The course is designed as a multidisciplinary study focusing on Latin American politics, economics and foreign policy, and it is divided in two parts. Part I deals with the main features of Latin America as a region, while Part II consists mainly of a country-by-country approach.

Text Books:

Hillman Richard, "Understanding Contemporary Latin America". Lynne Rienner Publishers, 2001.

Reference Books:

- Atkins Pope, "Latin America in the International Political System". Westview Press, 1995.
Black Knippers Jan, "Latin America: Its Problems and Its Promise". Westview Press, 1998.
Calvert Peter, "The International Politics of Latin America". Manchester University Press, 1994.
Cortes Roberto, "The Latin American Economies". Holmes & Meir, 1985.
Child Jack, "Geopolitics and Conflict in South America". Praeger, 1985.
Lael Richard, "Arrogant Diplomacy". Scholarly Resources, 1987.
Levine Donrel, "Religion and Politics in Latin America". Princeton University Press, 1981.
Lowenthal Abraham, "Partners in Conflict: The United States and Latin America". Johns Hopkins University Press, 1990.
Molineu Harold, "U.S Policy toward Latin America: From Regionalism to Globalism", Westview Press, 1990.
Peeler John, "Latin American Democracies". University of North Carolina Press, 1983.
Rosenberg Mark, "Americas: An Anthology". Oxford University Press, 1992.
Smith Peter, "Modern Latin America". Oxford University Press, 1997.
Tokatlian Juan, "Teoria y Practica de la Politica Exterior Latinoamericana", 1983.
Wesson Robert, "U.S. Influence in Latin American in the 1980's. Praeger.

Class Schedule per week:

PART I

- Session 1: Introduction
Session 2: The Actors
Session 3: The Inter-American System
Session 4: Latin American Integration and Association
Session 5: Economic Outlook
Session 6: International Relations
Session 7: Latin America and the United States

PART II

- Session 8: Mexico and Brazil: The Regional Giants
Session 9: Cuba: The Socialist Way
Session 10: The Andean Region: Breakdown and Recovery
Session 11: The Southern Cone: Authoritarianism and Democracy
Session 12: Central America: Dictatorship and Revolution
The Caribbean: Colonies and Micro-states
Session 13: Final Exam

Grading:

The course is organized as a combination of lecture and seminar, and will be conducted in English. Performance will be evaluated on the basis of attendance (30%), class participation (20%), oral presentation (20%) and a final exam (30%).

グローバルビジネスにおける革新と戦略

(春学期) (Spring)

INNOVATION AND STRATEGY IN GLOBAL BUSINESS

トビン, ロバート I. 商学部教授

Robert I. Tobin

Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course examines successful innovations in global organizations-including market-changing products, inventive approaches to leadership and work, synergy between technology and product development, and the crafting, implementing and executing of business

strategy. Ideas, customers, leadership, technology, markets, and talent are all part of the mix when companies innovate and craft business strategy—and will be examined in this course.

Students will develop the skills and tools that are critical for inventing and utilizing new business concepts, re-inventing old ones, and making innovation part of their lives.

The course will be conducted seminar -style with lecture-discussions, student group presentations, case studies, video segments, experiential class activities, and research assignments.

Text Books:

Leading the Revolution by Gary Hamel
Supplementary Reading Materials and Case Studies
Additional Book To Be Assigned

Reference Books:

Students are encouraged to read related materials in The Asian Wall Street Journal, Business Week, and Fast Company and to watch related business television broadcasts.

Class Schedule per week:

List of Topics:

- Introduction: Time of Change & Innovation
- Trends In International Business Leadership /and Strategy
- Encouraging Ideas / Innovation
- What to Do About Decaying Strategy
- How to Become A Global Innovator
- New Market Expansion and Entry
- U.S. ,China, Thailand, Japan
- Global Leaders/Global Partnerships
- A look at Global Leaders
- Global Companies/Working Overseas
- Impact and Meaning of Anti-Globalization Forces
- Creativity in Leadership
- Future of International Business

Additional information about this course available at www.tobinkeio.com

Message to those taking this Course:

A challenging, innovative course designed to encourage you to think in new, innovative ways. Be prepared for a challenging, rigorous course. This course attracts a large number of Keio's top students from every faculty and exchange students from around the world. No business background is necessary. There is substantial opportunity for student interaction and collaboration.

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

Grading:

Evaluation based on successful completion of assignments and projects, participation and on-time attendance, and an examination. In the event of unavoidable absence, please contact another student for assignments and be prepared for the next class. All assignments must be typed and no late papers are accepted.

Questions, Requests:

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

現代ロシア研究

(春学期) (Spring)

UNDERSTANDING RUSSIA

ナコルチェフスキー, アンドロイ

文学部助教授

Andrei Nakortchevski

Associate Professor, Faculty of Letters

The main purpose of this course is an attempt to understand contemporary Russia, to understand people who live in this still somewhat enigmatic land in the context of its own history of contacts with other nations. This course will not be a standard course in history and culture. We will talk more about things which usually remain unsaid in academic papers — about how average Russians live, what they like and dislike,

what they value and what they hate. We will try to comprehend a legendary “enigmatic soul” of Russians, to enter their inner world and look at it from within. We will also discuss general features of unique Russian civilization developed geographically and culturally between East and West. We will try to understand Russia escaping any distortions as best we can, using a lot of video materials as illustrations and sometimes as a base for discussion.

What does it mean to be a Russian? This will be the main question to which we will try to find an answer during these classes.

アメリカ研究：アメリカの歴史・文化と外交政策

(春学期) (Spring)

AMERICAN STUDIES

ウィリアムス, ムケシュ 国際センター講師

Mukesh K. Williams Lecturer, International Center

Sub Title:

American History, Culture and Foreign Policy

Rationale:

After the collapse of the Soviet Union in 1991 the United States emerged as the most important nation in the world. Every nation has some kind of relationship with the United States, which is either profitable or unprofitable. No nation can ignore the United States or fail to understand American history, culture and foreign policy. Most nations therefore include American Studies within their academic, bureaucratic and administrative orientation. Since the nineteenth century nation states especially America have tried to define key words and ideas relating to freedom, welfare, civil rights, sovereignty, representation and democracy to create a composite intellectual and political culture. The American Studies Program will introduce students to the inter-disciplinary study of American history, culture and foreign policy and help them to understand how Americans and non-Americans think about America.

Course Outline:

The course will introduce 4 modules, each module containing a big idea namely:

1. Nation and Narration: constructs the Pocahontas story/myth; human arrival in North America; Native American life; the Americas, West Africa and Europe on the eve of contact; American industrial heritage; the work of Samuel Slater in the late eighteenth and early nineteenth centuries in Pawtucket in constructing industrial America.
2. Immigration and Cultural Change: ‘Old’ and ‘New’ immigration; the world of the immigrants; a new working class; the limits of mobility and ethnic diversity; the Chinese Exclusion Act; new forms of leisure and mass entertainment; the American Dream; 1965 Immigration Policy; multiculturalism and identity politics.
3. National and International Identities: Reconstructing World War II, American neutrality and the road to war; post-war economic boom, the rise of consumer society; the crabgrass frontier; the Baby Boom; the birth of television and the influence of advertising; roles of women and *The Feminine Mystique*; the Korean War; the arms race; the Red Scare and McCarthyism; the early civil rights movement; teen rebellion and rock’ n roll; the media and Vietnam War; rise of CNN.
4. American Foreign Policy—Neutrality to Involvement (1865–1917): Early American isolationism, moral foreign policy; postwar naval/air supremacy (1920–2004), manifest destiny, American unilateralism, America as the policeman of the world, clash of civilization and war against terror.

The course will help students to confront the contradictions and inherent tensions in the American narrative without the false hope of an easy solution. We will not fail to discuss democratic aspirations, concepts of justice, American solidarity/Christian and Islamic divide and national identity. Along the way we would also question the methods and perspectives by which we study our subject by asking some of the following questions:

- a) How do Americans think of themselves as a nation and the rest of the world? And how do people from other nations think about America? (Samuel Huntington, *The Clash of Civilization*; radical evil/Christian good; liberal/democratic frameworks—Richard Bernstein, *Radical Evil*)
- b) How is space constructed in the lives of individuals in America? How changes brought in by pre-industrial, industrial and post-industrial societies reconstituted the lives of people in the U.S.? (Vertical/horizontal expansion; notions of bigness/assertion; David Reisman, *The Lonely Crowd*; national parks—European signatures/Native American erasures—Yosemite and Yellowstone National Park)
- c) What are the popular methods of understanding the culture and society of America? (Clifford Geertz and others)
- d) How do we imagine the past and its effects on social and cultural representation? (Hayden White, Stuart Hall and David Hollinger)
- e) How do the concepts of American unilateralism and manifest destiny define American foreign policy?

Aims:

The students will get an opportunity to:

1. acquire presentation and negotiation skills
2. learn new concepts, methods and vocabulary
3. understand stereotypes of knowledge, reason/critical thinking, culture, gender and politics (bias, manipulation, prejudice, discrimination and hegemony)
4. synthesize diverse opinions and perspectives from within and outside America
5. develop skills to write/think purposefully and strategically
6. acquire the habit to pursue independent thinking

Reference Books:

Short selections from the following books and essays:

Richard J. Bernstein, *Radical Evil: A Philosophical Interrogation*, (Cambridge: Polity Press, 2002)

———, *The New Constellation: Ethical-Political Horizons of Modernity/Postmodernity*, rpt., 1998; (Cambridge, Massachusetts: The MIT Press, 1992).

Julia Kristeva, *Nations Without Nationalism*, (New York: Columbia University Press, 1993)

Samuel Huntington, *The Clash of Civilization and the Remaking of World Order*, (New York: Touchstone, 1997).

Clifford Geertz, *The Interpretation of Culture*, (New York: Basic Books: 1973).

———, *Available Light: Anthropological Reflections on Philosophical Topics*, (Princeton: Princeton University Press, 2000).

Todd Gitlin, *The Twilight of Common Dreams: Why America is Wracked By Culture Wars*, New York: Henry Holt & Company, 1995).

David A. Hollinger, *Postethnic America*, (New York: Basic Books, 1995).

Giles Gunn, "Introduction: Globalizing Literary Studies," *The Modern Language Association of America*, 2001, pp. 16-31.

Rober Young, *White Mythologies: Writing History and the West*, rpt 2003; (London: Routledge, 1990).

Tzvestan Todorov, *The Conquest of America: The Question of the Other*, (Norman: The University of Oklahoma Press, 1999).

Stuart Hall, *Representation: Cultural Representations and Signifying Practices*, (London: Sage, 1997).

David Reisman, *The Lonely Crowd*, (New Haven: Yale University Press, 2001).

Werner Sollors ed., *Theories of Ethnicity: A Classical Reader*, (London: Macmillan Press, Ltd., 1996).

Charles Taylor, *Multiculturalism: Examining the Politics of Recognition*, (Princeton: Princeton University Press, 1994).

Class Schedule per week:

- | | |
|------------------------|--|
| 1 st Week: | Shopping |
| 2 nd Week: | Introduction to the course, handouts, a short reading list; Imagining the nation—European and Native American ideas. Extract from Todorov's <i>The Conquest of America</i> ; Sollors, <i>Theories of Ethnicity</i> ; de Tocqueville, <i>Democracy in America</i> , |
| 3 rd Week: | 3 Worlds Meet—Europe, West Africa and Native Indian-Video Script. Disney imagining Pocahontas—multicultural, racial (anti-British and anti-Indian) and feminist issues |
| 4 th Week: | Immigration and Cultural Change, video; OMD Directive 15. Immigrant writers such as Saul Bellow/Malamud Isaac Singer/Anzia Yezeriska, Toshio Mori, Hisaye Yamamoto, John Okada, Jhumpa Lahiri, Amy Tan et. al. Handout: Giles Gunn, "Globalizing Literary Studies." |
| 5 th Week: | A brief discussion of topics of presentation such as European pioneers, Native American concept of land/music/family life/politics, immigrants/ multiculturalism/working class life in big cities (Reisman, <i>The Lonely Crowd</i>); personal is political, civil rights movement—Malcolm X/Martin Luther King/FBI; Japanese Americans/Internment camps/loyalties etc. Choose topics for presentation. |
| 6 th Week: | Make small groups (about 2/3 students) to discuss presentation topics followed by question-and-answer discussion session. Summing up—representation of social and political reality. Create a format for presentation/outline. |
| 7 th Week: | World Wars I and II/Postwar America. Extracts from Gitlin and Hollinger; Show all three videos (if time permits). |
| 8 th Week: | Readings form speeches of Malcolm X and Martin Luther King Jr., A discussion of Harlem and the First Abyssinian Church, New York; Handout from Stuart Hall, <i>Representation</i> ; Taylor and Appiah, <i>Multiculturalism</i> . |
| 9 th Week: | American Foreign Policy: Show video US and the World (1865-1917); extract from Huntington's <i>The Clash of Civilization</i> . |
| 10 th Week: | Henry Kissinger and others on American Foreign Policy |
| 11 th Week: | End-Semester Presentation and 4-page final report |
| 12 th Week: | End-Semester Presentation and 4-page final report |
| 13 th Week: | End-Semester Presentation for latecomers/course evaluation |

Message to those taking this Course:

Please read the handouts and textual material at home so that you are better prepared to discuss topics in class more enthusiastically and creatively.

Grading Methods:

1. End-Semester Class research-based presentation in class (60% credit)
2. An end-semester 4-page report on the topic chosen for presentation (20 % credit), homework based on the text/supplementary material (10% credit)
3. Attendance, Participasion 10% credit.

アフリカン イシューズ： アフリカにおける近代と危機の意味

(春学期) (Spring)

AFRICAN ISSUES

近藤英俊

国際センター講師 (関西外国語大学助教授)

Hidetoshi Kondo

Lecturer, International Center (Associate Professor, Kansai Gaidai University)

Sub Title:

The meaning of modernity and crises in Africa

Course Description:

Children, who are emaciated with protruding bellies and fly-infested faces, are crying for food, or worse, already motionless in their mothers' arms. For many, such a shocking scene is typically associated with Africa. This popular imagery has its origin in mass media that are often sensationalistic as to African coverage. The truth is that Africa is the continent of wonderfully rich and diverse cultures, where people live their vibrant everyday life. Yet, from this, it does not immediately follow that Africa is a trouble-free region. Just as Japan and other industrial countries have many social problems, Africa does have critical issues to be pursued.

This course is intended to explore some of the major problems that Africa is currently facing. This year we will focus on the issues of movement of people in contemporary Africa. Migration is an important feature of the lives of a large number of African. Contrary to a conventional view that African villagers never see the outside world, they often move away from their villages without severing their ties with homes. It is a practice of *longue durée* as well as experiencing contemporary transformations. However, movement does not merely refer to geographical movements of people but more importantly to social and cultural shifts. People commonly move between groups (therefore change their personal identities), between works, between religious faiths, between medical practices and lots more, which presupposes considerable social and cultural plurality.

Using wide range of academic disciplines, we will explore geographical movements, and social and cultural shifts in contemporary Africa. Thus, the topics we deal with include: (1) urban-rural migration, (2) multiplicity of identities and their changes, (3) diversification of occupations and jobs, (4) situational changes in religious and medical practice, (5) crisis situations attributable to such movements and plurality. The course will highlight movement as modernity in Africa.

Text Books:

Texts will be distributed in due course.

Reference Books:

1. Trager, L. 2001. *Yoruba Hometowns*. Linne Tienner.
2. Kondo, H. 2003. "Illness in Between". *Japanese Review of Cultural Anthropology* 4

Message to those taking this Course:

The course comprises lectures and class works. For class works, students are required to read and summarise a part of books or articles (minimum 30 pages per week) before attending the class. In the class, students will discuss their readings in a small group and then present it in front of all the rest. This is by no means an easy course!

Grading Methods

Assessment is based on active participation in class works and an essay (3000 words) submitted at the end of the term.

国際開発協力論

(秋学期) (Fall)

INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION

長谷川 純一

国際センター講師 (東京大学客員教授)

Junichi Hasegawa

Lecturer, International Center (Visiting Professor, University of Tokyo)

Sub Title:

Framework for Poverty Reduction in Developing Countries

Course Description:

70% of the world population live in developing countries. Discussions will be provided for the students who are expected to live and work in the global world. The main topics of the class are: 1) nature of developing countries and development strategies; 2) actual practice and methodology of aid; 3) public opinion on ODA, national interest and international society; and 4) international organizations, bilateral aid agencies and history of development cooperation.

Text Books:

Printed materials will be provided for the actual cost.

Reference Books:

Todaro, Michael and Stephen C. Smith, *Economic Development 8th Edition*, Harlow/Boston, Pearson Education/Addison-Wesley, 2002
Easterly, William, *The Elusive Quest for Growth Economists' Adventures and Misadventures in the Tropics*, Cambridge: The MIT Press, 2001

Class Schedule per week:

1. Introduction to International Development Cooperation
2. Economies of Developing Country
3. Evolution of Development Economics
4. Actual Practices of ODA
5. ODA, Governing Law and National Interest
6. Japanese ODA and Public Opinion
7. 50 Years of ODA and Thoughts behind It
8. Aid Organizations
9. What is the Role of NGOs?
10. Pursuing Effective Aid
11. Current Topics in Donors' Circle
12. Is Aid Effective? <Micro Macro Paradox>
13. (TBD)

Message to those taking this Course:

Let us think about Development! No prior knowledge is required, but your active participation is strongly encouraged.

Grading Methods:

One Term Paper will be requested. Evaluation will be made based on active class participation (50%) and Term Paper (50%).

Inquires

mailto:j-hasegawa@jbic.go.jp

異文化研究：国際化と異文化理解プロセス

(秋学期) (Fall)

INTERNATIONALISM AND CULTURAL LEARNING

シヨールズ, ジョセフ 国際センター講師 (立教大学助教授)

Joseph Shaules Lecturer, International Center (Associate Professor, Rikkyo University)

Sub Title:

Human relations in the new global community

Course Description:

Traveling, living abroad and dealing with people from other cultures sometimes leads to understanding, tolerance and rich human relations. At other times, it increases stereotypes, creates conflict, causes culture shock and even identity crises. In this course, we will study this process of cultural learning. We will look at the stages that sojourners (travelers, expatriates etc.) go through when adapting to new environments, including how one's view of the world, values, and even identity can change. We will try to understand what it means to be "international" or "bi-cultural". The emphasis will be on the personal cultural learning experience, rather than geopolitical issues. There will strong emphasis on student discussion, student presentations, and students' intercultural experiences.

Text Books:

Handouts to be supplied by the teacher.

Reference Books:

- 1) Different Realities — Adventures in intercultural communication, by Shaules & Abe, published by Nan'un-do
- 2) Identity, by Shaules, Tsujioka & Iida, published by Oxford University Press

Class Schedule per week:

1. Class introduction
2. The nature of intercultural contact — Deep and shallow cultural learning
3. Visible and invisible culture — the cultural onion
4. Student presentations
5. The goals of cultural learning — sympathy, empathy & constructions of reality
6. The “Deep difference” model of intercultural development — the three reactions
7. The roots of prejudice — Intercultural resistance
8. Student presentations
9. Towards ethnorelativism — Intercultural acceptance
10. Biculturalism and beyond — Intercultural adaptation
11. Community and the “multi-cultural man”
12. Student presentations
13. final class

Message to those taking this Course:

This class is especially recommended for students with interest in (or experience of) living abroad. Students will share their personal point of view, and are expected to share experiences and ideas during discussion and presentations. This class is open to all students, regardless of their previous level of intercultural experience.

カナダという国とカナダの国際的な役割

(秋学期) (Fall)

CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE

イエローリーズ, ジェームズ 国際センター講師 (カナダ日本連盟日本代表)

James Yellowlees

Lecturer, International Center (Director-Japan, Canadian Education Alliance)

Course Description:

The course will focus on introducing the history, economy and social and political systems of Canada. Students will then examine contemporary Canada and its role in the international community. We will make use of videos and computer assisted media.

Message to those taking this Course:

Canada is a very interesting nation that has a lot of potential. If you are interested in learning more about Canada please consider taking this course.

Grading Methods:

Grading Criteria: A five-page written Report on one aspect of Canadian Politics, Economy, Society or Culture.

国際関係

(秋学期) (Fall)

INTERNATIONAL RELATIONS

セツト, アフターブ

慶應義塾大学 グローバルセキュリティ研究所 所長

Aftab Seth

Director, Keio University Global Security Research Center

Sub Title:

A view from a practitioner

Course Description

This series will cover a wide range of subject:

Civilisational cross fertilization, The Cold War, South Asia where one sixth of humanity resides, the vital questions arising from attempts being made to bring about integration at Track I and Track II levels, the increasing role being played by NGOs and civil society in harmonising divergences on a range of issues, the vibrant country Vietnam its troubled past and its bright future, and related topics. These lectures will be presented in the context of 35 years spent by the lecturer, in the practice of Diplomacy, 7 of which were as a Consul General, in charge of post

which is a sub office of and Embassy and 11 years as an Ambassador to 3 countries, Greece, Vietnam and Japan.

Text Books:

象は痩せても象である—英語版・“Even if an elephant gets thin, it is still an elephant”

Reference Books:

- Leadership in an interdependent world by Ghita Ionescu, Longman
- Reconciliation in the Asia Pacific edited by Yoichi Funabashi, US Institute of Peace Press
- Peace and security in the Asia Pacific region edited by Kevin Clements, UN University Press
- Contemporary Conflict Resolution, Hugh Miall, Oliver Ramsbotham, Tom Woodhouse by Polity Press
- South Asia in the world edited by Ramesh Thakur and Oddny Wiggen UN University Press
- The debate over Vietnam by David W. Levy, Johns Hopkins, University Press
- Origins of the Cold War edited by Melvyn P Leffler and David S Painter Routledge publishers
- Beyond the Judgement of Civilisation by Ushimura Kei Translated by Steven J Ericson by International House of Japan, Japanese title Bunmei no sabaki o koete.
- Is Japan still number one, Ezra E Vogel Pelanduk Publications 2000
- Victor's Justice Tokyo War Crimes Richard H Minear Princeton University Press
- Japanese Higher Education a Myth by Brian J McVeigh published by ME Sharpe 2002
- The Journal of Oriental Studies: Special Series The Spirit of India VOL 13 2003, by the Institute of Oriental Philosophy
- The Man who Harvests Sunshine by Andras Erdelyi: the Modern Gandhi: MS Swaminathan (to be continued)
- Ten Years of the Sasakawa South East Asia Cooperation Fund by Sasakawa Peace Foundation
- Innovation and Change selected essays and Christianity in the Arab World by Prince El Hassan bin Talal of Jordan published by Majlis El Hassan Amman Jordan 2003 and SCM Press London respectively.
- Bulletin of the Royal Institute for Inter-Faith Studies Vol 5 Number 2 Autumn/Winter 2003 printed by the Institute in Amman Jordan

Class Schedule per week:

- 1) Introduction
- 2) & 3) India and Japan in a resurgent Asia-2 lectures including the role of an embassy
- 4) Cross fertilization in civilizations. A shared past
- 5) The Cold War, origins and demise
- 6) Asian Integration: Economic and Cultural
- 7) Conflict Prevention, Management and Resolution
- 8) South Asia-Perspectives and prospects
- 9) Leadership-its role in diplomacy: governance and inner peace
- 10) Regionalism, Multiculturalism and Multilateralism
- 11) Vietnam: perspective and prospects
- 12) Europe-Unity-Peace
- 13) Role of NGO's in international relations a case study: the MS Swaminathan Foundation, Institute of Satya Sai Education, Sasakawa Peace foundation, Toyota Foundation, The Royal Institute for Inter-Faith Studies

Message to those taking this Course:

There will be an attempt to invite guest speakers who will be Ambassador from other countries. This may lead to some changes in the titles of the lectures and the structure. The aim is to share experiences in the craft of diplomacy, the practical aspects of conducting international relations, including bilateral relations between 2 countries. Students from all faculties are welcome.

Grading Methods:

- Written Exam
- Graded on the basis of participation in class and group discussions and regular attendance.
- There will also be an oral interview for meritorious students

VISIONS OF THE PAST: CROSS-CULTURAL COMPARISON OF HISTORICAL FILM

エインジ, マイケル W. 経済学部助教授

Michael W. Ainge

Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

Historical Drama is a well-established film genre in most nations. While the majority of historical films ostensibly try to “re-create” past events, and present a “window on the past”, others depict the past in such a way as to comment on the nature of presenting history on film. In this course, we will examine historical films from around the world—Asia, Africa, Europe, Latin America and North America—with an eye on how they treat their historical subjects and on which attendant historiographical issues they raise. We will learn to recognize the basic issues and problems of presenting history on film (as compared to history recorded in books and manuscripts, for example), and this will allow us to discuss and compare how filmmakers in different cultures have responded to those problems.

First, we will define the two dominant types of historical film, the drama and documentary, analyzing their conventions, as well as assessing their limitations. Then, we will proceed to survey some alternative approaches to representing the past on film. All along, we will try to uncover the “hidden” ideological and interpretive assumptions in the films. We will have to consider the relationship between fact and film, and the questions of accuracy, completeness, complexity, argument. Finally, students will be expected to view a film independently, and to write a paper analyzing that particular film in light of the questions and theories discussed in the class.

Text Books:

A partial list of films on the course syllabus:

CEDDO (SENEGAL, 1978)

HEARTS AND MINDS (U.S.A., 1975)

THE MARRIAGE OF MARIA BRAUN (W. GERMANY, 1979)

QUILOMBO (BRAZIL, 1984)

SANS SOLEIL (FRANCE, 1982)

TANGO (SPAIN/ARGENTINA, 1998)

WALKER (U.S.A., 1987)

Last Samurai (U.S.A., 2003)

Grading Methods:

Students will be required to watch the assigned films on video before class, as homework, and to prepare questions for discussion in English in class. Assigned films will be available with English and/or Japanese subtitles. Evaluation will be based on: class participation (40%), and understanding of the course material as demonstrated in a term paper (60%).

DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE

倉沢 愛子

経済学部教授

Aiko Kurasawa

Professor, Faculty of Economics

Sub Title:

Effect of Development Policy and Social Change at Grass-roots Community in Indonesia

Course Description:

I will describe social changes brought by rapid and heavy development policy, taking a case of Indonesia. My analysis is based on field research in two sites (one urban and another rural) where I have been watching since 1996. I will focus on changes on such aspects as human relations within the community, flow of information and changes in communication mode, religious piety, life-style etc. I will show you video which I recorded at the research sites.

Through this course first of all I want you to get clear image on people's life in a relatively “unknown” world, and so doing, to reconsider such questions as what is “development” and what is “prosperity. Does economic development really bring you prosperity and happiness? Critical analysis and evaluation are most welcome.

Text Books:

give you hand-out

Reference Books:

倉沢愛子『ジャカルタ路地裏フィールドノート』中央公論新社 2001年

Class Schedule per week:

- (1) Introduction on Indonesia
- (2) Suharto's development policy and foreign aid (national level analysis)
- (3) Development policy in economic sector
- (4) Development policy in health sector (2 times)
- (5) Development policy in education
- (6) Neighborhood Association and Control of people
- (7) Increased flow of Information
- (8) Strengthening of Muslim belief (2 times)
- (9) Emergence of new urban middle class
- (10) Globalization and flow of pop culture
- (11) Definition of "prosperity"

Message to those taking this Course:

read several books on developing countries in Southeast Asia

Grading Methods:

Reports (4-5 pages (A4) of essay), Attendance,Participasion (requires 70% attendance)

アジア諸国におけるビジネスマネジメント

(秋学期) (Fall)

BUSINESS MANAGEMENT IN ASIAN COUNTRIES

トビン, ロバート I. 商学部教授

Robert I. Tobin

Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course focuses on strengthening your understanding of the major issues and challenges involved in the leadership of businesses in Asia. There will be a special focus on business strategy and the styles of management of firms headquartered in Japan, North America and Europe.

Among the topics will be the unique political, economic, social and cultural influences on managing Asian operations, issues related to corporate governance and ownership, entrepreneurship and strategy.

The course will be conducted seminar-style with presentations and discussions based on assigned readings, case studies, video segments, projects, experiential class activities, case studies and research assignments.

Text Books:

Text TBA

Additional assigned articles, case studies and supplementary readings

Reference Books:

Students are encouraged to read related materials in The Wall Street Journal, Business Week, and The Economist and to watch related television broadcasts.

Class Schedule per week:

- Introduction
- How to Succeed in Asian Markets
- Asian Market Leaders
- Hybrid Management Styles
- Leading Foreign Firms Successfully
- Local Company and Country Trends
- Country Information Presentations
- Pan-Asia Strategy
- Case Studies: Challenges of Joint Ventures and Blending Style
- Political and Economic Risks in Asia

Executive Development and HR
Challenges in Asia
Competition with Family Businesses
Business in Frontier Markets
Company Presentations

Additional information about this course available at www.tobinkeio.com

Message to those taking this Course:

A challenging, innovative course that examines the business approaches of countries in this region. Students call this an eye-opening course. Be prepared for a challenging, rigorous course. This course attracts a large number of Keio's top students from every faculty and exchange students from around the world. No background in business is required. There is substantial opportunity for student interaction and collaboration.

Evaluations:

Evaluation based on successful completion of assignments and projects, participation and on-time attendance, and an examination. In the event of unavoidable absence, please contact another student for assignments and be prepared for the next class. All assignments must be typed and no late papers are accepted.

Questions, Requests:

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

EU・ジャパン・エコノミック・リレーションズ

(秋学期) (Fall)

EU - JAPAN ECONOMIC RELATIONS

林 秀毅

経済学部非常勤講師 (新光証券商品企画部部长・グローバルストラテジスト)

Hayashi, Hideki

Part-time Lecturer, Faculty of Economics (Global Strategist, General Manager Financial Products Planning Department Shinko Securities Co., Ltd)

Course Description:

This course is intended to understand the EU-Japan relations, offered in English. Emphasis will be on the economic side of EU-Japan relations, rather than the political or historical.

In each lecture, points will be discussed based on Powerpoint documents. As it is expected to be a small class, active questions and comments by students are welcome.

At the end of each lecture, the topic to be discussed in the following week will be announced. Students are supposed to submit report on the topic one week after.

Text Books:

Julie Gilson, "Japan and the European Union. A Partnership for the Twenty-First Century", Palgrave Macmillan, 2000. (Several Copies of the text are on reserve at the library.)

References:

Kaji, Hama and Rice, "The Xenophobe's Guide to the Japanese," Oval Books, 1999.

Class Schedule (Subject to change):

Lectures will be based mostly on chapters of the text.

Chapter 1 Introduction: Assessing Bilateral Relations (1)

Chapter 2 Developing Cooperation 1950s - 80s (2)

Chapter 3 Japan and its Changing Views of Japan (3, 4)

Chapter 4 European Integration and Changing Views of Japan (5, 6)

Chapter 5 The 1990s and a New Era in Japan-EU Relations (7, 8)

Chapter 6 Cooperation in Regional Forums (9, 10)

Chapter 7 Addressing Global Agendas (11, 12)

Chapter 8 Conclusions: A partnership for the Twenty-first Century (13)

Each number in parenthesis indicates the number of the lectures subject to change. Additional articles and materials will be introduced, if necessary.

Message to Those Taking This Course:

The knowledge on European language (French, German, Italian, or Spanish) is preferable, but not essential.

Evaluation:

Exam. Reports. Attendance.

Questions and consultation:

Anytime during the class, also by e-mail.

産業史各論（科学技術政策史）

（春学期）（Spring）

HISTORY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY POLICY

ルイス, ジョナサン

商学部非常勤講師（一橋大学助教授）

Jonathan Lewis

Part-time Lecturer, Faculty of Business and Commerce (Associate Professor, Hitotsubashi University)

Course Description:

This course investigates the aims, effectiveness and unexpected consequences of science and technology policies around the world. It focuses the roles of states, in promoting and regulating scientific research and technological development.

In previous years I have talked in Japanese for the first half of each class and English for the second half, but will adjust this to fit students' preferences.

Reference Books:

Etzkowitz, Henry, 2002. *MIT and the Rise of Entrepreneurial Science*. Routledge.

Fuller, Steve, 1997. *Science*. Open University Press.

Levy, Pierre, 2001. *Cyberculture*. University of Minnesota Press.

Low, Morris; Nakayama, Shigeru and Yoshika, Hitoshi, 1999. *Science, technology and society in contemporary Japan*. Cambridge University Press.

Penely, Constance. 1997. *NASA/Trek: popular science and Sex in America*. Verso.

Samuels, Richard J., 1994. *Rich Nation, Strong Army*. Cornell University Press.

加藤弘一 著「電腦社会の日本語」文春新書, 2000

中山茂 他 著「通史 日本の科学技術」ガクヨウ書房, 1995

Class Schedule per week:

1. オリエンテーション
2. 技術政策の概要
3. イノベーションと技術普及論
4. 宇宙ロケットの開発史
5. プロジェクト・オライオン（原子力ロケット）
6. 国際宇宙ステーション
7. 海洋研究
8. 規格の役割。文字コードを例に
9. 著作権制度
10. オープン・ソース・ソフトウェア
11. コンピュータセキュリティ
12. 科学技術政策と大学
13. まとめ

Evaluation:

Each student is provided with a website. Students follow policy developments in a field of science and technology of interest to them, and posts their findings frequently to their website. Points are awarded for class attendance and for website entries.

Inquiries:

Jonathan_lewis@mac.com

<http://www.lewis.soc.hit-u.ac.jp>

日本研究講座 (JAPANESE STUDIES COURSES)

異文化コミュニケーション 1—日本のコミュニケーションパターンから見た場合—

(春学期) (Spring)

INTERCULTURAL COMMUNICATION 1

手塚千鶴子

国際センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, International Center

Sub Title:

Seen from Japanese communication patterns

Course Description:

This course has three interrelated purposes. The first is to help students learn some essential elements of Japanese psychology and culture, and their implications for communication patterns of Japanese people both among themselves and in intercultural settings. The second is to help students to examine both difficulties/challenges and excitements/joys of intercultural communication by learning key concepts and issues of intercultural communication. The third is to facilitate both Japanese and international students' on-going intercultural communication both by increasing self-awareness of how their respective cultures affect their communication patterns and by arranging them to learn to work together successfully on group projects which will serve as testing grounds for their intercultural communication.

Text Books:

No designated textbook and handouts will be distributed.

References:

Japanese culture and behavior: selected readings by Takie Lebra & William Lebra

Japanese patterns of behavior by Takie Sugiyama Leba

An introduction to intercultural communication by John C. Condon & Fathi Yousef

Intercultural communication :a reader (6th edition) by L. A. Samovar & R. E. Peter

Course Schedule:

1. Orientation and quiz on the impact of globalization on Japan
2. Conformity pressure vs. individualism in Japanese culture: a case study of Toko Shinoda, a female artist
3. What puzzles you about Japanese culture and society ? and Orientation to Group Projects
4. Understanding Japanese culture through examining mother-child relationship pictures and How to have good intercultural communication in class
5. Culture as mental software, functions of culture, and culture and communication
6. *Amae* psychology: prototype of *Amae* and definition of *Amae*
7. How *Amae* psychology and an emphasis on *Wa* gets translated into Japanese communication patterns: *Sasshi, Enryo and Honne* vs. *Tatemae*
8. How to overcome difficulties in intercultural communication: attribution, empathy and ethnocentrism
9. Preparation for Group Project
10. The Concept of *Sunao* and its implications for Japanese communication patterns: conflict avoidance, readiness to compliance ?, and open-mind
11. Comparing concepts of self between individualistic cultures and collectivistic cultures and its implications for intercultural communication between the two
12. Group project presentation 1
13. Group project presentation 2
14. Wrap-up

Message to Those Taking This Course:

Students who take this course are strongly encouraged to do risk-taking by sharing your opinions and feelings. Thus contributing to class by active participation in pair-work, group work and class discussion is a must, as the instructor believes that students learn a great deal from their classmates. As group projects, a major source for students' satisfaction, take so much time and energy in and outside of class, students' commitment is essential here. And your input to make this class better and interesting is always welcome by the instructor.

Evaluation:

Overall grades will be based on attendance, essays, participation in class, group project presentation, and final individual project paper based on group project.

Inquiries:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp.

英国と米国のマスコミに描かれた日本

(春学期) (Spring)

JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION

キンモンズ, アール H. 国際センター講師 (大正大学教授)

Earl H. Kinmonth Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)

Course Description:

This course examines foreign (primarily Anglo-American) views of Japan from the earliest awareness of Japan until the present. For Japanese, the course serves as an introduction to the many ways Japan has been and is seen by foreign observers. For non-Japanese, the course serves to introduce students to the limits and peculiarities of scholarly and journalistic writing on Japan. For both, the course is intended to give students an awareness of the degree to which not just journalists but also allegedly objective scholarly observers are in fact heavily influenced by the historical and political circumstances in which they write.

Recommended Reading:

Appropriate readings will be suggested in conjunction with the lectures.

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction to the course — “Whose images of which Japan?”
2. European knowledge of Japan before the coming of Perry
3. The Meiji Restoration and the Meiji Renovation as seen by foreign observers
4. The avid students become the Yellow Peril
5. Taisho Democracy and interwar Japan as seen by foreigners
6. Shame and constipation — Anglo-American anthropologists psyche out the Japanese enemy during the Pacific War
7. New Dealers in the American Occupation — progressive misunderstanding of the causes of militarism
8. Cold War politics and post-war American studies of Japan
9. The many and varied explanations for Japanese economic and technological success
10. Rote memory or creative teaching — the variegated image of Japanese education
11. Erotic geisha or smothering mother — the variegated image of Japanese women
12. Waiting for convergence, planning for containment — rational choice versus revisionism in the American view of Japan’s “bubble economy”
13. “Comfort Women” and “The Rape of Nanking” — American self-righteousness confronts Japanese evasiveness
14. Taking Japan Seriously? The who, the why, and how of foreign reporting on Japan
15. From super state to superannuated state — American images of “post bubble Japan”

Message to Those Taking This Course:

The final examination will be based on the lectures. Because no textbook is used, attendance is particularly important.

Evaluation:

Students will be expected to write one short paper on some aspect the foreign image of Japan or the Japanese image of a foreign country. There will be a final examination for the course based on the lectures. The final examination will be given during the scheduled examination period. The course grade will be computed as attendance and participation (20%), report (40%), and final examination (40%).

Inquiries:

Questions during or after lecture are welcome. Questions may be submitted in English or Japanese by email to ehk@gol.com. Special consultation before or after lecture can be provided upon request.

CORPORATE STRATEGIES, MANAGEMENT SYSTEMS AND PRACTICES IN JAPAN

稲葉エツ

国際センター講師 (財団法人貿易研修センター人材育成部長)

Etsu Inaba

Lecturer, International Center (Director, Human Resource Development Department, Institute for International Studies and Training)

Sub Title:

Understanding Key Success Factors for Developing and Implementing Corporate Strategies

Course Description:

Objectives:

1. This course tries to identify key success factors of linking corporate strategies with the management systems and practices. Using case studies and discussion, we will look at the micro level management strategies and practices.
2. The course also tries to develop analytical and experiential learning skills as well as discussion/presentation skills in students.

Under the increasingly global economy, companies are constantly reviewing their strategies and management practices to meet the new challenges. It is recognized that the competitiveness of corporations includes their ability to modify and change, as the environment changes, their management systems and practices. The course offers the opportunity to understand the linkage between corporate strategies and the process of developing management practices. In-depth understanding of selected corporations in Japan as “best practice” will be pursued through case studies, company visits and student’s own research

Basic frameworks will be provided during the course. Each student is expected to develop individual list of key success factors of implementing strategies through management practices, based on the case studies used during the course.

Classes are conducted in English. Discussions and information sharing will also take place through e-mails. Both undergraduate and graduate level students are welcome.

Recommended Readings:

Will be advised at the beginning of the course.

Class Schedule (Subject to change):

1. Course Orientation (1 session)
2. Discussion of Strategy development framework (1 session)
3. Discussion of cases (Major Japanese companies) (4 sessions)
4. Discussion of cases (Medium scale and entrepreneur cases) (2 sessions)
5. Students research presentations (4 sessions)
6. Company visit (2 sessions)

Message to Those Taking This Course:

To develop these skills and enhance understanding, students are required to read and analyze assigned case studies and do some further fieldwork.

Evaluation:

Performance will be evaluated on the basis of:

1) Participation in class discussion, 2) field work report and presentations, and 3) a final report. Fieldwork can take either group visit to companies and/or research on a company with student’s own initiative.

Inquiries:

Questions and discussions can take place through e-mails as well as in the classroom.

THE AWAKENING

アーマー, アンドルー 文学部教授

Andrew Armour Professor, Faculty of Letters

Course Description:

Japanese prose literature of the modern period will be discussed in this lecture course. In “Journey Through the Floating World” last summer, we covered the pre-modern literature of the Tokugawa period, an era that came to an abrupt end with the Meiji Restoration of 1868. The resulting political and social upheaval had a traumatic effect on many aspects of Japanese life, and literature was no exception. Some savored the sharp break with the past, while others looked back on their own cultural heritage for inspiration and continuity. We will focus on the development of the modern novel through the works of such writers as Natsume Soseki, Mori Ôgai, Akutagawa Ryûnosuke, Kawabata Yasunari, Tanizaki Junichirô and Mishima Yukio. Modern film adaptations will also be introduced

Text Books:

Instructions and materials are provided on the class website (www.armour.cc/mezame.htm)

Recommended Reading:

A list of reference works and useful links are available on-line.

Class Schedule (Subject to change):

A detailed list of the works covered in this course is available on the class website.

On completion of this lecture course, students should:

1. Be familiar with the major works of poetry, prose and drama in the period covered;
2. Comprehend the major literary currents in the period covered and be able to identify the importance of the major works in the development of these currents;
3. Be familiar with the major figures in Japanese literary history (including commentators and critics) and their achievements;
4. Understand the cultural background (including religious aspects) of the works covered and, where necessary, the political events that form a backdrop to the literature;
5. Be familiar with the reception of Japanese literature in the West.

In the last few weeks of the course, those students requiring a grade will have an opportunity to report on a reading and research project of their own choosing.

Message to Those Taking This Course:

The course assumes that the student has a working knowledge of English. Prior knowledge of Japanese literature is not required, though it is desirable. Naturally some familiarity with the Japanese language, spoken and written, is a plus.

Evaluation:

Grading is primarily based on the student's research project, presented to the class (using PowerPoint) according to a published schedule; a Q&A session will follow each presentation and a student's responses are taken into consideration in the grading process. Overseas students who want their credits to be transferred to their home university are advised to present their research results in the form of an academic paper, complete with notes and bibliography. Naturally, regular attendance is important in order to receive a passing grade; the International Center requires that a record be kept.

JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS

梅津光弘 商学部助教授

Mitsuhiro Umezu Associate Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

Goal:

In this course, we will analyse contemporary Japanese society and business from an ethical perspective.

Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized management and globally acceptable norms for future international business. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese Style Management which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable.

Method:

First, I will highlight the historical and theoretical aspects fundamental to analyzing Japanese society and business from an ethical perspective. Then I will assign you to read short cases which describe recent incidents that have caused public controversy both in Japan and elsewhere.

Texts:

Reischauer, E.O. The Japanese Today: Change and Continuity. The Belknap Press of Harvard University Press, 1988.

Handouts

Recommended Reading:

TBA

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction: Geography, Climate and Demography of Japan
2. Historical Orientation of Japan.
3. Interpretation of Contemporary Japanese Society 1
4. Interpretations of Contemporary Japanese Society 2
5. Interpretations of Contemporary Japanese Society 3
6. Midterm Exam.
7. Government and Business Interface
8. Japanese Corporate Governance
9. Ethical Issues in Japanese Workplace 1
10. Ethical Issues in Japanese Workplace 2
11. Japanese Business in Transition 1: Community
12. Japanese Business in Transition 2: Environment
13. Final Exam.

Message to Those Taking This Course:

This is a course for international students who want to learn about the fundamentals of Japanese society and business. It is necessary for you to have advanced-level English discussion skills. Through this discussion, I hope you will deepen your understanding of Japanese society and business, and develop cultural insights that help in dealing with practical issues in an international setting.

Evaluation:

Mid-Term Examination (TBA) 30%, Final Exam/ Project (TBA) 40%, Class Participation 20%, Home work 10%

美術を「よむ」－日本美術史入門

(春学期) (Spring)

INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN

村井則子

国際センター講師

Noriko Murai

Lecturer, International Center

Description:

This course explores the history of Japanese art from the mid-nineteenth century to the present. Modernity was first and foremost articulated through the construction of the nation state “Japan.” Visual arts played a central role in providing the modern nation with a cultural, social, and psychological identity. We will study the significance of modernity and modernism in different media including painting, sculpture, photography, and architecture. We will also consider broader issues such as commodity consumption, gender, and imperialism in the context of visual representation.

Requirements:

1. Short paper (4-5 double-spaced pages)
2. Take-home midterm exam
3. Take-home final exam
4. Two field trips to museums in the area

Readings:

There are no textbooks for the course. A *Source Book* containing all required readings for the course will be put on reserve.

Proposed Syllabus:

1. *Introduction*
2. *Constructing "Japanese Art"*
READING: Ellen Conant, "Refractions of the Rising Sun: Japan's Participation in International Exhibitions 1862-1910," (1991); Christine Guth, "From Temple to Tearoom," (1993).
3. *From Edo to Meiji: Takahashi Yuichi and Kanô Hôgai*
READING: Tôru Haga, "The Formation of Realism in Meiji Painting: The Artistic Career of Takahashi Yuichi," (1971); Ellen Conant, "Tradition in Transition, 1868-1890," (1995).
4. *Body and the Nude*
READING: Norman Bryson, "Yôga and the Sexual Structure of Cultural Exchange," (1994).
5. *Okakura Kakuzô and the Aesthetic Ideology of Asia*
READING: Excerpts from Okakura Kakuzô, *The Ideals of the East*, (1903) and *The Book of Tea*, (1906); Emiko Usui, "National Identity, the Asiatic Ideal, and the Artist: Okakura Presents the Nihon Bijutsuin in Boston," (1999).
6. *The Modern Artist, Urban Spectacle and the Modernist Vision*
READING: John Clark, "Artistic Subjectivity in the Taisho and Early Showa Avant-Garde," (1994); Miriam Silverberg, "Constructing the Japanese Ethnography of Modernity," (1992).
7. *Orientalism, Nativism, and Traditionalism*
READING: Alexandra Munroe, "Circle: Modernism and Tradition," (1994); Yoko Kikuchi, "Hybridity and the Oriental Orientalism of Mingei Theory," (1997).
8. *Images After Ground Zero*
READING: John Dower, "Japanese Artists and the Atomic Bomb," (1993); Yamanashi Emiko, "Painting in the Time of 'Heavy Hands'," (1997).
9. *Action and Expression: the Gutai Association*
READING: Sin'ichiro Osaki, "Body and Place: Action in Postwar Art in Japan," (1998).
10. *"Anti-Art" in the 60s*
READING: Alexandra Munroe, "Morphology of Revenge: The Yomiuri Independent Artists and Social Protest Tendencies in the 1960s," (1994).
11. *The Postwar Unconscious: Performance and Photography*
READING: Mark Holborn, "The Object Eye," "Junin-no-me," and Eikoh Hose," (1986); Susan Klein, "The Origin and Historical Context of Ankoku Butô," (1988).
12. *Architecture and the Public Space*
READING: Kenneth Frampton, "Twilight Gloom to Self-Enclosed Modernity: Five Japanese Architects," (1986).
13. *Image in the Age of Digital Manipulation: the 90s and beyond*
READING: Norman Bryson, "Morimura: 3 READINGS," (1996); Yuko Hasegawa, "Pachinko, Mandala and Merry Amnesia," (1997); Alexandra Munroe, "Hinomaru Illumination: Japanese Art of the 1990s," (1994).

Bibliography:

Bibliography will be distributed at the first class.

日本の近代思想：福澤諭吉と丸山真男

(春学期) (Spring)

JAPANESE TRADITION OF MODERN THOUGHT: FROM YUKICHI FUKUZAWA TO MASAO MARUYAMA

坂本 達哉

経済学部教授

Tatsuya Sakamoto

Professor, Faculty of Economics

Sub Title:

Seminar for reading and discussing some key texts from the works of the two most influential thinkers

Course Description:

This course aims to introduce students to a long and complicated history and its unique characteristics of Japanese modern thought as best represented by the works of Yukichi Fukuzawa, the founder of Keio University, and those of Masao Maruyama, the most single influential thinker in the post-war Japan.

Text Books:

No particular text book will be used, but excerpts from the central writings by Fukuzawa, Maruyama and other great Japanese thinkers will be provided as the course develops.

Class Schedule per week:

A feature of the course is its seminar style presentation. It uniquely attempts to include ample opportunities for an exchange of opinions between instructor and students and between students. Every class will be divided into three parts. First, an introductory lecture by the instructor will be made to highlight the historical and intellectual backgrounds of the relevant texts to be discussed every time. This is followed by a prepared essay presentation by students. The rest of the class will be devoted to a class discussion. The first half of the entire course will deal with the works of Fukuzawa and the second those of Maruyama.

Message to Those Taking This Course:

This course is intended for international as well as Japanese students who eagerly wish to learn the wealth of Japanese intellectual tradition from Fukuzawa to Maruyama in English.

Grading Methods:

Grading will be based on attendance, in-class presentations and a short term paper.

日本人の心理学 (1)	コンフリクト・マネイジメント	(春学期) (Spring)
JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (1)		
手塚 千鶴子	国際センター教授	
Chizuko Tezuka	Professor, International Center	

Sub title:

Conflict Management

Course content:

This course is designed to explore how Japanese manage interpersonal conflict both among themselves as well as in interaction with foreigners and its implications for Japanese society which is becoming more multicultural in this accelerated globalization age. Though a Western notion of conflict in the West claims that it is inevitable yet not necessary bad, the Japanese society has been described to believe in its self-image as a conflict-free society and to abhor and avoid interpersonal conflicts at any cost. With this apparent contrast in mind, students will learn characteristics of Japanese conflict management strategies, their cultural and social psychological backgrounds, and the challenges for both Japanese people and foreigners in trying to creatively deal with intercultural conflicts. And students will be asked to take some social psychological measures for self-understanding.

Textbooks:

no designated textbook and handouts will be distributed.

References:

Conflict in Japan edited by Ellis Krauss, Thomas Rohlen, and Patricia G. Steinhoff, University of Hawaii Press, 1990.

Japanese Culture and Society: model of interpretation edited by Kreiner and Olscheleger, Monographien 12, Deutschen Institute fur Japanstudien der Philipp-Frantz-von-Siebold-Stiftung, 1996.

Course schedule (subject to change)

1. Orientation to the course and test-taking on conflict management style
2. Harmony Model vs Conflict Model of Japanese society and orientation to writing conflict episode journals
3. Non-confrontational Strategies of Conflict Management: Bullying in Japanese Schools
4. Non-confrontational Strategies of Conflict Management: *Karoushi and Gaman* in Japanese Work Place
5. Japanese cultural values underlying non-confrontational strategies
6. How Japanese express anger
7. Comparison of conflict management between Japan and U.S.A.
8. Intercultural conflict around the *Ehimemaru* Incident in Jan, 2001

9. Intercultural conflict between Japanese teachers and int'l students
10. Japanese conflict management seen from a perspective of a bicultural writer, Kyouko Mori
11. How to make use of our own anger creatively
12. Wrap-up session

Messages to students:

Students who take this course are strongly encouraged to do risk-taking by sharing your opinions. Active participation in pair-work, group work and class discussion is a must.

Evaluation:

Overall grade will be based on attendance, essays, participation in class, final presentation, and its resultant final paper. .

Questions and consultation:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp.

近代日本の対外交流史

(秋学期) (Fall)

MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS BETWEEN JAPAN AND THE WORLD

太田昭子

法学部教授

Akiko Ohta

Professor, Faculty of Law

Course Description:

The course aims to provide an introductory and comprehensive view of the history of diplomatic and cultural relations between Japan and the World in the latter half of the nineteenth century and early twentieth century. A basic knowledge of Japanese history is desirable, but no previous knowledge of this particular subject will be assumed. A small amount of reading will be expected each week.

Textbooks:

No specific textbook will be used.

Recommended Readings:

The reading list will be given at the beginning of the term.

Class Schedule (Subject to change):

1. Japan and the World before the Opening of Japan (2 lectures): General introduction and the reappraisal of the Seclusion Policy
2. The Opening of Japan and international society in the 1850s and 1860s
3. The First Treaty with the West and the subsequent treaties(2 lectures): the analysis of the U.S.-Japanese Treaty of Peace and Amity will be included
4. Japanese Visits Abroad (2 lectures): the evaluation of the cultural and diplomatic significance of the Japanese visits abroad (official missions / official students / stowaways and castaways
5. Japanese perception of the West, changing attitudes and feelings in the 1860s (1 lecture)
6. Western perception of Japan in the 1850s and 1860s (1 lecture)
7. The significance of the Iwakura Mission (1~2 lectures)
8. Development of Japanese Nationalism in the Meiji Era (2 lectures): comparative analysis of several primary sources
- ☆ Optional excursion to the Yokohama Archives of History may be included in the programme.

Evaluation:

Students are expected to make a short report on a research project of their own choosing and hand in a term paper of about 3,000 words (about five pages, A4, double space) by the end of the term, and take the final examination.

Volunteers for a mini-presentation (about 10-15 minutes) on the topics related to the lecture are most welcome. (Details will be explained in class.)

INTERCULTURAL COMMUNICATION 2

手塚千鶴子

国際センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, International Center

Sub Title:

Identity of Japanese sojourners

Course Description:

The first purpose is to help students learn how Japanese people have been experiencing exciting as well as confusing encounters with cultures different from their own and how such cross cultural encounters in and outside of Japan have been affecting their sense of identity and communication styles as an individual (and as people) from the times of Japan's First Opening to the world in the late Edo Period up to the present from the three perspectives: history, cultural adjustment, and intercultural communication, utilizing case studies. The second purpose is to help both Japanese and international students who are brought together to Mita campus by the globalization and internationalization to make best use of this class to communicate effectively through discussion and other student-centered activities.

Textbooks:

No designated textbook and handouts will be distributed.

Recommended Reading:

Tsuda Umeko and Women's Education in Japan by Barbara Ross, Yale Univ Press, 1992.

The White Plum: a biography of Ume Tsuda by Yoshiko Furuki, Weatherhiesel, 1991.

Intercultural Communication: reader 5th ed., Larry Samovar and Richard E Porter, Wadsworth Publishing Company, 1989.

Japanese Culture and Behavior (revised edition) ed. by Takie Sugiyama Lebra and William Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1986.

Japanese Patterns of behavior ed by Takie Sugiyama Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1976.

Exploring Japaneseness: on Japanese Enactments of Culture and Consciousness ed by Ray

Class Schedule (Subject to change):

1. Orientation to the course
2. A brief historical review of Japan's encounter with the outside world as an island nation up to the late Edo Period
3. Japan's attitude towards the West after the First Opening of Japan with an emphasis on absorbing the Western civilization
4. Japan's endeavor to modernize herself in comparison with Korea and China
5. A case study of Umeko Tsuda 1: a successful sojourn in America
6. A case study of Umeko Tsuda 2: many years of struggle adjusting back to Japan
7. Cross cultural adjustment I: culture as mental software, stages of cross cultural adjustment, and facilitating factors of cross cultural adjustment
8. A case study of Paris Syndrome or Double Suicide in Los Angeles: overadjustment and challenges for Japanese sojourners
9. A case study of a Malaysian woman married to a Japanese: cultural identity
10. Identity: ego identity, personal identity, and social identity, process of identity formation, and issues of identity fluctuation in cross cultural adjustment
11. A case of Jiro, a Japanese returnee who spent 6 years in U.S.A.: formulation and transformation of cultural identity and adjustment issue back in Japan
12. A case study of Masao Miyamoto adjusting back to Japan in the Showa Period in comparison with Umeko Tsuda in the Meiji Period
13. Challenge for both Japanese and non-Japanese in the globalizing world
14. Wrap-up

Messages to Those Taking This Course:

Those students who are willing to participate actively in class are most welcome. Students are strongly encouraged to engage actively in pair work, a small group discussion and class discussion.

Evaluation:

Overall grad will be based on attendance, homework, essays, participation in class, and final term paper.

Inquiries:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or

日本キリスト教史

(秋学期) (Fall)

CHRISTIANITY IN JAPANESE HISTORY

ボールハチエット, ヘレン 経済学部教授

Helen Ballhatchet

Professor, Faculty of Economics

Sub Title:

A case study of cross-cultural contact

Course Description:

Christianity in Japan presents us with a number of paradoxes. For example, although the majority of Japanese today choose Christian-style weddings, the actual number of Christians amounts to less than one per cent of the total population (as opposed to about 25 per cent in its close cultural neighbour, South Korea). This 'failure' contrasts with the relatively greater growth of Christianity in the late sixteenth and early seventeenth centuries, even though the total number of missionaries was much smaller and the linguistic and logistical barriers greater. Perhaps the greatest paradox occurred after Christianity was virtually eliminated through an increasingly severe campaign of persecution from 1614 onwards. Small groups in isolated communities succeeded in preserving recognisably Christian beliefs and practices. However, many of these groups refused to accept the authority of Roman Catholic missionaries when they returned to Japan in the second half of the nineteenth century.

In the course we will consider these and other issues, using a combination of primary and secondary materials. By studying the activities and ideas of missionaries, Japanese Christians, and Japanese who did not become Christian, students will gain general understanding of the dynamics of cross-cultural contact. They will also learn about the nature of history through interpreting primary materials and studying different approaches to the history of Christianity in Japan.

Recommended Reading:

There will be a selection of assigned readings for each class (in Japanese, English and occasionally in other European languages or Chinese). Students will find it useful to start the course with a basic knowledge of Japanese history, Japanese religion, and Christianity. All suggestions for reading will be displayed on my web site (<http://web.hc.keio.ac.jp/~hjb/>).

Class Schedule per week:

1. Orientation and overview
2. The background: Christianity missionary activity and religion in Japan
3. Jesuit approaches to Japan
4. Japanese approaches to Christianity
5. Christianity and Japanese politics
6. Christianity in Tokugawa Japan (1) Government policies
7. Christianity in Tokugawa Japan (2) Responses to government policies
8. The return of Roman Catholic missionaries and the 'hidden' Christians
9. Christianity and social change in Japan 1859-1945
10. Christianity and patriotism in Japan 1859-1945
11. Christianity in Japan in the second half of the twentieth century
12. Christianity in Japan today
13. Concluding remarks

Message to those taking this Course:

I hope to attract students from a variety of backgrounds. This is because the course will gain from the combined viewpoints of people from areas which have sent Christianity missionaries to Japan, such as Portugal and the United States, and of people from areas which have played host to Christian missionaries, both in Asia (including Japan itself) and elsewhere.

I will expect students to attend all classes, on time, to do the assigned readings, and to participate in class presentations and discussions. Sessions will be organised into a combination of formal lectures and interactive seminars.

Grading Methods:

Oral presentations (30%), Reports (At least one short and one long) (50%), Attendance and Participation (20%)

Questions, Requests:

Students wishing to ask a question or arrange an appointment should talk to me before or after classes, or send an e-mail. My e-mail address is given on my web site (<http://web.hc.keio.ac.jp/~hjb/>)

多民族社会としての日本

(秋学期) (Fall)

MULTIETHNIC JAPAN

柏崎千佳子

経済学部助教授

Chikako Kashiwazaki

Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

This course introduces students to 'multiethnic Japan'. Although Japanese society is often portrayed as ethnically homogeneous, its members include diverse groups of people such as the Ainu, Okinawans, *zainichi* Koreans, and various 'newcomer' foreign residents. In this course, students will learn about minority groups in Japan and their relations with the majority 'Japanese' population. The goal of this course is to acquire basic knowledge and analytic tools to discuss issues concerning ethnic relations in Japan and elsewhere.

Texts:

Reading materials consist of excerpts from a variety of sources and will be provided by the instructor.

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction
2. Is Japan ethnically/culturally homogeneous?
3. Theories of ethnic relations
4. *Zainichi* Koreans: past and present
5. *Zainichi* Koreans: identity formation
6. Nikkei-Brazilians
7. Visa overstayers
8. "Foreign brides"
9. People from buraku
10. The Ainu
11. Okinawans
12. Presentations on the final project
13. Summary — Rethinking Japanese society

Message to Those Taking This Course:

The class is conducted entirely in English. Much of class activity is devoted to oral presentations and discussion. Students are expected to read the assigned materials beforehand and to participate actively in the class.

Evaluation:

Evaluation will be based on participation in classroom discussion (20%), presentations (20%), and reading/writing assignments including a short essay and a term paper of 1,800+words (60%).

政策決定、歴史的記憶、人種から見る明治期日本外交

(秋学期) (Fall)

JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA

飯倉章

国際センター講師 (城西国際大学教授)

Akira Iikura

Lecturer, International Center (Professor Josai International University)

Sub Title:

Decision-making, historical memory and race

Course Description:

This course aims to examine Japanese diplomacy in the Meiji era from diverse angles and provide students with some new perspectives on the historical events in the period such as the triple intervention, the Anglo-Japanese alliance, and the Russo-Japanese War. Students will gain an understanding of Japanese diplomacy in the Meiji era and learn how to analyze historical events through decision-making theories, historical memory, and the concept of race.

Text Books:

No textbook will be used. Handouts will be given as reading assignments.

Reference Books:

Recommended readings will be suggested in the course of the lecture.

Class Schedule per week:

1. Introduction to the course and decision-makers in the Meiji era
2. The trauma of Japanese diplomacy: unequal treaties, the triple intervention and the Portsmouth treaty
3. The Yellow Peril and its influence on Japanese foreign relations
4. The Anglo-Japanese alliance and the question of race
5. The lessons of the Anglo-Japanese alliance: Is an alliance with an “Anglo-Saxon” state reliable?
6. Was the war evadable or inevitable?: perception and misperception of Japanese decision-makers before the Russo-Japanese war
7. The Russo-Japanese war as an icon in historical memory
8. Wrong lessons from the “success” of the war and the “defeat” in diplomacy
9. Explaining the Russo-Japanese war through the application of Graham Allison’s decision-making theories
10. The changing views of Japan during the Russo-Japanese war: Japan from protégé to world power
11. The wars and leaders in the Meiji era that live in Japanese culture

Message to those taking this Course:

The lecturer will put special emphasis on the Russo-Japanese war of 1904–05 by showing some new scholarly works, popular history and commemorative articles on the war that appear mainly during the years 2004 and 2005, the hundredth anniversary of the war. The lecturer will illustrate the lecture by using slides and videotapes.

Grading Methods:

The final exam will be given based on the lecture. A short term paper on one of designated questions will be assigned. Attendance and class participation will be particularly important.

日本の文学

(秋学期) (Fall)

JAPANESE LITERATURE

アーマー, アンドルー 文学部教授

Andrew Armour Professor, Faculty of Letters

Course Description:

This course is intended to cover the history of Japanese literature from earliest times up to the modern era. Starting with the writing system, we will trace the conspicuous developments in poetry, prose and drama through the Nara, Heian, Kamakura, Muromachi and Edo periods. Included are such works as the *Manyōshū*, *Genji monogatari*, *Heike monogatari*, *Oku-no-hosomichi* and *Sonezaki shinjū*.

Texts:

Instructions and materials are provided on the class website (www.armour.cc/jlit.htm).

Recommended Readings:

A list of reference works and useful links are available on-line.

Class Schedule (Subject to change):

A detailed list of the works covered in this course is available on the class website.

On completion of this lecture course, students should:

1. Understand how the Japanese writing system developed, how it came to be used to compose works of literature, the problems it poses, and how the modern reader can decipher a manuscript such as that of *Genji monogatari*;
2. Be familiar with the major works of poetry, prose and drama in the period covered;
3. Comprehend the major literary currents in the period covered and be able to identify the importance of the major works in the development of these currents;
4. Be familiar with the major figures in Japanese literary history (including commentators and critics) and their achievements;
5. Understand the cultural background (including religious aspects) of the works covered and, where necessary, the political events that form a backdrop to the literature;
6. Be familiar with the reception of Japanese literature in the West.

In the last few weeks of the course, those students requiring a grade will have an opportunity to report on a reading and research project of their own choosing.

Messages to Those Taking This Course:

The course assumes that the student has a working knowledge of English. Prior knowledge of Japanese literature is not required, though it is desirable. Naturally some familiarity with the Japanese language, spoken and written, is a plus.

Evaluation:

Grading is primarily based on the student's research project, presented to the class (using PowerPoint) according to a published schedule; a Q&A session will follow each presentation and a student's responses are taken into consideration in the grading process. Overseas students who want their credits to be transferred to their home university are advised to present their research results in the form of an academic paper, complete with notes and bibliography. Naturally, regular attendance is important in order to receive a passing grade; the International Center requires that a record be kept.

20世紀日本の文学に与えたヨーロッパ文学の影響

(秋学期) (Fall)

THE IMPACT OF WESTERN LITERATURE ON JAPANESE TWENTIETH-CENTURY FICTION

レイサイド, ジェイムス 法学部教授

James M. Raeside

Professor, Faculty of Law

Course Description:

This course of lectures is intended to give a selective account of the way that Western literature was received in Japan during the 20th century, and the different ways that Japanese novelists engaged with the genres and techniques of foreign predecessors and contemporaries.

Consideration will be limited to Japanese novelists, though poets will also figure amongst the Western writers. The lectures will follow a basically chronological order, beginning with the Natsume Soseki and ending with Murakami Haruki.

Reference Books:

Students interested in this course should try to read at least some of the following (names appear without macrons).

Natsume Soseki 夏目漱石 『草枕』

English Translation A Three-Cornered World/ Unhuman Tour

Nagai Kafu 永井荷風 『墨東奇談』

English Translation: A strange Tale from East of the River

Akutagawa Ryunosuke 芥川龍之介 『蜘蛛の糸』、『地獄変』、『河童』

English Translation "The Spider's Thread"; "The Hell Screen" Kappa

Tanizaki Junichiro 谷崎潤一郎 『痴人の愛』、『蓼喰う虫』

English Translation Naomi; Some Prefer Nettles

Mishima Yukio 三島由紀夫 『愛の渴き』、『憂国』

English Translation: Thirst for Love; "Patriotism"

Endo Shusaku 遠藤周作 『沈黙』

English Translation Silence

Noma Hiroshi 野間宏 『わが塔はそこに立つ』

(There Stands my Pagoda)

Oe Kenzaburo 大江健三郎 『新しい人よ眼ざめよ』

English Translation Rouse Up O Young Men of the New Age!

Murakami Haruki. 『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』

English Translation Hard-boiled Wonderland

General surveys of Japanese literature such as those by Donald Keene and Shuichi Kato will also provide good background information.

Grading Methods:

Reports

STRUCTURE, POLICIES AND ETHOS OF THE JAPANESE ECONOMIC SYSTEM

伊藤 規子

商学部助教授

Noriko Ito

Associate Professor, Faculty of Business and Commerce

Sub Title:

The slow pace of economic reform

Course Description:

This course aims to help the student to understand the Japanese economic system, the style of economic regulations/deregulations and how the central/local government's involvement in many areas of the economy differs from other industrial nations. The lectures will (A) cover the contents of the text book, 'Arthritic Japan' which is useful in explaining the postwar Japanese economic system and the problems the Japanese have been facing during the last decade, (B) show several illustrative videos and (C) survey some distinctively Japanese approaches to developing infrastructure and regulating industries. There will also be some special one-off guests who will talk about their experiences in dealing with regulations in the Japanese trade environment (all speeches will be given in English).

Text Books:

Edward, J. Lincoln, Arthritic Japan: the slow pace of economic reform, Brookings, 2001.

(Now available in Japanese translation (Nippon-hyoron-sha, 2004))

Reference Books:

Additional materials will be provided during some sessions as necessary.

Class Schedule per week:

(Subject to some changes):

Session 1 guidance and introduction

Session 2-4 the Japanese postwar economic system and related theories

Session 5-6 industrial policy and government involvement in the economy

Session 7-8 the bubble economy and macroeconomic policies

Session 9 the arguments about the current "structural reform" issue

Session 10-11 Japanese society, its traditions, structure and implications for the economic system

Session 12-13 problems (in topics) with regard to current systemic economic reform and deregulation

Message to those taking this Course:

The students who will attend this course do not need to have more than a basic knowledge of economics, but they are expected to have a general interest in the Japanese economy in all its aspects. Quite often the lecturer will give the students copies of journal articles (such as those from the Japan Times) as supplementary materials. The students will discuss these during the sessions. Sometimes the lecturer will ask the students to submit specific essays based on some of these articles or the videos shown in the lectures.

Grading Methods:

Evaluation will be carried out by (A) essays which will be submitted after the course ends and (B) essays submitted during some sessions based on articles provided.

Questions, Requests

The lecturer's contact address is noriko@fbc.keio.ac.jp

JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (2)

手塚千鶴子

国際センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, International Center

Sub Title:

'Amae' Reconsidered

Course content:

This course is designed to reconsider comprehensively the concept of 'Amae' which was first introduced as a key concept for understanding Japanese psychology by Dr. Doi, as the Japanese society itself has undergone a considerable change under the influence of the globalization since then, and because there has been the accumulated theoretical, speculative or empirical research including cross cultural one which shows the existence of *Amae* outside of Japan. Therefore, this course will explore answers to the following questions: 1) is *Amae* still a key concept for understanding Japanese psychology?, 2) how the expression and satisfaction of *Amae* needs is transformed in contemporary Japan, 3) to what extent and in what form *Amae* is found among people across cultures, and 4) what kind of challenges and/or benefits this Japanese concept can give to those people who do not find the exact equivalent in their mother tongues.

Textbooks:

no designated textbook and handouts will be distributed.

References:

The Anatomy of Dependence by Takeo Doi, Kodansha International, .1973.

The Anatomy of Self by Takeo Doi, Kodansha International, 1986.

Dependency and Japanese Socialization by Frank A. Johnson, New York University Press, 1993.

Course schedule:

1. Orientation to the course and the drawing task of "my relationship with my mother in my childhood"
2. Multiple definitions of *Amae*
3. Understanding *Amae* through visual images: comparison of 'Peanuts' and 'Doraemon'
4. Healthy *Amae* Interaction: mutuality and reciprocity in Japanese social relationships
5. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese companies
6. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese families seen through empirical research
7. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese families seen through children's drawings of meals and HTP test
8. Cross cultural empirical research on *Amae*
9. An American expatriate's response to *Amae* interaction in Japan
10. *Amae* in cross cultural counseling cases in Japan
11. Functions of healthy *Amae*: social support?
12. *Amae* and Aggression from cross cultural perspectives
13. What do foreigners gain by learning about the concept of *Amae* contribute to peoples
14. Wrap-up session

Messages to students:

Those students who are willing to participate actively in class are most welcome. Students are strongly encouraged to engage actively in pair work, a small group discussion and class discussion. Students are expected to complete reading assignment before coming to class.

Evaluation:

Overall grade will be based on attendance, homework, essays, participation in class, and final term paper.

Questions and consultation:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp.

日本の宗教：救済の探求

(秋学期) (Fall)

RELIGIONS IN JAPAN: IN SEARCH OF SALVATION

ナコルチェフスキー, アンドロイ 文学部助教授

Andrei Nakortchevski Associate Professor, Faculty of Letters

Course Description:

In this course I would like to introduce main religious teachings existed in Japan from old times and up to our days. For the reason the name of the course is specified purposely as "Religions in Japan" and not as "Japanese Religions." Otherwise we have to limit our discourse to the only genuine Japanese religion — Shinto and maybe some eclectic so called "new religions", and forget about Buddhism or Christianity.

Each of these religions will be presented in three aspects: dogmatic (the only exception will be done for Christianity and I will accent the peculiarity of a perception of this religion in Japan), historical and cultural. Dogmatic aspect means an introduction to the core postulates and their transformation over time. Historical aspect allows us to trace a destiny of a religious teaching in Japanese history, and cultural aspect implies a study of influences to and interactions with other spheres of cultural activities — art, literature, science, etc.

Besides the above mentioned aspects, the fourth theme, namely religion's promise to solve the individual's existential and social problems, will be constantly touched on in this course. From these theme derives the subtitle — "In Search of Salvation." Especially this aspect becomes important when we deliberate "new religions", including the notorious Aum Shinrikyo in particular.

About half of the lectures will be devoted to Buddhism as the most philosophically profound and variable teaching, but I would like to introduce not only institutionalized religion as Buddhism, Shinto, Christianity, as well as Taoism and Confucianism to some extension, but also the most interesting so called folk religions, for example, tradition of shugendou (mountain asceticism), different variants of shamanic practices, etc.

日本経済の展望

(秋学期) (Fall)

ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN

市川博也

国際センター講師 (上智大学教授)

Hiroya Ichikawa

Lecturer, International Center (Professor, Sophia University)

Course Description:

An advanced applied course of economics concerning the contemporary Japanese economy. The course will examine the roots of the instability of the present financial system and critically examine the Japan Model, which once was used to explain the success of the Japanese economy in the postwar period. This examination includes discussion of the legacy of wartime control and debates over the East Asia Miracle. Problems related to the aging population, social security, the burden of government debt, competition policy, deregulation (including the financial big bang), corporate governance, government-business relations, trade disputes, foreign direct investment, ODA policy, environmental issues, and the role of Japan in the world will be discussed. Students are required to read economic and financial news every day for class discussion.

Text Books:

Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy" University of Tokyo Press, 1995

Class Schedule per week:

1. Introduction
Identify major economic problems facing Japanese economy.
2. Discuss Paul Krugman "The Myth of Asia's Miracle" *Foreign Affairs*, November/December 1994.
3. Discuss Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy," chapter 2. "Reform and Reconstruction" University of Tokyo Press, 1995.
4. Discuss chapter 3 "Rapid Growth" in Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy"
5. Discuss "The Mechanism and Policies of Growth"
See Nakamura chapter 4.
6. Discuss the dual structure: Labor, Small Business, and Agriculture" Richard Katz, "Japanese Phoenix-the long road to economic Revival", M.E. Sharp, 2003.
chapter 3 "Overcoming the dual economy — backward sectors are the key to Japan's revival".
chapter 4 "Overcoming Anorexia — the labours Sisyphus —"
See Nakamura chapter 5.
7. Discuss "The End of Rapid Growth" See Nakamura Chapter 6.
8. Discuss Japanese Economy and International Environment
Richard Katz, chapter 9 "Globalization — the Linchpin of Reform-"
chapter 11 "Foreign Direct Investment — A Sea Change —".
See Nakamura chapter 7.
9. Discuss "The Collapse of the Bubble Economy" Thomas F. Cargill, Michael M. Hutchinson, Takatoshi Ito, "The political Economy of Japanese monetary Policy,"
chapter 5 "The Bubble Economy and its Collapse"
chapter 6 "Asset-Price Deflation: Nonperforming Loans, Jusen Companies, and Regulatory Inertia." The MIT Press, 1997
Richard Katz, chapter 12. "Financial integration — The Iceberg Cracks —".
See also Nakamura chapter 8.
10. Restoring Japan's Economic Growth
chapter 1 "Diagnosis: Macroeconomic Mistakes, Not Structural Stagnation"
chapter 2 "Fiscal Policy Works When it is tried".
chapter 3 "The Short and Long of Fiscal Policy" in Adam S. Posen, Restoring Japan's Economic Growth, Institute for International Economics, 1998.
Richard Katz, chapter 6 "Fiscal dilemmas," chapter 7 "Monetary magic bullets are blanks", chapter 8 "Japan cannot export its way

out”.

Richard Katz, chapter 13 “What is structural reform?” chapter 14 “Financial reform” chapter 15 “Corporate Reform-No competitiveness without more competition”.

11. Discuss Financial and International Risks and Inflation Target.

Chapter 4. “Mounting Downside Risks: Financial and International”

Chapter 6. Recognizing a mistake, not blaming a model” in Adam S Posen.

12. Can Japan Compete?

Chapter 2. “Challenging the Japanese Government Model”

Chapter 3. “ Rethinking Japanese Management”,

Chapter 5. “ How Japan can Move Forward: The Agenda for Government”

Chapter 6. “Transforming the Japanese Company” Michael E. Porter, Hirotaka Takeuchi & Mariko Sakakibara, “Can Japan Compete?” Macmillan Press Ltd. 2000

Richard Katz, chapter 16 “Competition policy — Not enough competition, even less policy”.

13. Deregulation and state enterprises, Tax reform Richard Katz, chapter 18 “deregulation and state enterprises — The Moment is Clear, the destination is not.”

Chapter 19. “Tax Reform — Don’t Exacerbate Anorexia”.

Message to Those Taking This Course:

Basic knowledge of Microeconomics & Macroeconomics prerequisite.

High proficiency in English required: TOEFL (PB)550+ (CB)213+

Evaluation:

Class Participation (Active Discussion) + Essay + Term Examination

家族の近代

(秋学期) (Fall)

THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE

ノッター, デビッド

経済学部助教授

David M. Notter

Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

In this course we will examine the family in historical and sociological perspective. The emphasis will be on “modern” family arrangements in nineteenth- and twentieth-century America, but some consideration will also be given to the family in Japan and Europe, and modern family arrangements will also be compared and contrasted with traditional family arrangements. The course will be organized thematically in accordance with the stages of the life course: childhood; adolescence; marriage; and old age.

Text Books:

Family: The Making of an Idea, an Institution, and a Controversy in American Culture by Betty G. Farrell

Grading Methods:

Evaluation will be based on attendance, participation in formal class discussions, essays, and a final paper.

日本の金融ビッグバン

(春学期) (Spring)

FINANCIAL DEREGULATION (BIG BANG) IN JAPAN

ハリス, グレアム O.B.E. 商学部非常勤講師

Graham Harris O.B.E.

Part-time Lecturer, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

In this class we will study the role of foreign and Japanese financial institutions in Japan including banks, securities and insurance companies. We will evaluate the Big Bang changes and ascertain whether or not they are achieving their purpose.

Text Books:

Current materials will be used.

Class Schedule (Subject to change):

Big Bang deregulatory changes, together with the general turmoil in the financial markets are creating new opportunities for both foreign

and Japanese institutions. Existing companies are having to modify their strategies and new financial companies are being established — many basing their business model on the Internet.

We will examine these opportunities, separate the real from the imaginary and discuss the current and future effect that foreign financial institutions are having on the Japanese financial scene.

We will also include topics such as the Japanese Post Office; accountancy changes leading to more corporate disclosure and transparency; and the government/FSA involvement in the continuing deregulation process.

Evaluation:

Students will be evaluated on the basis of attendance, class participation, essays, and oral presentation

ジャパニーズ・エコノミー

(春学期) (Spring)

JAPANESE ECONOMY

小島 明

商学研究科教授

Akira Kojima

Professor, Graduate School of Business and Commerce

Course Description:

Japan's Economic Performance and policy debate in post war period up to now is covered with global economy perspective. Issues such as management practices, financial big-bang, foreign direct investment (FDI), bad loan problems, exchange rate, system reforms are all discussed with preferably active participation of students. Students can have real exposure to the most current policy debate amongst special through Video and Tapes etc.

Recommended Readings:

“Japan's Policy Trap — Dollars, Deflation and the Crisis of Japanese Finance”, by Akio Mikuni and R. Taggart Murphy. (Brookings Institution Press, 2002)

“Balance Sheet Recession — Japan's Struggle with Uncharted Economics and its global implications”, by Richard C, Koo, 2003 John Wiley & Sons Pte Ltd.

Message to Those Taking This Course:

Active participation by students strongly desired.

Evaluation:

Report and in-class exam

情報処理教育室

情報処理教育室では、情報処理に関する講座を開講しています。

情報処理に関する知識・技術を持つことは、学生諸君にとって今や必須のこととなっています。各学部専門課程での学習・研究活動に役立つだけでなく、日常の学習・学内の諸活動に大変有効です。なるべく多くの皆さんが履修しておくことを勧めます。

1 ガイダンス

4月4日(月) 2時限目(10:45~12:15) 516番教室

2 受講申込み手続き

受講する科目が決まったら、証紙券売機で受講料分の証紙を購入し、申込み用紙に貼付して窓口へ提出してください。各講座とも定員になり次第締め切ります。

日 時：4月8日(金) 9:00~16:00

4月11日(月) 9:00~16:00

4月12日(火) 9:00~16:00

場 所：三田学事センター

3 履修上の注意

情報処理教育室に申込みを行った科目については、必ず各学部の履修案内にしたがって各自で履修申告をしてください。履修申告を行わないと単位は与えられませんので特に注意してください。また、受講申込みをしないで履修申告をしても単位は認められません。

履修申告により単位がどのように与えられるかは学部によって異なります。学部の履修案内を熟読して間違いのないようにしてください。

4 問合せ先

情報処理教育室(日吉学事センター内) 045-566-1015

5 平成17年度開講科目及び受講料

設置講座は受講料(12,000円)が必要です。なお文学部、経済学部、法学部、商学部生が当年度学部設置の情報処理基礎関連の科目(文学部：基礎情報処理 経済学部：情報処理Ⅰ 法学部：情報処理Ⅰ・Ⅱ 商学部：情報リテラシー基礎)を定員の関係で履修できずに「情報処理概論Ⅲ(パソコンによる情報整理学)」を申し込む場合には受講料は免除されます。申込み方法は変更ありませんが、学生証を提示してその旨申し出てください。

平成17年度 情報処理教育室設置講座(三田)

講座名		クラス	担当者	時期	定員	受講料	単位
情報処理概論Ⅱ	JAVA	12A	藤村 光	通 年	50	12,000円	4
情報処理概論Ⅲ	パソコンによる情報整理学	13B	江島 夏実				
情報処理概論Ⅳ	Cobol	14A	田窪 昭夫	春学期	30	6,000円	2
情報処理応用Ⅱ	統計解析	32A	鴻巣 努			5,000円	

開講曜日・時限は学部の時間割の巻末に記載されます。

授業は学部授業と同様4月8日(金)から開始されます。

参考：平成17年度 情報処理教育室設置講座(日吉)

講座名		クラス	担当者	時期	定員	受講料	単位
情報処理概論Ⅰ	C言語によるプログラミング入門	11A	恩田 憲一	通 年	100	12,000円	4
		11B	斎藤 博昭		50		
情報処理概論Ⅲ	パソコンによる情報整理学	13A	河内谷幸子		46		
情報処理応用Ⅰ	コンピュータグラフィックス	31A	大野 義夫	春学期	50	5,000円	2

開講曜日・時限は学部の時間割の巻末に記載されます。

授業は学部授業と同様4月8日(金)から開始されます。

情報処理概論Ⅱ (Java) (通年) 4 単位

Java 言語によるプログラミング入門

藤 村 光

授業科目の内容:

Java 言語を用いてコンピュータを動かす方法、および基本的な考え方を紹介します。

問題をコンピュータで処理できるように分析し、処理を組み立て、プログラムを作成し、結果を検証するという手順で、プログラムを作成する際に必要となる一般的な知識を習得するのが目的です。

Java 言語の中核とツールキットの一部を用いて、例題の提示、演習を行います。

テキスト:

Webサイト <http://web.hc.keio.ac.jp/~fujimura/> で公開。適宜更新します。

参考書:

講義の展開と個人の進捗にあわせて適宜紹介します。

授業の計画:

1. ガイダンス
2. ウィンドウの表示
3. コンパイルと実行
4. ボタン、レイアウト、イベントの処理 (計 3 回)
5. クラス変数
6. 四則演算 (計 2 回)
7. 式、演算子、カウンタ、合計計算、最大値・最小値 (計 2 回)
8. 配列
9. 春学期演習
10. 秋学期のウォーミングアップ
11. 整列、検索
12. テキスト・ファイルの読み込みと例外処理 (計 3 回)
13. マルチスレッドと描画 (計 4 回)
14. 再帰構造と再帰プログラミング (計 2 回)
15. 最終演習 (計 2 回)

担当教員から履修者へのコメント:

自分なりに「こんなことができるようになりたい」という目標を持って参加して下さい。

ワープロや表計算はできるがコンピュータ言語は初めてという人と、他のコンピュータ言語を習得済みの人では、到達目標が異なるのが普通です。春学期の前半に各人の目標を設定しましょう。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価 (春秋各学期末に実施。上記授業計画の 9. と 15. に該当)
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価 (各講義の最後に、その日の講義に関する簡単なレポートをメールで送信する)

質問・相談:

fujimura-java@hc.cc.keio.ac.jp までどうぞ。48 時間以内に返事がない場合は、同一メールを再送してください。

情報処理概論Ⅲ (通年) 4 単位

パソコンによる情報整理学

江 島 夏 実

授業科目の内容:

コンピュータの仕組みや社会との関わりを、応用プログラムの使い方を学びながら理解する。それぞれの応用プログラムの使い方を学ぶことが目的ではなく、コンピュータを利用して、情報を獲得し、整理し、必要ならば加工し、伝達するための基礎知識を学び、これからの大学生活や社会に出てからも役立たせることが目的である。

テキスト:

Computer System Workbook「日本語文書処理」、同「表計算1」、(株)コンピュータ教育工学研究所

参考書:

Computer System Textbook「2. ワープロ・表計算・プレゼンテーション」

授業の計画:

[春学期] 情報の表現力を中心に

- ・実践的な文書表現力 4 回
- ・効率的な文書表現 2 回
- ・視覚に訴える表現力 4 回
- ・コンピュータならではの機能の利用 3 回

[秋学期] 情報の収集・加工を中心に

- ・情報の収集・加工の基本=作表 3 回
- ・関数を利用した情報の加工 3 回
- ・視覚に訴えるための情報の加工 4 回
- ・大量データの効率的処理 3 回

担当教員から履修者へのコメント:

ワープロソフトや表計算ソフトの基本的操作を習得していることを前提に、演習問題を通して徹底的なパソコンの活用技術の向上を目指す。教科書はバラエティに富み、かつ、分野に偏らない演習を豊富に用意してあるので、パソコン活用の幅を広げ、大学生活や社会人としての活動に役立つ基礎を身につけてほしい。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価 (春学期、秋学期それぞれ条件に叶う作業を課題として与え、その成果により評価)
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価 (出席の採否と、平常授業において作成したファイルを提出させ、その状況を評価)

質問・相談:

メール等を利用した質問を受け付ける。メールアドレス等については授業開始時に伝達する。

情報処理概論Ⅳ (春学期) 2 単位

COBOL

田 窪 昭 夫

授業科目の内容:

ビジネス (業務処理) を遂行するにあたって、コンピュータがどのようにデータ処理に利用できるかを理解し、COBOL 言語による基本的なプログラムの作成ができるようになることを目的とする。

コンピュータを使ったビジネスデータ処理 (業務処理) のために、与えられた問題を分析し、解法を設計しコンピュータプログラムの形で実現できる力を養う。

COBOL は、今日の C++, JAVA などと違い、生誕 40 余年を迎え、200 数十万と最大のコンピュータ言語人口を擁し、ビジネス処理の標準言語として、世界で常に一位の地位を保っている。

テキスト:

大駒誠一著 COBOL の基礎と応用 -JIS 1992 年版準拠- サイエンス社

参考書:

授業の計画:

主な学習項目は次の通り。

1. COBOL 言語の仕組み
2. データの入出力とファイル
3. ファイル処理の基本アルゴリズム
4. 並び替え (ソート) 機能を使ったプログラム

担当教員から履修者へのコメント:

コンピュータやデータ処理に関する予備知識は必要としない。パソコン実習の課題 (3~4 題) で評価し、試験は実施しない。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

メール (arttech@sie.dendai.ac.jp) にて受け付けます。

情報処理応用Ⅱ (統計解析) (春学期) 2 単位

SPSS による統計解析および多変量解析の実習

鴻 巢 努

授業科目の内容:

データサイエンスの知識は、外国語や情報処理能力と並び、研究やビジネスに不可欠なツールである。本講義では、調査や実験により得

られたデータを統計的に分析し、その持つ意味をいかに引き出すかを学習する。統計解析に関する基礎的内容から出発し、多変量解析の基礎に至るまでを講義内容とする。数学的背景よりも、こうした手法を研究やビジネスのための「ツール」として、利用できるようになることを重視する。統計およびコンピュータに関する予備知識は特に求めない。

テキスト：

室淳子、石村貞夫「SPSS でやさしく学ぶ多変量解析」東京図書

参考書：

- ・東京大学教養学部統計学教室編「統計学入門」東京大学出版会
- ・田中豊・脇本和昌「多変量統計解析法」現代数学社

授業の計画：

- 第1回 統計的手法とは
- 第2回 統計パッケージ (SPSS, SAS, JUSE, EXCEL, S)
- 第3回 SPSS によるデータ処理
- 第4回 SPSS によるデータの視覚化
- 第5回 代表値と確率分布
- 第6回 散布図と相関係数
- 第7回 区間推定
- 第8回 平均値の差の検定, ノンパラメトリック検定
- 第9回 多変量解析の基礎
- 第10回 回帰分析, 重回帰分析
- 第11回 主成分分析
- 第12回 因子分析
- 第13回 判別分析

担当教員から履修者へのコメント：

数学やコンピュータに関する予備知識は特に求めないが、次のような学生の参加を期待する。

- ・卒業論文を書くにあたり、科学的手法を探している。
- ・統計学の基礎は学んだが、それを運用できるまでに至っていない。
- ・多変量解析に興味があるが、どのようなデータにどの手法を使えばよいか分からない。
- ・数学には自信がないが、データを分析することは嫌いではない。

成績評価方法：

平常点および期末レポートによって評価する。

知的資産センター設置講座（平成 17 年度開講）

1. 知的資産センター設置講座開講にあたり

慶應義塾大学では、研究成果の社会への還元を、教育・研究と並ぶ大学の使命と考えています。そして、「慶應義塾で生れた研究成果は義塾にとって貴重な知的資産であり、大学はこれら知的資産の保護と活用を積極的に促進・支援する」という理念を公表しています。

こうした方針に基づき、知的資産センターは慶應義塾で生れた研究成果を社会へ還元するために、慶應義塾大学の技術移転機関として 1998 年 11 月に設立されました。技術に関するものだけでなく、電子メディアを始めとして広汎な研究成果を対象とするとともに、新しい事業の創出に資するという意味をこめて「知的資産センター」と名付けられました。

知的資産センターの事業は、研究成果の特許保護、技術の移転、起業の支援と拡大しています。そして、教職員の熱意と高いポテンシャルをもった研究成果に支えられ、既に数多くの慶應義塾の特許出願が生まれ、技術移転も活発化し、多くの新製品を生み出しています。さらに、バイオ分野を中心にベンチャー企業のスタートアップも相次いでいます。

また、知的資産センターは技術移転に密接に関係する知的財産に関する教育・研究も任務としています。

情報技術の劇的な革新に伴い電子メディア、ビジネスモデル特許に代表されるように、知的財産は社会のあらゆる分野に密接に関係してきました。こうした時代の変化に対応していくためには、専攻分野に係わらず知的財産に関する幅広い知識と理解が求められています。

そこで、知的財産に関する教育の一貫として、全学部の学生を対象として知的財産全般について基本的な事項の理解を図るため、設置講座を開設しました。

2. 設置科目、履修上の取扱いについて

今年度は「知的資産概論」の 1 科目を、春学期三田キャンパスで開講します。

授業時間は 18:10~19:40、単位は 2 単位です。その他授業に関する情報は、三田掲示板、<http://www.ipc.keio.ac.jp> でお知らせします。

受講を希望する場合は、履修の取扱いについて各学部、研究科の履修案内で確認の上、各学部窓口で履修申告をしてください。

3. 講義要綱

知的資産概論 ―知的財産の保護と活用をめぐる課題―
(ナテグリニド特別講座)

知的資産センター所長（商学部教授）清水 啓 助

授業科目の内容：

研究活動や創造活動の成果を知的財産として、戦略的に保護・活用し、我が国産業の国際競争力を強化するという国家戦略が策定され、知的財産に対する関心は高まっています。知的財産には、技術（特許）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）、音楽・映画のコンテンツ（著作権）といったものがあり、権利の内容や活用法はそれぞれ固有な特色があります。本講義では、代表的な知的財産の権利保護・活用における現状と課題についての理解を深め、知的財産に関する幅広い知識を得ることを目標とします。

テキスト：

講義資料を配布します。

参考書：

「知的創造時代の知的財産」 清水啓助他著、慶應義塾大学出版会

「特許がわかる12章」 竹田著 ダイアモンド社

「著作権の考え方」 岡本著 岩波新書

授業の計画：

- 1 知的財産の新たな時代
- 2 特許の仕組み

- 3 著作権の仕組み
- 4 商標ブランドの価値
- 5 マルチメディアに関する知的財産
- 6 キャラクタービジネス
- 7 音楽に関する著作権問題
- 8 企業における知的財産戦略
- 9 知的財産に関する世界の動向
- 10 知的財産の紛争処理
- 11 ベンチャー・起業の仕組み
- 12 知的財産ビジネス
- 13 技術の移転

なお、講義は外部講師を含め、オムニバス形式で行います。

履修者へのコメント：

積極的に学ぶ意欲を持つ学生を歓迎します。

単位の取扱については、学部により異なりますので注意してください。

成績評価方法：

平常点及びレポートによる評価

質問・相談：

授業の最後に質問の時間を設けます。